秋田県文化財調査報告書第533集

茱　萸　ノ　木　遺　跡

―通常砂防事業（オンデの沢）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―

２０２４・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土
の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ7㎝、凝灰岩。

茱萸ノ木遺跡

―通常砂防事業（オンデの沢）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―

２０２４・３

秋田県教育委員会

ST252 ― AA ～ DD ライン断面（西から）

ST252 と列石・配石遺構（北から）

ST252 調査風景（南から）

ST252 調査風景（南から）

葉萸ノ木遺跡出土土器

ST252 出土石器・石製品

序

本県には、これまでに発見された約5,200か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これら埋蔵文化財は、県民が地域の歴史や伝統を理解し、ふるさと秋田への誇りや愛着を高めていくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、本県では度重なる土砂災害への対策として、砂防ダムの建設事業が行われています。本県教育委員会では、こうした災害対策事業との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、通常砂防事業（オンデの沢）に先立って、令和元年度から3年度にかけて能代市において実施した茱萸ノ木遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査の結果、縄文時代の盛土遺構、竪穴建物跡や土坑、土器埋設遺構、列石・配石遺構など多数の遺構が見つかり、当時の人々の営みの一端が明らかとなりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました秋田県山本地域振興局建設部、能代市教育委員会などをはじめ関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

令和6年3月

秋田県教育委員会

教育長　安　田　　浩　幸

例　言

1　本報告書は、通常砂防事業（オンデの沢）に伴い、令和元年度～令和３年度に調査を行った能代市所在の茱萸ノ木遺跡の発掘調査報告書である。調査内容については、すでにその一部が埋蔵文化財センター年報などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。

2　調査要項

遺　跡　名　茱萸ノ木遺跡（ぐみのきいせき）

遺跡略号　３GMNK

遺跡所在地　秋田県能代市二ツ井町荷上場字茱萸ノ木 167 外

調査期間　令和元年６月 17 日～ 11 月 21 日　　令和２年６月１日～ 10 月 30 日
　　令和３年６月１日～ 10 月 29 日

調査面積　調査面積 8,494 ㎡
　　令和元年度 2,328 ㎡　　令和２年度 3,049 ㎡（令和元年度との重複部分あり）
　　令和３年度 3,117 ㎡

調査主体者　秋田県教育委員会

調査担当者　小山 美紀　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元～３年度
　　髙橋 和成　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主査）令和２年度
　　森谷 康平　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元年度
　　久住 駿介　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元年度
　　小松 和平　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元・２年度
　　大上 立朗　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和２・３年度

整理担当者　小山 美紀　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元～４年度
　　髙橋 和成　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主査）令和２年度
　　森谷 康平　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元年度
　　久住 駿介　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元年度
　　小松 和平　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和元・２・５年度
　　大上 立朗　（秋田県埋蔵文化財センター調査班　文化財主事）令和２～５年度
　　新海 和広　（秋田県埋蔵文化財センター資料管理活用班　副主幹）令和５年度

総務担当者　柴田 卓也　（秋田県埋蔵文化財センター総務班　副主幹）令和元・２年度
　　川本健太郎（秋田県埋蔵文化財センター総務班　副主幹）令和３・４年度
　　鈴木菜穂子（秋田県埋蔵文化財センター総務班　副主幹）令和５年度
　　佐藤 広文　（秋田県埋蔵文化財センター総務班　専門員）令和５年度
　　柴田　優　（秋田県埋蔵文化財センター総務班　副主幹）令和２・３年度
　　高橋 皇司　（秋田県埋蔵文化財センター総務班　副主幹）令和４・５年度
　　武藤　靖　（秋田県埋蔵文化財センター総務班　主査）令和元年度
　　皆川　哲　（秋田県埋蔵文化財センター総務班　主任）令和３～５年度
　　渡辺　昴　（秋田県埋蔵文化財センター総務班　主事）令和元・２年度

調査協力機関　秋田県山本地域振興局建設部、能代市教育委員会

3　第３図は、国土交通省国土地理院発行の１／ 50,000 地形図『能代』（令和元年発行）・『鷹巣』（令和元年発行）、第 10 図は秋田県山本地域振興局建設部提供の１／ 500 工事用図面をそれぞれ元

に作成した。

4　発掘調査においては、水準測量および方眼杭設置業務を測地技術、掘削作業管理業務を佐藤吉株式会社、遺跡空中写真撮影業務を株式会社みどり光学社にそれぞれ委託した。

5　整理作業においては、遺物洗浄作業の一部を株式会社イビソク、遺物実測・トレース作業の一部を株式会社一測設計、株式会社イビソク、株式会社ラングにそれぞれ委託した。

6　理化学分析は、放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所、株式会社パレオ・ラボ、パリノ・サーヴェイ株式会社、樹種同定を株式会社加速器分析研究所、株式会社パレオ・ラボ、動物遺体同定を株式会社加速器分析研究所、種実同定を株式会社パレオ・ラボ、盛土遺構の自然科学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社、黒曜石産地推定分析をパリノ・サーヴェイ株式会社、付着物成分分析を株式会社吉田生物にそれぞれ委託し、その委託分析調査報告書を大上が編集し、掲載した。

7　本書の執筆は第１章第１・３節を大上、第２節を小山、第２章第１節を小山、第２節を久住・小松、第３章第１節を小山、第２節１を新海、２を小山・大上、３を大上、第３節を小山・大上、第５章１を大上、２を新海、３・４・５を大上が担当した。第３章第４節１～４は各調査担当者による記述をもとに大上が加筆・修正をした。なお、出土土器については、新海が執筆した。本書の編集は大上が担当した。

8　発掘調査および整理作業において、御指導・御助言を賜った以下の方々に記して感謝申し上げます。

赤坂朋美、榎本剛治、大山幹成、上條信彦、工藤佳世、栗本康司、小林克、佐藤真弓、嶋影壮憲、須原拓、髙橋哲、舘山友香理、冨樫泰時、町田賢一、八木勝枝

（五十音順、敬称略）

凡　例

1　本報告書に掲載した平面図（遺構実測図）の方位は、世界測地系平面直角座標第Ｘ系による座標北を示す。座標北から磁北の偏角は西偏０°　22′　52″である。

2　遺構番号は、その種類ごとに略記号を附し、検出順に連番とした。これらの中には、精査と整理作業の過程で欠番としたものもある。遺構に用いた略記号は次のとおりである。

ST：盛土遺構	SI：竪穴建物跡	SQN：石囲炉
SB：掘立柱建物跡	SKI：竪穴状遺構	SQ：列石・配石遺構
SA：柵列・柱列跡	SD：溝跡	SKF：フラスコ状土坑
SK：土坑	SR：土器埋設遺構	SW：炭焼遺構
SN：焼土遺構	SX：性格不明遺構	SKP：柱穴様ピット

3　基本層序はローマ数字で表記した。遺構の層序は基本的にはアラビア数字を用いたが、ST252のみ大別層序と細別層序を附したことから、便宜上前者をローマ数字で表した。また土色記述には、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。

4　遺構実測図および遺物実測図には、それぞれスケールバーを附して縮尺を表示した。

5　遺構実測図中に十字記号とともに併記されるグリッド記号の「＋」以下の英数字は、各グリッド杭からの方向および距離を示している。それぞれＥＷＳＮは東西南北を示し、例えば「MA50＋

W 2.0m」であれば、MA50 杭から真西に２ｍの地点であることを示す。

6　遺構図・遺物図の網掛け等の凡例は以下の通りである。

遺構

現地性の焼土

異地性の焼土

＊床面の被熱状況などから、その場で火が焚かれたことが想定できる範囲を「現地性の焼土」とした。また、床面が被熱していないものの、焼土ブロック・粒が集中的に二次堆積した範囲が確認され、これを「異地性の焼土」とした。

土器

付着物

石器

磨面

被熱

付着物

目　次

序
例言
凡例
目次

第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
　第３節　整理作業の経過 …… 5
第２章　遺跡の位置と環境 …… 6
　第１節　地理的環境 …… 6
　第２節　歴史的環境 …… 8
第３章　調査の方法と成果 …… 13
　第１節　調査の方法 …… 13
　第２節　遺物の分類 …… 15
　第３節　基本層序 …… 30
　第４節　検出遺構と遺物 …… 39
　　１　概要 …… 39
　　２　縄文時代 …… 39
　　（１）盛土遺構 …… 39
　　（２）竪穴建物跡 …… 42
　　（３）掘立柱建物跡 …… 54
　　（４）竪穴状遺構 …… 55
　　（５）列石遺構 …… 58
　　（６）配石遺構 …… 61
　　（７）フラスコ状土坑 …… 66
　　（８）土坑 …… 69
　　（９）土器埋設遺構 …… 92
　　（10）焼土遺構 …… 107
　　（11）性格不明遺構 …… 116
　　（12）柱穴様ピット …… 121
　　３　古代以降 …… 121
　　（１）掘立柱建物跡 …… 121
　　（２）柵列・柱列跡 …… 121
　　（３）炭焼遺構 …… 122
　　（４）土坑 …… 123
　　（５）焼土遺構 …… 126
　　（６）溝跡 …… 127
　　（７）性格不明遺構 …… 127

（8）柱穴様ピット …… 129
4　所属時期不明 …… 130
（1）配石遺構 …… 130
（2）土坑 …… 131
5　遺構外出土遺物 …… 131
第４章　理化学的分析 …… 466
第１節　放射性炭素年代測定 …… 466
1 令和元年度の放射性炭素年代測定 …… 466
2 令和２年度の放射性炭素年代測定 …… 471
3 令和３年度の放射性炭素年代測定・樹種同定 …… 477
第２節　樹種同定 …… 485
1 令和元年度の樹種同定 …… 485
2 令和２年度の樹種同定 …… 490
第３節　種実同定 …… 493
第４節　動物遺体同定 …… 494
1 令和元年度の動物遺体同定 …… 494
2 令和２年度の動物遺体同定 …… 497
第５節　付着物分析 …… 498
第６節　黒曜石産地推定分析 …… 508
第７節　盛土遺構の自然科学分析 …… 516
第５章　総括 …… 529
第１節　遺構について …… 529
第２節　土器について …… 542
第３節　土製品について …… 555
第４節　石器・石製品について …… 556
第５節　まとめ …… 568

図版

報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 6
第２図　地形区分図 …… 7
第３図　茱萸ノ木遺跡周辺の遺跡位置図 …… 11
第４図　グリッド配置および調査区割図 …… 14
第５図　石器分類図（1）石鏃 …… 25
第６図　石器分類図（2）石槍・石匙・石篦・石錐・スクレイパー …… 26
第７図　石器分類図（3）磨製石斧・扁平石器・敲石・多面体敲石・凹み石・磨石 …… 27
第８図　石器分類図（4）特殊磨石・北海道式石冠・石皿・砥石・石錘 …… 28
第９図　石器分類図（5）石棒・棒状礫・玉類・穿孔礫 …… 29

第 10 図　基本土層位置図 …… 34
第 11 図　尾根掘部、平坦部西側（A・B・E 区）基本土層模式図 …… 35
第 12 図　基本土層図（1）…… 35
第 13 図　基本土層図（2）…… 36
第 14 図　基本土層図（3）…… 37
第 15 図　基本土層図（4）…… 38
第 16 図　ST252 の範囲と土層位置図 …… 133
第 17 図　ST252 土層断面図（1）…… 134
第 18 図　ST252 土層断面図（2）…… 135
第 19 図　ST252 土層断面図（3）…… 136
第 20 図　ST252 土層断面図（4）…… 137
第 21 図　ST252 土層断面図（5）…… 139
第 22 図　ST252 土層断面図（6）…… 141
第 23 図　ST252 土層断面図（7）…… 143
第 24 図　縄文時代中期後葉～末葉（最花～大木 10 式並行期）の遺構配置図 …… 145
第 25 図　縄文時代中期後葉（最花式期）の遺構配置図 …… 146
第 26 図　縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層 c 式～榎林式期）の遺構配置図 …… 147
第 27 図　縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層 a 1～b 式期）の遺構配置図 …… 148
第 28 図　縄文時代中期初頭（円筒上層 a 1 式期）の遺構配置図 …… 149
第 29 図　ST247 の範囲と土層位置図 …… 150
第 30 図　ST247 土層断面図（1）…… 150
第 31 図　ST247 土層断面図（2）…… 151
第 32 図　縄文時代中期後葉（最花式期）の遺構配置図 …… 152
第 33 図　縄文時代中期中葉（榎林式期）以前の遺構配置図 …… 152
第 34 図　SI125・214 竪穴建物跡 …… 153
第 35 図　SI286 竪穴建物跡 …… 154
第 36 図　SI325 竪穴建物跡 …… 155
第 37 図　SI390・404 竪穴建物跡 …… 156
第 38 図　SI422・460 竪穴建物跡 …… 157
第 39 図　SI475 竪穴建物跡 …… 158
第 40 図　SI567 竪穴建物跡 …… 159
第 41 図　SI638・652 竪穴建物跡 …… 160
第 42 図　SI786 竪穴建物跡 …… 161
第 43 図　SI795 竪穴建物跡（1）…… 162
第 44 図　SI795 竪穴建物跡（2）…… 163
第 45 図　SI3036・3037 竪穴建物跡（1）…… 164
第 46 図　SI3036・3037 竪穴建物跡（2）…… 165
第 47 図　SI3052 竪穴建物跡 …… 166
第 48 図　SI4011 竪穴建物跡（1）…… 167
第 49 図　SI4011 竪穴建物跡（2）…… 168
第 50 図　SI4049 竪穴建物跡（1）…… 169
第 51 図　SI4049 竪穴建物跡（2）…… 170

第 52 図　SB4187・4188・4189・4190 掘立柱建物跡 …… 171
第 53 図　SB4190 掘立柱建物跡、SKI651・3053 竪穴状遺構 …… 172
第 54 図　SKI3096・3097・4010 竪穴状遺構 …… 173
第 55 図　SQ 7 列石遺構 …… 174
第 56 図　SQ27 列石遺構 …… 175
第 57 図　SQ43 列石遺構 …… 176
第 58 図　SQ45 列石遺構 …… 177
第 59 図　SQ49・239 列石遺構 …… 178
第 60 図　SQ266 列石遺構 …… 179
第 61 図　SQ 2 ・ 3 ・ 4 配石遺構 …… 180
第 62 図　SQ 3 ・ 4 配石遺構 …… 181
第 63 図　SQ29・30・31・48 配石遺構 …… 182
第 64 図　SQ50・61・217 配石遺構 …… 183
第 65 図　SQ218・242 配石遺構 …… 184
第 66 図　SQ262・263・393・469・3083 配石遺構 …… 185
第 67 図　SQ4009 配石遺構 …… 186
第 68 図　SKF249・337・640 フラスコ状土坑 …… 187
第 69 図　SKF4043・4066 フラスコ状土坑 …… 188
第 70 図　SKF4105 フラスコ状土坑、SK44・75 土坑 …… 189
第 71 図　SK135・187・188・215・224 土坑 …… 190
第 72 図　SK238・285・322・324・326 土坑 …… 191
第 73 図　SK358・395・413・427・446・524 土坑 …… 192
第 74 図　SK449・451・455・456・457・600 土坑 …… 193
第 75 図　SK485・492・502・515・522・531・532・537・551 土坑 …… 194
第 76 図　SK554・563・589・615・650 土坑 …… 195
第 77 図　SK657・662・674・685・753・754・758・768・783 土坑 …… 196
第 78 図　SK788・796・797・799・802・3001・3011・3012・3013 土坑 …… 197
第 79 図　SK3015・3016・3023・3025・3056・3057・3085 土坑 …… 198
第 80 図　SK3086・3088・3151 土坑 …… 199
第 81 図　SK3106・3113・3114・3116・3133・4016 土坑 …… 200
第 82 図　SK4046・4047・4056・4082 土坑 …… 201
第 83 図　SR 9 ・32・149・151 土器埋設遺構 …… 202
第 84 図　SR159・197・221・231 土器埋設遺構 …… 203
第 85 図　SR241・244・290・321 土器埋設遺構 …… 204
第 86 図　SR454・520・529 土器埋設遺構 …… 205
第 87 図　SR560・570・571・576 土器埋設遺構 …… 206
第 88 図　SR580・585・587・590 土器埋設遺構 …… 207
第 89 図　SR616・654・700・702 土器埋設遺構 …… 208
第 90 図　SR704・706・707 土器埋設遺構 …… 209
第 91 図　SR711・713・715・716 土器埋設遺構 …… 210
第 92 図　SR719・3010・3026・3027 土器埋設遺構 …… 211
第 93 図　SR3067・3068・3145・4034 土器埋設遺構 …… 212

第 94 図　SN60・63・198・210・211・212・219 焼土遺構 …… 213
第 95 図　SN220・287・411・458 焼土遺構 …… 214
第 96 図　SN507・525・594・601・695 焼土遺構 …… 215
第 97 図　SN696・762・766・789・3038・3040 焼土遺構 …… 216
第 98 図　SN3043・3046・3047・3049・3074 焼土遺構 …… 217
第 99 図　SN3080・3082・3091・3092・3093・3099・3146・4019・4060 焼土遺構 …… 218
第 100 図　SX270・470 性格不明遺構 …… 219
第 101 図　SX4179 性格不明遺構、SKP179 柱穴様ピット …… 220
第 102 図　SX4182・4183 性格不明遺構 …… 221
第 103 図　SX4184・4185・4186 性格不明遺構 …… 222
第 104 図　SB4147 掘立柱建物跡、SA3044・4116 柵列・柱列跡 …… 223
第 105 図　SW2021・4004 炭焼遺構 …… 224
第 106 図　SW4022・4100 炭焼遺構 …… 225
第 107 図　SK67・610・3014・3019・3030・4008・4033・4057・4090・4131 土坑 …… 226
第 108 図　SK4135 土坑、SN4015・4087 焼土遺構 …… 227
第 109 図　SD4062 溝跡 …… 228
第 110 図　SX136・156・2010 性格不明遺構 …… 229
第 111 図　SX3017 性格不明遺構 …… 230
第 112 図　SX3076・4127・4130・4170 性格不明遺構、SKP81 柱穴様ピット …… 231
第 113 図　SQ42 配石遺構 …… 232
第 114 図　SQ46・69 配石遺構、SK2024 土坑 …… 233
第 115 図　遺構内出土土器（1） …… 245
第 116 図　遺構内出土土器（2） …… 246
第 117 図　遺構内出土土器（3） …… 247
第 118 図　遺構内出土土器（4） …… 248
第 119 図　遺構内出土土器（5） …… 249
第 120 図　遺構内出土土器（6） …… 250
第 121 図　遺構内出土土器（7） …… 251
第 122 図　遺構内出土土器（8） …… 252
第 123 図　遺構内出土土器（9） …… 253
第 124 図　遺構内出土土器（10） …… 254
第 125 図　遺構内出土土器（11） …… 255
第 126 図　遺構内出土土器（12） …… 256
第 127 図　遺構内出土土器（13） …… 257
第 128 図　遺構内出土土器（14） …… 258
第 129 図　遺構内出土土器（15） …… 259
第 130 図　遺構内出土土器（16） …… 260
第 131 図　遺構内出土土器（17） …… 261
第 132 図　遺構内出土土器（18） …… 262
第 133 図　遺構内出土土器（19） …… 263
第 134 図　遺構内出土土器（20） …… 264
第 135 図　遺構内出土土器（21） …… 265

第 136 図　遺構内出土土器（22）…… 266
第 137 図　遺構内出土土器（23）…… 267
第 138 図　遺構内出土土器（24）…… 268
第 139 図　遺構内出土土器（25）…… 269
第 140 図　遺構内出土土器（26）…… 270
第 141 図　遺構内出土土器（27）…… 271
第 142 図　遺構内出土土器（28）…… 272
第 143 図　遺構内出土土器（29）…… 273
第 144 図　遺構内出土土器（30）…… 274
第 145 図　遺構内出土土器（31）…… 275
第 146 図　遺構内出土土器（32）…… 276
第 147 図　遺構内出土土器（33）…… 277
第 148 図　遺構内出土土器（34）…… 278
第 149 図　遺構内出土土器（35）…… 279
第 150 図　遺構内出土土器（36）…… 280
第 151 図　遺構内出土土器（37）…… 281
第 152 図　遺構内出土土器（38）…… 282
第 153 図　遺構内出土土器（39）…… 283
第 154 図　遺構内出土土器（40）…… 284
第 155 図　遺構内出土土器（41）…… 285
第 156 図　遺構内出土土器（42）…… 286
第 157 図　遺構内出土土器（43）…… 287
第 158 図　遺構内出土土器（44）…… 288
第 159 図　遺構内出土土器（45）…… 289
第 160 図　遺構内出土土器（46）…… 290
第 161 図　遺構内出土土器（47）…… 291
第 162 図　遺構内出土土器（48）…… 292
第 163 図　遺構内出土土器（49）…… 293
第 164 図　遺構内出土土器（50）…… 294
第 165 図　遺構内出土土器（51）…… 295
第 166 図　遺構内出土土器（52）…… 296
第 167 図　遺構内出土土器（53）…… 297
第 168 図　遺構内出土土器（54）…… 298
第 169 図　遺構内出土土器（55）…… 299
第 170 図　遺構内出土土器（56）…… 300
第 171 図　遺構内出土土器（57）…… 301
第 172 図　遺構内出土土器（58）…… 302
第 173 図　遺構内出土土器（59）…… 303
第 174 図　遺構内出土土器（60）…… 304
第 175 図　遺構内出土土器（61）…… 305
第 176 図　遺構内出土土器（62）…… 306
第 177 図　遺構内出土土器（63）…… 307

第 178 図　遺構内出土土器（64）…… 308
第 179 図　遺構内出土土器（65）…… 309
第 180 図　遺構内出土土器（66）…… 310
第 181 図　遺構内出土土器（67）…… 311
第 182 図　遺構内出土土器（68）…… 312
第 183 図　遺構内出土土器（69）…… 313
第 184 図　遺構内出土土器（70）…… 314
第 185 図　遺構内出土土器（71）…… 315
第 186 図　遺構内出土土器（72）…… 316
第 187 図　遺構内出土土器（73）…… 317
第 188 図　遺構内出土土器（74）…… 318
第 189 図　遺構内出土土器（75）…… 319
第 190 図　遺構内出土土器（76）…… 320
第 191 図　遺構内出土土器（77）…… 321
第 192 図　遺構内出土土器（78）…… 322
第 193 図　遺構内出土土器（79）…… 323
第 194 図　遺構内出土土器（80）…… 324
第 195 図　遺構内出土土器（81）…… 325
第 196 図　遺構内出土土器（82）…… 326
第 197 図　遺構内出土土器（83）…… 327
第 198 図　遺構内出土土器（84）…… 328
第 199 図　遺構内出土土器（85）…… 329
第 200 図　遺構内出土土器（86）…… 330
第 201 図　遺構外出土土器（1）…… 331
第 202 図　遺構外出土土器（2）…… 332
第 203 図　遺構外出土土器（3）…… 333
第 204 図　遺構外出土土器（4）…… 334
第 205 図　遺構外出土土器（5）…… 335
第 206 図　遺構外出土土器（6）…… 336
第 207 図　遺構内出土土製品（1）…… 358
第 208 図　遺構内出土土製品（2）…… 359
第 209 図　遺構内出土土製品（3）…… 360
第 210 図　遺構内出土土製品（4）…… 361
第 211 図　遺構内出土土製品（5）…… 362
第 212 図　遺構内出土土製品（6）…… 363
第 213 図　遺構内出土土製品（7）・遺構外出土土製品（1）…… 364
第 214 図　遺構外出土土製品（2）…… 365
第 215 図　遺構外出土土製品（3）…… 366
第 216 図　遺構内出土石器・石製品（1）…… 370
第 217 図　遺構内出土石器・石製品（2）…… 371
第 218 図　遺構内出土石器・石製品（3）…… 372
第 219 図　遺構内出土石器・石製品（4）…… 373

第 220 図　遺構内出土石器・石製品（5）…… 374
第 221 図　遺構内出土石器・石製品（6）…… 375
第 222 図　遺構内出土石器・石製品（7）…… 376
第 223 図　遺構内出土石器・石製品（8）…… 377
第 224 図　遺構内出土石器・石製品（9）…… 378
第 225 図　遺構内出土石器・石製品（10）…… 379
第 226 図　遺構内出土石器・石製品（11）…… 380
第 227 図　遺構内出土石器・石製品（12）…… 381
第 228 図　遺構内出土石器・石製品（13）…… 382
第 229 図　遺構内出土石器・石製品（14）…… 383
第 230 図　遺構内出土石器・石製品（15）…… 384
第 231 図　遺構内出土石器・石製品（16）…… 385
第 232 図　遺構内出土石器・石製品（17）…… 386
第 233 図　遺構内出土石器・石製品（18）…… 387
第 234 図　遺構内出土石器・石製品（19）…… 388
第 235 図　遺構内出土石器・石製品（20）…… 389
第 236 図　遺構内出土石器・石製品（21）…… 390
第 237 図　遺構内出土石器・石製品（22）…… 391
第 238 図　遺構内出土石器・石製品（23）…… 392
第 239 図　遺構内出土石器・石製品（24）…… 393
第 240 図　遺構内出土石器・石製品（25）…… 394
第 241 図　遺構内出土石器・石製品（26）…… 395
第 242 図　遺構内出土石器・石製品（27）…… 396
第 243 図　遺構内出土石器・石製品（28）…… 397
第 244 図　遺構内出土石器・石製品（29）…… 398
第 245 図　遺構内出土石器・石製品（30）…… 399
第 246 図　遺構内出土石器・石製品（31）…… 400
第 247 図　遺構内出土石器・石製品（32）…… 401
第 248 図　遺構内出土石器・石製品（33）…… 402
第 249 図　遺構内出土石器・石製品（34）…… 403
第 250 図　遺構内出土石器・石製品（35）…… 404
第 251 図　遺構内出土石器・石製品（36）…… 405
第 252 図　遺構内出土石器・石製品（37）…… 406
第 253 図　遺構内出土石器・石製品（38）…… 407
第 254 図　遺構内出土石器・石製品（39）…… 408
第 255 図　遺構内出土石器・石製品（40）…… 409
第 256 図　遺構内出土石器・石製品（41）…… 410
第 257 図　遺構内出土石器・石製品（42）…… 411
第 258 図　遺構内出土石器・石製品（43）…… 412
第 259 図　遺構内出土石器・石製品（44）…… 413
第 260 図　遺構内出土石器・石製品（45）…… 414
第 261 図　遺構内出土石器・石製品（46）…… 415

第 262 図　遺構内出土石器・石製品（47）…… 416
第 263 図　遺構内出土石器・石製品（48）…… 417
第 264 図　遺構内出土石器・石製品（49）…… 418
第 265 図　遺構内出土石器・石製品（50）…… 419
第 266 図　遺構内出土石器・石製品（51）…… 420
第 267 図　遺構内出土石器・石製品（52）…… 421
第 268 図　遺構内出土石器・石製品（53）…… 422
第 269 図　遺構内出土石器・石製品（54）…… 423
第 270 図　遺構内出土石器・石製品（55）…… 424
第 271 図　遺構内出土石器・石製品（56）…… 425
第 272 図　遺構内出土石器・石製品（57）…… 426
第 273 図　遺構外出土石器・石製品（1）…… 427
第 274 図　遺構外出土石器・石製品（2）…… 428
第 275 図　遺構外出土石器・石製品（3）…… 429
第 276 図　遺構外出土石器・石製品（4）…… 430
第 277 図　遺構外出土石器・石製品（5）…… 431
第 278 図　遺構外出土石器・石製品（6）…… 432
第 279 図　遺構外出土石器・石製品（7）…… 433
第 280 図　遺構外出土石器・石製品（8）…… 434
第 281 図　遺構外出土石器・石製品（9）…… 435
第 282 図　遺構外出土石器・石製品（10）…… 436
第 283 図　遺構外出土石器・石製品（11）…… 437
第 284 図　遺構外出土石器・石製品（12）…… 438
第 285 図　遺構外出土石器・石製品（13）…… 439
第 286 図　遺構外出土石器・石製品（14）…… 440
第 287 図　遺構外出土石器・石製品（15）…… 441
第 288 図　遺構外出土石器・石製品（16）…… 442
第 289 図　遺構外出土石器・石製品（17）…… 443
第 290 図　遺構外出土石器・石製品（18）…… 444
第 291 図　遺構外出土石器・石製品（19）…… 445
第 292 図　遺構外出土石器・石製品（20）…… 446
第 293 図　古代以降、所属時期不明の遺構内出土石器・石製品 …… 447
第 294 図　古代以降の石製品 …… 448
第 295 図　暦年較正年代グラフ（参考）（1）…… 469
第 296 図　暦年較正年代グラフ（2）…… 470
第 297 図　縄文時代のマルチプロット図 …… 473
第 298 図　奈良時代以降のマルチプロット図 …… 474
第 299 図　暦年較正結果（1）…… 475
第 300 図　暦年較正結果（2）…… 476
第 301 図　暦年較正結果 …… 479
第 302 図　炭化材（1）…… 483
第 303 図　炭化材（2）・木材 …… 484

第 304 図　茱萸ノ木遺跡の木材（1）…… 488
第 305 図　茱萸ノ木遺跡の木材（2）…… 489
第 306 図　茱萸ノ木遺跡出土有機質遺物の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡、試料写真…… 492
第 307 図　茱萸ノ木遺跡から出土した炭化種実…… 494
第 308 図　茱萸ノ木遺跡の動物遺体…… 496
第 309 図　茱萸ノ木遺跡出土の動物遺体…… 498
第 310 図　分析試料（1）…… 500
第 311 図　分析試料（2）…… 501
第 312 図　蛍光X線スペクトル図（1）…… 502
第 313 図　蛍光X線スペクトル図（2）…… 503
第 314 図　FT-IR スペクトル図（1）…… 504
第 315 図　FT-IR スペクトル図（2）…… 505
第 316 図　FT-IR スペクトル図（3）…… 506
第 317 図　黒曜石産地一覧…… 509
第 318 図　黒曜石産地推定結果（1）…… 513
第 319 図　黒曜石産地推定結果（2）…… 514
第 320 図　1地点（盛土遺構斜面北側）の試料採取位置…… 518
第 321 図　2地点（基本土層）の試料採取位置…… 519
第 322 図　3地点（盛土遺構斜面南側）の試料採取位置…… 519
第 323 図　各地点の重鉱物組成および火山ガラス比…… 521
第 324 図　火山ガラスの屈折率…… 524
第 325 図　重鉱物・軽鉱物…… 525
第 326 図　柱状試料写真表面と軟X線写真（1）…… 526
第 327 図　柱状試料写真表面と軟X線写真（2）…… 527
第 328 図　柱状試料写真表面と軟X線写真（3）…… 528
第 329 図　盛土遺構の形成過程と集落の変遷（1）…… 536
第 330 図　盛土遺構の形成過程と集落の変遷（2）…… 537
第 331 図　盛土遺構の形成過程と集落の変遷（3）…… 538
第 332 図　茱萸ノ木遺跡における竪穴建物跡…… 539
第 333 図　茱萸ノ木遺跡における土器埋設遺構…… 540
第 334 図　茱萸ノ木遺跡における盛土遺構・竪穴建物跡・土器埋設遺構の分布…… 541
第 335 図　茱萸ノ木遺跡出土土器（1）A1～A4類…… 550
第 336 図　茱萸ノ木遺跡出土土器（2）B1～B3類・C類…… 551
第 337 図　茱萸ノ木遺跡出土土器（3）A5～A8類…… 552
第 338 図　茱萸ノ木遺跡出土土器（4）B4～B6類…… 553
第 339 図　各層における石器組成比率…… 560
第 340 図　各層における石鏃類型の出土比率…… 560
第 341 図　黒曜石製石器集成…… 561
第 342 図　茱萸ノ木遺跡における石鏃の変遷模式図…… 561

表目次

第 1 表　茱萸ノ木遺跡周辺の遺跡一覧表 …… 12
第 2 表　柱穴様ピット一覧表（1）…… 234
第 3 表　柱穴様ピット一覧表（2）…… 235
第 4 表　柱穴様ピット一覧表（3）…… 236
第 5 表　柱穴様ピット一覧表（4）…… 237
第 6 表　柱穴様ピット一覧表（5）…… 238
第 7 表　柱穴様ピット一覧表（6）…… 239
第 8 表　柱穴様ピット一覧表（7）…… 240
第 9 表　柱穴様ピット一覧表（8）…… 241
第 10 表　柱穴様ピット一覧表（9）…… 242
第 11 表　柱穴様ピット一覧表（10）…… 243
第 12 表　柱穴様ピット一覧表（11）…… 244
第 13 表　土器観察表（1）…… 337
第 14 表　土器観察表（2）…… 338
第 15 表　土器観察表（3）…… 339
第 16 表　土器観察表（4）…… 340
第 17 表　土器観察表（5）…… 341
第 18 表　土器観察表（6）…… 342
第 19 表　土器観察表（7）…… 343
第 20 表　土器観察表（8）…… 344
第 21 表　土器観察表（9）…… 345
第 22 表　土器観察表（10）…… 346
第 23 表　土器観察表（11）…… 347
第 24 表　土器観察表（12）…… 348
第 25 表　土器観察表（13）…… 349
第 26 表　土器観察表（14）…… 350
第 27 表　土器観察表（15）…… 351
第 28 表　土器観察表（16）…… 352
第 29 表　土器観察表（17）…… 353
第 30 表　土器観察表（18）…… 354
第 31 表　土器観察表（19）…… 355
第 32 表　土器観察表（20）…… 356
第 33 表　土器観察表（21）…… 357
第 34 表　土製品観察表（1）…… 367
第 35 表　土製品観察表（2）…… 368
第 36 表　土製品観察表（3）…… 369
第 37 表　石器・石製品観察表（1）…… 449
第 38 表　石器・石製品観察表（2）…… 450
第 39 表　石器・石製品観察表（3）…… 451

第 40 表　石器・石製品観察表（4）…… 452
第 41 表　石器・石製品観察表（5）…… 453
第 42 表　石器・石製品観察表（6）…… 454
第 43 表　石器・石製品観察表（7）…… 455
第 44 表　石器・石製品観察表（8）…… 456
第 45 表　石器・石製品観察表（9）…… 457
第 46 表　石器・石製品観察表（10）…… 458
第 47 表　石器・石製品観察表（11）…… 459
第 48 表　石器・石製品観察表（12）…… 460
第 49 表　石器・石製品観察表（13）…… 461
第 50 表　石器・石製品観察表（14）…… 462
第 51 表　石器・石製品観察表（15）…… 463
第 52 表　石器・石製品観察表（16）…… 464
第 53 表　石器・石製品観察表（17）…… 465
第 54 表　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 補正値）…… 468
第 55 表　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 未補正値、暦年較正用 14C 年代、較正年代）…… 469
第 56 表　測定試料および処理…… 474
第 57 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果…… 475
第 58 表　分析試料一覧と樹種同定結果…… 478
第 59 表　放射性炭素年代測定結果…… 480
第 60 表　茱萸ノ木遺跡における樹種同定結果…… 486
第 61 表　茱萸ノ木遺跡出土有機質遺物の同定結果一覧（1）…… 490
第 62 表　茱萸ノ木遺跡出土有機質遺物の同定結果一覧（2）…… 491
第 63 表　茱萸ノ木遺跡から出土した炭化種実…… 493
第 64 表　茱萸ノ木遺跡における動物遺体同定結果…… 495
第 65 表　茱萸ノ木遺跡出土動物遺体一覧…… 497
第 66 表　試料表…… 499
第 67 表　蛍光 X 線結果表…… 502
第 68 表　結果表…… 507
第 69 表　分析試料一覧…… 508
第 70 表　黒曜石原産地試料一覧…… 511
第 71 表　スペクトル強度と判別指標値…… 512
第 72 表　黒曜石判定結果…… 515
第 73 表　重鉱物・火山ガラス比分析結果…… 521
第 74 表　ST252 出土土器分類別出土重量…… 554
第 75 表　ST252 における土製品出土比率…… 555
第 76 表　各層における土製品出土点数…… 555
第 77 表　各層における石鏃類型出土点数…… 562
第 78 表　各層における石槍類型出土点数…… 563
第 79 表　各層における石匙類型出土点数…… 563
第 80 表　各層における石箆類型出土点数…… 563
第 81 表　各層における石錐類型出土点数…… 564

第 82 表　各層におけるスクレイパー類型出土点数 …… 564
第 83 表　各層における磨製石斧類型出土点数 …… 564
第 84 表　各層における扁平石器類型出土点数 …… 565
第 85 表　各層における敲石類型出土点数 …… 565
第 86 表　各層における多面体敲石類型出土点数 …… 565
第 87 表　各層における凹み石類型出土点数 …… 565
第 88 表　各層における磨石類型出土点数 …… 566
第 89 表　各層における特殊磨石類型出土点数 …… 566
第 90 表　各層における北海道式石冠類型出土点数 …… 566
第 91 表　各層における石皿類型出土点数 …… 566
第 92 表　各層における石錘類型出土点数 …… 566
第 93 表　各層における砥石類型出土点数 …… 567
第 94 表　各層における石棒類型出土点数 …… 567
第 95 表　各層における棒状礫類型出土点数 …… 567
第 96 表　各層における玉類類型出土点数 …… 567
第 97 表　各層における穿孔礫類型出土点数 …… 567

図版目次

巻頭図版 1
巻頭図版 2
巻頭図版 3
巻頭図版 4
図版 1　調査区遠景 …… 569
図版 2　令和元年度調査区全景 …… 570
図版 3　令和 2 年度調査区全景 …… 571
図版 4　令和 3 年度調査区全景 …… 572
図版 5　基本土層 …… 573
図版 6　基本土層・縄文時代の遺構（1） …… 574
図版 7　縄文時代の遺構（2） …… 575
図版 8　縄文時代の遺構（3） …… 576
図版 9　縄文時代の遺構（4） …… 577
図版 10　縄文時代の遺構（5） …… 578
図版 11　縄文時代の遺構（6） …… 579
図版 12　縄文時代の遺構（7） …… 580
図版 13　縄文時代の遺構（8） …… 581
図版 14　縄文時代の遺構（9） …… 582
図版 15　縄文時代の遺構（10） …… 583
図版 16　縄文時代の遺構（11） …… 584
図版 17　縄文時代の遺構（12） …… 585

図版 18　縄文時代の遺構（13）…… 586
図版 19　縄文時代の遺構（14）…… 587
図版 20　縄文時代の遺構（15）…… 588
図版 21　縄文時代の遺構（16）…… 589
図版 22　縄文時代の遺構（17）…… 590
図版 23　縄文時代の遺構（18）…… 591
図版 24　縄文時代の遺構（19）…… 592
図版 25　縄文時代の遺構（20）…… 593
図版 26　縄文時代の遺構（21）…… 594
図版 27　縄文時代の遺構（22）…… 595
図版 28　縄文時代の遺構（23）…… 596
図版 29　縄文時代の遺構（24）…… 597
図版 30　縄文時代の遺構（25）…… 598
図版 31　縄文時代の遺構（26）…… 599
図版 32　縄文時代の遺構（27）…… 600
図版 33　縄文時代の遺構（28）…… 601
図版 34　縄文時代の遺構（29）…… 602
図版 35　縄文時代の遺構（30）…… 603
図版 36　縄文時代の遺構（31）…… 604
図版 37　縄文時代の遺構（32）…… 605
図版 38　縄文時代の遺構（33）…… 606
図版 39　縄文時代の遺構（34）…… 607
図版 40　縄文時代の遺構（35）…… 608
図版 41　縄文時代の遺構（36）…… 609
図版 42　縄文時代の遺構（37）…… 610
図版 43　縄文時代の遺構（38）…… 611
図版 44　縄文時代の遺構（39）…… 612
図版 45　縄文時代の遺構（40）…… 613
図版 46　縄文時代の遺構（41）…… 614
図版 47　縄文時代の遺構（42）…… 615
図版 48　縄文時代の遺構（43）…… 616
図版 49　縄文時代の遺構（44）…… 617
図版 50　縄文時代の遺構（45）…… 618
図版 51　縄文時代の遺構（46）…… 619
図版 52　縄文時代の遺構（47）…… 620
図版 53　古代以降の遺構（1）…… 621
図版 54　古代以降の遺構（2）…… 622
図版 55　古代以降の遺構（3）…… 623
図版 56　古代以降の遺構（4）・時期不明の遺構 …… 624
図版 57　縄文時代の土器（1）…… 625
図版 58　縄文時代の土器（2）…… 626
図版 59　縄文時代の土器（3）…… 627

図版 60　縄文時代の土器（4）…… 628
図版 61　縄文時代の土器（5）…… 629
図版 62　縄文時代の土器（6）…… 630
図版 63　縄文時代の土器（7）…… 631
図版 64　縄文時代の土器（8）…… 632
図版 65　縄文時代の土器（9）…… 633
図版 66　縄文時代の土器（10）…… 634
図版 67　縄文時代の土器（11）…… 635
図版 68　縄文時代の土器（12）…… 636
図版 69　縄文時代の土器（13）…… 637
図版 70　縄文時代の土器（14）…… 638
図版 71　縄文時代の土器（15）…… 639
図版 72　縄文時代の土器（16）…… 640
図版 73　縄文時代の土器（17）…… 641
図版 74　縄文時代の土器（18）…… 642
図版 75　縄文時代の土器（19）…… 643
図版 76　縄文時代の土器（20）…… 644
図版 77　縄文時代の土器（21）…… 645
図版 78　縄文時代の土器（22）…… 646
図版 79　縄文時代の土器（23）…… 647
図版 80　縄文時代の土器（24）…… 648
図版 81　縄文時代の土器（25）…… 649
図版 82　縄文時代の土器（26）…… 650
図版 83　縄文時代の土器（27）…… 651
図版 84　縄文時代の土器（28）…… 652
図版 85　縄文時代の土器（29）…… 653
図版 86　縄文時代の土器（30）…… 654
図版 87　縄文時代の土器（31）…… 655
図版 88　縄文時代の土器（32）…… 656
図版 89　縄文時代の土器（33）…… 657
図版 90　縄文時代の土器（34）…… 658
図版 91　縄文時代の土器（35）…… 659
図版 92　縄文時代の土器（36）…… 660
図版 93　縄文時代の土器（37）…… 661
図版 94　縄文時代の土器（38）…… 662
図版 95　縄文時代の土器（39）…… 663
図版 96　縄文時代の土器（40）…… 664
図版 97　縄文時代の土器（41）…… 665
図版 98　縄文時代の土器（42）…… 666
図版 99　縄文時代の土器（43）…… 667
図版 100　縄文時代の土器（44）…… 668
図版 101　縄文時代の土器（45）…… 669

図版 102　縄文時代の土器（46）…… 670
図版 103　縄文時代の土器（47）…… 671
図版 104　縄文時代の土製品（1）…… 672
図版 105　縄文時代の土製品（2）…… 673
図版 106　縄文時代の土製品（3）…… 674
図版 107　縄文時代の土製品（4）…… 675
図版 108　縄文時代の土製品（5）…… 676
図版 109　縄文時代の土製品（6）…… 677
図版 110　縄文時代の土製品（7）…… 678
図版 111　縄文時代の石器・石製品（1）…… 679
図版 112　縄文時代の石器・石製品（2）…… 680
図版 113　縄文時代の石器・石製品（3）…… 681
図版 114　縄文時代の石器・石製品（4）…… 682
図版 115　縄文時代の石器・石製品（5）…… 683
図版 116　縄文時代の石器・石製品（6）…… 684
図版 117　縄文時代の石器・石製品（7）…… 685
図版 118　縄文時代の石器・石製品（8）…… 686
図版 119　縄文時代の石器・石製品（9）…… 687
図版 120　縄文時代の石器・石製品（10）…… 688
図版 121　縄文時代の石器・石製品（11）…… 689
図版 122　縄文時代の石器・石製品（12）…… 690
図版 123　縄文時代の石器・石製品（13）…… 691
図版 124　縄文時代の石器・石製品（14）…… 692
図版 125　縄文時代の石器・石製品（15）…… 693
図版 126　縄文時代の石器・石製品（16）…… 694
図版 127　縄文時代の石器・石製品（17）…… 695
図版 128　縄文時代の石器・石製品（18）…… 696
図版 129　縄文時代の石器・石製品（19）…… 697
図版 130　縄文時代の石器・石製品（20）・古代以降の石製品 …… 698

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

秋田県山本地域振興局建設部の実施した危険箇所調査により、オンデの沢流域上流部は山腹崩壊や多数の倒木がみられ、さらに下流部にわたって不安定土砂が堆積することから、豪雨発生時には土石流の危険が高いことが明らかとなった。周辺には災害時要配慮者利用施設、人家、県道及び市道があることから、これらを保全し、安心・安全な地域の創出を図ることを目的として砂防堰堤の建設、床固工の整備が事業化された。

事業予定地内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があるため、事業主体である秋田県山本地域振興局建設部から秋田県教育委員会に埋蔵文化財の分布状況についての調査依頼があった（山建－604）。秋田県教育委員会は、平成 28 年７月 20 日～ 21 日、９月 13 日～ 14 日に事業予定地内の試掘調査を実施した結果、周知の茱萸ノ木遺跡については、10,132 ㎡が事業用地に含まれることを確認した。

これを受け、秋田県埋蔵文化財センターは、平成 28 年 10 月 17 日～ 11 月２日に確認調査を実施し、事業用地 8,238 ㎡について、記録保存のための本発掘調査が必要という判断に至った。

その後、秋田県山本地域振興局建設部と秋田県教育委員会による協議を経て、秋田県埋蔵文化財センターが令和元年６月 17 日～ 11 月 21 日に 2,328 ㎡、令和２年６月１日～ 10 月 30 日に令和元年度と重複する部分を含めた 3,049 ㎡（重複部分は 256 ㎡）、令和３年６月１日～ 10 月 29 日に 3,117 ㎡を対象に発掘調査を行い、工事区域内全ての埋蔵文化財対応が終了した。

第２節　調査の経過

発掘調査は３か年にわたる。令和元年度は５月 16 日～６月７日までバックホーによる表土除去を行った後、同年６月 17 日～ 11 月 21 日まで調査員４名体制で調査を行った。令和２年度は、５月 13 日～ 22 日まで表土除去を行い、６月１日～７月 30 日まで調査員４名体制、８月３日～ 10 月 30 日まで調査員２名体制で調査を行った。令和３年度は、５月 10 日～ 21 日まで表土除去を行い、６月１日～ 10 月 29 日まで調査員２名体制で調査を行った。以下、年度毎に調査の経過をまとめて記す。

令和元年度

【第１週　６月 17 日（月）～６月 20 日（木）】ヤード周辺及び調査区の環境整備を行い、確認調査時のトレンチの掘り下げを開始。18 日、遺跡図化システムの講習を実施。【第２週　６月 24 日（月）～６月 28 日（金）】調査区西側から掘削を開始。基本土層の確認も行った。【第３週　７月１日（月）～７月５日（金）】調査区中央で配石遺構（SQ３・４）を検出、周辺においても礫を残しながら調査を進めた。【第４週　７月８日（月）～７月 12 日（金）】尾根裾部で配石遺構や土器埋設遺構（SR32）が検出され、石棒を含む多量の遺物が出土したことから、尾根裾部周辺が遺構・遺物集中域にあたると考え、精査を進めた。【第５週　７月 16 日（火）～７月 19 日（金）】調査区西側Ⅱ層の掘削完了。確認調査の 17 トレンチで検出された土坑墓は風倒木であることが判明した。【第６週　７月 22 日（月）～７月 25 日（木）】調査区東側の掘削を開始。東西に調査区外へ伸びる列石遺構（SQ43）を検出。【第７週　７月 29 日（月）～８月２日（金）】列石遺構（SQ45）を検出。列石間に遺構・遺物が少ないことから、列石が区画施設または一連の環状列石となる可能性を踏まえ、列石の外側に居住

域があると想定した。２日、藤里町教育委員会成田氏、藤里中学校の生徒３名が発掘体験に訪れる。【第８週　８月５日（月）～８月８日（木）】Ⅱ～Ⅲａ層で検出された列石遺構は直下からガラス片が出土したため近代以降のものと判断し、Ⅲａ層以下の列石・配石遺構は縄文時代の遺構であると判断した。列石遺構（SQ49）を検出、SQ43とSQ49が平行に並ぶため、関連するものと判断した。扁平な礫を用いた蝶ネクタイ形の配石遺構（SQ50）を検出。【第９週　８月19日（月）～８月22日（木）】方形に並ぶ礫の中心から土器埋設遺構と焼土が検出されたため、土器埋設遺構（SR９）とした。【第10週　８月26日（月）～８月30日（金）】尾根裾部の沢側では円筒上層ｃ式期の土器が集中して出土したため、当該期の捨て場が広がると想定し掘削を進めた。【第11週　９月２日（月）～９月６日（金）】調査区東側で竪穴建物跡（SI125）を検出。【第12週　９月９日（月）～９月14日（土）】現地見学会に向けて各遺構の精査を進め、動線確認等の準備を行った。14日の現地見学会では81名が来跡した。【第13週　９月17日（火）～９月20日（金）】尾根裾部沢側に設定したトレンチで地山と考えていた黄褐色土層より約50～60cm下に黒色の遺物包含層を確認し、尾根裾部で地山と判断していた黄褐色土層は地山ではないことが判明した。調査区東側では配石遺構の礫を取り外し、直下の遺構の有無を確認した。【第14週　９月24日（火）～９月26（木）】空撮に向けて調査区精査、土嚢・ブルーシートの片付け、清掃を行った。25日、空撮を実施。尾根裾部を南北に縦断するようにトレンチを設定し土層確認を行った結果、包含層は尾根裾部全体に広がっていることが判明し、堆積状況から盛土遺構（ST252）であると判断した。ST252は各層に遺物・遺構がみられ、生活面が複数存在することが明らかになった。その後、トレンチを拡張しST252の土量把握を行う間は、一時ST252の調査を止め、尾根裾部北側～調査区中央の遺構精査を進めた。【第15週　９月30日（月）～10月４日（金）】調査区東側の調査完了。調査区中央北側でも地山と判断していた黄褐色土層より下に黒色土が堆積していたため、調査区東壁に南北に縦断するトレンチを設定し、掘削を行った。黒色土は北側へ深さ２ｍ近く落ち込んでおり、堆積状況が尾根裾部のST252と酷似していたため、尾根裾部と同様の盛土遺構（ST247）と判断した。ST252の黄褐色土層から出土した土器がほぼ同時期であったため、両者は同時期、または同一の盛土遺構の可能性が考えられた。尾根裾部の北側ではこれまで検出された列石遺構と並ぶ新たな列石遺構（SQ266）を検出した。30日の現地協議では、尾根裾部の盛土遺構の調査期間延長について話し合われた。具体的な延長期間等は７日の現地協議で決定することとなった。【第16週　10月７日（月）～10月11日（金）】尾根裾部ではST252を大きくⅠ～Ⅳ層に分け、ST252の中央に南北ベルトを残し、ST252Ⅰ層から順に掘削を開始した。７日に２回目の現地協議が行われ、今年度は11月21日まで調査を延長し、未了部分は次年度の工事着手前までに調査を終えることとなった。【第17週　10月15日（火）～10月18日（金）】ST252では配石遺構（SQ393）、竪穴建物跡（SI390）を検出。同層中に複数遺構があることを確認し、居住域としての利用が想定された。【第18週　10月21日（月）、10月23日（水）、10月24日（木）】尾根裾部では土器埋設遺構（SR454）を検出した。尾根裾部頂部の平坦面では複数の竪穴状プランを確認。【第19週　10月28日（月）～11月１日（金）】竪穴建物跡（SI475）を検出。【第20週　11月５日（火）～11月８日（金）】東西ベルト断面の記録をとり、ベルトの除去を開始した。同時並行で54～57ラインの地山面の遺構精査を行った。LT48～49ではST252Ⅳ層の検出を行い、ST252Ⅳ層がLT48まで広がることを確認した。【第21週　11月11日（月）～11月15日（金）】ST252Ⅳ層で土器埋設遺構が多数検出され、墓域が広がる可能性が生じた。12日、三内丸山遺跡センター佐藤氏、高橋氏、舘山氏来跡。【第22週　11月18日（月）～11月21日（木）】ST252Ⅱ層で検出された竪穴建物跡（SI567）を完掘し、次年度へ向けて調査区の養生作業を行った。19日に引き渡し協議、21日にトラックに機材等を積み込み、現場作業を終了した。

令和２年度

【第１週　６月１日（月）～５日（金）】ヤード周辺及び調査区周辺の環境整備を行った後、先行引き渡しとなる昨年度からの継続調査であるST252と調査区南側を中心に掘削を開始。ST252は調査区やベルト壁面・検出面の清掃を行い、遺構精査を開始した。調査区南側では包含層の掘削を開始した。【第２週　６月８日（月）～12日（金）】ST252は盛土層を細分し、基本土層の再確認を行いながらST252Ⅱ層の掘削を進めた。調査区南側では埋没沢を確認。調査区西側ではローリングタワーを設置し、現況写真を撮影。【第３週　６月15日（月）～19日（金）】ST252南側斜面付近では遺構がほとんど検出されないため、スコップでの掘削に切り替えた。埋没沢周辺に礫が集中する地点を確認、集石遺構として調査を開始。調査区西側では中央トレンチを設定。【第４週　６月22日（月）～25日(木)】ST252は51ライン以北で地山面の精査、以南でST252Ⅳ層の掘削を開始した。調査区南側はⅤ層上の精査を開始。調査区西側はⅡ層の掘削を開始。【第５週　６月29日（月）～７月３日（金）】尾根裾部頂部付近では地山面で多数の焼土遺構を確認。尾根裾部頂部を削平後に盛土を行ったことが判明。調査区南側ではキャリアダンプ用通路の表土除去を行い、精査を開始。調査区西側はST252上に堆積する包含層及び沢堆積層を掘削。ST252は北西方向へと続き、中央付近は沢の流路によって大きく抉られていることが判明した。南側の平場にもトレンチを設定し掘削を開始。【第６週　７月６日（月）～10日（金）】ST252は盛土層の掘削が終了し、中央ベルトの掘削開始。調査区南側北斜面部は攪乱土と無遺物層が厚く堆積するため、トレンチを掘削し壁面の記録に留めた。調査区西側はST252上のⅡ層掘削終了。【第７週　７月13日（月）～17日（金）】空撮に向け清掃を行ったが、大型ドローンのトラブルにより空撮撮影日が14日から16日へ延期。空撮終了後は、精査終了部分から順に地形測量を行った。調査区南側は調査終了。調査区南西側平場では沢堆積層を重機で掘削。【第８週　７月20日（月）～22日（水）】ST252南側斜面裾部では沢堆積層を重機で掘削。昨年度のトレンチで確認した沢堆積層下の黒褐色土で出土した遺物は、斜面の落ち込みに混入したものと判断した。調査区南西側平場ではⅡ層を掘削し、遺構検出を開始。20日、パリノ・サーヴェイ株式会社によるサンプル採取。【第９週　７月27日（月）～30日（木）】地形測量を行い、先行引き渡し区域の調査を終了。調査区西側はST252Ⅱ層の掘削及び遺構精査を開始した。南側平場でもST252と同時期とみられる遺構を確認。【第10週　８月３日（月）～７日（金）】調査区西側のみの調査となる。ST252南側の沢堆積層からは木片や焼土を伴う性格不明遺構（SX3017）を検出。南側平場では遺構検出面より下にも旧表土が確認されるが、遺構・遺物がみられないため遺構面下の黄褐色砂層を地山と判断。【第11週　８月18日（火）～21日（金）】SX3017において、炭化物が集中する薄層を確認。19日、藤里公民館の発掘体験。【第12週　８月24日（月）～27日（木）】サブトレンチを掘削し、ST252Ⅳ層が最深部で70cm程度となることを確認。南側平場周辺の地形測量。【第13週　８月31日(月)～９月３日(木)】中央トレンチで確認した黄褐色土が地山であることを確認し、遺構精査に着手。【第14週　９月７日（月）～11日（金）】南側平場では地形形成過程を判断する目的でトレンチを設定。【第15週　９月14日（月）～18日（金）】ST252西側は急斜面地となっており、ST252崩落土も確認された。【第16週　９月23日(水)・24日(木)】ST252Ⅳ層の掘削開始。【第17週　９月28日（月）～10月２日（月）】中央ベルトの図面作成・写真撮影を行い、層序毎に掘削開始。１日、能代市立図書館の発掘体験。【第18週　10月５日（月）～９日（金）】ベルト以外のST252Ⅱ～Ⅳ層の掘削が終了し、地山面の遺構精査が主体となる。ST252Ⅲ層とST252Ⅳ層の境界でSX4182・4183を確認。６日、冨樫泰時氏が来跡し、指導を受ける。【第19週　10月12日（月）～16日（金）】空撮に向けた清掃を行い13日に空撮。その後、残っているベルトの掘削を開始した。12日、二ツ井中学校現場見学。【第20週　10月19日(月)

～ 22 日（木）】調査区壁面の断面図を作成。ST252 南側の平坦面は盛土形成前の沢堆積層により形成されたと判明。性格不明遺構（SX3076）から埋没木を検出。【第 21 週　10 月 26 日（月）～ 30 日（金）】調査区壁面の写真撮影・サンプル採取を行った。埋没木は調査区内の仮置きプールに仮置きした。30 日にトラックに機材や、仮置きしていた埋没木等を積み込み、現場作業を終了した。

令和３年度

【第１週　６月１日（火）～４日（金）】ヤード周辺及び調査区周辺の環境整備を行った後、調査前写真を撮影。調査区北側の沢部からトレンチを設定し、調査着手。３日、遺跡図化システムの研修を実施。【第２週　６月７日（月）～ 11 日（金）】沢部は包含層の掘削と遺構精査。古代の可能性がある焼土遺構を検出。丘陵部にも調査着手、複数の竪穴建物跡の存在を確認。11 日、昨年度遺跡内に仮置きした SX3076 埋没木を引き上げ、県立大の栗本康司氏・工藤佳世氏による指導を受ける。【第３週　６月 14 日（月）～ 18 日（金）】沢部では沢堆積層の掘削、丘陵部では包含層の掘削・SI4011 竪穴建物跡の遺構精査を進めた。【第４週　６月 21 日（月）～６月 24 日（木）】引き続き包含層の掘削、遺構の精査。沢部では炭焼遺構（SW4022）から炭化樹皮とみられる炭化物が出土した。【第５週　６月 28 日（月）～７月２日（金）】沢部では重機を用いてトレンチを掘削し、沢の流路や深さの把握に努めた。丘陵部では竪穴建物跡（SI4049）を検出、切り合う土坑（SK4050）からは中期中葉の土器が出土した。【第６週　７月５日（月）～７月９日（金）】沢部、丘陵部を中心に遺構精査を行った。遺構精査が終了した区域から等高線測量を開始した。【第７週　７月 12 日（月）～７月 16 日（金）】丘陵部検出の SI4049 床面からは土坑や柱穴様ピット、焼土が確認された。【第８週　７月 19 日(月)～７月 21 日(水)】丘陵部南側の調査に着手。SI4049 床面中央では土器埋設遺構を確認。20 日、沢部の先行引き渡し協議。【第９週　７月 26 日(月)～７月 29 日(木)】沢部の完掘写真撮影。空中写真撮影に向けた清掃を開始。27 日、空中写真撮影。【第 10 週　８月２日（月）～８月６日（金）】丘陵部の包含層の掘削・遺構精査。竪穴建物跡周辺で土坑(SK4100・SK4105)を検出。西側の斜面地中腹では包含層中から土器が出土。【第 11 週　８月 17 日（火）～８月 20 日（金）】西側斜面地では黒色土の包含層中から焼土遺構が検出されるが、表土直下のものは近代以降のものと判断した。地山面で検出される柱穴様ピットも黒色土由来の埋土であることから近代以降のものと考えられる。【第 12 週　８月 23 日(月)～８月 26 日（木）】SK4105 はフラスコ状となることが判明、SKF4105 に変更。【第 13 週　８月 30 日(月)～９月３日（金）】SK4100 底面から多量の炭化物や焼土を確認したため、土坑ではなく炭焼遺構であると判断した。【第 14 週　９月６日（月）～９月９日（木）】崩落の危険があるため、SKF4105 は箱堀りして掘削を継続。重機を用いて一部残存していた表土を除去。【第 15 週　９月 13 日（月）～９月 17 日（金）】西側斜面地で古代以降とみられる掘立柱建物跡（SB4147）を検出。【第 16 週　９月 21 日（火）～９月 22 日（水）】引き続き遺構精査を進めるとともに、雨天時には遺物の洗浄も行った。【第 17 週　９月 27 日（月）～ 10 月１日（金）】丘陵部西側斜面地中腹で黒色土の円形プランを複数検出、埋土中には木片が残存していることを確認。【第 18 週　10 月４日（月）～ 10 月８日（金）】木片が残存する柱穴様ピット（SKP4127・4130・4170）の断面写真撮影。木片は樹皮が残っており、原木のままとみられる。【第 19 週　10 月 11 日（月）～ 10 月 15 日（金）】SKP4127・4130・4170 の木材を取り上げ、木材の写真撮影・測量。遺構は人為的に構築されたのではなく、周辺の自然崩落に伴い埋没木が形成された可能性があることが判明し、SX4127・4130・4170 に変更。【第 20 週　10 月 18 日（月）～ 10 月 22 日（金）】埋没木からサンプルを採取し、埋没過程を探るため、調査区壁際にトレンチを設定。【第 21 週　10 月 25 日（月）～ 10 月 29 日（金）】トレンチ壁面の基本土層図の作成。26 日、現地引き渡し協議。

29 日にトラックに機材等を積み込み、現場作業を終了した。

第３節　整理作業の経過

整理作業は、令和元年度発掘調査中の令和元年 10 月から令和６年３月にかけて秋田県埋蔵文化財センターで実施した。作業経過は以下の通りである。

遺物の洗浄について、令和元年 10 月から令和３年 10 月まで行った。また一部の洗浄を株式会社イビソクに委託した。遺物の注記は令和２年 11 月から継続的に行った。また整理作業時の検討の結果、遺物の注記後に出土層位が変更されたものもあるが、時間的な制約上、全ての注記の修正はできていない。そうしたものは遺物を封入したユニパックに修正後の注記を記入した。だが、それすらもできなかったものもあるため、出土層位の変更の過程を示した記録資料を秋田県埋蔵文化財センターで保管している。

土器の接合は令和元年 12 月から開始し、令和４年９月で終了していたが、令和５年４月、未接合・未報告予定としていた資料の中に、報告すべき資料が多数あることが判明したため接合を再開。令和５年 11 月までで可能な限りの接合を行った。土器の実測作業は令和３年１月から開始し、令和４年１月で終了していたが、その後接合資料が追加されたため、令和５年８月から令和５年 11 月まで追加資料の実測作業を行った。土器の計量作業は令和５年 10 月から同年 11 月まで行った。また令和３年５月から令和５年３月にかけて、一部の土器・土製品の実測作業を株式会社一測設計、株式会社イビソク、株式会社ラングに委託した。土器・土製品のトレース作業は令和４年５月から令和５年 11 月まで行った。

石器・石製品の実測作業は令和３年 12 月から令和５年３月まで行った。また一部の石器・石製品の実測作業を株式会社ラングに委託した。石器・石製品の計量作業は令和５年４月から同年６月まで行った。石器・石製品のトレース作業は令和５年２月から同年８月まで行った。

遺構の第二原図作成、原稿作成は令和元年 11 月から令和４年３月まで各調査担当者が継続的に行った。遺構のトレース作業は令和２年 11 月から令和３年３月まで行った。

報告書作成作業は令和４年９月から令和６年３月まで行った。

遺物の梱包や収納作業、記録類の整理作業は、令和６年１月から同年３月まで行なった。

参考文献
秋田県教育委員会 2017『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第 507 集

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

茱萸ノ木遺跡が所在する能代市は、秋田県北西部に位置する（第１図）。市域は北は八峰町・藤里町、東は北秋田市・上小阿仁村、南は三種町に接し、西は日本海に面している。能代市は、平成18年に能代市と二ツ井町の１市１町が合併し、面積426.950㎢となった。山林・原野が26.4％、農用地が20.2％を占める。遺跡が所在する旧二ツ井町は、北に白神山地、南に七座山地の山地帯が広がり、米代川やその支流である藤琴川、阿仁川、種海川、内川沿いに河岸段丘が形成される。能代市より大館市方面へ向かう国道７号線のほか、日本海沿岸東北自動車道が東西に走るなど、古くから河川・陸上交通の要衝となっている。

遺跡は、JR奥羽本線二ツ井駅から北東へ約3.7km、米代川とその支流である藤琴川の合流地点から北へ約3.8kmの北緯40度14分36秒、東経140度14分42秒に位置する。遺跡周辺の地形は山地、丘陵地、低地から構成され、北に茂谷山山地（Ⅰａ）・奥小比内山地（Ⅰｂ）・大倉山山地（Ⅰｅ）・小滝山山地（Ⅰｆ）・滝ノ沢山地（Ⅰｇ）・素波里山地（Ⅰｈ）、東に大倉山山地・粕毛丘陵地（Ⅱａ）・藤琴台地（Ⅲａ）藤琴川低地（Ⅳｂ）、南に米代川低地（Ⅳａ）、西に常盤種梅丘陵地（Ⅱｃ）が形成されている[註1]。遺跡は常盤種梅丘陵地に立地、周囲では大規模な地すべり地形が確認されている[註2]。

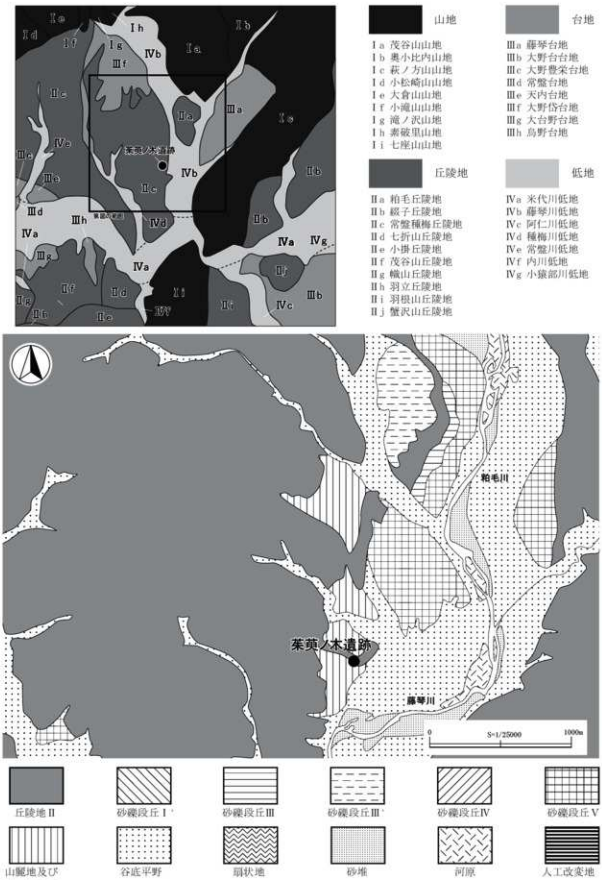
遺跡周辺の表層地質は、山地に酸性凝灰岩である上部七座凝灰岩、新第三紀中位の船川層、天徳寺層、丘陵地に新第三紀下位の笹岡層、低地に沖積低地堆積物が分布する。船川層は黒色塊状泥岩およびシルト岩を主として構成され、天徳寺層は主としてシルト岩からなる。笹岡層は礫岩、砂岩、シルト岩、細粒～中粒砂岩から構成され、上部になるにつれ、細粒から中粒砂岩となる。遺跡周辺の藤琴川低地堆積物は、これら周辺の表層地層に由来すると思われる。

第１図　遺跡位置図

註

1　秋田県1983『土地分類基本調査　能代』、
　　秋田県1985『土地分類基本調査　鷹巣』

2　国立防災科学技術センター1985
　　『地すべり地形分布図　第３集』


山地
Ⅰa 茂谷山山地
Ⅰb 奥小比内山地
Ⅰc 萩ノ方山山地
Ⅰd 小松崎山山地
Ⅰe 大倉山山地
Ⅰf 小滝山山地
Ⅰg 滝ノ沢山地
Ⅰh 素破里山地
Ⅰi 七座山山地
台地
Ⅲa 藤琴台地
Ⅲb 大野台台地
Ⅲc 大野豊栄台地
Ⅲd 常盤台地
Ⅲe 天内台地
Ⅲf 大野岱台地
Ⅲg 大台野台地
Ⅲh 烏野台地
丘陵地
Ⅱa 粕毛丘陵地
Ⅱb 綴子丘陵地
Ⅱc 常盤稲梅丘陵地
Ⅱd 七折山丘陵地
Ⅱe 小豚丘陵地
Ⅱf 茂谷山丘陵地
Ⅱg 幟山丘陵地
Ⅱh 羽立丘陵地
Ⅱi 羽根山丘陵地
Ⅱj 蟹沢山丘陵地
低地
Ⅳa 米代川低地
Ⅳb 藤琴川低地
Ⅳc 阿仁川低地
Ⅳd 梅梅川低地
Ⅳe 常盤川低地
Ⅳf 内川低地
Ⅳg 小猿部川低地
粕毛川
藤琴川
S=1/25000
1000m
丘陵地Ⅱ
砂礫段丘Ⅰ'
砂礫段丘Ⅲ
砂礫段丘Ⅲ'
砂礫段丘Ⅳ
砂礫段丘Ⅴ
山麓地及び他の緩斜面
谷底平野
扇状地
砂堆
河原
人工改変地

第２図　地形区分図

第２節　歴史的環境

茱萸ノ木遺跡は能代市二ツ井町に位置する。遺跡の所在する旧二ツ井町周辺には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が多数所在し、その大半が米代川とその支流によって形成された河岸段丘上に位置している。『秋田県遺跡地図（山本地区版）』に基づいて作成した同遺跡を中心とする米代川下流域および藤琴川合流地点の周辺遺跡位置図（第３図）には64か所の遺跡を数えることができる。以下、茱萸ノ木遺跡の周辺遺跡について、旧石器時代から近世までを概観する。なお、文中の番号は第１表と対応する。

旧石器時代の遺跡は上ノ野遺跡（43）、竜毛沢Ⅱ遺跡（59）がある。上ノ野遺跡は、米代川支流である阿仁川左岸の砂礫段丘面に位置し、旧石器時代の黒曜石製・頁岩製のナイフ形石器や掻器、錐器、二次加工のある剥片や石核が出土した。これらは丘陵頂部にあったと考えられる石器製作跡が調査区中央の沢筋に沿って崩壊し、二次堆積したものである。竜毛沢Ⅱ遺跡は米代川左岸段丘の縁辺部に位置し、頁岩製のナイフ形石器と剥片が後世の盛土中から出土した。芹川館跡は米代川左岸の河岸段丘である大台野台地上に位置しており、ナイフ形石器を含む三つのブロックが確認された。出土した石器・剥片はいずれも頁岩製である。この他には、荷上場の故吉田礼三氏が所持する石器の中から冨樫泰時氏が二ツ井町出土とされるナイフ形石器を発見したが、具体的な出土地は不明である（豊島1967、武田1995、工藤・高橋1998）。

縄文時代は数多くの遺跡が確認されているが、この地域において草創期の遺跡は確認されていない。縄文時代早期の遺跡は烏野上岱遺跡（60）、寒川Ⅰ遺跡など能代・二ツ井・藤里地域で８遺跡が確認されている。駒形に所在する烏野上岱遺跡は、平成16年度と令和元・２年度に発掘調査が行われた。早期の押型文土器のほか、内面条痕・内外面縄文を施文した土器片が出土しているが、同時期の集落跡は確認されていない。

縄文時代前期の遺跡は泥ノ木遺跡（26）、竜毛沢Ⅱ遺跡（59）、竜毛沢Ⅲ遺跡（58）、烏野上岱遺跡などが確認されている。竜毛沢Ⅱ遺跡から円筒下層ａ式、烏野上岱遺跡から前期初頭の土器が出土しており、竜毛沢Ⅲ遺跡では円筒下層ｂ式の土器片が遺構外から出土した。梅内川左岸に位置する泥ノ木遺跡では、正確な所属時期は不明だが、遺構外から前期前葉・中期前葉～中葉までの遺物が出土した。また、昭和56年に国指定史跡となった能代市磐字杉沢台に所在する杉沢台遺跡は、縄文時代前期の集落跡である。遺構の重複関係から集落の変遷を知ることができ、大型住居が出現する過程を窺うことができる。

縄文時代中期の遺跡は矢坂神社遺跡（15）、烏野遺跡（61）、烏野上岱遺跡、上ノ野遺跡などが確認されている。藤里町矢坂に所在する矢坂神社遺跡では、縄文時代中期の土器片と石鏃が確認されている。駒形に所在する烏野遺跡は、１～７次にわたって調査が行われ、中期後葉～後期初頭にかけての集落跡が確認された。南北２か所の盛土遺構のそれぞれに竪穴建物跡集中区域が形成されており、当時の中核的な集落であったと考えられる。多量の黒曜石が出土しており、産地分析により男鹿産、深浦産、岩木山系産があることが判明した（吉川ほか2011）。また、遺跡近郊の不動沢には天然アスファルトの滲出地があり、烏野上岱遺跡では中期後葉の建物跡からアスファルトが充填されたままの土器が複数出土している。茱萸ノ木遺跡では、昭和52年に分布調査、平成７年に発掘調査が行われている。昭和52年の分布調査は地元の有志により行われ、縄文土器や石器が採集されたものの、遺跡範囲の確定には至らなかった。平成７年には二ツ井町教育委員会により、基幹送電線建設に伴う発掘調査が行われた。調査区は今回の調査区から約380ｍ南の遺跡南縁部にあたる傾斜地で、調査の結果、

縄文時代後期と考えられる竪穴建物跡１棟や平安時代の竪穴建物跡４棟、焼土遺構１基が検出された。

縄文時代後期の遺跡は上ノ野遺跡、竜毛沢Ⅱ遺跡、竜毛沢Ⅲ遺跡、烏野遺跡などで確認されている。竜毛沢Ⅲ遺跡は平成７年に鉄塔建設に伴う発掘調査が行われ、竪穴建物跡や焼土遺構、土坑が確認された。竪穴建物跡から出土した土器片は後期前葉と考えられる。烏野上岱遺跡からは後期初頭～中葉の土器片が出土した。

縄文時代晩期の遺跡は候后阪遺跡（21）や麻生遺跡（45）などが確認されている。麻生遺跡は国指定重要文化財である「土面」が出土した遺跡で、明治22年に蓑虫山人により調査が行われ、その様子が絵図に残されている。古くから多くの遺物が掘り出され、勾玉や丸玉などの玉類も出土している。

弥生時代から奈良時代の遺跡は少ない。烏野上岱遺跡からは、弥生時代の土坑と土器片、アメリカ式石鏃が出土している。古墳時代の遺構を伴う遺跡は確認されておらず、候后阪遺跡から畿内地方のものと推定される須恵器杯蓋１点が出土しているのみである。

平安時代の遺跡は加代神館跡（36）、チャクシ遺跡（40）、大川口館跡（41）、竜毛沢Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ遺跡、烏野遺跡、仙子森遺跡（62）、新大林Ⅰ遺跡（63）など多くの遺跡で集落が確認された。種地区に所在する加代神館跡は平成７年に鉄塔建設に伴う調査が行われ、平安時代の竪穴建物跡、焼土遺構、空堀などが確認され、土師器や須恵器、鉄滓、鞴羽口が出土した。同地区に所在するチャクシ館跡では焼失建物跡や焼土遺構が確認され、鉄製品関連遺物が比較的多く出土したことから、工房などの役割を持つ集落と考えられる。竜毛沢Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ遺跡では製鉄炉や炭窯跡も見つかっており、鉄生産を行っていたことが明らかとなった。

中世の遺跡は、米代川とその支流の両岸で館跡が多数確認されている。竜毛沢Ⅱ遺跡（竜毛沢館跡）は、三つの郭を持ち、空堀や板塀で囲まれた内部に多数の施設を配した屋敷跡または役所跡と考えられている。エヒバチ長根窯跡は、須恵器系中世陶器を焼成した窯跡で、現在のところ、日本最北に位置する中世陶器窯である。この他、山岳仏教が盛んであった高岩山の中腹にある五輪台経塚（17）からは、県指定有形文化財の須恵器系陶器甕と四耳壺が出土している。

近世には、藤琴川左岸の段丘に加護山精錬所跡（19）が設置された。安永２（1773）年から明治28（1895）年まで鉛を使って鉄から銀を取り出す「南蛮吹き法」による銀精製が行われ、佐竹藩財政を支えた。

参考文献

工藤直子・高橋学1998「米代川流域の旧石器時代資料―能代・山本地方を中心として―」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第13号　秋田県埋蔵文化財センター

武田孝義1995「第一節　旧石器時代」『能代市史』能代市史編さん委員会

豊島　昭1967「第二章　先土器時代」『秋田県の考古学』吉川弘文館

野添憲治1984『図説　能代の歴史　上巻』無明舎出版

二ツ井町教育委員会1978『二ツ井町の文化財①』

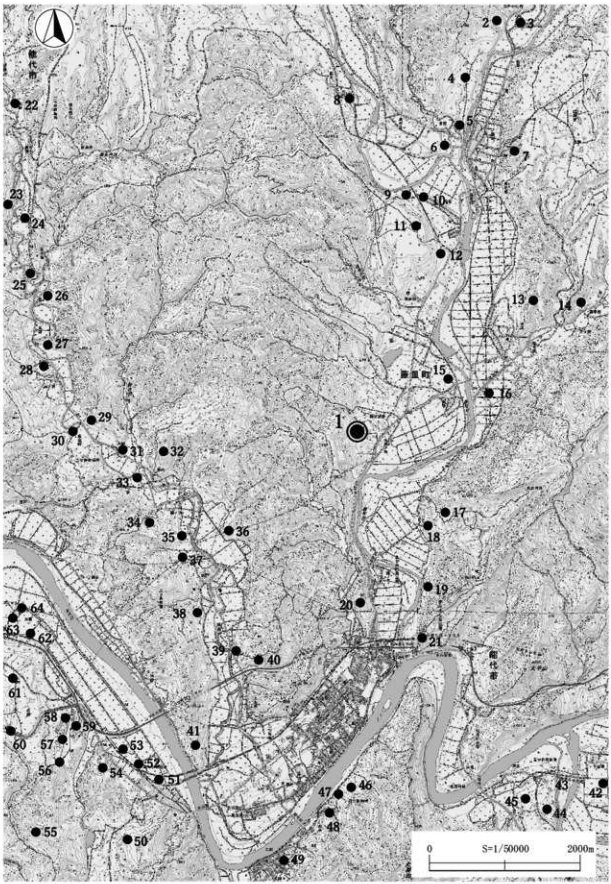
吉川耕太郎・金成太郎・杉原重夫2011「秋田県内出土黒曜石製遺物の原産地推定－新処Ⅰ遺跡・柏木岱Ⅱ遺跡・烏野遺跡－」『秋田県立博物館研究報告』第36号　秋田県立博物館

第１表文献（表中の番号は文献番号に対応する）

1　秋田県教育委員会1990『竜毛沢館跡発掘調査報告書－一般国道７号二ツ井バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査』秋田県文化財調査報告書第188集

2　秋田県教育委員会2002『秋田県遺跡地図（山本地区版）』

3　秋田県教育委員会2006『烏野上岱遺跡－一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ』秋田県文化財調査報告書第406集
4　秋田県教育委員会2023『烏野上岱遺跡（第２次）　竜毛沢Ⅳ遺跡　竜毛沢Ⅴ遺跡－一般国道７号能代線形改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第528集
5　秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室ホームページ『秋田県遺跡地図情報』
6　秋田県文化財保護協会1983『秋田県の中世城館』
7　株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ　能代市教育委員会2009『泥ノ木遺跡』
8　能代市史編さん委員会1995年『能代市史　資料編　考古』
9　二ツ井町教育委員会1985『二ツ井町の文化財　No. 5』
10　二ツ井町教育委員会1992『烏野遺跡第２・３次発掘調査概報』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第２集
11　二ツ井町教育委員会1993『烏野遺跡第４次発掘調査概報』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第３集
12　二ツ井町教育委員会1994『烏野遺跡第５次発掘調査概報』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第５集
13　二ツ井町教育委員会1995『烏野遺跡第６次発掘調査概報』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第６集
14　二ツ井町教育委員会1996『北奥幹線新設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－茱萸ノ木遺跡・加代神館跡・竜毛沢Ⅲ遺跡・竜毛沢Ⅳ遺跡・竜毛沢Ⅴ遺跡－』
15　二ツ井町教育委員会1998a『烏野遺跡第７次発掘調査概報』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第７集
16　二ツ井町教育委員会1998b『上ノ野遺跡発掘調査報告書』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第８集
17　二ツ井町教育委員会2001『チャクシ館跡発掘調査報告書』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第９集
18　二ツ井町教育委員会2002『町内遺跡詳細分布調査報告書』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第10集
19　二ツ井町教育委員会2003『仙子森遺跡・新大林Ⅰ遺跡・新富根Ⅰ遺跡』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第11集
20　二ツ井町史編さん委員会1977『二ツ井町史』



第３図　茱萸ノ木遺跡周辺の遺跡位置図

第１表　茱萸ノ木遺跡周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡地図番号	主な時代	種別	主な遺構・遺物	天紙番号
1	茱萸ノ木	202-19-3	縄文時代	集落跡、遺物包含地	竪穴建物跡、縄文土器（前期～後期）、石器、土師器、須恵器	2・5・18・18・20
2	大屋布Ⅲ	346-22-7	縄文時代	遺物包含地	縄文土器片、石器、	2・5
3	小北内脇	346-22-4	中世	館跡	空堀、段塁、須恵器、鉄津	2・5・6
4	大屋布Ⅱ	346-22-6	縄文時代	遺物包含地		2・5
5	大屋布Ⅰ	346-22-5	縄文時代	遺物包含地		2・5
6	草刈野	346-22-8	縄文時代、平安時代	遺物包含地	縄文土器片、石器、土師器片、須恵器	2・5
7	殿内西脇	346-22-9	平安時代、中世	館跡	空堀２小所、土師器片	2・5・6
8	真土上西	346-22-22	縄文時代	遺物包含地	土器片	2・5
9	上栗の坂	346-22-20	縄文時代	遺物包含地	石器片	2・5
10	春日野	346-22-23	縄文時代	遺物包含地		2・5
11	上野	346-22-19	縄文時代	遺物包含地	土器片	2・5・8
12	下々西	346-22-18	縄文時代	遺物包含地	石器片	2・5
13	荒川脇	346-22-16	平安時代、中世	館跡	空堀、土師器、須恵器	2・5・6
14	茶平西脇	346-22-17	中世	館跡	段状構築	2・5・6
15	矢張神社	346-22-11	縄文時代	遺物包含地	縄文土器片（中期）、石器	2・5
16	雅洞	346-22-23	中世	製布地	陶器	5
17	五輪台	202-19-1	平安時代、中世	墓塚	経塚、須恵器	2・5・18
18	市原	202-19-24	平安時代、中世	館跡、遺物包含地	空堀、段状構築、土師器、須恵器	2・5・6・18・20
19	加護山精錬所	202-19-34	近世	精錬所跡	陶磁器、鉄製品、鉄津	2・5
20	梨平	202-19-17	縄文時代、中世	館跡、遺物包含地	空堀、段状構築、縄文土器、石器、古銭	2・5・6・18
21	横田脇	202-19-2	縄文時代、古墳時代、平安時代	遺物包含地	縄文土器片（晩期）、須恵器、高坏、土師器、書（古墳）	2・5・18・20
22	大畑	202-19-28	平安時代	遺物包含地	土師器、石器剥片	2・5・18
23	亀田	202-19-27	縄文時代	遺物包含地	石器剥片	2・5・18
24	岩脇	202-19-26	平安時代	遺物包含地	土師器	2・5・18
25	栗畑洞	202-19-75	平安時代	遺物包含地	土師器、石器剥片	2・5・18
26	肥ノ本	202-19-88	縄文時代	製布地	縄文土器、石器	2・5・7・18
27	梨田	202-19-74	縄文時代	遺物包含地	石器剥片	2・5・18
28	田ノ沢	202-19-73	縄文時代	遺物包含地	縄文土器（中期）、石器、石器剥片	2・5
29	千勝下	202-19-12		遺物包含地	須恵器	2・5・18・20
30	都洞田	202-19-11	縄文時代	遺物包含地	縄文土器（中期）、石器	2・5・18・20
31	岩脇	202-19-72	縄文時代、平安時代	遺物包含地	縄文土器（中期）、土師器、須恵器ほか	2・5・18
32	御前坂	202-19-30	中世	館跡	空堀、段状構築	2・5・6・18
33	梅田沢	202-19-10	縄文時代	遺物包含地	縄文土器、石器	2・5・18・20
34	土蜘ノ口	202-19-36	縄文時代、平安時代、中世	館跡、遺物包含地	空堀、段状遺構、土師器、須恵器、縄文土器、石器	2・5・6・18
35	下蜘ノ口	202-19-71	中世	館跡	空堀	2・5・18
36	加代神	202-19-26	平安時代、中世	館跡	空堀、段状構築、竪穴建物跡、土師、施土遺構、土師器、須恵器、中世陶器、鉄製品、鉄津、輪羽口、硫石ほか	2・5・6・14・18
37	鶴山沢	202-19-70	縄文時代	遺物包含地	石槍	2・5
38	小前	202-19-15		館跡、遺物包含地	空堀、段状構築、土師器、須恵器	2・5・6・18・20
39	新ノ田	202-19-69	平安時代	遺物包含地	土師器	2・5・6・18
40	チャクシ	202-19-22	縄文時代、平安時代、中世	館跡、狩猟場、遺物包含地	空堀、土塁、溝跡、竪穴建物跡、土師、施土遺構、鉄製品、土師器、須恵器、縄文土器	2・5・6・17・18
41	大川口	202-19-21	縄文時代	館跡、遺物包含地	空堀、段状遺構、竪穴状遺構、溝跡、土師器、須恵器、縄文土器	2・5・6
42	下田平	202-19-9	縄文時代、平安時代	遺物包含地	縄文土器片（晩期）、石斧、石鏃、石刷	2・5・18・20
43	上ノ野	202-19-33	旧石器時代、縄文時代、弥生時代	狩猟場、遺物包含地	陥し穴、旧石器、縄文土器（中期～晩期）、石器、弥生土器（後期）	2・5・16・18
44	古脇	202-19-23	縄文時代、平安時代	館跡、遺物包含地	縄文土器（中期）、土師器、須恵器、鉄津	2・5・6・8・18
45	麻生	202-19-8	縄文時代、平安時代	遺物包含地	縄文土器（晩期）、石器、土偶、土師器ほか	2・5・18・20
46	坊中Ⅰ	202-19-81		遺物包含地	石器、石器剥片	2・5
47	坊中Ⅱ	202-19-82		遺物包含地	石器剥片	2・5
48	中台	202-19-83	縄文時代	遺物包含地	石鏃	2・5
49	相坂台	202-19-6	縄文時代	遺物包含地	縄文土器片、石鏃、磨製石斧	2・5
50	大倉	202-19-5	平安時代	遺物包含地	須恵器蓋	2・5・20
51	冢ノ下Ⅱ	202-19-60	平安時代	遺物包含地	土師器、須恵器	2・5・18
52	冢ノ下Ⅰ	202-19-59	縄文時代、平安時代	遺物包含地	縄文土器、土師器	2・5・18
53	鶴櫻	202-19-58	平安時代	遺物包含地	土師器	2・5
54	竜毛沢Ⅰ	202-19-13	中世	館跡、遺物包含地	空堀、段状遺構、土師器、須恵器、須恵器系中世陶器	1・2・5・6・18・20
55	木戸ヶ沢	202-19-57	中世	館跡	空堀、段状遺構	2・5
56	竜毛沢Ⅴ	202-19-37	縄文時代、平安時代	集落跡	竪穴建物跡、屈立柱建物跡、土坑、炭窯跡、鍛冶炉跡、施土遺構、溝跡、縄文土器、敲石、土師器、須恵器、刀子、鉸具、土錘	1・2・4・5・14・18
57	竜毛沢Ⅳ	202-19-36	平安時代	館跡	竪穴建物跡、土坑、炭窯跡、溝跡、施土遺構、土師器	1・2・4・5・6・14・18
58	竜毛沢Ⅲ	202-19-35	縄文時代	集落跡	竪穴状遺構、土坑、施土遺構、石器、縄文土器（後期）	1・2・5・14・18
59	竜毛沢Ⅱ	202-19-14	旧石器時代、縄文時代、平安時代、中世	集落跡、遺物包含地	屈立柱建物跡、竪穴建物跡、施土遺構、鍛冶炉、土坑、陥し穴、配石遺構、空堀、柵列、土塁、須恵器系中世陶器、青磁、石鏃、炭化材、炭化米、縄文土器、石器、土偶、旧石器	1・2・5・6・18・20
60	鳥野上西	202-19-89	縄文時代、弥生時代、平安時代	集落跡	竪穴建物跡、屈立柱建物跡、施土遺構、石器剥離遺構、土器埋設遺構、土坑、フラスコ状土坑、陥し穴、遺物集中地点、溝跡、柵列、硬化面、連鎖状遺構、柱穴様ピット、炭窯、縄文土器、石器、石製品、絡繭文土器、土師器、須恵器、硫石ほか	2・3・4・5
61	鳥野	202-19-4	縄文時代、平安時代	集落跡、遺物包含地	竪穴建物跡、建物跡、土坑、配石遺構、盛土遺構、施土遺構、溝跡、縄文土器（前期～晩期）、石器、土偶、土師器、須恵器、鉄製品ほか	2・　5・10・11・12・13・15・18・20
62	仙子森	202-19-43	平安時代	集落跡	竪穴状遺構、施土遺構、土坑、柱穴、土師器、須恵器、鉄津	2・5・18・19
63	新大林Ⅰ	202-19-31	平安時代、中世	集落跡、遺物包含地	竪穴状遺構、溝跡、鉄製品、施土遺構、土坑、土師器、須恵器、須恵器系中世陶器、鉄津、輪羽口、古銭ほか	2・5・18・19
64	新大林Ⅱ	202-19-44	平安時代	遺物包含地	須恵器	2・5・18

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

１　発掘調査

仮設施設の設営や発掘作業員による掘削業務及びその管理等については掘削作業管理業務とし、一括して外部委託した。また、方眼杭打設業務も専門技術者に委託した。

作業用のグリッド設定は、調査区付近で世界測地系平面直角座標第Ｘ系に整合する任意の点、X=27220.000、Y=50140.000 を原点の MA50 とし、この点を通る座標北方向のラインを MA ライン、これに直交する東西ラインを 50 ラインとする基準線を定めた。これらのラインの交点に杭を打設して４ｍ×４ｍのグリッドとした。グリッドの表記は、東西方向にはＡ～Ｔまでの 20 文字を組み合わせた西に向かって昇順する２文字のアルファベットを付し、南北方向には北に向かって昇順する２桁の数字を付した。各グリッドは、南東隅を通過する線の記号を組み合わせ、「MA50」のように呼称した。

事前の確認調査によって確認された表土及び畑造成時の盛土（第Ⅰ層）をバックホーで掘削し、調査区外へ搬出した後、スコップや移植ゴテなどを使用して基盤層（第Ⅴ層）上面まで人力で掘削を進めた。また、調査区は便宜的にＡ～Ｈ区の８区に分け、調査を進めた。

遺構番号は、平成 31 年（令和元年）度分は 001 番から番号を附した。令和２年度は継続調査区域は元年度の続き、Ｄ区は 2000 番から、Ｅ区は 3000 番から番号を附した。令和３年度は 4000 番から番号を附した。そして遺構種別を表す略記号と組み合わせて呼称した。

調査は基本的に検出状況、土層断面、遺物出土状況、完掘状況等の写真撮影と実測・図化を併行して行い、特徴等を遺構調査カードに記入した。遺物は、遺構名やグリッド名、出土層位、出土年月日を記録して取り上げた。

図面は、主にトータルステーションを用いた遺跡測量システムにより作図したが、土層断面、細密な遺物出土状況等はマイラーベースに手作業で実測した。

写真は、記録保存用には約 3,630 万画素のフルサイズ一眼レフレックスデジタルカメラを使用し、RAW 形式と JPEG 形式の同時撮影を行った。作業過程等のメモ写真には約 1,200 万画素のコンパクトデジタルカメラを使用し、JPEG 形式で撮影した。

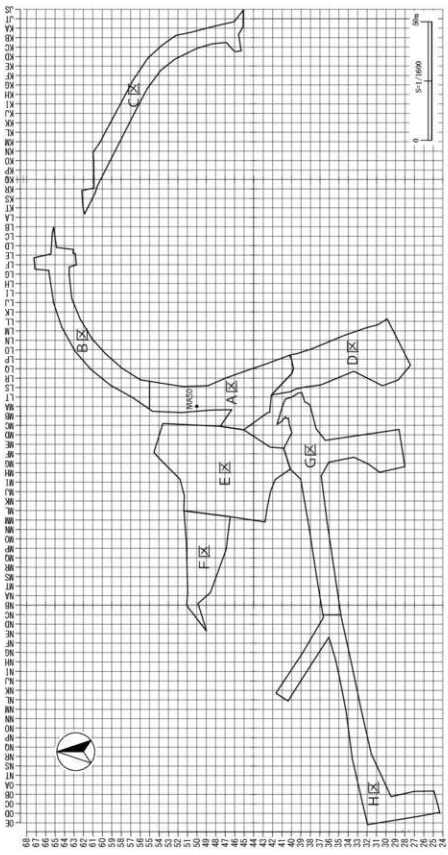
地形の等高線図は、トータルステーションを用いた遺跡測量システムを利用し、平均２ｍ間隔で計測したデータを基に作図したほか、一部２ｍ方眼で標高計測を行い作成した。

遺跡の立地や周辺の地形を上空から記録するため、マルチコプターを使用した空中写真撮影を委託によって実施した。

調査で回収した炭化物や土壌等のサンプルについては、遺構の形成年代や遺構の性格解明のため、理化学分析の専門機関に委託し、分析を行った。

２　整理作業

遺構の図面は、発掘調査で作成した図をスキャン、もしくはデータ変換によりデジタルデータ化した上で平面図と断面図を組み合わせ、ドローイングソフトによってトレースを行った。遺構の記述は、遺構調査カードを基に行った。



R元年度調査区…A区・B区・C区
R２年度調査区…A区・D区・E区
R３年度調査区…F区・G区・H区

第４図　グリッド配置および調査区割図

第２節　遺物の分類

出土品の整理にあたっては、次のような基準で分類を行った。

１　土器の分類

Ⅰ群　縄文時代早・前期の土器

１類　早期の土器

２類　前期の土器

Ⅱ群　縄文時代中期の土器

複数系統の土器が出土しているため、系統別にＡ類を円筒上層式から後続する大木式の影響を受けた土器、Ｂ類を大木式土器、Ｃ類を北陸系の土器として区分し、Ａ類とＢ類については、時期順に算用数字を併記して細分した。

Ａ１類　円筒上層ａ１式に相当する土器で、口縁部文様帯を縦位隆帯や円形貼付等で区画し、横走する原体押圧を施すもの。

Ａ２類　円筒上層ａ２式に相当する土器で、口縁部文様帯を縦位隆帯等で区画し、間隔を空けた横走する原体押圧の間に鋸歯状や波状の原体押圧を施すもの。

Ａ３類　円筒上層ｂ式に相当する土器で、口縁部文様帯を縦位や弧状の隆帯で区画し、横位に展開する馬蹄形状の原体押圧を施すもの。

Ａ４類　円筒上層ｃ式に相当する土器で、口縁部文様帯または胴上部文様帯を縦位・斜位・横位弧状の隆帯で複雑に区画し、区画内に刺突文を施すもの。

Ａ５類　円筒上層ｄ式に相当する土器で、口縁部文様帯または胴上部文様帯に縦位・斜位・横位弧状の隆線文を施すもの。

Ａ６類　円筒上層ｅ式に相当する土器で、口縁部文様帯または胴上部文様帯に縦位・斜位・横位弧状の沈線文を施すもの。

Ａ７類　榎林式に相当する土器で、前段階から連続する沈線による横位弧線文を主体とする文様を施すもの。

Ａ８類　最花式に相当する土器で、口縁部または胴上半部から懸垂文を施し、懸垂文間の磨消縄文の幅が狭い、または磨り消さないもの。幅広の口縁部無文帯や頸部に列点文を持つものが多い。

Ｂ１類　大木７ａ式に相当する土器で、口縁部を縦位隆帯等で区画し、横走・斜走する隆線及び沈線で文様を施すもの。

Ｂ２類　大木７ｂ式に相当する土器で、口縁部文様帯に縦位・斜位の隆線や原体押圧により文様を施すもの。

Ｂ３類　大木８ａ式に相当する土器で、口縁部文様帯に渦巻状等の隆帯を配置し、胴部文様帯を含めて縦走・横走・斜走する隆線及び沈線で文様を施すもの。

Ｂ４類　大木８ｂ式に相当する土器で、口縁部文様帯や胴部文様帯に隆線及び沈線で描く渦巻文を起点とした文様を施す土器。

Ｂ５類　大木９式に相当する土器で、口縁部の螺旋状渦巻文から続く懸垂文を施す古段階のものと、磨消縄文による口縁部から底部付近にかけた逆「Ｕ」字状文を施す新段階のものがある。

Ｂ６類　　大木 10 式及び並行期の土器で、概ね胴上半部に文様帯が集約し、磨消・充填縄文によるアルファベット文を施すもの。

Ｃ類　　北陸系の土器で、半裁竹管を用いた平行沈線を主体に文様を描くもの。

Ｄ類　　地文のみ、もしくは主文様が口端部に限られるなど、上記分類に該当しない土器。

Ⅲ群　　縄文時代後期の土器

１類　　初頭の土器

２類　　前葉の土器

Ⅳ群　　縄文時代晩期の土器

２　土製品の分類

土偶　　施文方法により、以下のように分類した。

Ａ類　　縄文押圧により文様が施されるもの。押圧された文様により、以下のように分類した。

Ａ１類　　密に縄文が押圧されたもの。

Ａ２類　　疎らに縄文が押圧されたもの。

Ａ３類　　渦巻き状に縄文が押圧されたもの。

Ａ４類　　馬蹄形状に押圧されたもの。

Ｂ類　　沈線文が施されたもの。沈線の幅から、以下のように分類した。

Ｂ１類　　沈線の幅が概ね３㎜未満となるもの。

Ｂ２類　　沈線の幅が概ね３㎜以上となるもの。

Ｃ類　　刺突文が施されたもの。刺突文の大きさから、以下のように分類した。

Ｃ１類　　刺突文の大きさが概ね直径２㎜以上となるもの。

Ｃ２類　　刺突文の大きさが概ね直径２㎜未満となるもの。

ミニチュア土器　　主に底径４㎝以下、器高 10㎝以下の土器を本類に含めた。深鉢形、台付形、鉢形、壺形、椀形、蓋形、片口鉢形、皿形、甕形がある。

三角形土製品　　三角形を呈する土製品。文様から以下のように分類した。

Ａ類　　隆帯による文様が施されたもの。

Ｂ類　　沈線文が施されたもの。

Ｃ類　　沈線文と刺突文が施されたもの。

Ｄ類　　刺突文が施されたもの。

その他土製品　　その他の土製品を一括した。耳飾り、垂飾、環状土製品、円形土製品、管玉状土製品、棒状土製品、土製円盤、舟形土製品、筒形土製品などがある。また土器片を打ち欠いて、円形、三角形状に形を整えた土器片利用土製品や焼成粘土塊も本類に含めている。

３　石器・石製品の分類

石鏃　　平面形態から以下のように分類した。なお分類に当たっては、髙橋（2020）を参考にした。

Ａ１類　　凹基有茎鏃。

Ａ１ａ類：　側縁部が外湾するもの。

Ａ１ｂ類：　平面形が五角形を呈するもの。

Ａ１ｃ類：　側縁部が上部で内湾し、下部で外湾するもの。

Ａ１ｄ類：　Ａ１類のうち、欠損のため上記に分類できなかったもの。

Ａ２類　　平基有茎鏃。

Ａ２ａイ類：　側縁部が外湾し、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもの。

Ａ２ａロ類：　側縁部が外湾し、鏃身部の長幅比が概ね１：１を呈するもの。

Ａ２ｂ　類：　平面形が五角形を呈するもの。

Ａ２ｃイ類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね２：１を呈するもの。

Ａ２ｃロ類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね１：１を呈するもの。

Ａ２ｄ　類：　側縁部が上部で内湾し、下部で外湾するもの。

Ａ２ｅ　類：　Ａ２類のうち、欠損のため上記に分類できなかったもの。

Ａ３類　　凸基有茎鏃。

Ａ３ａイ　類：　側縁部が外湾し、最大幅が中心付近にあるもの。

Ａ３ａロ　類：　側縁部が外湾し、最大幅が下部にあるもののうち、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもの。

Ａ３ａハ　類：　側縁部が外湾し、最大幅が下部にあるもののうち、鏃身部の長幅比が概ね１：１となるもの。

Ａ３ｂ　　類：　平面形が五角形を呈するもの。

Ａ３ｃイ　類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもの。

Ａ３ｃイ’類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもののうち、外面側縁に鋸歯状の加工が施されるもの。

Ａ３ｃロ　類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね１：１となるもの。

Ａ３ｄ　　類：　側縁部が上部で内湾し、下部で外湾するもの。

Ａ３ｅ　　類：　Ａ３類のうち、欠損のため上記に分類できなかったもの。

Ｂ　類　　尖基鏃。

Ｃ　類　　柳葉鏃。

Ｃ１類：　最大幅が中心付近にあるもの。

Ｃ２類：　最大幅が下部にあるもの。

Ｄ　類　　円基鏃。

Ｄ１類：　最大幅が中心付近にあるもの。

Ｄ２類：　最大幅が下部にあるもの。

Ｅ　類　　平基鏃。

Ｆ１類　　凹基無茎鏃（抉りが浅い）。

Ｆ１ａイ　類：　側縁部が外湾し、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもの。

Ｆ１ａロ　類：　側縁部が外湾し、鏃身部の長幅比が概ね１：１となるもの。

Ｆ１ｂ　　類：　平面形が五角形を呈するもの。

Ｆ１ｃイ　類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもの。

Ｆ１ｃイ’類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもののうち、外面側縁に鋸歯状の加工が施されるもの。

Ｆ１ｃロ　類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね１：１となるもの。

Ｆ１ｄ　　類：　側縁部が内湾するもの。

Ｆ１ｄ’　類：　側縁部が内湾するもののうち、外面側縁に鋸歯状の加工が施されるもの。

Ｆ１ｅ　　類：　側縁部が上部で内湾し、下部で外湾するもの。

Ｆ１ｆ　類：　Ｆ１類のうち、欠損のため上記に分類できなかったもの。

Ｆ２類　凹基無茎鏃（抉りが深い）。

Ｆ２ａイ　類：　側縁部が外湾し、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもの。

Ｆ２ａイ’類：　側縁部が外湾し、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもののうち、外面側縁に鋸歯状の加工が施されるもの。

Ｆ２ａロ　類：　側縁部が外湾し、鏃身部の長幅比が概ね１：１となるもの。

Ｆ２ｂ　類：　平面形が五角形を呈するもの。

Ｆ２ｃイ　類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもの。

Ｆ２ｃイ’類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね２：１となるもののうち、外面側縁に鋸歯状の加工が施されるもの。

Ｆ２ｃロ　類：　側縁部が直線状で、鏃身部の長幅比が概ね１：１となるもの。

Ｆ２ｄ　類：　側縁部が内湾するもの。

Ｆ２ｄ’　類：　側縁部が内湾するもののうち、外面側縁に鋸歯状の加工が施されるもの。

Ｆ２ｅ　類：　側縁部が上部で内湾し、下部で外湾するもの。

Ｆ２ｆ　類：　Ｆ２類のうち、欠損のため上記に分類できなかったもの。

Ｇ類　未成品のため、Ａ～Ｆ類に分類できなかったもの。

Ｇ１類：　凸基有茎鏃の未成品と思われるもの。

Ｇ２類：　茎部を持つが、凸基、柳葉形、尖基、円基いずれとなるか不明のもの。

Ｇ３類：　基部が平坦のもの。

Ｇ４類：　凹基無茎鏃の未成品と思われるもの。

Ｈ類　基部が欠損しているもの。

Ｈ１類：　基部欠損品のうち、完成品と考えられるもの。

Ｈ２類：　基部欠損品のうち、未成品と考えられるもの。

石槍　平面形態から以下のように分類した。

Ａ類　最大幅が先端側にあるもの。

Ｂ類　最大幅が中心付近にあるもの。

Ｂ１類：　基部が尖るもの。　Ｂ２類：　基部が丸みを持つもの。

Ｂ３類：　基部が平坦なもの。

Ｃ類　最大幅が基部側にあるもの。

Ｄ類　両側縁が平行するもの。

Ｄ１類：　基部が尖るもの。　Ｄ２類：　基部が丸みを持つもの。

Ｄ３類：　基部が平坦なもの。

Ｅ類　平面形が左右非対称となるもの。

Ｅ１類：　基部が尖るもの。　Ｅ２類：　基部が丸みを持つもの。

Ｅ３類：　基部が平坦なもの。

石匙　つまみ部の位置や刃部の形態などから以下のように分類した。

Ａ類　器軸と同方向につまみ部が作出されるもの。

Ａ１類　：　両側縁から端部にかけて刃部が形成され、端部が円刃となるもの。

Ａ２ａ類：　一側縁または両縁側から端部にかけて刃部が形成され、端部が傾斜するもののうち、背面側に一次剥離面を大きく残すもの。

Ａ２ｂ類：　両縁側から端部にかけて刃部が形成され、端部が傾斜するもののうち、背面側に一次剥離面をほぼ残さないほど深い剥離が施されるもの。いずれも腹面右側に打面となる調整剥離を施すことで、背面左側からの深い剥離が可能になっている。「松原型石匙」（秦 1991）に相当する。

Ａ３類　：　一側縁または両側縁から端部にかけて刃部が形成され、端部が方形となるもの。

Ａ４類　：　両側縁から端部にかけて刃部が形成され、端部に抉りが入るもの。

Ｂ類　器軸に対してつまみ部が斜位に作出されるもの。

Ｂ１類：　両側縁が直線状を呈するもの。

Ｂ２類：　両側縁が湾曲するもの。

Ｂ３類：　両側縁が非対称な形状となるもの。

Ｃ類　器軸に対してつまみ部が直交する位置に作出されるもの。

Ｃ１類：　底辺が直線状となるもの。

Ｃ２類：　底辺が湾曲するもの。

Ｄ類　未成品のため、Ａ～Ｃ類に分類できないもの。

Ｅ類　欠損のため分類できなかったもの。

有樋石器　平面形態が槍状を呈し、つまみ部を有する石器。

石篦　平面形態、加工の仕方から以下のように分類した。

Ａ類　両側縁が直線状に平行するもの。

Ａ１類　：　基部の加工が概ね一周し、刃部加工は両面に施されるもの。

Ａ２ａ類：　基部の加工が一周せず、刃部加工は両面に施されるもの。

Ａ２ｂ類：　基部の加工が一周せず、刃部加工は片面にのみ施されるもの。

Ｂ類　胴部が膨らむもの。

Ｂ１類　：　基部の加工が概ね一周し、刃部加工は両面に施されるもの。

Ｂ２ａ類：　基部の加工が一周せず、刃部加工は両面に施されるもの。

Ｂ２ｂ類：　基部の加工が一周せず、刃部加工は片面にのみ施されるもの。

Ｃ類　平面形が逆三角形となるもの。

Ｃ１ａ類：　基部の加工が概ね一周し、刃部加工は両面に施されるもの。

Ｃ１ｂ類：　基部の加工が概ね一周し、刃部加工は片面にのみ施されるもの。

Ｃ２ａ類：　基部の加工が一周せず、刃部加工は両面に施されるもの。

Ｃ２ｂ類：　基部の加工が一周せず、刃部加工は片面にのみ施されるもの。

Ｄ類　基部が突起状に作出されるもの。「大石平型石篦」（畠山 1987）に相当する。

トランシェ様石器　平面形が逆三角形を呈し、一次剥離面を利用した幅広い刃部を有する石器。

石錐　平面形態や加工の仕方から以下のように分類した。

Ａ類　つまみ部と錐部の境が明瞭なもの。

Ａ１類：　基部全周に加工がなされるもの。

Ａ２類：　基部に部分的に加工がなされるか、加工がなされないもの。

Ｂ類　つまみ部と錐部の境が不明瞭なもの。

Ｂ１類：　基部全周に加工がなされるもの。

Ｂ２類：　基部に部分的に加工がなされるか、加工がなされないもの。

Ｃ類　棒状となるもの。

Ｄ類　　十字形となるもの。

Ｅ類　　両側に突出した機能部を有するもの。

Ｆ類　　未成品のためＡ～Ｅ類に分類できないもの。

Ｇ類　　欠損のため分類できなかったもの。

スクレイパー　　素材の形態を大きく変えることなく、刃部が作出された石器。平面形態と加工の仕方から以下のように分類した。

Ａ類　　円形となるもの。

Ｂ類　　先端が尖るもの。

Ｃ類　　三角形状となるもの。

Ｄ類　　ノッチドスクレイパー。

Ｅ類　　不定形となるもの。

Ｅ１類：　加工が一側縁に施されるもの。

Ｅ２類：　加工が両側縁に施されるもの。

Ｅ３類：　加工が末端に施されるもの。

Ｅ４類：　加工が一側縁から末端にかけて施されるもの。

Ｅ５類：　加工が両側縁から末端にかけて施されるもの。

Ｆ類　　片面に自然面を大きく残すもの。力持型スクレイパー（星 2008・2019）に相当する。

Ｆ１類：　半月形になるもの。

Ｆ２類：　円形となるもの。

Ｆ３類：　三角形状となるもの。

Ｆ４類：　欠損のためＦ１～３類に分類できなかったもの。

Ｇ類　　両面に自然面を大きく残すもの。

Ｈ類　　欠損のため分類できなかったもの。

両面調整石器　　両面調整によって全体が左右対称に整形されているもののうち、他の定形石器に分類できなかった石器を一括した。

楔形石器　　両極打法の痕跡が見られる石器。

嘴状石器　　平面形態が嘴状を呈する石器。

異形石器　　押圧剥離によって全体が整形されるもののうち、特異な形態を呈するもの。

石刃　　最大幅に対して最大長が２倍以上となり、背面の稜線が側縁と平行するもの。

剥片類　　剥片、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、長軸１㎝以下の砕片を一括した。

石核　　剥片、石刃が剥離された母材。

磨製石斧　　磨製の斧形を呈する石器。平面形態などで以下のように分類した。

Ａ類　　平面形が撥形を呈するもの。

Ａ１類：　撥形で最大幅約４㎝以上の大形品。

Ａ２類：　撥形で最大幅約４㎝未満の小形品。

Ｂ類　　平面形が方形を呈するもの。

Ｂ１ａ類：　正面観が長方形を呈するもののうち、最大幅約４㎝以上の大形品。

Ｂ１ｂ類：　正面観が長方形を呈するもののうち、最大幅約４㎝未満の小形品。

Ｂ２類　：　正面観は長方形だが、Ｂ１類よりも厚みがあるもの。

Ｂ３類　：　正面観が正方形に近いもの。２点しかないが、いずれも被熱後に研磨されている。

Ｃ類　　胴部が膨らむもの。

Ｄ類　　磨製石斧を再加工したと考えられるもの。

Ｄ１類：　完成品（欠損品）の体部全面を敲打しているもの。

Ｄ２類：　擦り切り技法で切断しているもの。

Ｄ３類：　破片を再加工しているもの。

Ｅ類　　刃部破片。

Ｆ類　　刃部にのみ敲打痕が見られるもの。

Ｇ類　　欠損のためＡ～Ｆ類に分類できなかったもの。残存部位によって以下のように細分した。

Ｇ１類：　刃先のみ。

Ｇ２類：　基部のみ。

Ｇ３類：　部位不明の破片。

打製石斧　　打製の斧形を呈する石器。

扁平石器　　扁平礫を素材とし、一方あるいは両方の長辺に平坦な使用面が作出されているもの。

Ａ類　　側縁部に加工がないもの。

Ａ１類：　上部が加工されていないもの。

Ａ２類：　上部が加工されているもの。

Ｂ類　　片側の側縁部に加工が施されるもの。

Ｃ類　　左右の側縁部に加工が施されるもの。

Ｃ１ａ類：　左右が抉れるように加工されているもののうち、上部が加工されていないもの。

Ｃ１ｂ類：　左右が抉れるように加工されているもののうち、上部が加工されているもの。

Ｃ２ａ類：　左右が湾曲するか、直立気味に加工されているもののうち、上部が加工されていないもの。

Ｃ２ｂ類:　左右が湾曲するか直立気味に加工されているもののうち、上部が加工されているもの。

Ｄ類　　全面が研磨加工されるもの。

Ｅ類　　周囲や長辺への加工は見られるが、長辺に平坦な使用面が見られないため、未成品あるいは再加工品と考えられるもの。

Ｆ類　　欠損のため分類できなかったもの。

敲石　　敲打痕が見られる礫石器。平面形状から以下のように分類した。

Ａ類　　球形を呈するもの。　　Ｂ類　　平丸形を呈するもの。

Ｃ類　　長楕円形を呈するもの。　　Ｄ類　　棒状を呈するもの。

Ｅ類　　不整形を呈するもの。

多面体敲石　　全体に敲打がおよぶことで、球状に近い多面体を呈する敲石。

Ａ類　　石核を素材とするもの。　　Ｂ類　　円礫を素材とするもの。

凹み石　明瞭な凹みが見られる礫石器。平面形状から以下のように分類した。

Ａ類　　円形を呈するもの。　　Ｂ類　　平丸形を呈するもの。

Ｃ類　　長楕円形を呈するもの。　　Ｄ類　　棒状を呈するもの。

Ｅ類　　不整形を呈するもの。

磨石　　幅広い磨面を有する礫石器。平面形状や敲打痕の有無で以下のように分類した。

Ａ類　　平たい円形を呈するもの。

Ａ１類：　敲打痕が見られないもの。　　Ａ２類：　敲打痕が見られるもの。

Ｂ類　平たい長楕円形状を呈するもの。

Ｂ１類：　敲打痕が見られないもの。　Ｂ２類：　敲打痕が見られるもの。

Ｃ類　不整形を呈するもの。いずれも敲打痕が見られる。

特殊磨石　側縁部に磨面を有する石器。

Ａ類　１か所の側縁部に磨面を有するもの。

Ｂ類　２か所の側縁部に磨面を有するもの。

Ｃ類　３か所の側縁部に磨面を有するもの。

北海道式石冠　敲打により把握部が作出され、底部に幅広い磨面を有する石器。なお分類に当たっては、小島（1999）を参考にした。

Ａ類　正面観が半円のもの。

Ｂ類　正面観が長方形状のもので、器体中央部から端部にかけて敲打による把握部が作出されるもの。

Ｃ類　扁平な楕円形の礫を素材とするもの。器体中央部への敲打加工は認められるが、端部への加工については施されるものと施されないものがある。加工が施されるとしても、湾曲するかやや直立気味に整形される程度で、抉りまではいかない。小島分類Ⅲａ類に限定される。

石皿　大形の扁平な礫を素材とし、使用面に敲打痕や磨痕が見られるもの。また、こうした痕跡が明瞭でなくとも、整形加工と考えられる剥離痕が認められるものは本類に含めた。

Ａ類　脚部が無いもの。

Ａ１類：　外縁が明瞭に立ち上がるもの。　Ａ２類：　外縁が緩やかに立ち上がるもの。

Ａ３類：　外縁が立ち上がらないもの。

Ｂ類　脚付のもの。

Ｂ１類：　外縁が明瞭に立ち上がるもの。　Ｂ２類：　外縁が緩やかに立ち上がるもの。

Ｂ３類：　外縁が立ち上がらないもの。　Ｂ４類：　欠損のため、外縁が不明なもの。

砥石　溝状の磨面を有するもの。

Ａ類　800 g 以下の小形品。

Ｂ類　800 g 以上で皿形を呈する大形品。なお、欠損のため800 g 以下となるものも本類に含めた。

石錘　錘としての利用が想定されるもの。抉りのあり方などで以下のように分類した。

Ａ類　一端に抉りが施されるもの。いずれも敲打痕は見られない。

Ｂ類　両端に抉りが施されるもの。

Ｂ１類：　敲打痕が見られないもの。　Ｂ２類：　敲打痕が見られるもの。

Ｃ類　端部３か所に抉りが施されるもの。

Ｃ１類：　敲打痕が見られないもの。　Ｃ２類：　敲打痕が見られるもの。

Ｄ類　端部４か所に抉りが施されるもの。

Ｄ１類：　敲打痕が見られないもの。　Ｄ２類：　敲打痕が見られるもの。

Ｅ類　十字に溝が巡るもの。

Ｆ類　欠損のため分類できなかったもの。

擦切具　断面Ｕ字状、あるいはＶ字状の摩耗した刃部を有する石器。

擦切石器　擦切溝が施された石器。

石棒　平面形態により、以下のように分類した。

Ａ類　有頭のもの。

Ａ１ａ類　　明確に作出された凸状の頭部を有するもの。

Ａ１ｂ類　　先端が凸状になる礫を使用しているもの。

Ａ２類　　明確に作出された平坦な頭部を有するもの。

Ｂ類　　無頭のもの。

Ｂ１類　　一方の頭部が回むように加工されている。

Ｂ２ａ類　　頭部は凹まず、体部に敲打痕が見られるもの。

Ｂ２ｂ類　　頭部は凹まず、体部に凹みが見られるもの。

Ｂ２ｃ類　　頭部は凹まず、体部に擦痕が見られるもの。

Ｂ２ｄ類　　頭部は凹まず、体部に擦痕と敲打痕が見られるもの。

Ｃ類　　欠損のため分類できなかったもの。

棒状礫　　人為的な痕跡の見られない棒状の礫を一括した。

Ａ類　　有頭（いずれも凸状）。

Ｂ類　　無頭。

Ｃ類　　欠損のため分類できなかったもの。

石刀　　一側縁に刃部を有する磨製石器。

石冠　　底面が平坦で、三角柱状あるいは三角形に近い台形状を呈するもの。

側縁有溝石器　　浅く窪む敲打帯が上下部と側縁部にめぐるもの。

玉類　　人為的に穿孔された石製品のうち、全体が研磨整形されたもの。平面形態などで以下のように分類した。

Ａ類　　玦状耳飾。

Ｂ類　　勾玉形。

Ｃ類　　円形。

Ｃ１類　：　線刻があるもの。

Ｃ２ａ類：　線刻がないもののうち、孔が大きいもの。

Ｃ２ｂ類：　線刻がないもののうち、孔が小さいもの。

Ｃ２ｃ類：　未成品のため、Ｃ２ａ・ｂ類に分類できないもの。

Ｄ類　　円柱状を呈し、長軸方向に穿孔されたもの。

Ｅ類　　不定形のもの。

Ｅ１類：　完成品（穿孔が終了したもの）。

Ｅ２類：　未成品（穿孔途中のもの）。

穿孔礫　　研磨されていない自然礫を人為的に穿孔した石製品。穿孔のあり方から以下のように分類した。

Ａ類　　短軸方向に先行したもの。

Ａ１類：　孔１か所。

Ａ２類：　孔２か所。

Ａ３類：　孔３か所以上。

Ｂ類　　長軸方向に穿孔したもの。

Ｂ１類：　完成品（穿孔が終了したもの）。

Ｂ２類：　未成品（穿孔途中のもの）。

孔空き石　　人為的とは考えられない孔が見られるもの。

線刻礫　線刻が施された石製品。

椀形石製品　椀形を呈する石製品。

磨製石製品　磨製の石製品の内、不定形なものを一括した。

石製品　加工が若干認められる、あるいは判然としないものの、形態や出土状況、材質から何らかの意図が想定される石製品。

参考文献

小島朋夏 1999「北海道式石冠の分布とその意義」『北海道考古学』35　北海道考古学会

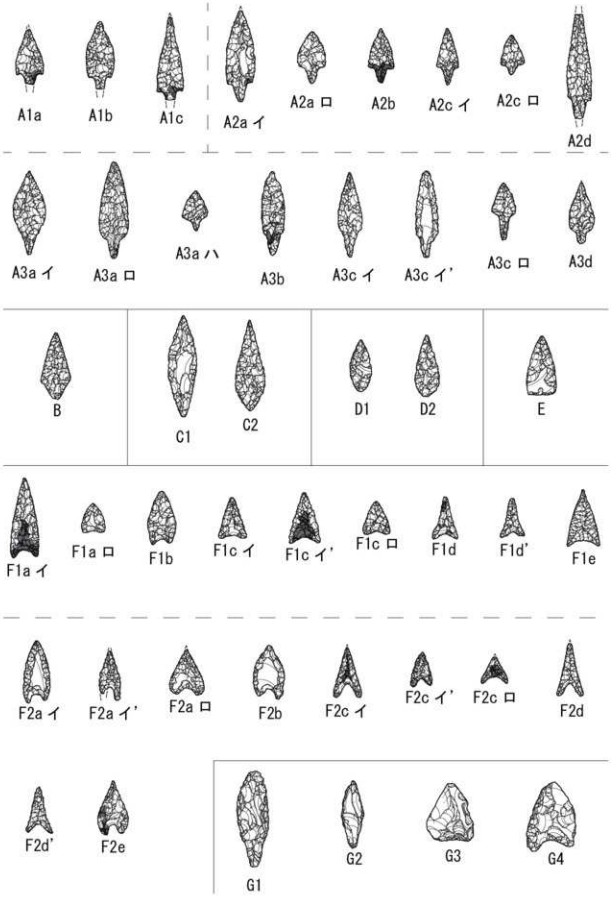
髙橋　哲 2020「三内丸山遺跡出土の石鏃の変遷について―北盛土出土資料を用いて―」『特別史跡三内丸山遺跡研究紀要』1　三内丸山遺跡センター

秦　明繁 1991「特殊な剥片剥離技法をもつ東日本の石匙―松原型石匙の分布と製作時期について―」『考古学雑誌』76－4　日本考古学会

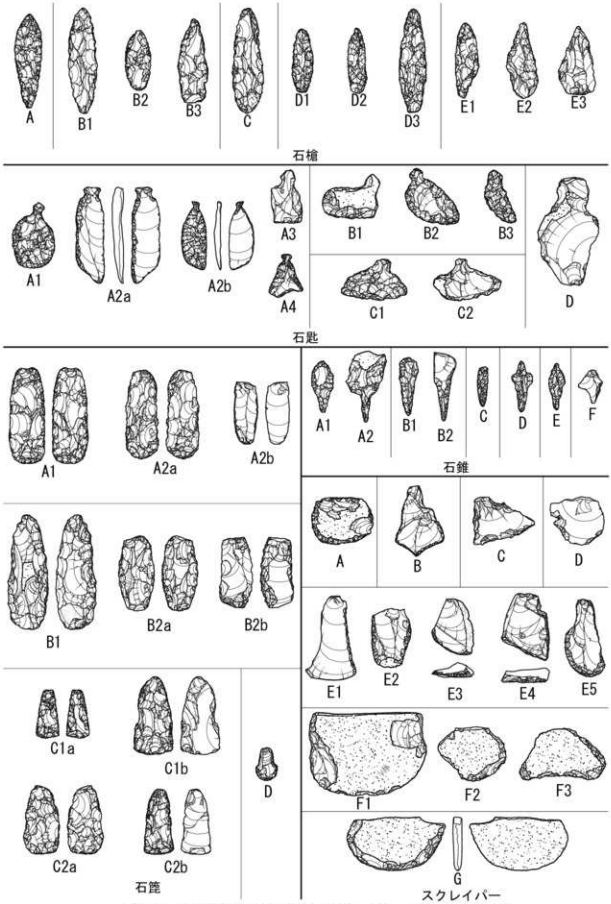
畠山　昇 1987「石器」『大石平遺跡Ⅲ（第２分冊）』青森県埋蔵文化財調査報告書第 103 集　青森県教育委員会

星　雅之 2008『力持遺跡発掘調査報告書　第Ⅰ分冊（本文編）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 510 集（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

星　雅之 2019『力持遺跡発掘調査報告書　第１分冊』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 694 集　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

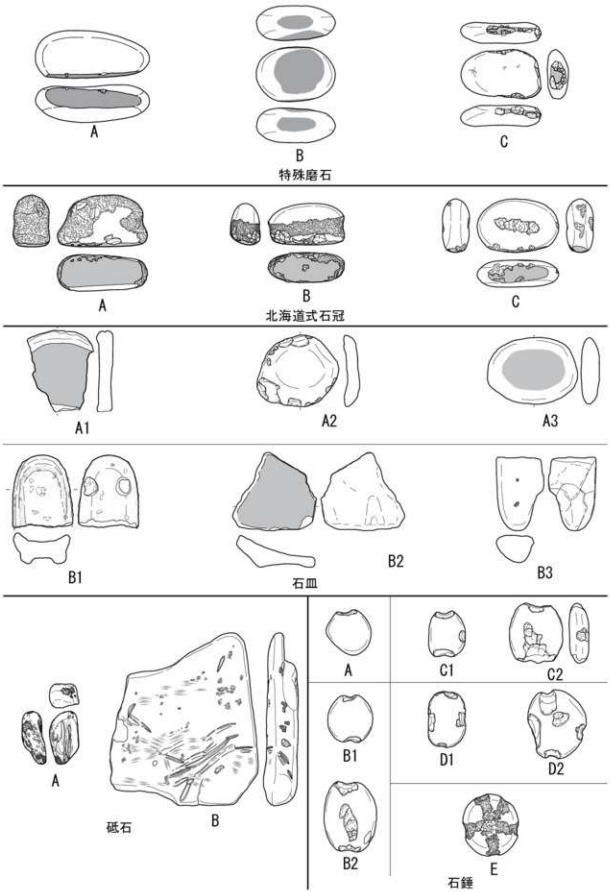


第５図　石器分類図（１）石鏃

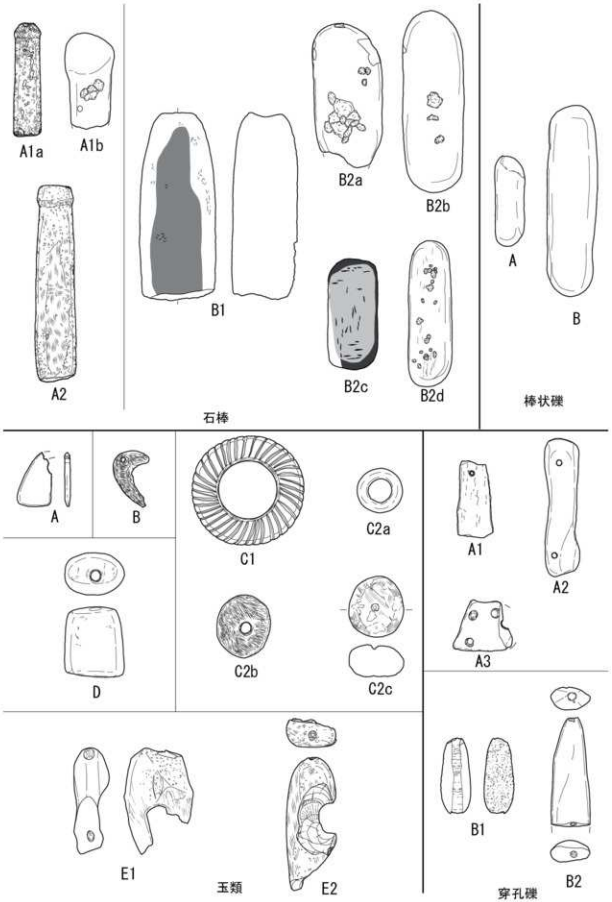


第６図　石器分類図（２）石槍・石匙・石箆・石錐・スクレイパー

第７図　石器分類図（３）磨製石斧・扁平石器・敲石・多面体敲石・凹み石・磨石



第８図　石器分類図（４）特殊磨石・北海道式石冠・石皿・砥石・石錘



第９図　石器分類図（５）石棒・棒状礫・玉類・穿孔礫

第３節　基本層序

遺跡は米代川の支流である藤琴川右岸の砂礫段丘面に立地する。調査区中央には大きく西から東へ開口した沢部が存在する。この沢部より北側の地形は、標高38ｍ程度の尾根裾部、標高30ｍ程度の平坦部に、沢部より南側の地形は標高35～67ｍの丘陵部、標高約36～38ｍの平場に分けることができる。これらの箇所は堆積環境が一様ではなかったため、地点ごとに基本土層を記録した。また、沢部は上～下流にかけて堆積状況が一様ではないため、遺構が比較的多い地点で記録を採った。

基本土層図は、第10図に示した地点で作図した。以下、各層について記述する。

【尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）】

尾根裾部に形成されたST252上の自然堆積土（Ⅰａ～Ⅲｂ′層）は40cm前後である。

Ⅰａ層：現表土　黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり弱　粘性弱
全域に堆積する。層厚は９～52cmである。

Ⅰｂ層：近現代の整地・耕作土　黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや強　粘性やや弱
平坦部西側（Ｂ区）にのみ堆積する。層厚は10～64cmで、南側ほど分厚い。黄褐色シルト粒を含む。

Ⅱ　層：遺物包含層　黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は21～56cmである。検出した遺構の状況から、古代以降に帰属すると考えられる。

Ⅲａ層：遺物包含層　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約13～56cmである。褐色シルトブロックを少量含む。縄文時代中期～後期の遺物を含む。

Ⅲｂ層：遺物包含層　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約16cmである。褐色シルトブロックを多量に含む。尾根裾部においては、Ⅲb層の直下にST252Ⅰ・Ⅱ層が堆積する。平坦部西側に堆積するⅢｂ層の内、下位に堆積する層は、ST252Ⅰ・Ⅱ層造成前に堆積していたと考えられるが、明確に分層することができなかった。縄文時代中期～後期の遺物を含む。

Ⅲｂ′層：遺物包含層　褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中
ST252・247の上面にのみ堆積する。層厚は約12～22cmである。Ⅲb′層直下にST252Ⅱ層とST247が形成される。縄文時代中期～後期の遺物を含む。Ⅲb層とST252・247の間で漸移的に変化している層である。

Ⅳ　層：漸移層　暗褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
Ｅ区北側では、わずかに残存したⅣ層直上にST252Ⅲ層が堆積している状況が確認できる。層厚は約１～36cmである。

Ⅳ′層：漸移層　黒褐色（10YR2/3）～暗褐色（10YR3/4）砂　しまり強～中　粘性中
Ｅ区南側では、Ⅳ′層直上にST252Ⅳ上・下層が堆積している状況が確認できる。層厚は約６～12cmである。沢部にかかる部分では、黒褐色基調である。

Ⅴ　層：地山　黄褐色（10YR5/6）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強
最終的な遺構確認面である。

【平坦部東側（Ｃ区）】

平坦部は堆積環境が安定しているため、層厚や混入物の変化が少ない。盛土遺構が形成されない範囲のためか、隣接する尾根裾部、平坦部西側の各層と対応する層としない層がある。

ＣⅠａ層：現表土　黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり弱　粘性弱
全域に堆積する。層厚は９～52cmである。尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）のⅠａ層と対応する。

ＣⅠｂ層：近現代の整地・耕作土　黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや強　粘性やや弱
平坦部西側（Ｂ区）にのみ堆積する。層厚は10～64cmで、南側ほど厚い。黄褐色シルト粒を含む。尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）のⅠｂ層と対応する。

ＣⅡ　層：遺物包含層　黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は21～56cmである。尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）のⅡ層と対応する。検出した遺構の状況に加え、古代の遺物が出土していることから古代以降の包含層と考えられる。

ＣⅢａ層：遺物包含層　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約13～56cmである。褐色シルトブロックを少量含む。尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）のⅢａ層と対応する。縄文時代中期～後期の遺物を含む。

ＣⅢｂ層：遺物包含層　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約16cmである。褐色シルトブロックを多量に含む。尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）のⅢｂ層と対応する。縄文時代中期～後期の遺物を含む。

ＣⅣ　層：遺物包含層　黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
Ｃ区西側に局所的に堆積する。層厚は約22cmである。褐色シルト粒を含む。縄文時代中期の遺物を含む。

ＣⅤ　層：漸移層　褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約３～14cmである。尾根裾部、平坦部西側（Ａ区北側、Ｂ区、Ｅ区北側）のⅣ層と対応する。

ＣⅥ　層：地山　黄褐色（10YR5/6）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強
最終的な遺構確認面である。全体的に粘質シルトだが、地点により粘土～シルトとなる。尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）のⅤ層と対応する。

【平場（Ｅ区）】

調査区中央部に位置する標高約36～38ｍの平場は、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ式期）以前の大規模な地すべりや土石流などによる地山崩落土の堆積により形成され、南側と北側を沢により開析されたことによって舌状に残った地形である。中期中葉以前の原地形は明らかではないが、以前から沢地であったと考えられ、平場が形成されたことで中期中葉～後葉のごく短い期間に一時期的に利用された。その後は土地利用されることなく、現代に至る。

平場Ⅰａ層：現表土　黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり弱　粘性やや弱
平場全域に堆積する。層厚は10～20cmである。

平場Ⅰｂ層：現代の盛土　褐色（10YR4/4）砂　しまり弱　粘性弱

平場西部にのみ堆積する。層厚は10～70cmで、平場の北側に行くほど厚くなる。
小礫～人頭大の礫を多量に含む。

平場Ⅱ層：遺物包含層　黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
平場西部を中心に堆積する。層厚は20～30cmである。古代と推定される遺構の埋土となるため、古代の堆積層と考えられる。

平場Ⅲ層：遺構検出面　黒褐色（10YR2/2～3/2）シルト～砂質シルト　しまり中　粘性中
平場全域に堆積するが、平場東部では小礫を多く含む。層厚は30～60cmで、縄文時代中期の遺物を含む。

平場Ⅳ層：遺構検出面　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂～暗褐色（10YR3/4）シルト
しまりやや弱～中　粘性中～やや強
平場西部にのみ堆積する。層厚は40～70cmである。沢由来の黄褐色砂と旧表土である暗褐色シルトの互層。最上層の黄褐色砂が遺構検出面で、それより下層に遺構・遺物はみられない。縄文時代中期の遺物を含む。

平場Ⅴ層：遺構検出面　黄褐色（2.5Y5/6～10YR5/6）砂　しまり中　粘性弱
平場東部にのみ堆積する。層厚は10～30cmである。小礫やにぶい黄褐色砂ブロックを多量に含む。

平場Ⅵ層：地山相当層　黄褐色（10YR5/6）砂　しまりやや弱　粘性弱
小礫を含む砂層と拳大の礫を多量に含む礫層が斑状に堆積する。

【丘陵部（D・G・H区）】

標高35～67mと標高差がある。北東側では平坦面が広がり、遺構も比較的多く作られる。西側に向かうにつれ、斜面が急になり、遺構も希薄となる。西側で検出されたSX4127・4130・4170埋没木は、放射性炭素年代測定により古代の年代値が与えられており、当時大規模な地滑りが起きたことで地形が大きく変わり、東側に向かっていくにつれ比較的緩やかな斜面になったと考えられる。

丘陵部Ⅰ層：現表土　黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約１～38cmである。

丘陵部Ⅱ層：遺物包含層　黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約４～55cmである。古代以降と推定される遺構の埋土となるため、古代以降の包含層と考えられる。

丘陵部Ⅲ層：遺物包含層　黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
丘陵部南側を中心に堆積する。層厚は約１～40cmである。縄文時代中期の遺物を含む。

丘陵部Ⅳ層：漸移層　黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性中
全域に堆積する。層厚は約1～21cmである。

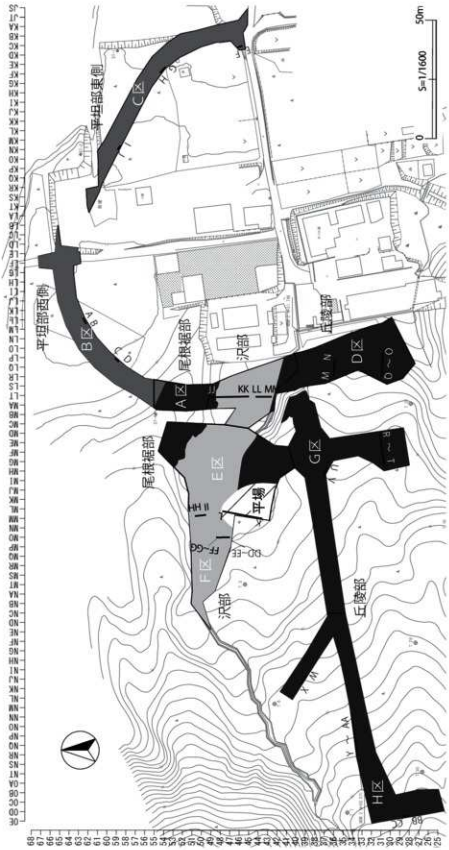
丘陵部Ⅴ層：地山　黄褐色（10YR5/6）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強
最終的な遺構確認面である。

【沢部（A・E・F区）】

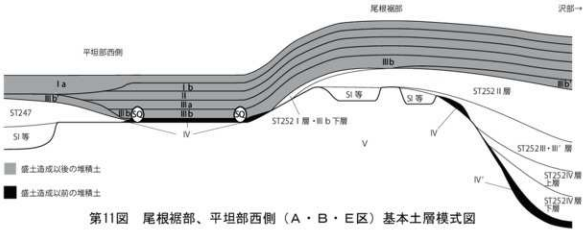
調査区中央部を北西から南東に向かって流れる沢は、周囲の地形やST252の堆積状況から縄文時代中期初頭には存在していたとみられるが、当時の流路やその規模については不明である。ST252の南

西部が大きく削りとられていることから、縄文時代中期以降に大規模な地すべり等に伴う土石流の通り道となったと考えられる。この周辺から検出されたSX3076埋没木および沢上流の丘陵部で検出された前述のSX4127・4130・4170埋没木は、放射性炭素年代測定により古代の年代値が与えられており、遺跡西側の丘陵部を起点とする大きな地すべりが古代に起きたと推測される。検出された埋没木は、丘陵部に生育していた樹木が巻き込まれたものとみられる。これにより調査区中央部の沢地が一気に埋没し平坦になったことから、そこへ当該期の遺構が作られたと考えられる。

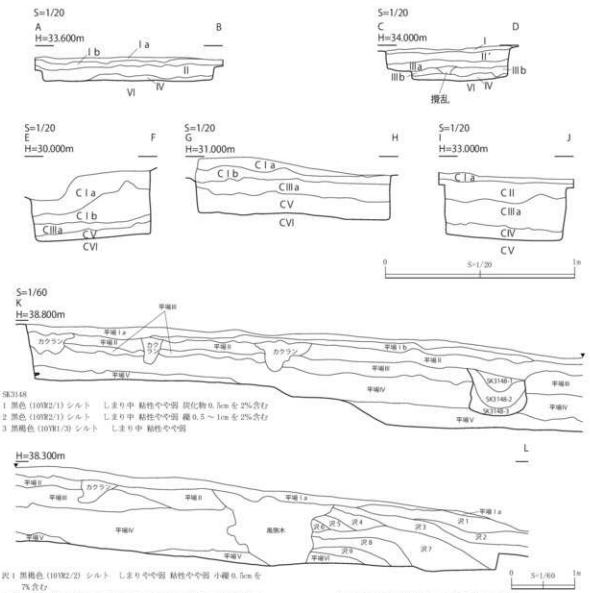
その後、沢部では礫層→砂層→黒褐色土層の互層が繰り返し確認されることから、小規模～中規模な沢の流れが北から南方向へ移動しながら続いていたと考えられる。



第10図　基本土層位置図

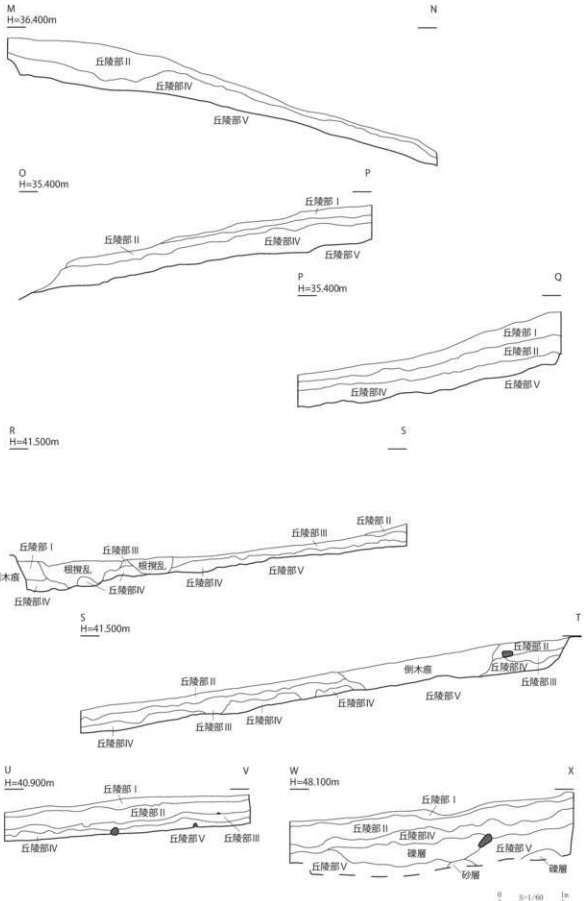


第11図　尾根裾部、平坦部西側（Ａ・Ｂ・Ｅ区）基本土層模式図

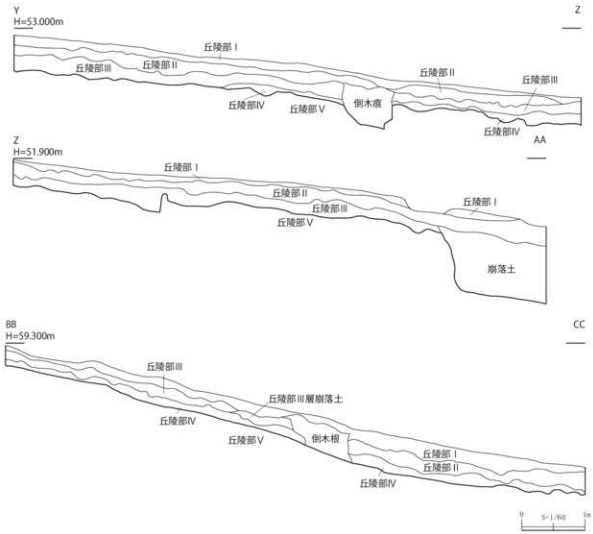


沢1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱 粘性やや弱 小礫0.5cmを7%含む
沢2 暗褐色（10YR3/3）砂 しまりやや弱 粘性中 小礫0.5cmが下層に厚さ1cmで堆積する
沢3 黒色（10YR2/1）シルト しまりや中 粘性やや強 小礫0.5cmを7%含む
沢4 暗褐色（10YR3/3）シルト質砂 しまりや 粘性中 小礫1cmを2%含む
沢5 黒褐色（10YR2/3）シルト質砂 しまりや中 粘性やや弱
沢6 暗褐色（10YR4/3）砂 しまりやや弱 粘性やや弱
沢7 暗褐色（10YR4/3）砂 しまりや弱 粘性やや弱 礫1～10cmを50%含む
沢8 暗褐色（10YR4/3）砂 しまりや 粘性中 暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）にグライ化している部分を斑に含む
沢9 暗褐色（10YR3/3）砂 しまりやや弱 粘性やや弱 礫5cmを50%含む

第12図　基本土層図（１）


M
H=36.400m
N
丘陵部Ⅱ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅴ
O
H=35.400m
P
丘陵部Ⅰ
丘陵部Ⅱ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅴ
P
H=35.400m
Q
丘陵部Ⅰ
丘陵部Ⅱ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅴ
R
H=41.500m
S
丘陵部Ⅱ
丘陵部Ⅲ
丘陵部Ⅰ
丘陵部Ⅲ
側木扈
根撹乱
根撹乱
丘陵部Ⅴ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅳ
S
H=41.500m
T
丘陵部Ⅱ
側木扈
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅲ
丘陵部Ⅱ
丘陵部Ⅴ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅲ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅳ
U
H=40.900m
V
丘陵部Ⅰ
丘陵部Ⅱ
丘陵部Ⅳ
丘陵部Ⅴ
丘陵部Ⅲ
W
H=48.100m
X
丘陵部Ⅰ
丘陵部Ⅱ
丘陵部Ⅳ
礫層
丘陵部Ⅴ
丘陵部Ⅴ
砂層
礫層
S=1/60
0
1m

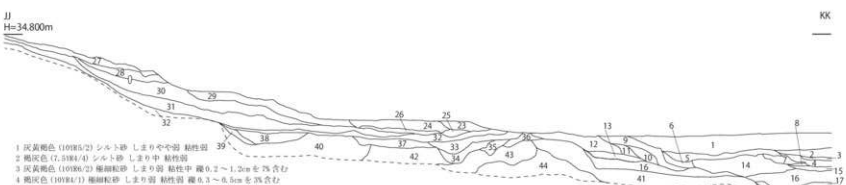
第13図　基本土層図（２）



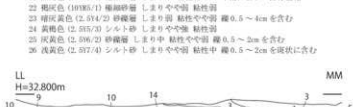
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性中
10YR2/1 黒褐色粘質シルト層状 20%、炭化物粒状（0.01 ～ 0.1cm）2%、
礫粒状（0.01 ～ 1cm）3%
2 暗褐色（10YR3/3）砂質シルト　しまり弱　粘性弱
礫粒状（0.1 ～ 1.5cm）3%、炭化物粒状（0.1 ～ 2cm）1%
3 暗褐色（10YR3/4）砂　しまり中　粘性弱
礫粒状（1 ～ 15cm）5%
4 黒色（10YR2/1）砂　しまり強　粘性弱
炭化物斑状（0.1 ～ 1.5cm）40%
5 黒褐色（10YR2/2）砂　しまりやや弱　粘性弱
炭化物斑状（0.1 ～ 1.5cm）5%
6 褐色（7.5YR4/4）砂　しまり強　粘性弱
炭化物粒状（0.1 ～ 0.5cm）2%、礫粒状（0.1 ～ 0.5cm）3%
7 褐色（7.5YR4/3）砂　礫粒状（0.1 ～ 0.5cm）30%
8 黄褐色（10YR5/8）砂　しまり中　粘性弱
礫粒状（0.5 ～ 10cm）30%

1 黒褐色（10YR3/1）シルト　しまりやや弱　粘性弱
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中　礫（0.5 ～ 1cm）2%
3 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中　礫（0.5 ～ 1cm）2%
4 黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや弱　粘性中　礫（0.5 ～ 2cm）5%
5 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性やや弱　礫（0.5 ～ 2cm）3%、炭化物（0.2cm）1%
6 暗褐色（10YR3/3）砂　しまり中　粘性やや弱　礫（1 ～ 6cm）15%
7 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性やや強　礫（0.2 ～ 1cm）5%、炭化物（0.3cm）2%
8 黒褐色（10YR3/1）シルト　しまり中　粘性強　礫（0.5 ～ 3cm）7%
9 暗褐色（10YR3/3）砂　しまり中　粘性やや弱　礫（0.5 ～ 1cm）10%
10 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性中　礫（0.5 ～ 2cm）2%、炭化物（0.5 ～ 2cm）2%
11 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや強　礫（1 ～ 8cm）3%
12 暗褐色（10YR3/3）砂　しまり中　粘性中　礫（0.5 ～ 1cm）40%
13 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂　しまり中　粘性やや強　礫（0.5cm）5%

第14図　基本土層図（３）



1 灰黄褐色（10YR5/2）シルト砂　しまりやや弱　粘性弱
2 褐灰色（7.5YR4/4）シルト砂　しまり中　粘性弱
3 灰黄褐色（10YR6/2）極細紙砂　しまり弱　粘性中　礫 0.2～1.2cm を 7% 含む
4 褐灰色（10YR4/1）極細紙砂　しまり弱　粘性弱　礫 0.3～0.5cm を 3% 含む
5 黒褐色（10YR3/1）極細紙砂　しまり中　粘性やや弱　灰黄褐色（10YR5/2）細紙砂とのラミナ層
6 灰黄褐色（10YR4/2）粘質砂　しまり中　粘性中
7 褐灰色（10YR6/1）細紙砂　しまり弱　粘性弱　砂 0.02～0.04cm とのラミナ層
8 にぶい黄褐色（10YR7/4）シルト砂　しまりやや弱　粘性中
9 褐灰色（10YR4/1）粘質土　しまりやや弱　粘性中　黒褐色（10YR3/1）粘質土とのラミナ層
10 橙色（7.5YR6/8）礫層　しまりやや弱　粘性やや弱
11 褐灰色（10YR4/1）シルト　しまりやや弱　粘性中
12 黒褐色（10YR3/1）粘質土　しまり中　粘性やや弱
13 褐灰色（10YR5/1）シルト砂　しまりやや弱　粘性やや弱
14 橙色（7.5YR6/6）礫層　しまりやや弱　粘性やや弱　礫 2～8cm
15 褐灰色（10YR5/1）シルト砂　しまり中　粘性中
16 灰黄褐色（10YR6/2）細紙砂　しまりやや弱　粘性やや強　鉄分を縞状に7%含む（高師小僧）
17 灰黄褐色（10YR4/2）細砂層　しまりやや弱　粘性弱　礫 0.3～0.6cm とのラミナ層（円筒上層C出土層）
18 褐灰色（10YR6/1）極細砂層　しまりやや弱　粘性弱　ラミナ層
19 明黄褐色（10YR6/6）砂礫層　しまりやや弱　粘性弱　礫 0.5～3cm とのラミナ層
20 褐灰色（10YR6/1）極細砂層　しまりやや弱　粘性弱　グライ化により一部青色化
21 黒褐色（10YR3/1）極細砂層　しまり中　粘性弱　グライ化により一部青色化
22 褐灰色（10YR5/1）極細砂層　しまりやや弱　粘性弱
23 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂礫層　しまり弱　粘性やや弱　礫 0.5～4cm を含む
24 黄褐色（2.5Y5/3）シルト砂　しまりやや強　粘性弱
25 灰黄色（2.5Y6/2）砂礫層　しまり中　粘性やや弱　礫 0.5～2cm を含む
26 浅黄色（2.5Y7/4）シルト砂　しまりやや弱　粘性中　礫 0.5～2cm を斑状に含む
27 黒褐色（10YR3/1）シルト　しまりやや弱　粘性中
28 黒褐色（2.5Y3/1）粘土　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色（2.5Y5/4）シルトを縞状に含む（中層）
29 褐灰色（10YR4/1）シルト質粘土　しまり中　粘性中　オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルトを10%含む
30 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり中　粘性やや弱　上層部はしまりやや弱
31 黒褐色（10YR2/2）粘土　しまりやや弱　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトを5%含む
32 黒褐色（10YR2/2）粘質シルト　しまり中　粘性中
33 灰黄褐色（10YR4/2）シルト砂　しまり強　粘性弱　明黄褐色（10YR6/8）シルトブロックを粒状に3%含む
34 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト砂　しまり弱　粘性弱　礫 0.5～2cm を 3%、15cm 大の礫一つを含む
35 黒色（10YR2/1）粘土　しまり中　粘性強　炭化物 0.2～0.4cm を 2% 含む
36 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト砂　しまりやや強　粘性やや弱
37 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　しまり中　粘性弱　炭化物 0.2～0.4cm を 3% 含む
38 オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト　しまり強　粘性弱
39 黄褐色（2.5Y5/6）シルト　しまりやや弱　粘性弱
40 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　しまり中　粘性弱　人頭大の礫を 50%以上含む
41 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　しまり中　粘性弱　こぶし大～人頭大の礫を 50%以上含む
42 褐色（10YR4/6）シルト砂　しまり弱　粘性弱　黄褐色（2.5Y5/4）シルト粘土を 30%含む
43 黄灰色（2.5Y4/1）シルト　しまりやや弱　粘性弱　炭化物 0.2～0.5cm を 3%含む
44 暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　しまり中　粘性弱　人頭大の礫を 50%以上含む
45 黄褐色（10YR5/6）砂　しまりやや弱　粘性やや弱



1 暗褐色（10YR3/3）シルト砂　しまりやや弱　粘性弱　褐色（10YR4/4）礫混砂を中央部に含む、ラミナ層
2 黄灰色（2.5Y5/4）砂礫層　しまり弱　粘性弱　0.2～0.8cm の礫とのラミナ層
3 灰黄褐色（10YR4/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　黄褐色（2.5Y5/4）シルトとのラミナ層
4 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂礫層　しまり弱　粘性弱　0.5～1.5cm の礫層
5 灰黄褐色（10YR5/2）シルト　しまり弱　粘性弱　黄褐色（2.5Y5/4）シルトを7%含む
6 にぶい黄褐色（10YR6/4）砂礫層　しまり弱　粘性弱　0.5～3cm の礫層
7 にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　しまり弱　粘性弱　明黄褐色（10YR6/6）礫層（0.8～1.5cm）を下層部に含む
8 黄褐色（2.5Y5/4）シルト砂　しまり弱　粘性弱
9 明褐色（7.5YR5/6）砂礫　しまり弱　粘性弱
10 暗灰黄色（2.5Y5/1）シルト　しまり弱　粘性弱
11 明褐色（7.5YR5/6）砂礫　しまり弱　粘性弱
12 にぶい黄褐色（10YR6/3）シルト　しまり弱　粘性弱　粗砂とのラミナ層
13 褐灰色（10YR5/1）シルト砂　しまりやや弱　粘性やや弱
14 黒褐色（10YR3/1）粘土　しまりやや弱　粘性やや弱
15 にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト砂　しまりやや弱　粘性やや弱
16 灰黄褐色（10YR4/2）シルト　しまり弱　粘性やや弱
17 灰オリーブ色（5Y6/2）粗砂層　しまり中　粘性弱　3～5cm の礫を 7% 含む
18 黒褐色（10YR3/1）シルト砂土　しまり弱　やや弱
19 灰黄褐色（10YR4/2）シルト　しまり弱　粘性弱
20 灰黄褐色（10YR6/2）シルト　しまり中　粘性弱

0　S=1/80　1m

第15図　基本土層図（4）

第４節　検出遺構と遺物

１　概要

検出された遺構は縄文時代の盛土遺構２基、竪穴建物跡19棟、掘立柱建物跡４棟、竪穴状遺構９基、列石遺構７基、配石遺構18基、フラスコ状土坑７基、土坑79基、土器埋設遺構42基、焼土遺構37基、性格不明遺構10基、古代以降の掘立柱建物跡１棟、柵列・柱列跡２列、炭焼遺構４基、土坑12基、焼土遺構２基、溝跡１条、性格不明遺構８基、時期不明の配石遺構３基、土坑１基のほか、柱穴様ピット397基である。

以下、基本的には遺構種ごとに番号順で説明をしていくが、ST252については冒頭で説明することとする。基本層序と密接に関連するためであり、さらにST252の各層からは多数の遺構・遺物が検出されており、それらの検出面についてはST252の各層名で示すことになるからである。

竪穴建物跡の多くはST252内から検出されており、また重複も激しいため、炉や床面を検出してから、その存在を把握したケースがある。さらに、壁の立ち上がりを整理作業段階で確認したものもある。竪穴建物跡以外にも、整理作業段階で立ち上がりを確認したものが複数ある。こうした情報は今後、再検討する際に重要になってくると考えられるため、記載することとした。

列石・配石遺構については、その構築面が時期推定の大きな根拠となる。そのため、礫がのる層については、現場で記録できた限りの情報を記載することとした。

なお、調査区内の地形表現については、第10・24図の記載に基づいている。

２　縄文時代

（１）盛土遺構

ST252（第16～28図、図版６～17）

【検出状況】およそLR～MF48～55グリッドに位置する。尾根裾部において、地山と認識していた黄褐色シルトから多量の遺物が出土したため、尾根裾部を縦断するようにトレンチを設定したところ、黄褐色シルト直下に黒褐色シルトの包含層を確認した。土層観察の結果、約1.5mの厚さで黄褐色土と黒褐色土が互層状に堆積しており、焼土層や土器埋設遺構、その他にも遺構とみられる掘り込みが多数確認されたため、盛土遺構と判断した。

【規模・形態】検出部分の最大幅は32.1m、全長は35.7mである。東側及び北西側は調査区外へと続いており、北西から南東方向に帯状に延びているとみられる。最大層厚は北側斜面（LT54付近）で0.72m、尾根頂部（MA53付近）は0.78m、南側斜面（MC51付近）は1.48mである。

【堆積土】尾根裾部から北側斜面にかけて、本遺構上に基本土層のⅠ～Ⅲｂ’層が堆積している。また、南側斜面では、沢由来の堆積土が本遺構の一部を覆う形で厚く堆積する。本遺構の堆積土は大きく４層に分層できる。以下、上層から順にST252Ⅰ層～ST252Ⅳ層と表記する。

ST252Ⅰ層は、黄褐色シルトブロックを斑状に多量に含む暗褐色シルトである。主に尾根裾部北側斜面に沿って堆積する。炭化物ブロックや焼土ブロックを多量に含む。また、ST252Ⅰ層分布範囲の周囲には、ST252Ⅰ層とⅢｂ層に土質が類似する層が存在する。ST252Ⅰ層崩落土と自然堆積土が混在した層と考えられ、Ⅲｂ下層とした。堆積時期はST252Ⅰ層とほぼ同時か、やや後出すると考えられる。

ST252Ⅱ層は、にぶい黄褐色シルトを主体としながら、暗褐色～黒褐色シルトが間に挟まる層で、炭化物や焼土も含まれる。尾根裾部全体に堆積し、南側斜面が最も厚い。

ST252Ⅲ層は地山ブロックを斑状に含む暗褐色シルトである。尾根裾部頂部の平坦面から南側斜面にかけて堆積する。炭化物ブロックや焼土ブロックが含まれる。またST252Ⅲ層の崩落土が由来となって形成されたのがST252Ⅲ’層である。

ST252Ⅳ層は遺物を多量に含む黒褐色シルトで、尾根裾部南側斜面地に堆積する。ST252Ⅳ層は上層と下層の２層に分けられ、上層は地山ブロックを斑状に多量に含む暗褐色～黒褐色シルトで、下層は混入物の少ない黒褐色シルトである。

【出土遺物】ST252出土土器・土製品の内訳は第74・76表として掲載した。総量で大コンテナ501箱分出土した。ST252出土石器・石製品の内訳は第77～97表として掲載した。総量で692.4kg出土した。また、ST252Ⅲ層からは琥珀が１点出土した（図版111）。最大長1.12cm、最大幅0.74cm、最大厚0.52cm、重量0.2ｇ、比重1.13を呈する。肉眼観察や比重に加え、静電気を帯びることから琥珀と判断した。加工痕は確認できないため、原石と考えられる。

【所見・時期】各層検出の遺構の時期及び出土した土器から、各層の時期については、以下のように考えられる。

ST252Ⅳ層は縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）に造成された。また、その最上層では縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）の活動の痕跡（SX4182と、少量のＡ４類土器）が確認された。ST252Ⅲ層・Ⅲ’層は主に縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～榎林式期）に造成された。ただ、その最上層では一部縄文時代中期後葉（最花式期）の活動の痕跡も確認された（SQ3083と、少量のＡ８、Ｂ５類土器）。ST252Ⅱ層は縄文時代中期後葉（最花式期）、ST252Ⅰ層、Ⅲｂ下層は縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式期）に造成されたと考えられる。なお、ST252Ⅱ～Ⅳ層堆積時には、自然堆積土が堆積していたと考えられる。尾根裾部においては、後世の削平や遺構掘削によりそうした自然堆積土が失われているが、その周囲には残されているはずである。平坦部東・西側のⅢｂ層、CⅢｂ層の下位に堆積した土が該当すると考えられるが、明確に分けることはできなかった。また尾根裾部南側には沢が流れており、当時の自然堆積土は既に失われていた。以上の年代観に立って、本遺構の形成過程を概観したい。

縄文時代中期初頭～前葉には尾根裾部南側斜面地にST252Ⅳ層が形成される。ST252Ⅳ層からは、土器埋設遺構が多数検出された。土器内に礫石器を埋納し石皿や扁平礫を用いて土器開口部に蓋をしているものが目立ち、これらの土器埋設遺構はST252に沿って帯状に形成された墓域の可能性がある。尾根頂部平坦面のⅤ層からは、同時期の竪穴建物跡等が検出されたことから、そこを居住地として利用していたと考えられる。だが、次段階になると、それらの多くは削平を受けるようである。

Ⅴ層で検出された縄文時代中期初頭～前葉の遺構の壁の立ち上がりは浅いものが目立つ。さらにST252土層断面を観察すると、ST252Ⅲ層直下に地山が確認される地点が見られる。こうしたことからは、ST252Ⅲ層造成前に構築されていた縄文時代中期前葉以前の遺構や旧表土、そして地山の一部を削平していると考えられる。（SX4184・4185）。また帯状の削平範囲も確認されている（SX4182・4183）。ST252Ⅲ層の最下層は、こうした削平行為によって生じた土に由来するものと考えられる。その後は、ST252Ⅲ層中において、ST252Ⅲ層を掘削して構築された遺構が存在することから、主にこうした遺構掘削によって生じた排土や生活廃棄物などがST252Ⅲ層の由来土となったと考えられる。なお、尾根裾部頂部の平坦面上の削平直前には、土器を用いた祭祀的行為が行われているようである。SX4182は、ST252Ⅲ層を盛る直前にST252Ⅳ層上面を平坦にならし、そこへ内容物の入っていない完形の深鉢を意図的に置いた遺構である。

このST252Ⅲ層の一部も削平を受け（SX4186）、その直後に地山由来の褐色土を主体的に用いた大

規模な盛土造成が始まる（ST252Ⅱ層）。ST252Ⅱ層もまた削平によって生じた排土が由来となると考えられるが、ST252Ⅲ層と異なり、ST252Ⅱ層が地山由来土を主体とすることからは、SX4184・4185よりもさらに深い地点まで削り出した、あるいは前段階までに居住域として利用されていなかった範囲も削り出した可能性が考えられる。いずれにせよST252が構築される過程において、最も労力がかかる部分であったと考えられる。しかし、検出した遺構や出土土器の分析、さらに本遺構から採取された土壌サンプルの自然科学分析の結果からは、ST252Ⅱ層の造成は短期間のうちに行われたと考えられる。また、残存率の低い、古手の土器（円筒上層ａ～ｅ式）を用いた土器埋設遺構が特徴的に見られる（SR197・221・454・520・529・570・571・616・706）。なお、ST252Ⅱ層造成直前には、ST252Ⅲ層直上において石器・石製品、自然礫を用いた祭祀的行為が行われているようである（SQ3083）。

Ⅴ層由来土による大規模なST252Ⅱ層造成が終了すると、主に遺構掘削土や生活廃棄物由来と見られる暗褐色シルト主体のST252Ⅰ層が、尾根裾部頂部の平坦面から北側斜面を中心に盛られるようになる。また、比較的規模の大きな焼土遺構（SN3038・3043・3046・3047）が密集することや、ミニチュア土器や石棒など、第二の道具の出土比率が増加することから、祭祀的な性格を帯びると考えられる。なお、ST252Ⅰ層直下にⅣ・Ⅴ層が堆積する範囲が確認されるものの（SX4179）、これは前段階に既に形成されていた削平範囲を、継続して利用している可能性があり、ST252Ⅰ層造成前に大規模な削平が行われたとは考えにくい。（小山・大上）

ST247（第29～33図、図版18）

【検出状況】LB～LF62～67グリッドに位置する。当初地山と認識していた黄褐色シルトの下に褐色～暗褐色シルトの包含層が堆積しているのを確認した。トレンチを設定したところ、ST252と同様に黄褐色土と暗褐色土の互層が確認できたため、盛土遺構と判断した。断面観察の結果、暗褐色土の大半は竪穴状遺構等の埋土と判断した。本遺構はSI638、SKI309、SX315より新しく、SKI310より旧い。また堆積土中にはSKI307・308、SK313、SN617、SKP314が構築される。なお、これらの遺構及び本遺構の掘削は重機を使用して行ったため、各遺構の平面形は不明である。

【規模・形態】確認できた最大幅は東西方向に18.6m、南北方向に17.9mである。北側及び東西方向は調査区外へと続き、南～南東側は削平されており残存していない。調査区壁面で確認できる最大厚は1.0mである。

【堆積土】盛土遺構を形成する堆積土は、遺構内埋土を除いて３層に分層した。１層は暗褐色土を含む褐色土、２層は地山ブロックを含む暗褐色土、３層は地山ブロックを含む黄褐色土である。いずれも炭化物や焼土を含むⅤ層由来の造成土とみられる。

【出土遺物】土器・土製品は総量で大コンテナ19箱分出土した。石器・石製品の内訳は第77～97表として掲載した。総量で19.4kg出土した。

【所見・時期】堆積土中から出土する土器は、各層ともＡ８類が主体である。本遺構直下のSI638は縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）に構築され、縄文時代中期後葉（最花式期）まで捨て場として利用されたことから、中期中葉（榎林式期）以前の遺物は盛土造成の際に混入したものとみられる。また、ST247－１層の直上にⅢｂ’層が堆積することからは、本遺構の時期は中期末葉（大木10式期）以前と考えることができる。さらにST252Ⅱ層と同様、Ⅴ層由来の褐色・黄褐色土が主体を占めることや、ST247で検出したSI286が最花式期であることも加味すると、ST247は縄文時代中期後葉（最花式期）に構築されたと考えられる。（小山・小松・大上）

（２）竪穴建物跡

SI125（第34図、図版19）

【検出状況】KC52グリッドに位置する。ＣＶ層精査中に調査区外へ続く半円状に広がる暗褐色のプランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりを確認し、石囲炉を検出したため竪穴建物跡と判断した。

【規模・形態】長軸は2.97ｍ、短軸1.83ｍ（残存）で平面形はやや円形を呈していたと思われ、主軸方向はＮ－32°－Ｗである。深さは0.45ｍで、壁はやや緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。根撹乱により埋土の大部分が消失している。１層はＣⅢａ～ｂ層由来の褐色土、２層はＣＶ層由来の暗褐色土である。１層の堆積要因は判然としないが、２層は薄く全体に広がっており、炉や柱穴にも薄く堆積していたことから自然堆積と思われる。

【柱穴】床面南西側で１基確認した。

【炉（SQN633）】床面中央やや南東に位置する石囲炉である。長軸0.6ｍ、短軸0.49ｍで、隅丸方形を呈していると思われるが、北側と南側の礫がなかったため断定できない。主軸方向はＮ－29°－Ｗで、床面からの深さは0.1ｍである。18～23cmの扁平または棒状の礫が使用されており、被熱して割れているものもある。埋土はSI125－２層由来の褐色土が堆積している。礫を据えるための掘り込みは炉の掘り込みに切られており、炉床に被熱赤色化面はなく、廃絶時に焼土が取り除かれたと思われる。石囲の中心からは土器の抜き取り痕と思われる掘り込みを検出し、炭化物を多く含む暗褐色土が堆積していた。

【出土遺物】剥片類が40.9ｇ出土した。

【所見・時期】時期が判別できる土器が出土しておらず、所属時期の特定が難しい。だが、石囲炉から検出した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）では、2,877calBC－2,687calBC（2σ）の年代値が得られたことに加え、同じく石囲炉を有するSI325が榎林式期に属することを考慮すると、本遺構は縄文時代中期中葉（榎林式）に帰属すると考えられる。（小松・大上）

SI214（第34図、図版19）

【検出状況】KL58・59グリッドに位置する。ＣＶ層精査時に半円形に広がる黒褐色のプランを確認した。遺構内で土器埋設炉（SR209）を確認したため、竪穴建物跡と判断した。

【規模・形態】長軸4.85ｍ、短軸2.32ｍ（残存）で、主軸方向はＮ－15°－Ｅである。検出面からの深さ0.15ｍで、壁は緩やかに立ち上がる。遺構全体のプランは判然としない。

【堆積土】ＣⅢｂ層由来と思われる地山ブロックを含む黒褐色土の単層である。自然堆積と考えられる。

【柱穴】SKP152・153・154・155・216・243・245と思われる。

【炉（SR209）】床面中央に位置する土器埋設炉である。当初、ＣⅥ層にて焼土の広がりを確認したため焼土遺構と判断した。断面確認のため半裁した結果、土器が正位に埋設されていることが判明した。土器の周囲は被熱しており、炭化物も混じることから土器埋設炉と判断した。長軸0.52ｍ、短軸0.47ｍ、床面からの深さは0.18ｍで、やや円形を呈している。炉の掘り込み内堆積土と土器内堆積土はSI214－１層由来の黒褐色土で焼土ブロックや炭化物を多く含み、人為堆積と思われる。埋設土器の掘り込みは被熱により赤色化しているが、周囲や炉床の赤色化はあまり進行しておらず、比較的短期間の利用だったと推測できる。埋設土器の口縁部と底部は打ち欠かれていた。

【出土遺物】第178図１は炉体土器で、胴下半部のみ残存し、横位の結束羽状縄文が認められる。第178図２は口縁部破片で、縄を押捺した隆帯で区画し内部に刺突を充填する。第178図３は口縁部下端を刺突列と２条の沈線で区画し、その直下に垂下する沈線を施す。また石鏃１点、両面調整石器１

点、石核１点、敲石２点、剥片類が69.9ｇ出土した。

【所見・時期】土器埋設炉と出土土器から、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。埋土から出土したＡ８類の土器片は、自然堆積の過程で流れ込んだものと考えられる。なお、炉内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）では、3,365calBC－3,130calBC（2σ）の年代値が得られた。（小松・大上）

SI286（第35図、図版19・20）

【検出状況】LD64・65、LE64・65グリッドに位置する。ST247-CDライン断面にてST247層中で立ち上がりを確認後、確認面まで掘り下げ、黒い楕円形のプランを確認した。複式炉（SQN614）が検出されたため、竪穴建物跡と判断した。遺構上部は近代の削平によって失われている。SK615、SN287、SX248より新しい。

【規模・形態】長径4.34m、短径3.51mで平面形は楕円形を呈し、主軸方向はＮ－75°－Ｅである。残存する深さは0.11mで、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】地山ブロックや焼土、炭化物を含むにぶい黄褐色土の単層である。ST247－２層に類似しているが、遺構上部が削平されているため堆積土の由来は判然としない。

【柱穴】主柱穴は明確でないが、SKP288・341・357・359・368・369が用いられていたと思われる。

【炉（SQN614）】床面南西に位置する複式炉である。長軸0.66m、短軸0.51mで、石組部、前庭部からなり、主軸方向はＮ－43°－Ｅである。10.1～38.7cmの扁平な礫を用いており、袖石は未発達だがＡ字形を呈する。礫は短軸が立つように埋められていた。石組部と前庭部は長軸38.7cm、短軸７cmの扁平礫で仕切られる。床面からの掘り込みは0.1mで、礫は被熱している。上層にSI286の埋土と類似した暗褐色土が堆積し、その下に焼土層、炭化物が土壌化した黒褐色層が形成されている。黒褐色層には微細骨片と思われる灰白色粒が含まれていた。礫を据えるための掘り込みは、炉の掘り込みに切られている。全体的に礫が被熱しているが、被熱痕のない大きな礫が西側に据えられており、また西側袖石から北へ３つ目の礫だけ被熱した面が外側に向けられていた。これは廃絶儀礼の可能性がある。

【出土遺物】第178図４は口縁部が無文で、下端を刺突列で区画し、胴部には３条一単位の沈線が垂下する。第178図５は撚糸施文の胴部破片、第178図６は網代痕のある底部資料である。また、石鏃１点、石篦１点、両面調整石器３点、石核３点、扁平石器１点、石皿１点、剥片類が256.7ｇ出土した。

【所見・時期】複式炉を持つことや出土した土器から、縄文時代中期後葉（最花式期）であると考えられる。なお、炉内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、2,885calBC～2,670calBC（2σ）の年代値が得られた。（小松）

SI325（第36図、図版19・20）

【検出状況】ＬＥ63・64、LF63・64グリッドに位置する。SI286と重複する楕円形の暗褐色プランを確認し、ベルトを残して掘削したところ、SQN613を検出したため竪穴建物跡と判断した。SK285・322に切られる。また、近代の削平によって上部が失われている。

【規模・形態】長径5.52m、短径4.42mの楕円形を呈し、残存する深さは0.16mである。主軸方向はＮ－76°－Ｗである。壁はやや緩やかに立ち上がる。

【堆積土】４層に分層した。いずれもST247－２層に類似していたため、この層が由来の土と思われるが、上部が削平されているため判然としない。

【柱穴】SKP323・347・348・349・356・500・501・611が用いられていたと思われる。

【炉（SQN612）】SI325の南西で被熱した礫が方形に配されており、石囲炉と判断した。長軸0.37m、短軸0.22m、深さ0.03mの方形を呈している。７～17cmの扁平礫を用いており、礫は短軸が立つように据えられていた。炉内堆積土は地山ブロックや焼土、炭化物を含む暗褐色シルト質である。他の石囲炉と違い、炉の掘り込みの縁辺に礫を配している。SI325の炉でない可能性があるが、ベルトの断面等で住居の切り合いを確認できなかった。

【炉（SQN613）】SI325床面中心からやや南東に位置する。長軸0.8m、短軸0.75m、床面からの深さ0.13mの隅丸方形を呈している。９～23cmの扁平礫が用いられており、礫の内側が被熱している。礫は短軸が立つように埋められていた。上層に炭化物を多く含む黒褐色土が堆積し、その下に焼土層が形成されている。礫を据えるための掘り込みは炉の掘り込みに切られている。北西の礫が取り除かれており、廃絶時に取り除かれたと思われる。埋土から磨石が１点出土した。

【出土遺物】第178図７はロ唇に沈線を巡らし、口縁部が狭い無文帯、胴上部に渦巻文と弧線文を施す。第178図８は小波状口縁の土器で、口縁部と胴上部に渦巻文を起点とした横位の沈線を施す。また土器片利用土製品１点、石匙１点、石篦１点、石核３点、剥片類504.9ｇが出土した。

【所見・時期】出土した土器から縄文時代中期中葉（榎林式期）と考えられる。　　（久住・小松）

SI390（第37図、図版21）

【検出状況】LT51・52グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削時に焼土の集中と被熱した礫を検出し、屋内炉と判断した。炉の周囲を精査したところ、床面と思われる硬化面のみが検出できた。

【規模・形態】長径3.7m、短径3.4mで、主軸方向Ｎ－21°－Ｗの不整円形である。床面はST252Ⅱ層由来の黄色土を固めて床としており、堅く締まる。

【堆積土】埋土は確認できなかったが、ST252Ⅱ層と同質の土であったと考えられる。

【柱穴】床面の主柱穴はSKP399・376と思われるが東側に集中しているため判然としない。SKP229・414・466・467・471も柱穴となる可能性がある。

【炉（SQN620）】長軸方向はＮ－28°－Ｅを向き、全長1.70m、幅0.98mを測る複式炉である。石組部の深さは0.24mで、方形に礫が組まれ、内側に石組はない。前庭部は平面形が半円形で、袖石等は付属せず、底面は固く締まる。石組部南には焼土が広がり、浅い掘り込みが確認できた。掘り込み底部は被熱し赤色化しているため、石組部外でも火を焚いていた可能性がある。上層はST252Ⅱ層と同質の土で埋められ、その下に炭化物を多く含む層が堆積する。炭化物層直下には焼土層が作られ、炉床は被熱している。被熱痕は弱く、短期間しか使用されていなかった可能性がある。礫の被熱は弱く、礫自体も位置が乱れている。抜き取り痕があることから廃絶時に炉の解体・破壊が行われたと考えられる。

【出土遺物】第178図10は胴部破片で、撚糸地に沈線で縦位の直線と「U」字状文を施す。第178図11は４単位波状口縁で、口縁部文様帯は縄を押捺した隆帯で縦横に区画し、区画内に刺突列を、波頂部には波状の隆線を施す。第199図５はSKP229から出土した口縁部破片で、波頂部下に２条の隆線が垂下する。第199図18は小型の浅鉢で、把手状の橋状突起、曲線的な区画隆帯、内部への刺突充填が確認できる。第200図２はSKP471から出土した口縁部破片で、波頂部下に３本１組の縄圧痕で縦区画を配し、その隙間に馬蹄形縄圧痕を施す。またミニチュア土器１点、土器片利用土製品１点、石篦１点、両面調整石器３点、剥片類が347.9ｇ、石核が334.0ｇ出土した。

【所見・時期】尾根据部頂部平坦面に構築された竪穴建物跡で、北側に複式炉を伴う。炉の前庭部は住居壁面と接する。土器埋設部はなく、「A」字状の複式炉と思われる。複式炉を持つことに加え、出土土器から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　　（森谷）

SI404（第37図、図版20）

【検出状況】LE・LF65グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に淡いにぶい黄褐色土の円形プランを検出した。掘り進めると地山由来の埋土と炭化物層が互層になっており、床面や明瞭な立ち上がりを確認したため住居と判断した。

【規模・形態】長径4.3m、短径3.7mで、主軸方向はN－56°－Wである。平面形は不整円形を呈する。深さは0.42mで、断面形は逆台形を呈する。

【堆積土】Ⅴ層由来土と炭化物層が互層となっており、各層は東から西へと傾斜しながら堆積する。Ⅴ層由来土と炭化物層で一単位の埋め戻し行為と考えられ、少なくとも２回に分けて人為的に埋められたものと考えられる。

【柱穴】主柱穴は、SKP624・627～629が用いられていたと思われる。

【出土遺物】第178図９は４単位波状口縁で、口端の波頂部には縦位の隆帯を、その両側に連続スリットを施し、口縁部から胴上部にかけて３条一単位の横走沈線を施す。また、石箆１点、両面調整石器１点、石皿１点が出土した。加えて、剥片類が38.9ｇ出土した。

【所見・時期】出土した土器から縄文時代中期中葉（円筒上層ｅ式期）と考えられる。　（森谷）

SI422（第38図、図版20）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。ST252Ⅱ層でプランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径3.0m、短径2.5mの円形で、主軸方向はN－75°－Wである。確認面からの深さは0.2mで、断面形は皿状を呈する。

【堆積土】４層に分層した。ST252由来の黒褐色土を基調として、炭化物・焼土を粒状に含む。中央部床に焼土集中がみられる。東側で当遺構のものと思えない土色変化が認められ、東側に位置するSI567を切っている可能性がある。

【出土遺物】第178図12は肥厚する口端にスリットを、口縁部には平行沈線を密に施す。第178図13は鰭状突起のみ確認できる。第178図14は波状口縁で、口端に縦位、斜位の縄圧痕をもつ隆帯を巡らし、波頂部下に弧状隆線、そこから垂下する平行沈線を縦区画として横走沈線を施す。第178図15は沈線で囲い込み、充填縄文を施す。第178図16は地文上に垂下する沈線を施す。第179図１は底部資料で、底面に網代痕を残す。第179図２は撚糸文のみが確認できる胴部破片である。黒曜石製剥片２点が出土し、理化学分析の結果、出来島産（第241図11）と男鹿産（第241図10）であると推定された。またミニチュア土器が１点、石鏃１点、スクレイパー１点、両面調整石器３点、石核１点、敲石１点、剥片類が100.1ｇ、石核が50.0ｇ出土した。

【所見・時期】出土遺物から、掘り込み面はより上位であったと考えられる。出土土器からは、縄文時代中期末葉（大木10式並行期）と考えられるが、掘り込み面がより上位であったことからは、後期初頭まで下る可能性も考えられる。　（森谷・大上）

SI460（第38図、図版20）

【検出状況】LS52・53グリッドに位置する。Ⅴ層にて暗褐色土の半円形プランを確認した。埋土のほとんどが失われていたが、プラン内が硬化しており、柱穴様ピットや焼土遺構が検出されたため竪穴建物跡と判断した。

【規模・形態】残存径3.16mの半円形を呈しており、主軸方向はN－36°－Eである。深さは0.13m

で、壁は緩やかに立ち上がる。東側は調査区外へと続いているため全体形は不明であるが、円形を呈すると思われる。

【堆積土】地山ブロックや焼土、炭化物を斑状に含む暗褐色土の単層である。炭化物などが斑状に混入しているため、人為堆積と思われる。

【柱穴】主柱穴は、SKP461・463・523・541・546・574・593・595・636と思われる。

【炉（SN623）】床面南東に位置する。長軸0.86m、短軸0.3m、深さ0.07mの不整形である。SKP519直上に被熱赤色化面が形成されており、焼土層を覆うように地山由来の黄褐色土が堆積している。赤色化し、硬化面が形成されていることから地床炉であると考えられる。被熱赤化面がそれほど厚くないことから、比較的短期間の利用であったと推測される。SKP519のプランが覆うように被熱赤色化面が形成されていたため、廃絶の際、人為的に埋め、SKP519直上を地床炉として利用した可能性がある。また、埋土から黒曜石製剥片（第242図２）が１点出土し、理化学分析の結果、男鹿産と推定された。

【出土遺物】第179図３は口縁部破片で、波頂部下に貫通孔を配し、そこから隆帯で縦区画、両側に横区画を設け、区画内に刺突列を施す。また、剥片類が137.4ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位や埋土内から出土した土器から縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。（小松）

SI475（第39図、図版22・23）

【検出状況】LS54グリッドに位置する。ST252Ⅱ層を精査中に黄色土の楕円形プランを検出した。掘り下げたところ、明瞭な壁と土器埋設炉を検出したため住居と判断した。

【規模・形態】長径3.1m、短径2.5m、深さ0.31mである。主軸方向はN－58°－Wである。平面形は楕円形で、断面形は逆台形となる。床面中央に土器埋設炉（SR573）を持つ。

【堆積土】床面直上に0.2～1.0cmの厚さで炭化物層が堆積する。炭化物層の直上にはST252Ⅱ層由来の黄色土が堆積している。

【柱穴】主柱穴はSKP575・577・503と思われる。

【炉（SR573）】0.3m四方の方形を呈する土器埋設炉で、深さ0.2mである。主軸方向はN－80°－Wである。掘り込みは円形を呈する。土器底部は打ち欠かれ、炉床は地山面をそのまま利用している。掘り込み内の埋土は炭化物を多く含み、弱く赤色化する。土器内部の炉床上には薄く炭化物が堆積しているが、周囲や炉床の赤色化はあまり進行しておらず、比較的短期間の利用だったと推測できる。炭化物層直上に被熱痕のない石鏃が置かれ、Ⅴ層由来土を用いて埋め戻されている。炉または住居の廃絶時の祭祀的行為に関連して、石鏃が置かれた可能性がある。

【出土遺物】第179図４は炉体土器で、口端に縄を押捺した隆帯を巡らし、一部に横位「Ｓ」字状文を配する。その下部に２条一単位の沈線を垂下させて胴上半部文様帯の縦区画とし、そこから２～３条の横走沈線を施す。第179図５は波状口縁の波頂部に縦位の隆帯を配し、口縁部文様帯の下端を隆帯で区画する。口縁部文様帯には、上段に３条の横走する縄圧痕を、下段に楕円状の隆帯とその内部に縦位の短い縄圧痕を施す。また、石鏃１点、石錐１点、石核１点、敲石１点、特殊磨石１点、剥片類が439.8ｇ、石核が50.5ｇ出土した。

【所見・時期】炉体土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｅ式期）の、床面中央に土器埋設炉を伴う竪穴建物と考えられる。炉床に堆積した炭化物層の直上に被熱痕のない石鏃が置かれており、廃絶儀礼によるものと推測される。住居の床一面には炭化物が堆積しており、廃絶に伴って火を放った可能性が考えられる。この炭化物層直上にST252Ⅱ層由来土が堆積することから、住居廃絶後にST252Ⅱ

層が盛られたことが分かる。なお、土器埋設炉内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、3,334calBC～3,019calBC（2σ）の年代値が得られた。　（森谷）

SI567（第40図、図版23）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。SI422の床面を精査中、北東隅で焼土の集中を確認した。掘り進めたところ、方形に並ぶ石囲炉と住居の立ち上がり、床面と考えられる硬化面を一部確認したため、竪穴建物跡と判断した。SK446と平面分布が一部重なるものの、新旧関係は不明である。

【規模・形態】長径4.7m、短径4.0m、深さ0.29mである。主軸方向はN－29°－Eである。一部しか壁面の立ち上がりが検出できなかったことから、住居の全形は判然としないが、床面と考えられる硬化面の検出状況からは、円形になるものと考えられる。床面は固く締まり、細かい炭化物が広がる。炉は推定住居範囲の北側に位置し、石囲炉（SQN635）と複式炉（SQN619）が切り合う。作り替えか、当遺構と同じ範囲でもう一棟竪穴建物があったと考えられる。

【堆積土】５層に分層した。堆積土はいずれも焼土や炭化物を粒状に含んでおり、ST252Ⅰ層由来と考えられる。

【柱穴】判然としないものの、SKP578・579が用いられていた可能性がある。

【炉（SQN619）】長軸1.06m、短軸0.75m、深さ0.19mで、主軸方向はN－75°－Wである。土器埋設部を伴う複式炉で、石組部はST252Ⅱ層を方形に掘り込んだ後に、壁面に扁平な砂岩を、側面を上にして置いている。礫は強く被熱していて、内部に石組はない。SQN635石囲炉と重複し、当遺構が新しい。西側の一部礫はSQN635石囲炉のものを再利用したものと考えられ、特に被熱が激しい。廃絶時に石組部を埋め戻した後、埋土直上に礫を一つ据えている。石組部内側は強く被熱し、炉床は赤色化している。ST252Ⅱ層由来土に焼土・炭化物が多く混入し、一括の人為堆積と考えられる。

【炉（SQN635）】長軸0.7m、短軸0.65m、深さ0.11mで主軸方向はN－61°－Wである。方形に礫が組まれ、砂岩・泥岩を使用している。SQN619複式炉と重複し、当遺構が古いものの、礫の配置は大きく変えずに再利用されている。礫は強く被熱し、SQN619との境界に位置し、再利用されている砂岩は最も強く被熱している。Ⅴ層由来の土で埋め戻されており、層中には炭化物や焼土を多く含む。堆積土はST252Ⅰ層・Ⅲb下層と同質である。

【出土遺物】第179図８は口縁部下端を押し引き状の刺突列で区画し、その直下に垂下する沈線を施す。第179図９は沈線で囲い込み、縄文を充填する。第180図１は平口縁に一部突起が付く形状で、口縁部文様帯には横走する縄圧痕とその隙間の一部に「ハ」字状の縄圧痕が認められる。胴部は単節斜縄文と結節回転文を施す。第179図７は胴部破片で、口縁部文様帯を区画する隆帯が一部残存する。胴部は横位の結束羽状縄文を施す。第179図６・10は地文のみの土器で、10は外反し、６は直立気味に立ち上がる。６は口縁部が狭い無文帯になる。石匙１点、スクレイパー２点、両面調整石器２点、石核１点、敲石１点、特殊磨石１点、孔空き石１点、磨製石製品１点、剥片類が589.3ｇ、石核が19.5ｇ出土した。なお、炉内から剥片類が9.4ｇ出土したが、いずれに伴うかは不明である。

【所見・時期】検出層位及びSQN635炉体土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）の住居と考えられる。また、２基の炉は床面硬化範囲の末端に接することから、当遺構に伴うものと判断した。二つの炉はSI567に伴うものと考えられるが、作り替えなのか、竪穴建物自体が重複しているのかは判断できなかった。石組部埋土直上の礫は炉の廃絶儀礼の可能性がある。なお、SQN619複式炉から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、2,573calBC～2,467calBC（2σ）の年代値が得られた。　（森谷）

SI638（第41図、図版24）

【検出状況】LE66・67、LF66・67グリッドに位置する。ST247直下でSR283、SKP317・318を検出し、断面の堆積状況を再検討した結果、竪穴建物跡と判断した。

【規模・形態】一部しか検出できていないため、全体の規模は不明だが、調査区北壁では幅3.97m、東壁では幅2.24mである。深さは1.05mで、壁はやや急に立ち上がる。

【堆積土】14層に分層した。地山ブロックや炭化物、焼土ブロックを含む暗褐色～褐色土を基調とし、その間に炭化物を多く含む黒褐色土層が形成されていたため、投げ入れ土等による人為堆積と考えられる。９層は粘性が強く、地山由来の黄褐色土と暗褐色・黒褐色土がラミナ状に堆積しているため水成堆積と思われる。

【柱穴】SKP317・318が用いられたと考えられる。

【炉（SR283）】床面南側に位置する土器埋設炉である。床面にて暗褐色のだるま形のプランを検出し、断面を確認したところ、土器内に焼土層が形成されていたため土器埋設炉と判断した。長軸0.63m、短軸0.38m、深さ0.2mで、立ち上がりは急である。土器は２個体埋設されていた。北側の土器は粗製土器の完形で、正位に埋設されていた。南側の土器は逆位に埋設され胴部以下が打ち欠かれており、内面は被熱している。北側の土器内に炭化物が土壌化した黒色土層、南側の土器に焼土層が形成されている。土器上部にはSI638埋土由来の暗褐色～褐色土が堆積している。南側の土器内には、高さ調整と思われるⅤ層由来の黄褐色砂が入れられ、その上面に焼土層が形成されている。一方、北側の土器内には黄褐色砂がなく、土器内全体が暗褐色～黒色土で満たされており、当初から炭等を入れるために北側の土器が埋設されたと思われる。加えて、剥片類が4.4ｇ出土した。

【出土遺物】第180図２と３は炉体土器で、２は胴上部文様帯を横位の直線と弧状の隆線で区画し、各区画内に刺突列を施す。口端部には、横位波状の隆線を施す。３は胴下半部のみの資料で、横位の結束羽状縄文が認められる。第180図４は波状口縁の破片で、隆線により波頂部下に縦区画、そこから５段の横位区画を設け、各区画内に刺突列を施す。第180図５は平口縁で、胴上半部文様帯の上下に縄を押捺した波状隆線を配し、その間を横位の直線と弧状の隆線で区画し、各区画内に刺突列を施す。第180図６は波状口縁の資料で、波頂部下に円形突起を配し、それ以外は地文のみである。第180図７は口縁部を無文帯、その下に３条の沈線と間に刺突列を施す。第180図８は波状口縁で地文のみを施す。第180図９は撚糸地に蕨手状と「U」字状の懸垂文を交互に施す。第181図１は網代痕を施す底部破片である。また、石鏃３点、石槍１点、スクレイパー１点、石核５点、磨製石斧１点、凹み石２点、磨石２点、石皿１点、石錘１点、剥片類1482.5ｇ、石核41.5ｇが出土した。さらに、黒曜石製剥片（第244図１）が１点出土し、理化学分析の結果、男鹿産と推定された。

【所見・時期】炉体土器から縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）に構築された竪穴建物跡と考えられる。住居の一部しか調査できていないため詳細な性格は不明だが、掘り込みの深さや壁の近くに炉があることから、炉を複数有する大形住居の可能性が考えられる。暗褐色～褐色土層と炭化物を多量に含む黒褐色土層が互層になっているため、廃絶後は一度に埋めることはなく、出土土器から縄文時代中期後葉（最花式期）まで、生活排土等の捨て場として利用されたと思われる。なお、北側の土器埋設遺構内３層から採取した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正）の結果、3,340calBC－3,097calBCの年代値が得られた。（小松）

SI652（第41図）

【検出状況】LT52、MA52・53グリッドに位置する。Ⅴ層上面にて褐色土の広がりとして確認した。断

面観察の結果、明瞭な立ち上がりが見られたため、竪穴建物跡と判断した。

【規模・形態】上部はST252造成に伴う削平（SX4186）によって、大部分が失われている。そのため平面形は不明である。残存する深さは0.08mである。

【堆積土】残存部で確認できるのは単層である。炭化物を僅かに含む褐色シルトであるが、残存部からは人為堆積か自然堆積かの判断はできない。

【柱穴】２基検出した。SKP823は長軸0.46m、短軸0.34mの楕円形で、確認面からの深さは0.22m、SKP824は長軸0.74m、短軸0.52mの楕円形で、確認面からの深さは0.18mである。

【炉（SN665）】地床炉である。確認面での長軸は0.24m、幅0.14mで、深さは0.04mである。

【出土遺物】石鏃２点、凹み石１点、磨石１点、剥片類が44.8ｇ出土した。

【所見・時期】SX4186により、上部が削平されており残存状態が悪い。検出面から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）の竪穴建物跡と推定される。（髙橋）

SI786（第42図、図版24）

【検出状況】LS52・53、LT52・53グリッドに位置する。Ⅴ層上面にて暗褐色土～褐色土の広がりとして確認した。SK754より旧く、SI795、SK783より新しい。

【規模・形態】残存部から、平面形は隅丸方形と考えられる。長径4.39m、短径4.0m（推定）、確認面からの深さは0.18mである。壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】３層に分層した。各層とも炭化物・焼土粒・黄褐色土ブロックを斑状に含み、人為堆積の埋め戻し土と考えられる。

【柱穴】SKP790・791・793が柱穴になる可能性がある。

【炉（SN813）】地床炉である。確認面での長軸は1.06m、短軸0.72mで、被熱面の長軸は0.78m、短軸0.56mである。深さは0.08mである。被熱の程度は弱く、炭化物層が遺構の機能面と推定される。SKP809、SKP810に切られる。

【出土遺物】第181図２はロ縁部破片で、口端に刺突列、口縁部文様帯に横位多段の縄圧痕を施す。第181図３はロ端に縄を押捺した隆帯を巡らし、その下に横位の縄圧痕を施す。第200図11はSKP790から出土したロ縁部破片で、縦区画の隆帯が確認できる。第200図12はSKP791から出土したロ縁部付近の破片で、縄圧痕による文様が確認できる。また、凹み石１点、剥片類が140.6ｇ出土した。

【所見・時期】ST252－ＩＪラインでは、本遺構がST252Ⅳ層下層とSI795を掘りこみ、さらに本遺構の埋土直上にST252Ⅲ層が堆積することが分かる。SI795を切ることから、縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～ｄ式期）と推測される。（髙橋・大上）

SI795（第43・44図、図版24）

【検出状況】LS・LT53グリッドに位置する。Ⅴ層上面にて暗褐色土～褐色土の広がりとして確認した。SI786より旧い。

【規模・形態】平面形は不明である。残存部の長軸3.42m、確認面からの深さは最大で0.24mである。壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】７層に分層した。いずれの層も炭化物やⅤ層由来土を斑状に含むことから、人為的な埋め戻し土と判断した。土層の流れから、埋め戻しは西から東側の方向で行われていると考えられる。

【柱穴】SKP771、SKP772、SKP811が柱穴となる可能性がある。また、西壁付近に径10cm前後の小ピットが５か所（SI795－Ｐ１～５）確認されており、上屋を支える柱穴の可能性がある。

【炉（SN765）】土器埋設炉である。掘方は長径0.74m、短径0.54mの暗褐色土の広がりとして確認した。炉体は口縁部の一部と底部が欠損した、直径約20cmの深鉢形土器であり、住居床面から掘り込み底面までの深さは0.19mである。土器は正位に埋設され、内側は褐色土で埋め戻され、中程に土器片が敷き詰められ、上部には石が置かれていた。埋設土器の裏込め土は黄褐色砂質シルトで僅かに暗褐色土ブロックを含む。

【炉（SN770】 長径は0.98m、短径は0.62mで、平面形は楕円形を呈する。主軸方向はN－22°－Eである。住居床面から掘り込み面までの深さは0.29mである。１層は埋め戻し土で、３層に暗赤褐色焼土を挟むことから、２時期に分かれる地床炉である。４層上面で一度つくり直して、２層上面を再び機能面としたと思われる。

【炉（SN775）】長径は0.78m、短径0.52mで、平面形が楕円形を呈する掘込炉である。主軸方向はN－18°－Eである。深さは0.32mである。堆積土は４層に分層した。掘り込んで埋め戻した後に焼土が形成されている。掘り込み（５層）がこの遺構の掘り方か、別の土坑の転用かは不明である。

【出土遺物】第181図４はSN765の炉体土器である。口縁部文様帯の上下を縄で押捺した隆帯で区画し、一部に同じ隆帯で縦区画を施し、区画内に馬蹄形の縄圧痕列を施す。また扁平石器１点、石皿１点、剥片類が14.0ｇ出土した。

【所見・時期】ST252－ⅠJラインでは、本遺構がST252Ⅲ層最下層（27層）を掘り込むことが分かる。また、本遺構を切るSI786は、ST252Ⅳ層下層を掘り込み、その埋土直上にST252Ⅲ層が堆積している。よって本遺構は、ST252Ⅲ層が堆積して間もない頃の遺構と考えられ、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と推測される。SN765の炉体土器はＡ３類土器であるが、これは古手の土器を炉体土器に転用した可能性がある。（髙橋・大上）

SI3036（第45・46図、図版25）

【検出状況】MD・ME53グリッドに位置する。ST252Ⅱ層を掘削中、平坦部でSQN3034を検出した。竪穴建物跡の可能性を考えながら精査を進めたところ、床面と考えられる硬化面を確認した。加えて、調査区北壁で緩やかながら立ち上がりが確認できたため、竪穴建物跡と判断した。

【規模・形態】確認された硬化面は、東西方向に広がる。床面プランは調査区外へとのびる。確認した範囲内での長軸は4.97m、短軸は2.09m、主軸方位はN－82°－Wである。壁面は断面で確認したのみである。

【堆積土】床面直上にはST252Ⅰ層が堆積する。

【炉（SQN3034）】床面中央やや東寄りに位置する石囲炉である。平面形は長径0.86m、短径0.60mで礫が楕円形に並ぶ。主軸方向はN－15°－Eである。本遺構を構成する礫はいずれも使用痕が認められたことから石皿と判断した。底面には礫を据えるための楕円形の掘方が確認される。確認面からの深さは0.18mで、壁の立ち上がりは南側から西側が垂直気味、北側から東側は緩やかに外反する。埋土は６層に分層した。１・５層は現地性の焼土、２層は人為的な埋め戻し土、３～４層は掘方埋土である。１層は炉の廃絶に伴ってこの場で火が焚かれた時に生じた可能性がある。

【出土遺物】第181図６はSQN3034埋土内から出土した土器で、２条一単位の沈線で曲線的に区画し、その内部を無文としている。またSQN3034埋土内から黒曜石製剥片（第246図４）が１点出土し、男鹿産と推定された。SI3036埋土内から出土した遺物はないものの、床面と炉を検出した段階で竪穴建物跡と判断しており、本来SI3036埋土内に存在していた遺物を、ST252Ⅰ層出土として取り上げている可能性がある。

【所見・時期】検出層位や炉内から出土した土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）と考えられる。硬化面直上にはST252Ⅰ層が堆積することから、本遺構の廃絶直後にST252Ⅰ層が盛られたと考えられる。（大上）

SI3037（第45・46図、図版25）

【検出状況】ME・MF53グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を掘削中、平坦部でSQN3028を検出した。竪穴建物跡の可能性を考慮し精査を進め、床面と考えられる硬化面を確認したため、竪穴建物の床面であると判断した。調査時に壁面の精査を十分に行えておらず、立ち上がりを把握できていなかった。整理作業時に調査区北壁の断面図、写真を見返し、北側硬化面の範囲において壁面の立ち上がりを確認した。

【規模・形態】確認された硬化面は、東西方向に広がる。床面プランは調査区外へとのびる。確認した範囲内での長軸は2.54m、短軸は1.57m、主軸方位はN－65°－Eである。壁面は断面で確認したのみである。壁面の立ち上がりを現場で記録できておらず、記録写真から推定した破線で図示した。南側の壁面はほぼ立ち上がりを持たないが、これは本遺構の南端が斜面端に位置することから、元々壁面があまり立ち上がらずに斜面下に向かって開口するような作りであったためと考えられる。

【堆積土】ST252Ⅲ層由来土中に、Ⅴ層由来の褐色土が帯状に混入する。

【炉（SQN3028）】床面中央やや西寄りに位置する石囲炉である。長径0.36m、短径0.24mの楕円形を呈し、主軸方位はN－12°－Wである。住居床面からの深さは0.05mで断面形は皿形を呈する。掘り込みの東側には長さ22～28cmの扁平礫を短軸が立つように配し、礫の頂点は被熱している。西側に礫はみられないが、掘り込み内から廃絶時に抜き取られたとみられる長さ30cmの礫が出土した。炉の埋土は２層に分層した。１層は埋め戻しされた焼土、２層は炉構築時の裏込め土である。石囲炉として機能した後、廃絶時に西側半分の礫が抜き取られたとみられる。

【出土遺物】第181図５はSQN3028埋土から出土した土器で、胴上部文様帯を縦区画する沈線とそこから斜位に延びる２条一単位の沈線が認められる。またSQN3028埋土内から焼成粘土塊も１点出土した。SI3037埋土内出土遺物は確認できなかったものの、床面と炉を検出した段階で竪穴建物跡と判断したため、それ以前に出土した遺物はST252Ⅱ・Ⅲ層出土として取り上げてしまっている可能性がある。

【所見・時期】検出層位や炉内出土土器から縄文時代中期中葉（円筒上層ｅ式期）と考えられる。ST252Ⅲ層中に構築された遺構である。（小山・大上）

SI3052（第47図、図版25）

【検出状況】MD52・53、ME52・53グリッドに位置する。Ⅴ層上面で東西にのびる暗褐色・褐色の長楕円形プランと炉を検出したため、竪穴建物跡であると判断した。

【規模・形態】長軸2.89m、残存短軸1.78mの東西方向に長い長楕円形プランを呈する。主軸方向はN－71°－Wである。確認面からの深さは0.28mで、断面形は浅い皿形を呈し、北・東・西壁は直立気味に立ち上がるが、南壁の立ち上がりは不明瞭である。底面は概ね平坦だが、南側は斜面に沿って傾斜しており、斜面下に向かって開口した竪穴建物跡と想定される。

【堆積土】５層に分層した。１～５層はⅤ層由来土を多く含むことから本遺構を埋め戻す人為堆積土である。４・５層は東西壁と北壁付近にのみ認められる人為堆積土で、遺構南側までは堆積していない。

【炉（SN3126）】掘込炉である。長軸0.65m、短軸0.50mで、平面形は東西方向にのびる円形プラン

を呈する。主軸方向Ｎ－78°－Ｗである。確認面からの深さは0.04ｍである。埋土は５層に分層した。１～４層は人為的な埋め戻し土である。５層は現地性の焼土であるが、残存している焼土の厚さは最大0.03ｍと非常に小規模である。

【出土遺物】第181図７は、横位の結束羽状縄文が認められる胴下半部のみの資料である。胴部から底部までが残存しており、地文縄文である。１層上層から両面調整石器１点に加え、剥片類129.6ｇがまとまって出土した。これらは同一素材を用いていると考えられる。また、埋土から石錐１点、扁平石器１点が出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。１層からまとまって出土した石器は、本遺構の廃絶後に廃棄されたものと考えられる。　（大上）

SI4011（第48・49図、図版25・26）

【検出状況】MA38・39、MB38・39グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の円形プランを確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりを確認したため、竪穴建物跡と判断した。床面でSN4048の他、柱穴様ピット６基を検出した。

【規模・形態】長径5.59ｍ（推定）、短径4.95ｍの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－54°－Ｅである。北側壁は緩やかに、南側・西側はやや急角度で立ち上がっており、東側の壁は確認されなかった。確認面からの深さは床面までは0.75ｍで、SN4048検出面までは1.05ｍである。一段低くなる床面（SK4036）は長軸2.87ｍ、短軸2.77ｍで主軸方向Ｎ－58°－Ｅの不整円形を呈する。断面形は浅い箱形を呈し、SI4011床面からの深さは0.30ｍである。

【堆積土】４層に分層した。１層は丘陵部Ⅱ層由来の黒色シルト、２層は丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色シルト、３層は褐色ブロックを多く含む丘陵部Ⅳ層由来の暗褐色シルト、４層は暗褐色ブロックを多く含む丘陵部Ⅳ層由来の褐色シルトである。１～３層は一段低い床面（SK4036）にも堆積しており、いずれも自然堆積である。

【柱穴】主柱穴にはSKP4161・4163・4164・4165が用いられたと考えられ、いずれも床面から0.20ｍ前後の深さである。

【炉（SN4048）】長軸0.70ｍ、短軸0.53ｍで主軸方向Ｎ－18°－Ｅの不整形を呈する掘込炉である。確認面からの深さは0.02ｍで、断面形は浅いＵ字状を呈する。

【出土遺物】第181図11は浅鉢で、全面縦走縄文を施す。第181図10は胴部破片で、口縁部文様帯を区画する隆帯が一部残存する。第181図８・９は口縁部破片で、８は波状口縁で波頂部下に、縄圧痕を施した「Ｕ」字状の隆帯を配し、そこから横位に縄圧痕を施す。９は幅の狭い口縁部文様帯に斜位の縄圧痕を施し、下端を隆帯で区画する。また石錐１点、両面調整石器１点、磨石１点、穿孔礫１点、剥片類が4.6ｇ出土した。

【所見・時期】出土した土器から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ２式期）と考えられる。なお、SN4048炉内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、3,336calBC～3,033calBC（2σ）の年代値が得られた。　（小山）

SI4049（第50・51図、図版26・27）

【検出状況】ME38～40、MF38～40グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の略円形プランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりを確認したため遺構と判断した。SK4050・SKF4066に切られる。

【規模・形態】直径6.９mの略円形を呈する。主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁は、北西から南西にかけてはやや直立気味に外反しながら立ち上がり、東半部は浅い立ち上がりを残すのみである。確認面からの深さは0.24mである。

【堆積土】２層に分層した。１層は丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色シルト、２層は丘陵部Ⅲ層由来土に地山土が斑状に混じる暗褐色シルトで、いずれも人為堆積とみられる。

【柱穴】主柱穴はその配置と深さから、SKP4075・4076・4085・4089と考えられる。SKP4075はSK4050によって上部が削平を受けている。

【土坑（SK4050）】長径2.98m、短径2.17m、主軸方位Ｎ－９°－Ｅで不整長楕円形を呈する。中心付近が一段低くなる。SN4077より旧く、SI4049の主柱穴であるSKP4075より新しい。壁は外反しながら、やや急角度で立ち上がる。底面には浅いピットが二基構築されている（SKP4078・4079）。埋土は４層に分層でき、１・２層はSI4049－１・２層と共通する人為堆積土である。３層は２層と類似し、由来も同じと考えられるが、炭化物、地山土粒が多く含まれる人為堆積土である。また、その上面からはＡ６類土器、特殊磨石が出土した。４層は丘陵部Ⅳ・Ⅴ層由来の褐色土で、３層由来土がブロック状に混じる人為堆積土である。SI4049の廃絶とほぼ同時にSK4050が構築され、間もなく半分程まで埋め戻されている。３層直上から遺物が密集して出土したことから、SI4049の廃絶時に祭祀的行為が行なわれたと考えられる。

【周溝（SD4072）】西側から南側にかけて壁面に沿うように巡る。北側から東側にかけては、残存状況が悪い。幅は0.１～0.３mほどで、住居床面からの深さは0.14mである。断面形はＵ字形を呈する。埋土はSI4049－２層と同質である。

【土器埋設遺構（SK4070）】長軸0.47m、短軸0.33m、主軸はＮ－61°－Ｅである。断面形は箱形を呈し、確認面からの深さは0.14mである。土器は正位に埋設されていたと考えられるが、根撹乱により原位置を保っていない。埋土は暗褐色シルトの単層である。埋設土器は口縁部を欠いており、時期の判別は難しい。また、SN4077より新しい。本遺構はSI4049－２層から掘り込まれており、SI4049の埋め戻しの途中に構築された遺構である。SI4049・SK4050が円筒上層ｅ式期であることから、本遺構も同時期の可能性がある。

【焼土遺構（SN4077）】残存長軸0.36m、残存短軸0.13mで主軸方向Ｎ－61°－Ｗの不整形を呈する。SI4049－２層中に形成されており、その確認面から0.04mの深さまで被熱が及ぶ。明赤褐色を呈する現地性の焼土である。焼土はSR4070に切られており、SR4070埋土に焼土が入り込まないことを確認したため、SR4070には伴わない独立した焼土遺構と判断した。なお、SK4050より新しい。SR4070同様、SI4049の埋め戻しの途中に構築された遺構である。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、3,334calBC～3,028calBC（2σ）の年代値が得られた。

【出土遺物】第181図12・13はSK4050出土土器である。胴上半部に横走沈線を施す土器で、13は波状口縁、12は平口縁である。第182図１は波状口縁で、波頂部に隆線を施し、波頂部下に２本の弧線と蕨手文を、胴上半部文様帯に３条一単位の横位弧線・直線を３段施す。第182図２は波状口縁で、波頂部に隆線を施す。胴上半部には横位多段に楕円状の沈線文を施す。第182図４は波状口縁で肥厚する口端に縄文を施し、波頂部下を境に横位多段に楕円状の沈線文を配する。第181図12・13、第182図１・２・４は胴上半部文様帯に地文をとどめる。第182図５は口縁部破片で、口端に縄圧痕を、口縁部文様帯にＬ・Ｒを束ねた縄圧痕を横位・斜位に施して、その間に馬蹄形縄圧痕を充填する。第182図５・６はSR4070の埋設土器で、地文のみが認められる胴部・底部資料である。また石鏃１点、石匙１点、両面調整石器１点、磨製石斧２点、敲石１点、剥片類249.３g、ミニチュア土器１点が出土し

た。

【所見・時期】SI4049及びSK4050から出土した土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｅ式期）と考えられる。SK4050は、SI4049の主柱穴であるSKP4075を切ることから、SI4049の廃絶後に構築されたものである。SK4050の遺物出土状況からは、底面から0.2ｍほどまで人為的に埋め戻した後、そこへ遺物を置いたことが分かる。その直後にSI4049とSK4050は同時に埋め戻したと考えられる。SR4070・SN4077は切り合い関係にある遺構であり、両遺構ともSI4049－２層に形成される遺構であることから、SI4049に炉は伴わないことになる。SI4049・SK4050を埋め戻す過程の中で、SI4049中心付近で火を焚き、その後そこへ土器を埋設するという行為が復元できる。（大上）

（３）掘立柱建物跡

SB4187・4188・4189(第52図)

【検出状況】LI63・64、LJ63・64グリッドに位置する。Ⅴ層精査中に柱穴様ピット群を検出し、掘立柱建物跡の可能性が想定されていたが、明確に判断できず、整理作業時に把握した遺構である。SKP426とSKP432、SKP425とSKP639の新旧関係からは、南側から北側へ建替えが行なわれた可能性が想定できた。そうした配置となる柱穴様ピット同士をつなぎ合わせ、３棟の掘立柱建物跡が重複して存在すると判断した。SKP426とSKP432、SKP425とSKP639の新旧関係から、SB4188がSB4189より新しいことが分かる。なお、SKP338・339とSKF337が重複して存在するが、その新旧関係については不明である。

【規模・形態】SB4187はSKP298・424・440・607、SB4188はSKP339・425・426・434、SB4189はSKP338・432・433・639で構成され、いずれも４本柱の方形となる。各柱穴の芯々距離は、SKP424-440間3.2ｍ、SKP440-607間2.3ｍ、SKP607-298間3.5ｍ、SKP298-424間2.3ｍ、SKP434-425間3.4ｍ、SKP425-426間2.4ｍ、SKP426-339間3.4ｍ、SKP339-434間2.2ｍ、SKP433-639間3.5ｍ、SKP639-432間2.4ｍ、SKP432-338間3.1ｍ、SKP338-433間2.6ｍである。

【出土遺物】第182図７はSB4188出土土器である。楕円文と垂下する沈線が確認される。SKP298から磨石１点、SKP339から剥片類32.7ｇ、SKP424から剥片類14.3ｇ、SKP425から剥片類28.9ｇ、SKP426から剥片類40.6ｇ、SKP432から石鏃１点、剥片類6.1ｇ、SKP433から剥片類12.0ｇ、SKP440から剥片類10.3ｇ、SKP607から剥片類1.5ｇが出土した。

【所見・時期】周囲の列石・配石遺構群が縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられることから、同時期と推測される。（大上）

SB4190(第52・53図)

【検出状況】LR55・56、LS55・56グリッドに位置する。Ⅴ層精査中に柱穴様ピット群を検出し、掘立柱建物跡の可能性が想定されていたが、明確に判断できず、整理作業時に把握した遺構である。既に把握していたSB4187・4188・4189の規模を参考にしながら検討したところ、掘立柱建物跡が１棟存在すると判断した。

【規模・形態】SB4190はSKP272・302・353・407で構成され、４本柱の方形となる。各柱穴の芯々距離は、SKP353-302間3.0ｍ、SKP302-407間2.9ｍ、SKP407-272間3.3ｍ、SKP272-353間2.7ｍである。

【出土遺物】SKP272から剥片類0.9ｇ、SKP302から石錐１点、剥片類12.7ｇ、SKP353から剥片類5.5ｇ、SKP407から剥片類3.7ｇが出土した。

【所見・時期】周囲の列石・配石遺構群が縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる

ことから、同時期と推測される。　（大上）

（４）竪穴状遺構

SKI307（第30・31図、図版18）

【検出状況】ＬＥ66・67グリッドに位置する。ST247－AB・CD断面でST247層中に立ち上がりを確認した。SKI310に切られる。

【規模・形態】ST247－AB断面で確認できる規模は幅2.5m、ST247－CD断面で確認できる規模は幅2.5mである。平面プランは確認できなかったが、西～南西方向に広がると思われる。深さは0.20～0.23mで、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】ST247由来のブロック状の炭化物を多く含む黒色土である。埋土中からは土器が多量に出土しており、人為的な埋め戻し土と思われる。

【出土遺物】第182図８、第183図１・３は口縁部を無文とする土器である。第182図８は胴部から湾曲して立ち上がり頸部で屈曲し口縁部がわずかに外反する器形で、頸部の１か所に円形貼付を配し、その両側に平行沈線で「Ｕ」字状文を施す。第183図３は胴部に「Ｖ」字状の沈線が認められる。第183図１は口縁部下端に刺突列を施す。第183図２・４・５は地文のみが認められる。第183図５は口縁部がわずかに肥厚する。また、土器片利用土製品１点、石鏃２点、石核３点、凹み石１点、剥片類が250.7ｇ出土した。

【所見・時期】出土土器及び検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と思われる。　（小松）

SKI308（第30・31図、図版18）

【検出状況】LE66グリッドに位置する。ST247－AB・CD断面でST247層中に立ち上がりを確認した。SI638、SKI309、SX315より新しい。

【規模・形態】北壁面で確認できる規模は幅2.1m、東壁で確認できる規模は幅1.58mである。平面プランは確認できなかったが、南西方向に広がると思われる。深さは0.16～0.19mで、壁はやや急に立ち上がる。

【堆積土】炭化物や焼土ブロックを多く含むST247由来の黒褐色土である。炭化物や焼土ブロックが斑状に含まれており、人為的な埋め戻し土と思われる。

【出土遺物】第183図６は波状口縁で、わずかに肥厚する口端に縄文を施している。口縁部文様帯も地文をとどめ、波頂部下に上部へ等間隔に押圧を加えた隆帯を垂下させて縦区画とし、そこから横位弧状の隆線を施す。第183図７は口縁部破片で、口端にのみ縄を押捺する隆帯を施す。第183図８は底部資料である。第184図１は胴部から直立気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する器形で、波頂部下にのみ円形貼付を施す。また、石鏃２点、扁平石器１点、剥片類が529.4ｇ、石核が15.0ｇ出土した。

【所見・時期】ST247の堆積土中に構築されることから、本遺構は縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（小松）

SKI309（第30・31図、図版18）

【検出状況】LE66・67グリッドに位置する。ST247－AB・CD断面で立ち上がりを確認した。SI638より新しく、ST247、SKI308より旧い。

【規模・形態】壁面で確認できる規模は幅2.1mである。平面プランは確認できなかったが、北東～

南西方向に広がると思われる。深さは0.32ｍで、壁は急に立ち上がる。

【堆積土】炭化物やST247由来の暗褐色土を多く含む褐色土の単層である。暗褐色土が斑状に含まれており、人為的な埋め戻し土と考えられる。

【出土遺物】第184図２は口縁部破片で、横位・斜位の隆帯を施す。第184図３は口縁部の小破片で、口端に隆帯を施す。また、剥片類が60.0ｇ、石核が23.0ｇ出土した。

【所見・時期】各遺構との新旧関係から、本遺構は縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。

（小松）

SKI310（第30図、図版18）

【検出状況】LE・LF67グリッドに位置する。ST247－AB断面で立ち上がりを確認した。ST247、SI307より新しい。

【規模・形態】北壁面で確認できる規模は幅2.77ｍである。平面プランは確認できなかったが、南方向に広がると考えられる。深さは0.19ｍで、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は地山ブロックや炭化物、焼土ブロックを含むⅢａ～ｂ層由来の暗褐色土、２層はⅤ層由来の黄褐色土である。

【出土遺物】第184図４は口縁部の上下を隆線で区画し内部は無文である。胴上部に横位の沈線が確認できる。第184図７は口縁部を無文にし、胴部に撚糸文を施す。第184図６は口縁部下端に刺突列を配し、上部を無文、下部に懸垂文を施す。第184図８は口縁部が直立気味に立ち上がる地文のみの土器である。第184図５は底部資料で、底部外面に縄圧痕が認められる。また、ミニチュア土器１点、土器片利用土製品１点、石鏃１点、石核１点、磨製石斧１点、剥片類が260.7ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位及び出土土器から、本遺構は縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。

（小松）

SKI651（第53図、図版28）

【検出状況】MA52グリッドに位置する。Ⅴ層上面にて暗褐色土の広がりとして確認した。SK650より旧い。

【規模・形態】SX4186やSI390によって、上部の大部分が失われていると推測される。残存する深さは0.09ｍで、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】炭化物と黄褐色土ブロックを斑状に含む暗褐色シルトであり、人為堆積の埋め戻し土と判断される。

【出土遺物】第184図９・10は口縁部資料で、９は縦位の区画隆帯から横に３条の縄圧痕を施す。10は肥厚する口唇と隆帯上に撚糸を、隆帯の脇に馬蹄形状の縄圧痕を施す。また石鏃１点、両面調整石器１点、剥片類が100.2ｇ、石核が38.5ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位や出土した土器から縄文時代中期前葉（円筒上層ｂ式期）と考えられる。上部が削平された竪穴建物跡の可能性があるが、炉や柱穴は検出されなかった。（髙橋）

SKI3053（第53図、図版28）

【検出状況】MD51・52グリッドに位置する。ST252土層断面観察のためのサブトレンチにて、立ち上がりを検出した。その後、平面を確認するために周囲を掘削したところ、ST252Ⅲ層及びⅤ層上面で黒褐色土の長楕円形プランを検出したため、遺構と判断した。

【規模・形態】残存長軸2.86ｍ、残存短軸1.05ｍで、東西に長い楕円形を呈する。主軸方向はＮ－85°－Ｅである。西壁から北東壁の立ち上がりは急である。確認面からの深さは0.42ｍである。

【堆積土】ST252Ⅲ層由来土の単層である。

【柱穴】北壁際に柱穴様ピットが１基存在する。

【出土遺物】第184図11は底部から直立気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁部は４単位の小波状で、波状下に橋状突起を、橋状突起の間に楕円形状の貼付を配する。その間を複数段の横位縄圧痕で埋める。また、剥片類が1.7ｇ出土した。

【所見・時期】ST252Ⅲ層由来土の単層であることから縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式期）と考えられる。（大上）

SKI3096（第54図、図版28）

【検出状況】MD53グリッドに位置する。Ⅴ層上面及び、SX4185による削平を免れ、一部残存したⅣ層中で暗褐色土の長楕円形プランを検出した。断面で立ち上がりも確認できたことから遺構と判断した。SKI3097より新しい。

【規模・形態】遺構は調査区外北側へ続いている。残存長軸3.42ｍ、残存短軸1.00ｍで、部分的な検出に留まるが、平面形は略方形と考えられる。主軸方向は不明である。壁は外反しながら立ち上がる。確認面からの深さは0.25ｍである。底面は中央付近がやや窪むものの、おおむね平坦である。

【堆積土】床面直上にはST252Ⅲ層由来土が堆積する。また、北側では底面直上に約１～４cm程の厚さの炭化物層（ST252－YZライン91層）が確認された。東側に堆積する70・73層は、本遺構の壁面を越え、さらに東側へとのびていく。

【柱穴】９基の柱穴様ピットが確認された。SKI3096－Ｐ７堆積土は87～89層を切るようにして堆積する。本遺構がST252Ⅲ層によって埋められる際には、木柱の根元が残っており、その後腐食したことでその空隙へST252Ⅲ層が入り込んでいったものと考えられる。

【出土遺物】第184図12は、波状口縁で縦位の隆帯から両側に複数段の横位縄圧痕を施す。また孔空き石１点、剥片類が4.6ｇ出土した。

【所見・時期】堆積土がST252Ⅲ層由来土であるため、ST252Ⅲ層の造成開始と本遺構の廃絶はほぼ同時期と考えられ、本遺構の時期は縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～ｄ式期）と考えられる。本遺構の堆積土のうち、85層はSKI3097床面直上にまたがって堆積することから、本遺構とSKI3097の廃絶には、ほぼ時間差がないものと推測される。なお、底面から検出した炭化物層は本遺構の廃絶儀礼に関わる可能性があり、この炭化物層の放射性炭素年代測定（暦年較正）の結果、3,343calBC－3,105calBC（2σ）の年代値が得られた。（大上）

SKI3097（第54図、図版28）

【検出状況】ME53グリッドに位置する。Ⅴ層上面及び、SX4185による削平を免れ、一部残存したⅣ層中で暗褐色土の円形プランを検出し、立ち上がりも確認できたことから竪穴建物跡と判断した。SKI3096より旧い。

【規模・形態】東半部はSKI3096と切り合い、北半部は調査区外へとのびている。残存長軸1.59ｍ、残存短軸1.43ｍで主軸方向は不明だが、円形を呈すると思われる。深さは0.28ｍで、断面形は皿形を呈し、直立気味に外反しながら立ち上がる。

【堆積土】底面直上にはST252Ⅲ層由来土が堆積する。

【柱穴】SKI3097－Ｐ１が柱穴になる可能性がある。

【出土遺物】第184図13は、口唇が肥厚し、全面地文のみを施す。また、玉類１点、剥片類が43.0ｇ出土した。加えて、SKI3097とSKI3097－Ｐ１の埋土から黒曜石製剥片が１点ずつ出土し（第251図４・６）、理化学分析の結果、どちらも男鹿産と推定された。

【所見・時期】SKI3096と同様に遺構内の埋土がST252Ⅲ層由来の堆積土であること、さらに出土した土器からも縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～ｄ式期）と考えられる。床面直上の堆積土である85層はSKI3096にまたがって堆積することから、本遺構とSKI3096の廃絶にはほぼ時間差がないものと考えられる。（大上）

SKI4010（第54図、図版28）

【検出状況】MB・MC39グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の円形プランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりを確認したため遺構と判断した。SKI4010上にSQ4009が構築され、SK4046より新しい。SK4047との新旧関係は不明である。

【規模・形態】大半が調査区外へ続いており、長軸5.75m、短軸1.76m（残存値）である。主軸方向はＮ－80°－Ｅで、円形を呈するとみられる。断面形はごく浅い緩やかな皿形を呈し、確認面からの深さは0.47mである。

【堆積土】２層に分層した。１層は丘陵部Ⅱ層由来の黒褐色シルトで、自然堆積とみられる。２層は丘陵部Ⅳ層由来の暗褐色シルトで、地山ブロックを多量に含むことから人為堆積の可能性がある。なお、SK4046・4047の３・４層にそれぞれ対応する。

【出土遺物】剥片類が77.7ｇ出土した。

【所見・時期】本遺構直上に構築されたSQ4009からＢ２類土器が出土していることから、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前と考えられる。本遺構上でSQ4009が確認されたことから竪穴建物跡と推定し精査したが、炉や柱穴が確認できなかったため、竪穴状遺構と判断した。しかし、大半が調査区外へ続いてそのまま急傾斜地に至ることから、自然地形の落ち込みの可能性も否定できない。（小山）

SKI4180（第17図）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。現場では遺構としては把握できていなかったものの、整理作業時にST252－ABライン断面の記録写真、断面図を確認したところ、ST252Ⅲ層を掘り込む立ち上がりを確認したことから遺構として認定した。ST252－IJ、KL断面にも立ち上がりが存在するはずだが、明らかにすることはできなかった。SK449、SK457に切られる。

【規模・形態】調査時に平面形を十分に把握できていなかったため、不詳である。断面で確認できる幅は3.3mである。東壁は外反しながら立ち上がる。西壁は直立気味に立ち上がる。

【堆積土】１層は褐色シルト、２層は暗褐色シルトで、どちらもST252Ⅲ層由来土である。

【所見・時期】検出層位及び埋土から、縄文時代中期前葉～中葉(円筒上層ｃ～ｄ式期)と考えられる。（大上）

（５）列石遺構

SQ7（第55図、図版29）

【検出状況】LQ59グリッドに位置する。Ⅲｂ層精査中に礫の集中を確認した。掘り込みが確認できなかったため周囲を掘り下げたところ、礫が列状に並ぶことを確認できた。礫は一部Ⅳ・Ⅴ層に接する

ものがあるものの、多くはⅢｂ層上に置かれる。

【規模・形態】北西－南東軸5.0ｍ、北東－南西軸2.5ｍで、主軸方向はＮ－54°－Ｗである。調査区を東西に横断するように0.2～0.6ｍ大の礫が列状に並ぶ。南東側は礫が途切れているが、北西側は調査区外に延びる可能性がある。

【出土遺物】第185図２は口縁部小破片で、区画沈線沿いに刺突列が、その内部に縄文が認められる。内面には突起を付ける。第185図３と４は口縁部付近の破片で、３は円形貼付文、４は地文上に刺突列が認められる。また、磨製石斧１点、玉類１点、剥片類が9.3ｇ出土した。

【所見・時期】SQ７を覆うように木根があるため、その影響で礫が動いている可能性がある。礫を縦置きして据えるものと平置きにしているものがあり、北側は縦置きが多く、南側は平置きにされているものが多い。基本的には列状に並ぶが、南東端、北端は礫の配置がまばらになっているため別遺構の可能性がある。構築面がⅢｂ層であることから、時期は縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷・大上）

SQ27（第56図、図版29）

【検出状況】LK62、LL62・63、LM63グリッドに位置する。Ⅲa層精査中に礫の頂部を検出し、Ⅲｂ層まで掘り下げたところ、規則的に礫が並ぶ様子を確認した。

【規模・形態】北西－南東軸9.4ｍ、北東－南西軸0.76ｍ、主軸方向Ｎ－60°－Ｗの列状をなす。0.3ｍ大の礫を用いて構築され、東西に延びる石列は両端がそれぞれ調査区外へ延びる。礫同士は重ならず、一つずつ並べて列を作っている。

【出土遺物】第185図５・６はいずれも胴部破片で、地文上に一部沈線が認められる。また石核２点、敲石１点、凹み石１点、剥片類が20.5ｇ出土した。

【所見・時期】SQ45と主軸がほぼ揃うことから二列一対の列石遺構と推定される。SQ45は縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭以前に構築された列石遺構と推定でき、本遺構も同時期と考えられる。尾根裾部側の列石遺構と比較すると礫の並べ方が粗雑な印象を受ける。礫同士の間隔も広い。そのため、尾根裾部側とは構築時期に差がある可能性も考えられる。（森谷・大上）

SQ43（第57図）

【検出状況】LR・LS57グリッドに位置する。Ⅲｂ層精査時に礫が列状に並ぶ様子を確認した。周囲を掘り下げたところⅢｂ層中に列をなして礫が並んでいる様子が確認できた。

【規模・形態】北西－南東軸6.0ｍ、北東－南西軸1.5ｍ、主軸方向Ｎ－56°－Ｗの列状をなす。礫は15～20cm大のものを用いている。

【出土遺物】第185図７は口縁部破片で、外削ぎ状の口端に波状隆線を、下部に刺突列を施す隆帯を配する。第185図８・９は胴部破片で、沈線で囲い込んだ中に、８は刺突文、９は葉脈状の沈線を施す。第185図10は底部資料で、底面に網代痕が認められる。また石核１点、敲石２点、石皿１点、石錐１点、剥片類が76.2ｇ出土した。

【所見・時期】斜位に刺さる礫は、斜めに据えるための支えの石がなく、各礫の角度も一定でないことから、構築当時は地面に対し垂直に近い形で立て置かれていたものが、長年の土砂の堆積により徐々に斜めに倒れていった可能性が高い。構築面がⅢｂ層であることから、時期は縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と判断した。（小松・大上）

SQ45（第58図、図版30）

【検出状況】LL62、LM62・63、LN62・63グリッドに位置する。Ⅲｂ層で点在する礫のまとまりを検出し、掘り下げていくと列状に並ぶ礫を確認できた。礫は一部Ⅳ・Ⅴ層に接するものがあるものの、多くはⅢｂ層上に置かれる。SR231より旧い。

【規模・形態】北西－南東軸10.5ｍ、北東－南西軸0.9ｍ、主軸方向Ｎ－89°－Ｗの列石遺構と考えられる。北西、南東にそれぞれ礫が列状に並び、調査区外へ続く様子が確認できた。

【出土遺物】第185図11・12は、胴部破片である。11は磨消縄文、12は撚糸文が認められる。また、敲石１点、石棒１点が、列石を構成する礫として用いられている。加えて、剥片類が9.6ｇ出土した。

【所見・時期】SQ27とほぼ主軸方向が一致し、両遺構ともⅢｂ層が構築面と判断できるため、二列一対の列石遺構となる可能性がある。構築面に加え、大木10式期の土器埋設遺構（SR231）に切られていることから、縄文時代中期末葉（大木10式期）と考えられる。当遺構は小規模な集石・配石遺構が列状に並んだ遺構と考えられる。北西部では被熱した破損小礫が集中しており、廃棄または何かしらの祭祀行為を行った痕跡の可能性がある。北西部はＬ字状に扁平礫を縦置きして並べている様子が確認できる。（森谷・大上）

SQ49（第59図）

【検出状況】LQ57・58、LR58グリッドに位置する。Ⅲｂ層直上で列状に並ぶ礫を確認した。

【規模・形態】北西－南東軸6.5ｍ、北東－南西軸0.6ｍ、主軸方向Ｎ－50°－Ｗの列石遺構である。30cm大の扁平礫を縦に刺して列状に並べているものがあり、それらの一部はⅣ・Ⅴ層に接するものがある。その他の礫は横倒しの状態でⅢｂ層上に置かれる。

【出土遺物】第185図15～17はいずれも小片で、15は無文部の下端にわずかに刺突列が、16・17は地文のみが認められる。本遺構を構成する礫のうち、１点が石皿であった。また、本遺構周辺から黒曜石製剥片（第253図３）が１点出土し、赤井川産との産地推定分析結果が得られた。加えて、両面調整石器１点、剥片類が222.0ｇ、石核が206.0ｇ出土した。

【所見・時期】南北方向に礫が並び、礫の角が上を向くように据えられている。二列の列石が互い違いに並び、中央部で組み合っている。南東側、礫が一つずつ並べられている部分は本遺構の南側に位置するSQ239と礫の大きさ、並べ方に類似が見られる。構築面がⅢｂ層であることから、時期は縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭の時期に位置づけられる。（森谷・大上）

SQ239（第59図）

【検出状況】LQ57グリッドに位置する。Ⅲｂ層～Ⅳ層精査時に一列に並ぶ礫を確認した。礫は一部Ⅴ層に接するものがあるものの、多くはⅢｂ層中にある。

【規模・形態】北西－南東軸1.8ｍ、北東－南西軸0.2ｍ、主軸方向Ｎ－61°－Ｗの列石遺構である。比較的扁平な礫が側面を上にして立て置かれて並んでいる。北西側には延びず、南東部は調査区外へ延びていく。当遺構南側は0.2ｍほど高くなっており、掘り込んで礫を据えたというより低い、段差上に垂直に立てかけて固定している様子が確認できた。当遺構とSQ49東部列石は使用している礫の大きさや並びが類似しており、SQ49と対となる列石の可能性がある。

【所見・時期】構築面がⅢｂ層であることから、時期は、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭に位置づけられる。（森谷・大上）

SQ266（第60・101図、図版30）

【検出状況】LR54・55、LS55・56グリッドに位置する。後述するSX4179底面直上に自然堆積したⅢｂ層由来土（SX4179－２層）から、列状に並ぶ礫を確認した。礫はⅢb層由来土（SX4179－２層）にのるものが多いが、一部Ⅳ・Ⅴ層にのるものもある。

【規模・形態】東西軸5.９m、南北軸3.１m、主軸方向Ｎ－66°－Ｗの列石遺構である。遺構は10～35cm大の礫で構成され、全体形はＬ字状を呈する。南東端は調査区外へと延びる。

【出土遺物】第185図20は口縁部付近の破片で、口縁部を広く無文とし、刺突列を境に胴部に３条一単位の沈線で懸垂文を施す。第185図21は胴部破片で、２～３条の沈線で区画し縄文を磨り消している。第185図18・19・22は口縁部破片で、18は波頂部に貫通孔を配し、19・22は沈線区画による単位文の一部が確認できる。第186図１・２は底部資料である。また土器片利用土製品１点、石皿２点、石棒１点、剥片類が485.９g、石核が81.５g出土した。

【所見・時期】全体形がＬ字状を呈すことから、何らかの区画施設または境界として構築されたものと考えられる。しかし、列石の他に遺構は認められず、性格は判然としない。調査区外に延びる部分は西側と同じように北側へ折れ、全体形がコの字状になる可能性もある。主軸方向は各列石と概ね合致し、ほぼ同時期のものと考えられる。南北方向へと延びる部分と東西方向にのびる部分は当初、別の列石と判断していたが、両者とも同じ高さで礫を配置していることから一連のものと判断した。礫構築前に旧表土及び地山を一部削平し、平坦面を作出した後にⅢｂ層下層由来土が堆積し（SX4179－２層）、その上に礫を並べている。つまり、平坦面作出直後ではなく、時間を経てから礫を並べている。構築面がⅢｂ層下層由来土（SX4179－２層）直上であり、周囲から出土した土器から、時期は縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷・大上）

（６）配石遺構

SQ２（第61図、図版31）

【検出状況】LS57グリッドに位置する。Ⅲａ層を精査中、礫の集中範囲を検出した。さらに精査を進めたところ、礫が不規則に並ぶ状況を確認した。周囲に礫の集中が見られなかったことから配石遺構と判断した。

【規模・形態】長軸1.７m、短軸1.07mの不整楕円形で、主軸方向はＮ－65°－Ｅである。20～30cm大の礫で構成される。礫の配置に規則性は認められない。礫の底面はⅢｂ層と接するため、Ⅲｂ層面に据え置かれた配石と考えられる。

【出土遺物】第185図２は胴部小破片で、縦位の磨消縄文が認められる。本遺構を構成する礫には蔵石２点、石皿２点も含まれている。また、石鏃１点、スクレイパー１点、両面調整石器３点、剥片類が334.４g出土した。

【所見・時期】構築面はⅢｂ層である。検出層位と礫底面の層位から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷・大上）

SQ３（第61・62図、図版31）

【検出状況】LR57・58グリッドに位置する。Ⅲａ層を精査時、SQ２構築面より標高が低い面で礫の集中を確認した。礫はⅢｂ層にのるものが多いが、一部はⅣ層にのる。

【規模・形態】長軸1.４m、短軸1.２mの不整楕円形で、主軸方向はＮ－26°－Ｅである。20～40cm大の礫で構成される。大礫同士の隙間に小礫を詰めて形作られ、強固な作りとなっている。

【出土遺物】50cm大の頁岩製石核が配石のほぼ中央に配置されていた。また、周辺からは時期不明の縄文土器片が出土している。加えて、石核２点、扁平石器１点、磨石１点、石皿１点、剥片類が41.4ｇ出土した。

【所見・時期】北側にSQ４が存在し、間には礫が点々と並ぶ。SQ４とは同時期に併存していた可能性がある。検出層位と礫底面の層位、周辺出土の土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷・大上）

SQ４（第61・62図、図版31）

【検出状況】LR58グリッドに位置する。Ⅲａ層下位で礫の集中を確認した。礫はⅢｂ層にのるものが多いが、一部はⅣ層に接する。

【規模・形態】20～40cm大の礫で構成され、長軸1.9m、短軸1.1mの不整楕円形で、主軸方向はN－39°－Wである。西側は礫を円形に組み、中心に空白域がある。

【出土遺物】本遺構を構成する礫には、凹み石１点、石皿１点も含まれている。また、黒曜石製石鏃（第256図１）が１点出土し、男鹿産との産地推定分析結果が得られた。

【所見・時期】SQ３との間に点々と礫が並んでいて、礫がわずかに高い位置に置かれることからSQ４を構成するものと判断した。検出層位と礫底面の層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷・大上）

SQ29（第63図、図版31）

【検出状況】LK・LL64グリッドに位置する。表土除去時に礫の集中範囲を確認した。礫底面はⅢｂ層直上にのる。

【規模・形態】長軸2.3m、短軸1.57mの不整楕円形で、主軸方向はN－88°－Eである。礫は10～40cmの礫を用いている。礫の並びに規則性はない。

【出土遺物】本遺構を構成する礫には、石核１点、敲石１点、凹み石１点、磨石１点、特殊磨石１点も含まれている。

【所見・時期】礫の配置に規則性はない。石核や被熱した礫が一部使用され、礫の廃棄をうかがわせる。礫底面の層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷・大上）

SQ30（第63図、図版32）

【検出状況】LS・LT47グリッドに位置する。沢堆積層の掘削中に礫が組まれて検出されたため、配石遺構と判断した。

【規模・形態】長軸0.95m、短軸0.67mの円形で、主軸方向はN－９°－Wである。

【出土遺物】本遺構を構成する礫に、石棒が１点含まれている。また、黒曜石製剥片（第257図３）が１点出土し、理化学分析の結果、男鹿産との産地推定分析結果が得られた。加えて、剥片類が6.6ｇ出土した。

【所見・時期】縄文時代中期以降のものと考えられる。局地的に礫が集中することから、意図的に礫を集めたものと思われる。（小山・久住）

SQ31（第63図、図版32）

【検出状況】LP60グリッドに位置する。Ⅲｂ層精査時に小規模な礫の集中部を確認した。

【規模・形態】長軸0.37m、短軸0.34mの円形を呈し、８～20cm大の礫を用いる。主軸方向はN－76°－Wである。

【所見・時期】礫に被熱痕はなく、礫石器も含まれていない。検出層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷）

SQ48（第63図、図版32）

【検出状況】MA49に位置する。ST252Ⅱ層精査時に礫が組まれた状態で出土した。この周辺で出土した礫より比較的大きく、組まれていることから配石遺構と判断した。

【規模・形態】長軸0.42m、短軸0.30mの円形で、主軸方向はN－81°－Wである。

【出土遺物】第185図13・14は口縁部破片で、14は横位の波状隆線、13は口端に鋸歯状の、下部に横位の隆線が認められる。また、剥片類が49.2g出土した。

【所見・時期】周辺とは異なる状況で礫が出土したため、配石遺構と判断した。検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（久住）

SQ50（第64図、図版31）

【検出状況】LO・LP59グリッドに位置する。Ⅲb層中で検出した。礫はⅢb層にのるものが多いが、一部はⅣ・Ⅴ層に接する。

【規模・形態】長軸2.5m、短軸0.9m、主軸方向N－82°－Wの配石遺構である。20cm大の楕円礫を使用している。東側が調査区外へ続くため推測とはなるものの、全体形は円形部分を中心として左右対称の蝶ネクタイ形になると考えられる。ハの字状に並べた部分は礫が立つように並べられており、礫の底面はⅣ・Ⅴ層に接する。現場では掘方が確認できなかったことから、礫を差し込むようにして並べられたと考えられる。

【出土遺物】本遺構を構成する礫として、凹み石１点が含まれる。加えて、剥片類が7.9g出土した。

【所見・時期】調査区内で確認できた長軸は2.5mとなるが、東側が調査区外へ延び、円形部分を中心に左右対称となる可能性があることを考えると、全長は５mほどと推測される。列石遺構に囲まれた空間に作られた配石遺構であり、また木遺跡において同様の形状を呈する配石遺構は存在しないことから、特殊な性格を持つと推定される。検出層位と礫底面の層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷・大上）

SQ61（第64図、図版32）

【検出状況】KG56グリッドに位置する。Ⅲa～b層精査中に人頭大の礫を検出し、直下に複数の礫が挟み込まれていたため、配石遺構と判断した。

【規模・形態】長軸0.3m、短軸0.3mで、主軸方向はN－0°－Wである。最上部に置かれる30cm大の礫は一部被熱している。その直下には直径10cm大の礫が置かれている。掘方は確認できなかったことから、この場に礫が置かれたものと考えられる。

【所見・時期】最上部の礫が被熱していることから、火を用いた活動に関連する遺構の可能性がある。検出層位や周辺の遺構から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭に構築されたものと考えられる。（小山）

SQ217（第64図、図版32）

【検出状況】LE66・67グリッドに位置する。ST247上面を精査中に同レベルで一列に並んだ拳大の礫を確認した。礫が等間隔に並ぶため、配石遺構と判断した。

【規模・形態】７個の礫が南北軸1.28ｍの直線状に配置され、主軸方向はＮ－12°－Ｅである。礫は径11～19㎝の円礫である。礫を配するための掘り込みや礫抜き取り痕は確認できなかった。周囲の配石遺構とも同レベルであることから、礫は地表面に据え置かれたものであった可能性が高い。

【出土遺物】本遺構を構成する礫として、凹み石が１点用いられている。

【所見・時期】検出面であるST247の形成が最花式期と考えられるため、本遺構の構築は縄文時代中期後葉（最花式期）以降と考えられる。（小山）

SQ218（第65図、図版32）

【検出状況】LE・LF65グリッドに位置する。ST247上面を精査中に、同レベルで環状に配された拳大の礫を確認し、配石遺構と判断した。

【規模・形態】礫は長軸2.92ｍ、短軸2.76ｍの環状に配置され、主軸方向はＮ－６°－Ｅである。使用されている礫は拳大の扁平なものが多く、円礫や亜角礫が用いられる。短軸を立てて配された礫が一つ含まれるが、ほとんどの礫は地表面に据え置かれたものと考えられる。

【出土遺物】本遺構を構成する礫として、敲石が１点用いられている。

【所見・時期】検出面であるST247の形成が最花式期と考えられるため、本遺構の構築は縄文時代中期後葉（最花式期）以降と考えられる。（小山）

SQ242（第65図、図版32）

【検出状況】LF64・65グリッドに位置する。Ⅲｂ層上面において同レベルで配された礫を確認し、配石遺構と判断した。

【規模・形態】配石は長軸2.22ｍ、短軸2.03ｍのＶ字状に配置され、主軸方向はＮ－７°－Ｗである。使用されている礫は拳大～人頭大の扁平なものが多い。木根に起こされ、原位置を保っていない礫が含まれており、本来はＶ字状ではなかった可能性がある。

【出土遺物】本遺構を構成する礫として、凹み石１点、磨石１点、石棒１点が用いられている。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（小山）

SQ262（第66図、図版32）

【検出状況】LQ56グリッドに位置する。Ⅲｂ層精査中に不規則な礫の集中を確認した。

【規模・形態】長軸0.8ｍ、短軸0.3ｍの半円形を呈する配石遺構である。全体の約半分は調査区外へ延びると考えられる。主軸方向はＮ－40°－Ｅである。礫は10㎝大の円礫で構成されている。

【堆積土】調査区壁面で掘り込みが確認でき、断面は鍋底状を呈す。Ⅲｂ層面から掘込まれ、底面はＶ層に接する。埋土はⅢｂ層、Ⅳ層が混ざり、自然堆積と考えられる。

【出土遺物】石錐１点、剥片類が54.6ｇ出土した。

【所見・時期】礫の並びに明確な規則性はなく、土坑に礫を投げ入れた廃棄土坑の可能性が高い。Ⅲｂ層から掘りこまれることから、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（森谷）

SQ263（第66図、図版33）

【検出状況】LQ・LR56グリッドに位置する。Ⅲｂ層を精査中に不規則な礫の集中を確認した。

【規模・形態】長軸1.3m、短軸0.2mの半円形の配石遺構である。大半が調査区外へと続いている。主軸方向はN－29°－Eである。深さ７cm程の土坑内に礫が含まれる。礫は10cm大のものが大半である。土坑の大半は調査区外のため全体形は不明である。

【堆積土】Ⅱ層がわずかに落ち窪み、その中にⅢｂ層由来の暗褐色土が混入する。

【所見・時期】明確な掘り込みではなく、埋土もⅢｂ層と大差はないことから落ち込みの可能性も否定できない。検出層位や埋土から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。　（森谷）

SQ393（第66図、図版33）

【検出状況】LS・LT54グリッドに位置する。ST252に設定された南北トレンチを掘削中、ST252Ⅱ層中に同レベルで弧状に並んだ礫を確認した。トレンチを拡張した結果、礫が環状に配されていることが判明し、配石遺構と判断した。

【規模・形態】礫は長軸1.65m、短軸1.27mで、主軸方向はN－３°－Wである。直径20～30cm大の扁平礫が短軸を立てて配されている。礫を据えるための掘り込みや礫の抜き取り痕は確認できなかったが、礫が直立して配されることから本来は掘り込みが伴っていたものと推測される。

【出土遺物】第186図４は複合口縁状になり口縁部文様帯の上下を、縄圧痕を施す隆帯で区画し、内部に数段の横位縄圧痕と隙間に縦位の縄圧痕を施す。第186図５は外削ぎ状の口端に曲線的な隆線を、下部に横位の沈線を施す。第186図６は隆帯で上下を区画する口縁部文様帯に、２か所円文が認められる。

【所見・時期】ST252Ⅱ層中から検出されたものの、本来はより上位から掘り込まれていた可能性が高いことから、縄文時代中期後葉（最花式期）～後期初頭と考えられる。　（小山・大上）

SQ469（第66図、図版33）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削時に礫が馬蹄形状に並ぶ状況を確認した。

【規模・形態】長軸0.26m、短軸0.19m、主軸方向はN－41°－Eの小規模な馬蹄形の配石遺構である。扁平礫４個が円を描くように据えており、北西部が開く馬蹄形となっている。中心では楕円形の細長い礫が垂直に立てられており、これらの礫に被熱痕はない。本遺構を構成する礫は立て置かれているものが多いため、本来はより上位から掘り込まれていた可能性がある。

【出土遺物】剥片類が74.8ｇ出土した。

【所見・時期】礫を馬蹄形に並べ、中央に立石を持つ配石遺構である。SQ619、SQ635と近接するが、被熱痕がなく、礫の並びも異なるため、独立した遺構と考えられる。ST252Ⅱ層中から検出されているが、より上位から掘り込まれて構築された遺構である可能性が高く、さらに調査当時、周辺からＢ６類土器が出土していたことから、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。

（森谷・大上）

SQ3083（第66図、図版33）

【検出状況】MF53グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を精査中に、同レベルで方形状に配された礫を確認し、配石遺構と判断した。

【規模・形態】礫は長軸0.73m、短軸0.38mの方形に配置され、主軸方向はN－39°－Eである。残

存していない部分にも元々は礫が配されていたとみられる。礫は19～24cm大の扁平礫のほか、石冠・石皿が用いられ、扁平礫は長軸を寝かせる形で配される。断面観察の結果、石組の下部に長軸0.73m、短軸0.38mで不整形の掘り込みが確認された。深さは４cmで、断面形は浅い皿形を呈する。礫を据えるための掘り込みや礫の抜き取り痕は確認できなかったため、礫は地表面に据え置かれたものが土圧により一部ST252Ⅲ層中にめり込んだかと考えられる。

【出土遺物】本遺構を構成する礫には、石皿１点、石冠１点が含まれる。石冠には点々と黒色付着物が確認され、付着物分析の結果、アスファルトであることが判明した。加えて、剥片類が9.1g出土した。

【所見・時期】本遺構は、ST252Ⅲ層上面に構築され、その直上にST252Ⅱ層が堆積すること、さらにST252Ⅱ層は周囲の削平によりもたらされたⅤ層由来土が主体であることから、ST252Ⅱ層造成直前の遺構であることが分かる。よって、縄文時代中期後葉（最花式期）に属すると見られる。加えて、石冠を用いることから、本遺構はST252Ⅱ層造成前の祭祀的行為の痕跡と考えられる。また、同時期のST247もⅤ層由来土が主体となることから、削平後に構築されたと考えられる。よってSQ3083は、ST252Ⅱ層、ST247造成に先んじて構築された可能性が高いといえる。　（小山・大上）

SQ4009（第67図、図版33）

【検出状況】MB39グリッドに位置する。丘陵部Ⅱ層精査中に南北方向に直線的に並ぶ土器及び礫を確認し、遺構と判断した。SKI4010上に構築される。

【規模・形態】長軸2.05mで、礫や土器が直線的に配される。礫に伴う掘り込みはみられない。

【出土遺物】第186図３は、横の断面形が角張る形状である。口縁部を欠くが、上部に無文部があり、その下に横位の縄圧痕を施している。胴部には、横位と縦位の綾繰文を施し、そのほかを単節斜縄文で埋めている。また、本遺構の構成材として、敲石１点、特殊磨石１点が用いられている。

【所見・時期】本遺構の下位に位置するSKI4010が埋まりきった段階で構築されたと考えられる。SQ4009の構築はSKI4010の廃絶から一定の時間差を持つと考えられる。出土土器から縄文時代中期前葉（円筒上層ｂ～ｃ式期）と考えられる。　（小山）

（７）フラスコ状土坑

SKF249（第68図、図版34）

【検出状況】LD62・63、LE62・63グリッドに位置する。調査区中央部南壁面に設定したトレンチ断面で暗褐色土の掘り込みを確認した。断面観察の結果、ST247とⅤ層を深く掘り込む、明瞭な立ち上がりが確認できたため遺構と判断した。ST247、SKF640より新しい。

【規模・形態】壁面での確認最大幅は1.74m、確認面からの深さは1.26mで、断面形は方形を呈し、壁は急角度で立ち上がる。

【堆積土】４層に分層した。１層はⅡ層由来の黒色シルト、２層はしまりの強い暗褐色シルトである。３層は褐色シルトで、明黄褐色砂質シルトが下層に帯状に堆積する。４層は褐色シルトで、炭化物が下層に帯状に堆積する。３・４層はST247由来土による埋め戻し土と考えられる。

【所見・時期】ST247形成後に構築されたフラスコ状土坑と考えられる。４層下層の炭化物層が形成された後に周辺の土を使って埋め戻され、再度炭化物層が形成され埋め戻されたとみられる。ST247形成前に構築されたSKF640とほぼ同位置に構築されるが、その間に約40cm程度の厚さでST247－１・２層が堆積することから、直接的な関係はなかったとみられる。埋土の状況及び遺構構築面から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。　（小山）

SKF337（第68図、図版34）

【検出状況】LI・LJ63グリッドに位置する。Ⅴ層上面で褐色シルトの円形プランを検出した。断面観察の結果、明瞭なフラスコ状の立ち上がりがみられたため、遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径1.61m、短径1.35mの円形で、主軸方向はN－32°－Wである。底部は長軸1.74m、短軸1.68mである。確認面からの深さは0.38mで、壁が内側に向かって鋭角に立ち上がるいわゆるフラスコ形を呈する。遺構上部北側は攪乱により失われているが、南側は外側へ向かって開いている。

【堆積土】４層に分層した。１層はⅢｂ層由来の褐色土、２・３層はⅢｂ層由来の暗褐色土で、明らかな人為堆積の痕跡がみられないため、自然堆積土と判断した。４層は地山ブロックを多量に含む褐色土で、ブロックの大きさにバラつきがあることや遺構底面中央に堆積することから、遺構上部の崩落土の可能性がある。

【出土遺物】石核１点、剥片類が60.2ｇ出土した。

【所見・時期】遺構周辺に明らかな削平の痕跡が確認できず、やや浅めのフラスコ状土坑であった可能性もある。底部付近の堆積土が一定の厚さで均等に堆積する状況から、長期間使用されたものではないと思われる。時期を決定する遺物は出土していないが、床面と崩落土と考えられる４層の間及び、４層と自然堆積土と考えられる１～３層の間に別な層が入り込まないことから、遺構の廃絶、壁面の崩落、埋没はそれほど時間差がないと考えられる。時期は、埋土から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（小山・大上）

SKF640（第68図、図版34）

【検出状況】LD62・63、LE62・63グリッドに位置する。調査区中央部南壁面に設定したトレンチ断面で褐色土の掘り込みを確認した。断面観察の結果、地山を深く掘り込んでおり、明瞭な立ち上がりが確認できたため遺構と判断した。SKF249より旧い。

【規模・形態】壁面での確認最大幅は0.88mである。確認面からの深さは0.44mで、断面形はコ字状を呈する。壁の西側は急角度で立ち上がり、東側は丸みを帯び内側に立ち上がる。平面形は確認できていない。

【堆積土】２層に分層した。１層はST247由来の褐色土、２層はⅤ層由来の明黄褐色粘質シルトである。上位にST247が形成されており、埋土に多量の黄褐色シルトブロックや炭化物が含まれることから、ST247を由来とする埋め戻し土と考えられる。

【所見・時期】遺構直上にはST247造成土が堆積することから、縄文時代中期中葉（榎林式期）以前に構築された遺構と考えられる。（小山・大上）

SKF3148（第12図、図版５）

【検出状況】ML45グリッドに位置する。基本土層KLライン断面で、平場Ⅲ層上から掘り込まれる黒褐色シルトの明確な掘り込みを確認し、遺構と判断した。

【規模・形態】断面で確認できる最大幅は0.94m、深さは0.75mで、断面形は深いフラスコ状を呈する。断面でのみ確認したため、平面形は不明である。

【堆積土】３層に分層した。１・２層は炭化物や礫を少量含む平場Ⅱ層由来の黒色シルト、３層は平場Ⅲ層由来の黒褐色シルトである。いずれもブロック状の堆積が見られず、均質的な堆積状況であることから自然堆積土と考えられる。

【所見・時期】平場Ⅲ層上から掘り込まれることから、縄文時代中期中葉（榎林式期）以降と考えられる。平場上の遺構はいずれも平場Ⅳ層上で検出されており、平場Ⅳ層の遺構とは時期差があるとみられる。埋土が自然堆積土であることから、平場を利用しなくなる直前に構築され、間もなく廃絶したと考えられる。（小山・大上）

SKF4043（第69図、図版34）

【検出状況】MF・MG38グリッドに位置する。丘陵部Ⅴ層精査中に、黒褐色土の円形プランを検出した。

【規模・形態】長径2.58m、短径2.26mで、主軸方向はN－57°－Eの円形を呈する。断面形は垂直気味またはフラスコ状を呈し、確認面からの深さは0.51mである。

【堆積土】１層は丘陵部Ⅱ層由来の黒褐色シルトで、本遺構の僅かな窪みに自然堆積したものと考えられる。２～４層は礫や地山ブロックを比較的多く含むことから人為堆積と判断した。

【出土遺物】第186図７は口縁部資料で、肥厚する口端に短い撚糸文を、その下に横位の縄圧痕と隆帯を施す。また、両面調整石器３点が出土した。

【所見・時期】周囲に位置するSI4011・SI4049と同時期である可能性があり、縄文時代中期初頭～中葉（円筒上層ａ１～ｅ式期）と考えられる。（大上）

SKF4066（第69図、図版34）

【検出状況】ME・MF40グリッドに位置する。SI4049床面精査中に黒褐色・暗褐色土の円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりを確認したことから遺構と判断した。SI4049の埋土を掘削後、床面でプランを検出したため、SI4049と本遺構の明確な新旧関係は不明である。

【規模・形態】長径1.5m、短径1.3m、主軸方向はN－38°－Wで円形を呈する。全体的に底面はフラスコ状を呈し、開口部に向かってすぼまる。南東側の壁面は中位から開口部に向かって緩く立ち上がる。これは壁面が崩落したためと考えられ、本来は開口部に向かってすぼまると推定される。確認面からの深さは0.64mである。

【堆積土】４層に分層した。１層は黒褐色シルト、２層は暗褐色シルト、３層は黒褐色シルトで、いずれも地山土粒や礫を比較的多く含むことから、人為堆積土と考えられる。４層は地山由来の褐色シルトで、壁面崩落土と考えられる。

【出土遺物】敲石１点、石皿１点、剥片類が65.6ｇ出土した。

【所見・時期】周囲に位置するSI4011・SI4049と同時期である可能性があり、縄文中期初頭～中葉（円筒上層ａ１～ｅ式期）と推測される。（大上）

SKF4105（第70図、図版34）

【検出状況】LT39グリッドに位置する。丘陵部Ⅴ層精査中に黒褐色土の楕円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりを確認できたため遺構と判断した。

【規模・形態】長軸2.14m、短軸1.80mで主軸方向N－16°－Wの不整形を呈する。南東側の壁は垂直気味に立ち上がるが、それ以外はフラスコ状を呈する。確認面からの深さは1.15mである。

【堆積土】１～３層は壁面崩落後に堆積した丘陵部Ⅲ層由来の自然堆積土である。４層は壁面崩落土、５層は４層堆積前の自然堆積土である。７層は丘陵部Ⅴ層由来土で、壁面崩落土と考えられるが西側壁面に厚く堆積しており、本遺構の中心付近には堆積していない。６層は丘陵部Ⅲ層由来の自然堆積土であるが、一部７層由来土が混入する。８・９層は丘陵部Ⅲ層由来土が自然堆積したものである。

【出土遺物】第186図８は底部資料で、胴部の横位結束羽状縄文が認められる。

【所見・時期】７層の堆積状況から、壁面崩落後に中心付近に堆積した崩落土を西側に寄せ、再び利用していると考えられる。また、６層中にも７層由来土が混入することから、壁面崩落土の一部は東側にも寄せている可能性がある。SI4011とは近接しすぎるため、時期差がある可能性が高い。９層が丘陵部Ⅲ層由来土であることからSI4011よりは新しいと推測され、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ２式期）以降と考えられる。（大上）

（８）土坑

SK44　（第70図）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。Ⅲｂ層上面で礫が半円状に配されていることから、当初は配石遺構と判断した。その後、サブトレンチを入れたところ、黒褐色のプランを確認したため土坑に変更した。

【規模・形態】長軸0.85m、短軸0.64mの楕円形を呈し、深さは0.18mである。主軸方向はＮ－２°－Ｗである。断面形は逆台形で、壁はやや急に立ち上がる。開口部に径12.4cm～28.1cmの扁平な礫が設置され、一部被熱している。

【堆積土】３層に分層した。いずれもⅢｂ層由来の地山ブロック混じりの暗褐色土を基調とする。１・２層ともに焼土ブロックや炭化物が混在しているため人為的な埋土と思われる。３層は礫の掘り込み痕の埋土である。

【出土遺物】第187図１は口縁部破片で、沈線で囲い込んだ中に充填縄文を施している。また、両面調整石器１点、剥片類が250.9ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位や出土した土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。被熱した礫が存在するため火の使用が考えられるが、被熱赤色化面は確認できなかった。（小松）

SK75（第70図、図版35）

【検出状況】LL62グリッドに位置する。Ⅲｂ層精査中、SQ45と同じ主軸方向で据えられた礫が検出され、黒色土の楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長軸0.88m、短軸0.50m、確認面からの深さは0.16mである。主軸方向はＮ－49°－Ｗである。平面形は楕円形、断面形は鍋底状を呈する。北部上層に隅丸長方形の礫が一つ据えられる。

【堆積土】３層に分層した。Ⅲａ～ｂ層の黒褐色埋土中に黄色砂質シルトを粒・ブロック状に含む。底面は白くグライ化し、粘質化している。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。SQ45に伴う土坑だとすれば土坑墓の可能性があるが、骨片や副葬品は見つかっていない。（森谷）

SK135（第71図、図版35）

【検出状況】LS51・52グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に黒色の不整形プランを検出した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長軸3.06m、短軸1.86mで平面形は不整形を呈する。主軸方向はＮ－69°－Ｅである。確認面からの深さは0.75mで、断面は段をなしながら東に向かって深くなる。

【堆積土】３層に分層した。１層はⅡ層由来の自然堆積層である。２層はⅢａ～ｂ層由来で、ブロッ

ク状の混入物や堆積が傾斜する様相はみられないが、本遺構が位置するST252の頂部で大きな土坑を開口したままでいるという状態が考えにくいことから、人為的な埋め戻しによる堆積である可能性がある。３層はⅢａ～ｂ層あるいはST252由来で地山ブロックが多量に含まれるため、人為的な埋め戻し土であると考えられる。

【出土遺物】第187図２・４は口端を肥厚させ、口縁部に隆線で文様を描く。第187図３・６は肥厚する口端にスリットを施し、口縁部に沈線で文様を描く。第187図９は縦区画の沈線とそこから斜位に延びる沈線が認められる。第187図８は口縁部突起の破片で、橋状突起の上部と背部が円形に開口し、前部と側面に渦巻文を施している。第187図９は胴部破片で、隆沈線で曲線的文様を描く。第187図５は刺突列とその下の懸垂文が認められる。また、黒曜石製剥片が１点出土しており、理化学分析の結果、男鹿産との産地推定分析結果が得られた。その他に石鏃１点、石錐１点、石核２点、石錘３点、剥片類が1252.７g 出土した。

【所見・時期】２～３層がⅢa～ｂ層由来土であるため、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭であると考えられ、検出面はより上位であったと推測される。底面に凹凸があることから、土取りのような行為が行われた後に土坑として利用された可能性がある。　（久住）

SK187（第71図、図版35）

【検出状況】LQ59グリッドに位置する。Ⅴ層直上で不整形の黒褐色プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長軸0.７m、短軸0.５m、確認面からの深さは0.28mである。主軸方向はＮ－60°－Ｅである。平面形は浅いくびれを持つひょうたん形を呈し、断面形はレンズ状となる。

【堆積土】２層に分層した。Ⅲａ～ｂ層由来の黒褐色土で、Ⅴ層由来の黄色土を粒・ブロック状に含む。わずかに炭化物を含み、人為堆積と考えられる。

【所見・時期】Ⅲa～ｂ層由来土で人為的に埋め戻されることから縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。　（森谷）

SK188（第71図、図版35）

【検出状況】LP・LQ59グリッドに位置する。Ⅴ層直上で黒褐色プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.８m、短径0.38m、確認面からの深さは0.26mである。主軸方向はＮ－82°－Ｗである。平面形は歪な楕円形で、断面形は鍋底状を呈する。

【堆積土】３層に分層した。Ⅱ・Ⅲａ～ｂ層由来の黒褐色土にⅤ層由来の黄色シルトを粒・斑状に含む。わずかに炭化物を含む。

【所見・時期】縄文時代中期以降と考えられる。　（森谷）

SK215（第71図、図版35）

【検出状況】KM59グリッドに位置する。ＣⅥ層検出時に暗褐色の円形プランを確認した。断面観察の結果、緩やかな立ち上がりを確認したため土坑と判断した。

【規模・形態】長径0.54m、短径0.47mの楕円形を呈し、深さは0.１mである。主軸方向はＮ－65°－Ｗである。断面形は半円状で、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】単層である。ＣⅣ層由来で、地山ブロック混じりの暗褐色土であるが、堆積要因は判然と

しない。

【所見・時期】埋土の特徴から縄文時代中期と考えられる。　（小松）

SK224（第71図、図版35）

【検出状況】LS49グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に黒色の円形プランを検出した。全体の1/4（西側）は木根の攪乱を受けているが、東側で立ち上がりを確認した。

【規模・形態】平面形は長軸1.23m、短軸1.02mの不整形を呈する。主軸方向はN－27°－Eである。確認面からの深さは0.12mで、断面形は不整形である。

【堆積土】単層であり、Ⅲｂ層由来の黒色土で、自然堆積と考えられる。

【出土遺物】第187図10は平口縁で４単位の突起が付く。縦位隆帯で口縁部文様帯を区画し、その間に横位の馬蹄形縄圧痕を充填する。11～13は口端に波状隆帯を施し、口縁部を同じ隆帯で縦・横・斜位に区画して、内部に刺突列を充填する。14は底部資料である。また石棒１点、剥片類が37.0ｇ出土した。その他に骨片が出土した。

【所見・時期】埋土がⅢｂ層由来土であることから、より上位から掘り込まれていたものと考えられ、時期は縄文時代中期末葉（大木10式期）～後葉と考えられる。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、3,370calBC～3,108calBC（2σ）の年代値が得られた。また、出土した骨片の動物遺体同定の結果、哺乳類と同定された。　（久住）

SK238（第72図、図版35）

【検出状況】LQ・LR56に位置する。Ⅴ層精査時に黒褐色土の楕円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径1.0m、短径0.6mの不整楕円形で、主軸方向はN－0°－Eである。確認面からの深さは0.3mで、断面形は不整形である。

【堆積土】単層である。黒褐色土を基調にⅤ層由来の黄色土を粒・斑状に含む。底面に近いところでは10cm大の礫が混入する。

【出土遺物】第187図15は沈線で囲い込み、充填縄文を施す。第187図16は口縁部資料で、口端が無文、以下斜縄文を施す。また、剥片類が36.7ｇ出土した。

【所見・時期】出土土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。　（森谷）

SK285（第72図）

【検出状況】LF64グリッドに位置する。SI325南北ベルト北側断面で確認した。断面観察の結果、南北に立ち上がることから土坑と判断した。掘り込み面は不明である。SK322より旧く、SI325より新しい。

【規模・形態】直径1.43mで円形を呈していたと考えられ、深さは0.77mである。主軸方向はN－57°－Wである。断面形は逆台形で、壁は急に立ち上がる。

【堆積土】地山ブロックや炭化物を含むにぶい黄褐色土の単層である。各炭化物などが斑状に混入していることから人為堆積と思われる。

【出土遺物】剥片類が56.7ｇ出土した。

【所見・時期】切り合い関係から縄文時代中期中葉～後葉（榎林式～最花式期）と考えられる。底面の凹凸が激しいことから土取穴の可能性がある。　（小松）

SK313（第30図、図版18）

【検出状況】LF66グリッドに位置する。ST247－AB断面において、ST247層中に立ち上がりを確認し、土坑と判断した。

【規模・形態】最大幅は0.45mの半円形で、深さは0.19mである。壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】地山ブロックや炭化物を多く含む褐色土の単層である。地山ブロックが斑状に混入しているため人為堆積と思われる。

【出土遺物】第187図17は小波状口縁で、波頂部に２個一対の円形貼付を施し、両側を折返口縁状に肥厚させ、その上部にスリットを施す。胴部には擦痕状の条線を施す。黒曜石製剥片が１点出土し、理化学分析の結果、男鹿産との産地推定分析結果が得られた。その他に、石槍１点、石鏃１点、剥片類が15.5ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（小松）

SK322（第72図）

【検出状況】LF64グリッドに位置する。SI325南北ベルトを挟んでSI325を切るように東西に広がる円形の暗褐色のプランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりが確認できたため遺構と判断した。SI325、SK285を切る。

【規模・形態】長径1.5m、短径1.2mの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－58°－Ｗである。確認面からの深さは0.5mである。北側の立ち上がりはやや緩やかで、南側は急である。

【堆積土】３層に分層した。ST247由来の地山ブロックや炭化物を含む黒褐色～暗褐色土を基調とし、中位にしまりのない焼土層が形成されている。

【出土遺物】第188図１は条線を地文とし、その上に沈線を施す。また、両面調整石器１点、石核２点、敲石１点、石皿１点、石鏃２点、石棒１点が出土した。

【所見・時期】出土土器から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。焼土層上面で検出された被熱した礫の下部から遺存度の高い土器が出土しており、口縁部が打ち欠かれ、被熱痕があることから炉体土器と思われる。周辺に存在していた土器埋設炉を廃絶する際に、焼土等とともにこの土坑内へ廃棄された可能性がある。（小松・久住）

SK324（第72図、図版35）

【検出状況】LE63グリッドに位置する。Ｖ層掘削中に、土坑と思われる暗褐色円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。一部は攪乱を受けている。

【規模・形態】長軸0.93m、短軸0.71mで平面形は隅丸方形を呈し、主軸方向はＮ－58°－Ｗである。確認面からの深さは0.43mである。底面の中央に径0.18m、深さ0.16mの柱穴状の掘り込みを有する。

【堆積土】埋土は暗褐色土の単層である。

【出土遺物】第187図18は口縁部突起の破片で、渦巻きから横に連結する横位楕円状の隆帯が確認できる。また、ミニチュア土器１点、剥片類が15.8ｇ出土した。

【所見・時期】出土土器及び検出層位から、縄文時代中期中葉（榎林式期）と考えられる。（久住）

SK326（第72図）

【検出状況】LF65グリッドに位置する。Ｖ層精査時に暗褐色の円形プランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりを確認できたため土坑と判断した。

【規模・形態】直径2.2mの円形を呈し、主軸方向はN－40°－Eである。深さは0.24mで、断面形は逆台形を呈し、立ち上がりは急である。底面中央やや東に石製品が置かれる。

【堆積土】地山ブロックや炭化物、砂岩を含む褐色土の単層である。各炭化物などが斑状に混入していることから人為堆積と思われる。底面に炭化物が薄く層状に堆積している。

【出土遺物】第188図２は波状口縁で、胴部上位に３条の横走沈線を施す。第188図３は筒形の小型土器で、口縁部が折り返し状になり、その上部を無文、以下に縦位の直線や曲線を施す。第188図は小型の深鉢で、全面縦走縄文を施す。また石鏃１点、石匙１点、石皿１点、石製品１点、剥片類が307.3ｇ出土した。

【所見・時期】出土土器から掘り込み面はより上位であった可能性がある。本遺構とSQ218、SQ242の平面分布が概ね重なることから、これらは本来SQ242検出面から掘りこまれた同一遺構であった可能性も考えられるが、不明である。底面から出土した石製品は、側面に擦痕がわずかに見られるが、人為的なものか判然としない。また、この石製品の周囲からこぶし大の自然礫が複数出土したため、本遺構は土坑墓の可能性がある。出土土器及び、SQ218・242との関係性から、縄文時代中期後葉（最花式期）～後期初頭と考えられる。　（小松・大上）

SK358（第73図）

【検出状況】LE65グリッドに位置する。Ⅲｂ層上面で褐色シルトの円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりが確認できたため土坑と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.66m、短径0.58mの円形で、主軸方向はN－66°－Wである。確認面からの深さは0.22mで、断面形は皿形を呈し、壁は南側が急角度、北側は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層はⅢｂ層由来の褐色シルト、２層はⅢｂ層由来の黄褐色砂質シルトである。

【出土遺物】第188図７は口端が肥厚し、上部に横位の縄圧痕を１条施す。以下は地文のみである。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。　（小山）

SK395（第73図、図版36）

【検出状況】LS55・56、LT55・56グリッドに位置する。Ⅲｂ層上面で褐色シルトの楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため土坑と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.75m、短径0.61mの円形で、主軸方向はN－59°－Wである。確認面からの深さは0.17mで、断面形は皿形を呈し、壁は急角度で立ち上がる。

【堆積土】単層である。黄褐色シルトブロックを多く含むST252由来の褐色シルトである。黄褐色シルトブロックや炭化物は斑状で地点により粗密があり、周辺の遺構の堆積土と比べて多量に含まれることから、人為的な埋め戻しによる堆積土と判断した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。　（小山）

SK413（第73図）

【検出状況】LT52グリッドに位置する。SI390床面で検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径1.08m、短径0.90m、平面形は円形で、主軸方向はN－38°－Wである。確認面からの深さは0.23mで、断面形は逆台形を呈する。

【堆積土】２層に分層した。炭化物を多く含む暗褐色土にＶ層由来の黄色土が斑状に混入する。一部が深いピット状になっており、柱穴だった可能性が高い。ピット状の部分は黒褐色土を基調とした中に黄色土をブロック状に含む。いずれの層も固くしまり、人為的な埋め戻し土と思われる。

【出土遺物】剥片類が37.８ｇ出土した。

【所見・時期】位置と層位から、SI390に伴う土坑または柱穴様ピットの可能性もある。時期はSI390と同時期の縄文時代中期後葉（最花式期）と思われる。（森谷）

SK427（第73図、図版36）

【検出状況】LT54グリッドに位置する。ST252に設定したサブトレンチ周辺を精査中、ST252Ⅱ層中で黒褐色シルトの半円形プランとその中央で土器底部片を確認した。断面観察の結果、浅い掘り込みを確認したため土坑と判断した。

【規模・形態】平面形は長軸0.74ｍ、短軸0.26ｍ（残存）の円形で、主軸方向はＮ－18°－Ｅである。確認面からの深さは0.31ｍで、断面形は立ち上がりが緩やかな皿形を呈する。

【堆積土】単層である。しまりのない暗褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡はみられないが、盛土遺構上の生活排土を由来とする人為堆積土と考えられる。

【出土遺物】第188図５は逆「U」字状と直線の沈線を組み合わせた懸垂文を施す。第188図６は底部資料である。また、両面調整石器１点、剥片類6.７ｇが出土した。

【所見・時期】検出層位や出土した土器から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（小山）

SK446（第73図、図版36）

【検出状況】LS53・54、LT53・54グリッドに位置する。ST252に設定した東西トレンチ断面で暗褐色土のプランを確認し、遺構と判断した。SK524より旧く、SK449・457、SKP447・448より新しい。

【規模・形態】平面形は長軸1.80ｍ、残存短軸0.56ｍの楕円形で、主軸方向はＮ－77°－Ｗである。確認面からの深さは0.48ｍで、断面形は緩やかな皿形を呈する。

【堆積土】３層に分層した。いずれもST252由来で、１層は焼土ブロックを含むにぶい黄褐色シルト、２層は黄褐色シルトブロックを含む暗褐色シルト、３層は焼土ブロックを含む褐色シルトである。

【出土遺物】第188図８は口縁部破片で、隆線による渦巻文を施す。第188図９は胴部破片で平行沈線による曲線文が確認できる。第188図10は口縁部破片で、貫通孔と橋状突起から口縁部無文帯が延びる。また三角形土製品が１点、石鏃１点、石錐１点、玉類１点、剥片類が158.３ｇ出土した。

【所見・時期】出土土器から縄文時代後期初頭と考えられ、本来はより上位から掘り込まれていたものと推測される。（小山）

SK449（第74図）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。ST252に設定した東西トレンチ壁面でST252Ⅱ層上に褐色シルトの掘り込みを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため土坑と判断した。SI567と平面分布が重複するものの、新旧関係は不明である。

【規模・形態】長軸1.36ｍ、短軸0.49ｍ（残存）、平面形は不整楕円形を呈し、主軸方向はＮ－97°－Ｗである。確認面からの深さは0.35ｍで、断面形は浅いU字形を呈する。

【堆積土】２層に分層した。１層はにぶい黄褐色シルト、２層は褐色シルトである。いずれもしまりが強い。

【出土遺物】剥片類が39.3ｇ出土した。
【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（小山）

SK451（第74図、図版36）
【検出状況】LR53グリッドに位置する。ST252に設定したトレンチ壁面でＶ層上に暗褐色シルトの掘り込みを確認したため、土坑と判断した。その後、ベルトを掘削し、Ｖ層上面で円形プランを検出した。SK600より新しい。
【規模・形態】平面形は長径0.57ｍ、短径0.47ｍの円形で、主軸方向はＮ－73°－Ｗである。確認面からの深さは0.22ｍで、断面形はＵ字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。
【堆積土】単層の暗褐色シルトブロックを含む褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡はみられないが、ST252の造成土や生活排土に由来する人為堆積土と考えられる。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。（小山）

SK455（第74図、図版36）
【検出状況】LS51・52グリッドに位置する。Ｖ層で風倒木に切られる暗褐色の半円状プランを確認した。断面を確認したところ、立ち上がりを確認したため土坑と判断した。SK456より新しい。
【規模・形態】直径0.59ｍの円形で、主軸方向はＮ－69°－Ｅである。深さは0.16ｍで、断面形は半円状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。底面中央にて扁平な礫を検出した。
【堆積土】単層である。地山ブロックや炭化物を含むST252由来の暗褐色土である。
【出土遺物】剥片類が145.7ｇ、石核が94.5ｇ出土した。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。底面中央に扁平な礫が短軸を立たせるように埋まっていたため土坑墓の可能性もある。　（小松）

SK456（第74図、図版36）
【検出状況】LS52グリッドに位置する。Ｖ層精査中に暗褐色土の半円状プランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりを確認したため土坑と判断した。SK455より旧い。
【規模・形態】直径0.50ｍの円形を呈す。深さは0.16ｍで、断面形は半円状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。
【堆積土】単層である。地山ブロックや炭化物を含むST252由来の暗褐色土である。
【出土遺物】剥片類が8.0ｇ出土した。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。（小松）

SK457（第74図）
【検出状況】LS・LT53グリッドに位置する。ST252に設定した東西トレンチ壁面でST252Ⅲ層上に暗褐色シルトの掘り込みを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため土坑と判断した。SK449より旧い。
【規模・形態】壁面で確認した残存幅は1.67ｍ、確認面からの深さは0.46ｍで、断面形は浅いＵ字形を呈する。
【堆積土】単層である。地山ブロックや炭化物を含む暗褐色粘質シルトである。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式期）と考えられる。（小山）

SK485（第75図、図版36）

【検出状況】LT54グリッドに位置する。SX470精査中に褐色シルトの円形プランを確認した。断面観察の結果、明確な掘り込みがみられたため土坑と判断した。SX470より新しい。

【規模・形態】平面形は長軸1.20m、短軸0.74m（推定）の楕円形で、主軸方向はN－76°－Wである。確認面からの深さは0.19mで、断面形はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】単層である。黄褐色シルトブロックを含む褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡はみられないが、ST252造成土や生活排土を由来とする人為堆積土と考えられる。

【出土遺物】剥片類が0.9g出土した。

【所見・時期】時期を決定する遺物は出土していないが、検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。SX470がやや埋没したところに構築された土坑である。（小山）

SK492（第75図、図版36）

【検出状況】LR54グリッドに位置する。ST252を精査中、ST252Ⅱ層上で褐色シルトの楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明確な掘り込みがみられたため土坑と判断した

【規模・形態】平面形は長径0.67m、短径0.40mの楕円形で、主軸方向はN－19°－Eである。確認面からの深さは0.23mで、断面は中央が高い皿形を呈する。壁の西側は直立し東側は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】単層である。褐色シルトブロックを含む暗褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡はみられないが、ST252上の生活排土を由来とする人為堆積土と考えられる。

【出土遺物】第188図11は口縁部破片で、口端に横位沈線が認められる。第188図12は胴部破片で、隆沈線により曲線文を施す。また、剥片類が10.7g出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（小山）

SK502（第75図）

【検出状況】LE・LF63グリッドに位置する。SI325南北ベルト南側断面で検出した。SI325底面で楕円形のプランを確認し、断面観察の結果、立ち上がりがみられたため土坑と判断した。SI325、SKP501より旧い。

【規模・形態】長径0.61m、短径0.44mの楕円形で、主軸方向はN－81°－Eである。残存する深さは0.1mである。断面形は半円状を呈していたと思われ、壁はやや急に立ち上がる。底面で扁平な礫を検出した。

【堆積土】地山ブロックや炭化物を含むⅤ層由来の褐色砂である。

【所見・時期】SI325に切られることから縄文時代中期後葉（榎林式期）以前と考えられる。礫が掘り込みの長径と合うように埋められていたため、土坑墓の可能性も考えられる。（小松）

SK515（第75図、図版36）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に不整形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長軸0.8m、短軸0.6m、平面形は不整形で、主軸方向はN－56°－Eである。確認面からの深さは0.38mで、断面形は逆台形を呈する。

【堆積土】黒褐色シルトとⅤ層由来の黄色シルトが堆積し互層になっており、炭化物を粒状に含む。

各層は一括で投げ入れられたものと考えられる。黒褐色土はわずかに骨片が混入する。

【出土遺物】第188図13は、波状口縁の二股になる波頂部から縦位に隆帯を配し、横走する縄圧痕を６段施す。また、剥片類が66.4ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位や出土した土器から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。底面の一部がアタリ状に深くなっており、また、土の堆積は明らかに人為堆積の様相を呈するため、柱穴だった可能性がある。層中に骨片が見られるが、埋土中のものであるため本遺構の性格には無関係と思われる。おそらくは南斜面側炭化物層から持ち込まれた土が混入したものと考えられる。

（森谷）

SK522（第75図、図版37）

【検出状況】MA51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に暗褐色の半円状プランを検出した。東西方向にベルトを設定して掘り下げたところ、調査区の西側外に延びる土坑であることが判明した。

【規模・形態】長軸1.21m、短軸1.03m（残存）で平面形は隅丸方形を呈するとみられ、主軸方向はＮ－12°－Ｗである。確認面からの深さは0.12mで、断面形は緩やかな皿形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】単層で、埋土は黒褐色土で周辺土に比べて炭化物を多く含む。ST252由来である。

【出土遺物】第188図15は浅鉢の口縁部破片で、屈曲し内湾する部分が口縁部文様帯となり、楕円状の突起を起点に両側へ横位の縄圧痕を施し、胴部には「Ｙ」字状の隆線とそれに沿った縄圧痕を配する。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（森谷）

SK524（第73図、図版37）

【検出状況】LT53・54グリッドに位置する。ST252に設定したトレンチ壁面でST252Ⅱ層中に黒褐色シルトの掘り込みを確認した。その後、平面精査の際に円形プランを確認した。SK446、SKP447・448より新しい。

【規模・形態】平面形は長径1.34m、短径0.65m（推定）の楕円形で、主軸方向はＮ－81°－Ｗである。確認面からの深さは0.51mで、断面形はＵ字状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】単層である。炭化物粒を含むにぶい黄褐色粘質シルトである。明確な人為堆積の痕跡はみられないが、ST252の造成土や生活排土を由来とする人為堆積土と考えられる。

【出土遺物】第188図14は地文上に懸垂文を施し、第188図16は懸垂文間を磨り消している。また敲石１点、磨石１点、剥片類が49.4ｇ出土した。

【所見・時期】SK446より新しいことから、縄文時代後期初頭と考えられ、本来はより上位から掘りこまれていたものと推測される。（小山）

SK531（第75図、図版37）

【検出状況】LS53・54グリッドに位置する。ST252に設定した土層確認用ベルト壁面で、Ｖ層上に暗褐色シルトの掘り込みを確認した。ベルトに残された箇所以外は既に掘削してしまったため、平面形は不明である。SK532より新しい。

【規模・形態】平面形は長軸0.68m（残存）、短軸0.43m（残存）の円形で、主軸方向はＮ－53°－Ｗである。確認面からの深さは0.20mで、断面形は皿形を呈し、北壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】単層である。黄褐色シルトブロックを含む暗褐色シルトである。黄褐色シルトブロックの混入が少なく、周囲の遺構埋土と様相が異なることから自然堆積土と判断した。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。（小山）

SK532（第75図、図版37）
【検出状況】LS53・54グリッドに位置する。ST252に設定した土層確認用ベルト壁面でⅤ層上に暗褐色シルトの掘り込みを確認した。ベルトに残された箇所以外は既に掘削してしまったため、平面形は不明である。SK531より旧い。
【規模・形態】平面形は長軸0.43m、短軸0.36m（残存）の円形で、主軸方向はN－23°－Eである。確認面からの深さは0.18mで、断面形は緩やかな皿形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。底面が硬化しており、直径１～２㎝の弱い熱変化面が点々と見られる。遺構周辺で焼土は確認されておらず、焼土遺構であった可能性もあるが、残存範囲が僅かであるため詳細は不明である。
【堆積土】単層の暗褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡はない。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。（小山）

SK537（第75図、図版37）
【検出状況】LS51グリッドに位置する。ST252に設定した東西ベルトのST252Ⅲ層にて立ち上がりを確認したため土坑とした。
【規模・形態】残存する規模は最大幅0.86mで、平面形は楕円形を呈していたと思われる。主軸方向はN－87°－Eである。深さは0.21mで、断面形は逆台形を呈し、壁はやや緩やかに立ち上がる。
【堆積土】地山ブロックをあまり含まない暗褐色土の単層である。炭化物、焼土ブロックが斑状に含まれているため人為堆積と思われる。
【出土遺物】第188図18は口縁部の破片で、波頂部に３連結の楕円、その直下に横位、そこから２条の平行隆帯を縦位に配して口縁部文様帯を区切り、両側に斜走する縄圧痕文と馬蹄形縄圧痕を施す。17は肥厚する口端にのみ波状隆帯を施す。また、石鏃１点と石匙１点、剥片類が12.2g出土した。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式期）と考えられる。遺構の性格は判然としない。（小松）

SK551（第75図、図版37）
【検出状況】LS53グリッドに位置する。Ⅴ層精査時に楕円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKP622より新しい。
【規模・形態】長径1.06m、短径0.80m、平面形は楕円形で、主軸方向はN－33°－Eである。確認面からの深さは0.24mで、断面は逆台形を呈する。遺構中央部に15cm大の礫が据え置かれていた。
【堆積土】２層に分層した。炭化物を含む黒褐色土がレンズ状に堆積し、その上にⅤ層由来の黄色土が人為的に堆積している。下層の黒褐色土は自然堆積と考えられる。
【出土遺物】第188図19・20はいずれも口縁部破片で、20は縦、横に隆帯を、19は口端に縦位の短い縄押捺、口縁部に横位の縄圧痕を施す。黒曜石製剥片（第264図11）が１点出土し、男鹿産との産地推定分析結果が得られた。また石錐６点、剥片類が244.7g、石核が62.5g出土した。
【所見・時期】出土遺物から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ２式期）と考えられる。石錐がまとまって出土している点が特徴的である。（森谷）

SK554（第76図、図版37）

【検出状況】LS52グリッドに位置する。Ｖ層精査中、だるま形のプランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKP621を切る。

【規模・形態】長径0.7m、短径0.5m、平面形は円形で、主軸方向はＮ－33°－Ｅである。確認面からの深さは0.22mで、断面形は逆台形を呈する。

【堆積土】２層に分層した。黒褐色土を基調に、Ｖ層由来の黄色土をブロック状に含むため、人為堆積と考えられる。

【出土遺物】第188図21は口縁部破片で、波頂部下に円形貼付、そこから横位の縄圧痕を施す。また石錐が１点、剥片類が5.8ｇ、石核が8.5ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位と出土遺物から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）の遺構と考えられる。北西1.7mに土器埋設炉（SR576）があり、住居に伴うものの可能性が高いため、本遺構も住居内施設の可能性がある。（森谷）

SK563（第76図、図版37）

【検出状況】LT54グリッドに位置する。SX470精査中に褐色シルトの不整形プランを確認した。土層観察の結果、明確な掘り込みがみられたため土坑と判断した。

【規模・形態】平面形は長軸0.88m（推定）、短軸0.29m（残存）の円形で、主軸方向はＮ－27°－Ｅである。確認面からの深さは0.28mで、断面形は立ち上がりが緩やかな皿形を呈する。

【堆積土】単層である。黄褐色シルトブロックが多量に混入するＶ層由来の暗褐色シルトである。黄褐色シルトブロックの大きさにばらつきがあり、地点により粗密があることから、人為的な埋め戻し土と判断した。

【出土遺物】剥片類が12.3ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（小山）

SK589（第76図、図版37）

【検出状況】LS50・51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層で黒褐色の立ち上がりを確認し、ベルト内で楕円形のプランも確認できたため土坑と判断した。SR706より新しい。

【規模・形態】長軸0.8m（残存）、確認面からの深さ0.3mである。断面形は逆台形を呈し、壁はやや急に立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は地山ブロック、炭化物、礫を含む黒褐色土、２層は炭化物、礫を含む褐色土である。２層とも炭化物などが斑状に混在しているためST252Ⅱ層由来の人為堆積と思われる。

【出土遺物】第189図１は３単位の波状口縁で、胴部が張り出し、口縁部が直立気味に立ち上がる。口端がやや肥厚し、上部に短い縄圧痕が連続する。胴上部文様帯は、波頂部から垂下する２条の平行沈線を縦区画として、３条一単位の平行沈線を横位に３段弧状に施す。また、両面調整石器２点、石核１点、剥片類が105.7ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と推測される。（小松）

SK600（第74図、図版38）

【検出状況】LR53グリッドに位置する。ST252に設定したトレンチ壁面で暗褐色土の掘り込みを確認

した。当初は一つの遺構としていたが、その後の断面精査やベルト掘削後の平面プラン確認により、二つの遺構が重複していることが判明した。そこで西側の土坑をSK451、東側の土坑をSK600とした。SK451より旧い。

【規模・形態】平面形は長径0.31m、短径0.30mの円形で、主軸方向はN－60°－Eである。確認面からの深さは0.45mで、断面形はU字状を呈し、壁は急角度で立ち上がる。

【堆積土】単層である。暗褐色シルトブロックを含む褐色シルトである。黄褐色シルトブロックを斑状に多量に含むことから、人為堆積土と考えられる。

【所見・時期】SK451に切られることから、縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。（小山）

SK615（第76図）

【検出状況】LE64・65グリッドに位置する。LEライン南北トレンチ東壁で確認。SI286に切られ、掘り込み面は不明だが、SX248を切る明瞭な立ち上がりを確認したため土坑と判断した。

【規模・形態】長径1.6m、短径1.2mの楕円形を呈し、深さは0.36mである。断面形は半円状で、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】炭化物を含む黄褐色土を基調とする。３層に分層したが、各層にまとまった炭化物が見られたため、時期差がなく一括で投げ入れられた土の単位の可能性がある。

【所見・時期】検出層位や切り合い関係から縄文時代中期後葉（最花式期）以前と考えられる。SX248が埋まった後構築されたものである。（小松）

SK650（第76図、図版38）

【検出状況】MA52グリッドに位置する。Ⅴ層上面で、暗褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKI651より新しい。

【規模・形態】長軸は残存部で1.0m、短軸は残存部で0.36mである。確認面からの深さは0.32mで、断面形は浅い皿状を呈する。北側の壁は急角度で立ち上がるが、南側は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は地山ブロックを多量に含む暗褐色土、２層は暗褐色土ブロックを多量に含む黄褐色土で、人為的な埋め戻しである。

【所見・時期】検出層位及びSKI651との新旧関係から、縄文時代中期前葉（円筒上層ｂ式期）と考えられる。（髙橋）

SK657（第77図、図版38）

【検出状況】MA・LT52グリッドに位置する。ST252Ⅱ層中で黄褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SK662より新しい。

【規模・形態】長軸1.30m、短軸は残存部で0.79mである。平面形は不整楕円形を呈し、主軸方向はN－63°－Eである。確認面からの深さは0.21mである。断面形は浅い皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は暗褐色土ブロックを含む黄褐色土、２層は暗褐色土で、いずれも人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】第189図２は口縁部に横位平行の縄圧痕が、第189図３は破片上部の隆線間に刺突文を充填する口縁部文様帯の一部が確認できる。また、剥片類が10.9ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と推測される。　（小松）

SK662（第77図、図版38）

【検出状況】LT51・52グリッドに位置する。ST252Ⅱ層中で黄褐色土の広がりとして確認した。SK657に切られる。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。底面ではSKP671を検出した。

【規模・形態】長軸は残存部で0.86m、短軸は残存部で0.34mである。平面形は不整楕円形を呈するとみられる。確認面からの深さは0.28mで、断面形は角形を呈する。

【堆積土】２層に分層した。１層は黄褐色土、２層は地山ブロックを含む褐色土で、いずれも人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】剥片類が7.0ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（髙橋）

SK674（第77図、図版38）

【検出状況】LT51・52グリッドに位置する。Ⅴ層上面で礫を含む褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.78m、短径0.60mで、平面形は楕円形を呈する。主軸方向はN－47°－Eである。確認面からの深さは0.16mで、断面形は浅い皿状を呈する。西側の壁はやや急に立ち上がるが、東側は緩やかに立ち上がっている。

【堆積土】３層に分層した。１層は地山ブロックを含む褐色土、２・３層は暗褐色土ブロックを多量に含む黄褐色土で、いずれも人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】剥片類が5.6ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１式～ｂ式期）と考えられる。
（髙橋）

SK685（第77図、図版38）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層中で黄褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKP663より旧い。

【規模・形態】長径0.83m、短径0.67mで、平面形は楕円形を呈する。主軸方向はN－34°－Wである。確認面からの深さは0.28mである。トレンチにより西側の壁は失われているが、東側の壁はなだらかに立ち上がる。

【堆積土】ST252Ⅱ層由来の黄褐色土による一括埋め戻しの単層である。

【出土遺物】剥片類が41.3ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（髙橋）

SK753（第77図、図版38）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。Ⅴ層上面で褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.88m、短径0.80mの円形を呈する。主軸方向はN－19°－Eである。確認面からの深さは0.21mで、断面形は浅い皿状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は地山ブロックを多量に含む褐色土、２層は褐色土でいずれも人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】第189図４は、貼付や隆線のみが確認できる。加えて、石核が１点、剥片類が22.1ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位及び出土土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ式期）と考えられ、構築面はより上位であったと推測される。（髙橋）

SK754（第77図、図版38）

【検出状況】　LT52グリッドに位置する。SI786検出面で暗褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SI786・SK788より新しい。

【規模・形態】長径0.96ｍ、短径0.70ｍで、平面形は不整楕円形を呈する。主軸方向はＮ－34°－Ｅである。確認面からの深さは0.45ｍで、断面形は中央が一段深くなる逆台形を呈する。

【堆積土】５層に分層した。１層は暗褐色土、２層は炭化物を多く含む暗褐色土、３層は焼土粒を含む黄褐色土、４層は褐色土、５層は暗褐色土でいずれも人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】第189図５は、上部に縄押捺を施すやや肥厚する口端及びそこから「Ｖ」字状に垂下する隆帯が確認できる。また、剥片類が24.8ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～ｄ式期）の遺構と考えられる。（髙橋）

SK758（第77図、図版39）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。SI795床面で褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.93ｍ、短径0.58ｍで、平面形は楕円形である。主軸方向はＮ－23°－Ｗである。確認面からの深さは0.50ｍで、断面形は逆台形を呈する。壁は急角度で立ち上がる。

【堆積土】４層に分層した。１層は地山土粒を多く含む褐色土、２層は黄褐色土、３層は暗褐色土、４層は地山ブロックを多量に含む褐色土で、いずれも人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】第189図６は、波状口縁の波頂部から斜位に延びる隆帯で口縁部文様帯を区画し、その横に縄圧痕により方形区画と内部に円文を施す。また、剥片類が0.3ｇ出土した。

【所見・時期】出土土器及び検出層位から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ２式期）と考えられる。（髙橋）

SK768（第77図、図版39）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。SI795床面で 暗褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長軸0.86ｍ、短軸0.67ｍで、不整形を呈し、主軸方向はＮ－69°－Ｗである。確認面からの深さは0.14ｍで、断面形は浅い皿状を呈する。西側の壁は急角度で立ち上がり、東側は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は地山ブロックを多量に含む暗褐色土、２層は暗褐色土ブロックを多量に含む黄褐色土で、いずれも人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】剥片類が141.6ｇ出土した。

【所見・時期】SI795と同レベルで検出したが、SI795に伴う柱穴かは不明である。縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前と考えられる。（髙橋）

SK783（第77図、図版39）

【検出状況】LT52グリッドに位置する。SI786床面で、暗褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SI786より旧い。

【規模・形態】長径0.64m、短径0.58mで、平面形は不整円形を呈する。主軸方向はＮ－２°－Ｗである。確認面からの深さは0.44mである。断面形は深い箱形を呈し、壁は急角度で立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。いずれも炭化物や黄褐色土ブロックを含むことから、人為的に埋め戻されていると判断した。

【出土遺物】剥片類が77.7ｇ出土した。

【所見・時期】SI786よりも旧い土坑であるため、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前と考えられる。（髙橋）

SK788（第78図、図版39）

【検出状況】LS・LT52グリッドに位置する。SI786床面で、褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。大部分をSK754及び木根により攪乱されている。

【規模・形態】平面形は長径1.36m、短径1.14mの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－50°－Ｅである。確認面からの深さは0.18mである。

【堆積土】地山ブロックを多量に含む褐色土の単層で、人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】第189図７は、波頂部から延びる「Ｙ」字状隆帯とそれに沿う縄圧痕が確認できる。また、剥片類が5.0ｇ出土した。

【所見・時期】SI786に伴う可能性もあるが、大部分が攪乱されているため、詳細は不明である。検出層位、切り合い関係、そして出土土器から縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前と考えられる。（髙橋）

SK796（第78図、図版39）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。SI795床面で黄褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKP794より旧い。

【規模・形態】平面形は長径0.63m、短径0.50mの、不整楕円形を呈し、主軸方向はＮ－39°－Ｅである。確認面からの深さは0.10mで、断面形は箱形を呈する。壁は急角度で立ち上がる。

【堆積土】焼土ブロックや炭化物、暗褐色土ブロックを含む人為的埋め戻し土である。

【出土遺物】剥片類が173.2ｇ出土した。

【所見・時期】SI795に伴う可能性があるため、時期は縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と推測される。（髙橋）

SK797（第78図、図版39）

【検出状況】MA53グリッドに位置する。Ⅴ層上面で黄褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.52m、短径0.40mの、楕円形を呈し、主軸方向はN－53°－Eである。確認面からの深さは0.18mで、断面形は箱形を呈する。壁は急角度で立ち上がる。
【堆積土】暗褐色土を斑に含むⅤ層由来の黄褐色土で、人為的な埋め戻し土である。
【出土遺物】剥片類が28.9ｇ出土した。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１式～ｂ式期）と考えられる。
（髙橋）

SK799（第78図、図版39）
【検出状況】LT53グリッドに位置する。Ⅴ層上面で褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。
【規模・形態】平面形は長径1.44m、短径0.95mの不整楕円形を呈し、主軸方向はN－５°－Wである。確認面からの深さは0.54mで、断面形は逆台形を呈する。
【堆積土】４層に分層した。１層は地山ブロックを多量に含む褐色土で、人為的な埋め戻し土である。２～４層は混入物が少ないため、自然堆積の可能性もある。
【出土遺物】第189図８は口縁部下端を区画する隆帯の上部に半円状の縄圧痕が、第189図９は波状口縁に並行する斜位の平行沈線が確認できる。また石鏃２点、石核１点、磨石１点、剥片類が465.5ｇ出土した。
【所見・時期】出土遺物から縄文時代中期中葉（円筒上層e式期）と考えられ、本来はより上層から掘り込まれた可能性がある。
（髙橋・大上）

SK802（第78図、図版39）
【検出状況】LT52グリッドに位置する。Ⅴ層上面で黄褐色土の広がりとして確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。
【規模・形態】平面形は長径0.79m、短径0.52mの楕円形を呈し、主軸方向はN－５°－Eである。確認面からの深さは0.48mで、断面形は北側に向かって深くなっている。
【堆積土】２層に分層した。いずれも暗褐色土ブロックを多量に含む黄褐色土で、人為的な埋め戻し土である。
【出土遺物】剥片類が4.2ｇ出土した。
【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。（髙橋）

SK819（第21図、図版９）
【検出状況】LT55グリッドに位置する。ST252－UV断面でST252Ⅰ層から掘り込まれる黒褐色シルトの掘り込みを確認した。SK820より新しい。
【規模・形態】壁面で確認した最大幅は0.83m、確認面からの深さは0.25mである。断面形は浅い皿形を呈する。
【堆積土】単層で、しまりのやや弱いST252Ⅱ層由来の黒褐色シルトである。炭化物や赤褐色焼土、地山土粒がブロック状に含まれることから、人為的な埋め戻しと考えられる。
【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。（小山）

SK820（第21図、図版９）

【検出状況】LT・MA55グリッドに位置する。ST252－UV断面でST252Ⅰ層から掘り込まれる、焼土を多く含む暗褐色シルトの掘り込みを確認した。SK819より旧い。

【規模・形態】壁面で確認した残存最大幅は0.45m、確認面からの深さは0.15mである。断面形は浅い皿形を呈する。

【堆積土】粘性の強いⅢａ～ｂ層由来の暗褐色シルトである。橙色焼土をブロック状に多く含むことから、焼土を廃棄した人為堆積層と考えられる。

【所見・時期】検出層位、埋土から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。

（小山）

SK3001（第78図、図版40）

【検出状況】MC52グリッドに位置している。ST252Ⅰ層中で黒色の楕円形プランを確認し、断面観察の結果、立ち上がりを確認したため土坑と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.69m、短径0.37mの、楕円形を呈していたと思われる。確認面からの深さは0.18mで、主軸方向はＮ－18°－Ｅである。断面形は半楕円形を呈し、壁はやや緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層はST252Ⅰ層由来のしまりの弱い黒褐色土である。炭化物が混在してるため人為堆積と思われる。２層は壁からの崩落土と思われる褐色シルトを多く含む黒色土である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

【出土遺物】剥片類が11.4ｇ、石核が22.5ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）と考えられる。（小松）

SK3011（第78図、図版40）

【検出状況】MK46グリッドに位置する。平場Ⅳ層上を精査中に、小礫を多く含む黒色シルトの長楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.72m、短径0.48mの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－９°－Ｅである。確認面からの深さは0.29mで、断面形は中央が深い逆台形を呈する。

【堆積土】炭化物や小礫を多量に含む平場Ⅲ層由来の黒褐色シルトである。砂利や黄褐色砂ブロックを斑状に含むことから、沢由来の自然堆積土と考えられる。

【所見・時期】周辺から検出した遺構・遺物の状況から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ～榎林式期）と考えられる。（小山・大上）

SK3012（第78図、図版40）

【検出状況】ML45グリッドに位置する。平場Ⅳ層上を精査中に、黒褐色シルトの長楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.94m、短径0.43mの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－36°－Ｅである。確認面からの深さは0.23mで、断面形は皿形を呈し、壁は南が急角度、北が緩やかに立ち上がる。

【堆積土】４層に分層した。１層はしまりがやや強く暗褐色シルトブロックを含む平場Ⅱ層由来の黒色シルト、２層は沢由来のにぶい黄褐色砂、３層は平場Ⅱ層由来の黒色シルト、４層はしまり・粘性の弱い暗褐色シルトである。いずれも水平に堆積しており、ブロック状の堆積が少ないことから自然

堆積土と考えられる。

【出土遺物】第189図10は無文地の口縁部に横位の隆帯を施す。

【所見・時期】出土土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ～ｅ式期）の土坑と考えられる。

（小山）

SK3013（第78図、図版40）

【検出状況】MF42・43グリッドに位置する。Ⅴ層掘削中に黒褐色シルトの楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径1.21ｍ、短径0.66ｍの長楕円形を呈し、主軸方向はＮ－90°－Ｅである。確認面からの深さは0.30ｍで、断面形は緩やかな皿状を呈し、東側の壁はやや角度を持って立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は炭化物粒を僅かに含むⅡ層由来の黒色シルト、２層は黄褐色シルトブロックを多量に含むⅡ層由来の黒褐色シルトである。２層は地山ブロックが多量に含まれることや底面から出土した遺物の状況から、人為的な埋め戻し土と考えられる。その後、斜面地による土壌の流出や木根などの影響を受けつつ、１層が自然堆積したと考えられる。

【所見・時期】遺構内から時期不明の縄文土器が出土したため縄文時代に属すると判断したが、急斜面地に構築されていることから土器が混入した可能性もある。（小山）

SK3015（第79図、図版40）

【検出状況】MI45グリッドに位置する。平場Ⅳ層上で暗褐色シルトの円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.58ｍ、短径0.43ｍの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－44°－Ｅである。確認面からの深さは0.09ｍである。断面形は皿状を呈する。

【堆積土】炭化物粒を僅かに含む黒褐色シルトである。

【所見・時期】周辺から検出した遺構・遺物の状況から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ～榎林式期）と考えられる。（小山・大上）

SK3016（第79図）

【検出状況】MJ44グリッドに位置する。平場Ⅳ層上を精査中に暗褐色シルトの円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】推定長径0.84ｍ、推定短径0.82ｍで西側半分はトレンチによって削平され、残存していないが円形を呈したと思われる。確認面からの深さは0.23ｍで、中央が深い皿形を呈する。

【堆積土】にぶい黄褐色砂ブロックを多く含むⅢ層由来の暗褐色シルトである。全体的に黄褐色砂ブロックが含まれるため、人為堆積土と考えられる。

【所見・時期】周辺から検出した遺構・遺物の状況から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ～榎林式期）と考えられる。（小山・大上）

SK3023（第79図、図版40）

【検出状況】MJ45グリッドに位置する。平場Ⅳ層上を精査中に、黒褐色シルトの楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.70ｍ、短径0.51ｍの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－17°－Ｗである。確認面か

らの深さは0.18mで、断面形は深い皿形を呈する。

【堆積土】小礫を含む平場Ⅲ層由来の暗褐色シルト質砂である。明確な人為堆積の痕跡がないため、自然堆積土と考えられる。

【所見・時期】周辺から検出した遺構・遺物の状況から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ～榎林式期）と考えられる。（小山・大上）

SK3025（第79図、図版40）

【検出状況】MC・MD53グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を精査中、土器片を中心に南北に延びる黒褐色土の円形プランを検出し、立ち上がりを確認できたことから土坑と判断し、精査を進めた。

【規模・形態】長径0.82m、短径0.63mで南北に長い楕円形プランを呈する。主軸方向Ｎ－１°－Ｅである。断面形は皿形を呈しており、確認面からの深さは0.12mである。

【堆積土】単層である。しまり、粘性ともに強く、炭化物を粒状に５％含む。単層であることからST252由来の人為堆積と考えられる。

【出土遺物】第189図11は波状口縁で、狭い口縁部文様帯を波頂部下の隆帯で縦に区画し、横位多段に縄圧痕を施す。胴部は地文のみである。検出面中央から折り重なるようにして出土した。検出面に接していることから、人為的に置かれたと考えられる。

【所見・時期】検出層位と出土土器に矛盾があるが、これは当時の人々が周囲に散在していた古手の土器を意図的に遺構埋土土に置いたものと考えられる。よって本遺構は、検出層位から縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式期）と考えられる。（大上）

SK3056（第79図、図版40）

【検出状況】MD・ME52グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に極暗褐色土の円形プランを検出し、立ち上がりを確認できたことから土坑と判断し、精査を進めた。

【規模・形態】平面形は推定長径1.52m、短径1.48mの円形を呈し、主軸方向Ｎ－０°－Ｅ（推定）である。確認面からの深さは0.79mである。東西側・南側にはテラス状の平坦面が半月状に広がる。北東側にはさらに一段低いテラス状の平坦面がある。断面形はＵ字形を呈する。北壁は直立気味に立ち上がる。

【堆積土】４層に分層した。１層はST252Ⅲ層由来土である。２層はⅤ層由来の橙色粘質シルト、３層はⅤ層由来の橙色シルトを含む暗褐色粘質シルトである。４層は白色粘土を多く含むが、これはⅤ層を50cm程掘り込んだ箇所から検出される白色粘土と同質のものである。いずれもレンズ状堆積ではないことから、人為堆積であると判断した。１層はST252Ⅲ層由来の堆積土、２～４層は遺構廃絶時の人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】第190図１は、口縁部文様帯を区画する２条の隆帯と刺突列が確認できる。また、石核１点、扁平石器１点、剥片類が14.6ｇ出土した。

【所見・時期】１層と２層の間に自然堆積土がみられないことから、遺構の廃絶・埋め戻しとST252Ⅲ層の形成開始には時間差がないとみられる。堆積土の状況や出土遺物から縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。（大上）

SK3057（第79図、図版41）

【検出状況】ME52グリッドに位置する。Ⅴ層で暗褐色土の円形プランを検出し、立ち上がりを確認で

きたことから土坑と判断し、精査を進めた。サブトレンチにより、南西側は欠損している。

【規模・形態】平面形は長径1.20m、短径1.01mで円形を呈し、主軸方向はN－27°－Eである。確認面からの深さは0.16mである。断面形は皿形で、一部はオーバーハングしている。北壁は直立気味、東・南・西壁は緩やかに立ち上がっており、底面は南側に向かって緩やかに傾斜している。

【堆積土】ST252Ⅲ層由来土の単層である。

【出土遺物】磨石が１点、剥片類が5.7ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位や、埋土がST252Ⅲ層由来土であることから、縄文中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式）と考えられる。（大上）

SK3085（第79図、図版41）

【検出状況】ME・MF52グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を精査中に、炭化物を多く含む黒褐色シルトの円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SN3092より新しい。

【規模・形態】平面形は長径1.54m、短径1.33mの円形を呈し、主軸方向はN－98°－Wである。確認面からの深さは0.20mで、断面形は緩やかな皿状を呈し、西側の壁がオーバーハング気味に立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は炭化物ブロックを含む黒褐色シルト、２層はV層由来の黄褐色シルトブロックを含む褐色シルトである。１層は、明確な人為堆積の痕跡がみられず、炭化物が比較的多く含まれることや遺物の出土状況から短期間に堆積したものと考えられる。２層は遺構機能時の自然堆積土と考えられる。

【出土遺物】第189図12は、突起により４単位の小波状口縁になる。底部から外傾して口縁部でわずかに内折し、口縁部が外反して立ち上がる。口縁部の小突起部から垂下する短い隆帯を起点に、平行沈線による山形状の、その両脇には同じく平行沈線で「V」字状等の単位文を配する。

【所見・時期】検出層位と出土土器に時期差が生じる。器種が浅鉢であり、また文様も在地の土器には見られない特殊な様相を示すことから、伝世した可能性も考えられる。検出層位を重視し、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と推測する。（小山・大上）

SK3086（第80図、図版41）

【検出状況】MF53グリッドに位置する。V層を精査中に、暗褐色シルトの円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKP3132を切る。

【規模・形態】平面形は長軸0.64m、短軸0.62mの不整形を呈し、主軸方向はN－63°－Eである。確認面からの深さは0.22mで、断面形はやや深めの皿形を呈する。

【堆積土】２層に分層した。１層は炭化物をやや多く含む暗褐色シルト、２層は僅かに黄褐色シルトブロックを含むST252Ⅱ層由来の褐色シルトである。１層は遺構廃絶後のST252由来の堆積土、２層は明確な人為堆積の痕跡がみられないことから、遺構機能時の自然堆積土と考えられる。

【出土遺物】剥片類が5.6ｇ出土した。

【所見・時期】埋土がST252Ⅱ層由来であることから、本来はより上位から掘り込まれていた可能性がある。縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（小山）

SK3088（第80図）

【検出状況】MC52グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を精査中に、炭化物や焼土、骨片を含む黒褐色・にぶい黄褐色土が長楕円形状に広がる状況を確認した。SK3133・SK3151より旧い。

【規模・形態】平面形は長軸1.29m、残存短軸0.78mの、南北にのびる長楕円形を呈する。東側は調査区外へと続くため、主軸方向は不明である。断面形は浅い皿形で、東壁から南壁にかけては緩やかに外反しながら立ち上がる。確認面からの深さは0.14mである。

【堆積土】６層に分層した。１層は黒褐色シルトで、焼土や炭化物、骨片を多く含む。２層は褐色砂で骨片を含む。３層は暗赤褐色焼土で現地性の焼土である。１・２層はいずれも３層直上を覆う人為的な埋め戻し土である。４層はにぶい黄褐色シルトで、炭化物を含む。５層は暗褐色粘質シルトで、礫、炭化物、骨片を含む。６層は褐色砂質シルトで、礫、炭化物を含む。１・２・４～６層は焼土粒や炭化物、骨片を多く含むことから人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】石鏃１点、石皿１点が出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～榎林式期）と考えられる。３層の焼土が砂層とシルト層に挟まれていることから、土坑を埋め戻す際に火を焚き、再び人為的な埋め戻しが行われたと考えられる。（大上）

SK3106（第81図、図版41）

【検出状況】ME・MF53グリッドに位置する。ST252中央ベルト断面でST252Ⅱ層中から掘り込まれる褐色シルトの掘り込みを確認した。その後、中央ベルト掘削時に円形プランも平面上で確認した。SK3113・3114より新しい。

【規模・形態】平面形は長径0.51m、短径0.43mの円形を呈し、主軸方向はＮ－41°－Ｅである。確認面からの深さは0.40mで、断面形はＵ字状を呈する。

【堆積土】４層に分層した。１層は暗褐色シルト、２層は黄褐色シルトブロックを多く含む褐色シルト、３層はにぶい黄褐色シルト、４層は黄褐色シルトブロックを多く含む褐色シルトである。いずれもST252Ⅱ層由来とみられ、２・４層は全体的に地山ブロックを含むため、人為的な埋め戻し土と考えられる。

【出土遺物】剥片類が2.0ｇ出土した。

【所見・時期】ST252Ⅱ層中から掘り込まれることから縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（小山）

SK3113（第81図、図版41）

【検出状況】ME･MF53グリッドに位置する。Ⅴ層中で不整形プランが確認された。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SK3114より新しく、SK3106より旧い。

【規模・形態】平面形は長軸1.41m、推定短軸0.83mで不整形を呈するが、西側半分はトレンチにより削平されている。主軸方向はＮ－０°－Ｅである。確認面からの深さは0.32mで、断面形は緩やかなＵ字状を呈し、壁は緩やかに湾曲して立ち上がる。

【堆積土】黄褐色シルトブロックを多く含むST252Ⅲ層由来のしまりのやや強い褐色シルトである。地山ブロックが多く含まれることから、人為的な埋め戻し土と考えられる。

【出土遺物】剥片類が8.8ｇ出土した。

【所見・時期】本遺構の上にSI3037が存在することに加え、埋土がST252Ⅲ層由来土であることか

ら、縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～e式期）と考えられる。　（小山）

SK3114（第81図、図版41）

【検出状況】ME･MF53グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に、褐色シルトの長楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SK3106・3113に切られる。

【規模・形態】平面形は長径0.58m、短径0.53mの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－48°－Ｗである。確認面からの深さは0.18mで、断面形は皿形から方形を呈する。

【堆積土】黄褐色シルトブロックを多量に含むST252Ⅲ層由来の褐色シルトである。地山ブロックが多量に含まれることから、人為的な埋め戻し土と考えられる。

【出土遺物】第190図２は、口縁部文様帯を縦区画する対弧状の隆帯を波頂部下に配し、区画内に馬蹄形縄圧痕を２段施す。また、剥片類が20.3ｇ出土した。

【所見・時期】本遺構の上にSI3037が存在することに加え、埋土がST252Ⅲ層由来土であることから、縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ～ｅ式期）と考えられる。　（小山）

SK3116（第81図、図版42）

【検出状況】ME53グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に、褐色シルトの長楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKP3123より新しい。

【規模・形態】平面形は推定長径0.96m、短径0.52mの長楕円形を呈し、主軸方向はＮ－43°－Ｅである。確認面からの深さは0.13mで、壁はオーバーハング気味に立ち上がる。

【堆積土】黄褐色シルトブロックを多く含むST252Ⅱ層由来の褐色シルトである。黄褐色シルトブロックが全体に斑状に含まれることから、人為的な一括埋め戻し土と考えられる。

【出土遺物】剥片類が3.9ｇ出土した。

【所見・時期】埋土がST252Ⅱ層由来土であることから、本来はより上位から掘り込まれていた可能性があり、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（小山）

SK3133（第81図、図版42）

【検出状況】MC53グリッドにおいて、ST252－ZAA・AABBライン断面で立ち上がりを確認した。周辺を精査した結果、褐色土の円形プランを検出したため、遺構と判断した。

【規模・形態】北側から東側にかけて調査区外へ延びており、残存長軸1.32m、残存短軸0.72mで、主軸方向は不明である。断面形は皿形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは0.70mである。

【堆積土】４層に分層した。いずれもST252Ⅲ層由来の堆積土である。

【所見・時期】ST252Ⅲ層直前に構築された遺構であるため、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。　（大上）

SK3151（第80図）

【検出状況】MC52グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を精査中に黒褐色の不整形プランを検出した。当初はSN3088と同一の焼土遺構と考えていたが、断面観察の結果、SK3088を切る土坑であると判断した。SKP3153に切られ、SK3088を切る。

【規模・形態】遺構北半部は調査区外へ延びる。残存長軸0.44m、残存短軸0.30mで、平面形は不整

形を呈する。主軸方向は不明である。断面形は皿形で、壁はやや外反しながら立ち上がる。確認面からの深さは0.1mである。

【堆積土】単層である。黒褐色土中に炭化物、焼土粒が混入している。焼土粒は現地性ではない。

【所見・時期】検出層位から縄文中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式期）と考えられる。（大上）

SK4016（第81図、図版42）

【検出状況】MB37グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の円形を呈するとみられるプランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.89m、短径0.36mで円形を呈し、主軸方向はＮ－81°－Ｅである。断面形は皿形を呈し、確認面からの深さは0.24mである。

【堆積土】２層に分層した。１層は丘陵部Ⅱ層由来の黒褐色シルト、２層は丘陵部Ⅳ層由来の暗褐色シルトで、いずれも自然堆積とみられる。

【所見・時期】出土遺物はなく時期不明だが、底面に薄く丘陵部Ⅳ層が堆積することから、縄文時代中期初頭～中葉（円筒上層ａ１～ｅ式期）に属する可能性がある。（小山）

SK4046（第82図、図版42）

【検出状況】MB39・40グリッドに位置する。SKI4010掘削中に底面で黒褐色の楕円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKI4010より旧い。

【規模・形態】平面形は長径2.21m（推定）、短径1.41m（推定）の楕円形を呈し、主軸方向はＮ－63°－Ｗである。断面形は西側が緩やかに立ち上がり、東側はフラスコ状を呈する。確認面からの深さは1.0mである。

【堆積土】調査区壁面で観察し、遺構内は３～７層の５層に分層した。３・４層は丘陵部Ⅱ・Ⅲ層由来の自然堆積土で、５層は黒褐色土を多量に含む崩落土とみられる褐色シルトである。その直下にも丘陵部Ⅲ層由来の自然堆積土が堆積し、７層も黒褐色シルトを多量に含むため崩落土とみられる。３・４層はSKI4010の１・２層、SK4047の３・４層に対応する。

【所見・時期】SKI4010よりも旧いことから、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前と考えられる。（小山・大上）

SK4047（第82図、図版42）

【検出状況】MC39グリッドに位置する。SKI4010を掘削中に底面で黒褐色土の円形を呈するとみられるプランを検出した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKI4010との新旧関係は不明である。

【規模・形態】長軸2.15m、短軸0.88m（残存）で円形を呈するとみられる。長軸方向の主軸はＮ－76°－Ｅである。断面形は浅い箱形を呈し、確認面からの深さは0.50mである。底面では直径約0.3mの柱穴様ピットが２基確認された。

【堆積土】２層に分層した。遺構内の３・４層はSKI4010の１・２層、SK4046の３・４層に対応し、３層は丘陵部Ⅱ層由来の黒色シルト、４層は丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色シルトで、いずれも自然堆積である。

【所見・時期】SKI4010との切り合い関係は確認できず新旧関係は不明だが、３・４層の堆積状況から時期差がない可能性が高い。よって、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前と考えられる。（小山・大上）

SK4056（第82図、図版42）

【検出状況】MF28グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の円形プランを確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため、遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.83m、短径0.72mの円形で主軸方向はN－65°－Eである。断面形はU字形を呈し、確認面からの深さは0.28mである。

【堆積土】単層で、褐色土を含む丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色シルトで、自然堆積とみられる。

【所見・時期】丘陵部Ⅲ層由来の自然堆積土がみられるため、縄文時代中期以降に属する可能性がある。（小山）

SK4082（第82図、図版42）

【検出状況】MG・MH39グリッドに位置する。丘陵部Ⅴ層精査中ににぶい黄褐色シルトの不整形プランを検出した。

【規模・形態】平面形は長軸3.09m、短軸1.68mの不整形で、主軸方向はN－42°－Eである。北西から南西にかけては、比較的急角度で立ち上がるが、南側から東側にかけては緩やかに外反しながら立ち上がる。南西側には一段深い掘り込みが存在し、その西側はさらに深く柱穴状に掘り込まれている。

【堆積土】２層に分層した。１層は丘陵部Ⅲ層由来のにぶい黄褐色シルト、２層は丘陵部Ⅳ層由来の黒褐色シルトで、いずれもレンズ状堆積のため自然堆積とみられる。

【所見・時期】周辺の遺構・遺物の状況から縄文中期初頭～中葉（円筒上層ａ１～ｅ式期）の可能性がある。（大上）

（９）土器埋設遺構

SR９（第83図、図版42）

【検出状況】LR・LS53グリッドに位置する。当初、Ⅲｂ層下層検出時に被熱した円礫または扁平な礫が８個隅丸方形状に配されていたためSQと判断したが、その後掘り込みの有無の確認のためサブトレンチを入れたところ土器の縁辺が円形に検出された。土器周辺に焼土や炭化物が広がっていたため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方の平面形は、長軸0.55m、短軸0.44mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN－55°－Eである。深さは0.16mで、壁は急に立ち上がる。土器埋設遺構の掘り込みは土器の径より一回り大きい円形を呈する。土器は正位に埋設され、底部は打ち欠かれていた。

【堆積土】５層に分層した。炉の掘り込み内は炭化物を含むST252Ⅰ層由来の黒褐色土で、人為的な埋め戻し土である。土器内には炭化物を多く含む黒色土が堆積し、掘り込み内は炭化物を含み赤色化する。礫を据えるための掘り込みは、炉の掘り込みに切られている。

【出土遺物】第190図３は、胴部中位のみ残存する。胴上半部文様帯の下半分が残り、沈線により囲い込んだ内部に縄文を充填している。

【所見・時期】検出層位や埋設土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）と考えられる。赤色化が進行した炉床や被熱し変色した土器から比較的長時間利用されていたと思われる。周辺にピット等が確認されていないため住居に伴う炉であるのか判然としない。周囲に切り株が密集していたため、住居のプラン、柱穴のプラン等が撹乱によって破壊された可能性がある。なお、土器埋設遺構内で検出した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正）の結果、2,564calBC－2,471calBCの年代値が得られた。（小松）

SR32（第83図、図版43）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。Ⅲａ層掘削時に、横位に置かれた状態の礫下から土器を検出した。断面観察の結果、土器が東へ斜位に埋設されていたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.36ｍ、短径0.36ｍの円形を呈する。深さは0.18ｍで、壁はやや急に立ち上がる。土器は東へ向かって斜位に埋設され、口縁部は打ち欠かれている。

【堆積土】３層に分層した。土器内・掘り込み内土ともにⅢａ層由来の暗褐色土で、地山ブロックが極めて少ないが人為堆積と思われる。土器底部は残存しているが、口縁部は欠損しており、人為的に打ち欠かれた可能性がある。

【出土遺物】第190図４は、胴下半のみ残存する。上部には沈線で囲い込んだ内部のみ無文とする単位文の一部が確認できる。底面には木葉痕をとどめる。また、剥片類が29.9ｇ出土した。

【所見・時期】埋設された土器はＢ６類である。しかし検出層位から、縄文時代後期初頭に古手の土器を埋めたと考えられる。土器埋設遺構直上に蓋とみられる扁平な棒状の礫が存在していたことから、土器棺墓である可能性もある。（小松）

SR149（第83図、図版43）

【検出状況】KI56グリッドに位置する。ＣⅢａ～ｂ層掘削時に土器底部を検出し、断面確認のため断ち割ったところ、土器が逆位に埋設されていたことから土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長径0.33ｍ、短径0.31ｍの円形を呈し、主軸方向はＮ－０°－Ｅである。深さは0.17ｍで、壁は急に立ち上がる。土器は逆位に埋設され、口縁部は打ち欠かれている。

【堆積土】２層に分層した。２層ともＣⅢａ～ｂ層由来の黒褐色土である。掘り込み内、土器内土ともに周囲の土に多く含まれる小礫が含まれていないため、人為堆積と思われる。

【出土遺物】第190図５は、底部付近のみが残存する。横位の結束羽状縄文のみ確認できる。

【所見・時期】検出層位及び埋土から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。当該期に古手の土器を埋設したものと考えられる。（小松・大上）

SR151（第83図、図版43）

【検出状況】KK58グリッドに位置する。ＣＶ層を精査中に、暗褐色の円形プラン内から土器の縁辺が円形に検出されたため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.22ｍ、短径0.21ｍの円形を呈し、主軸方向はＮ－23°－Ｅである。深さは0.08ｍで、壁は急に立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。２層ともＣＶ層由来の地山ブロックを含む暗褐色土である。土器内には焼土ブロックが混入している。掘り込み内土の堆積要因は判然としない。

【出土遺物】第190図６は、胴部中位のみ残存する。単節縄文のみ確認できる。

【所見・時期】周辺の状況から縄文時代中期と考えられる。検出した土器の縁辺の割れ口が新しいため、地山検出時に当遺構上部を削平してしまった可能性が高い。土器内に焼土ブロックが混入していることや、土器下部の高さがそろうように欠損していることから、土器埋設炉として利用された可能性がある。（小松）

SR159（第84図、図版43）

【検出状況】LL63グリッドに位置する。Ⅲｂ層を精査中に土器の縁辺を円形に検出したため、土器埋

設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、径0.5mの円形で、主軸方向はN－59°－Eである。土器は円形の掘り込みプラン内に正位に埋設されている。土器の周りには円形の掘り込みプランがあるが、断面では頸部付近までしか確認できない。

【堆積土】３層に分層した。土器内部の１・２層は底部より2/3程の高さまで地山由来土で埋められ、その上にはⅢｂ層が自然堆積している。掘り込み部の３層はⅣ層とほぼ同質の黒褐色シルトを基調に、地山由来の黄色シルトが粒状に含まれている。

【出土遺物】第190図８は底部から外傾して立ち上がり、口縁部付近で内湾する。折返口縁は無文帯となり、縦位の直線と楕円を組み合わせた懸垂文を沈線で施す。懸垂文は、胴部中位で終わる箇所と胴部下位まで及ぶ箇所があり、文様構成にばらつきが認められる。口縁部付近の破片が内側に倒れ込む状態で検出された。また、剥片類が26.8ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられ、当該期に古手の土器を埋めたと考えられる。土器や周囲の土に被熱痕はなく、炉としての使用は認められない。周囲に配石・列石遺構群やフラスコ状土坑が存在しており、土器棺墓の可能性も考えられる。

（森谷・大上）

SR197（第84図）

【検出状況】LS52グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に土器の縁辺を円形に検出した。平面観察で掘り込みが確認できず、南北軸に東側を箱掘りしたところ、掘り込みが確認できたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.33m（推定）、短径0.30mで円形を呈し、主軸方向はN－54°－Wである。確認面からの深さは0.54mで、断面はU字状を呈する。土器は正位に埋設され、口縁部は欠けている。

【堆積土】３層に分層した。土器内の１・２層はST252Ⅱ層由来で、これらは水平に堆積していることから自然堆積であると考える。掘り込み内の３層はST252Ⅱ層由来の炭化物を含む人為堆積である。

【出土遺物】第190図９は口縁部破片で、小波状口縁になる。口端には、隆線により波頂部に環状貼付、両側に平行線を引く。胴上部には横位の平行沈線を４段確認できる。７は胴部下位の破片で、地文のみ確認できる。また、石錘１点、剥片類が66.3ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられ、古手の土器を埋めたものと考えられる。掘り込みが残存する土器よりも深いことから一度据えたものを取り出して、据え直したものと考えられる。ST252の頂部にあたることから、竪穴建物に伴う炉である可能性があるが、周辺に木根が多く、その影響を受けていることから平面プランは確認できなかった。　（久住・大上）

SR221（第84図）

【検出状況】LT50グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に土器の縁辺を円形に検出した。平面で掘り込みが確認できず、東西軸に南側を箱掘りしたところ、掘り込みが確認できたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長径0.37m（推定）、短径0.36mで円形を呈し、主軸方向はN－４°－Eである。確認面からの深さは0.28mで、中央が深い皿形である。東側の壁は直立し、西側は緩やかに立

ち上がる。土器は南西へ斜位に埋設され、胴下半のみが残存する。

【堆積土】２層に分層した。掘り込み内の１層はST252Ⅱ層由来で炭化物がやや多く含まれ、人為堆積である。土器内の２層もST252Ⅱ層由来であるが、自然堆積層であると思われる。

【出土遺物】第191図１は、胴下半部の資料で地文のみ確認できる。また石鏃１点、剥片類が10.９g出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と推測される。　（久住）

SR231（第84図、図版43）

【検出状況】LM62グリッドに位置する。Ⅲａ層精査時にⅤ層由来の黄色土の楕円形プランを確認した。当初は土坑として精査を進めたが、土坑掘り下げ時に土器の集中部を確認した。断面で確認したところ、完形に近い土器が埋設されていたため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方の平面形は長径1.08m、短径0.70mの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－53°－Ｗである。確認面からの深さは0.17mで、断面形は歪なレンズ状である。底面近くで検出された土器部分の掘り込みは、直径0.13m、深さ0.09m、主軸方向Ｎ－89°－Ｗである。Ⅴ層を掘り込んで逆位に壺鉢土器（第191図３）を埋設し、その上に深鉢形土器の破片（第191図２）を被せている。掘方は図上で推定線で示している。

【堆積土】土器周辺の埋土はⅤ層由来土をブロック状に多く含む人為堆積土で、土器内部は黒褐色土である。Ⅲｂ層由来土と考えられる。

【出土遺物】第191図２は口縁部に横走する微隆起線を配し、胴上部には「Ｊ」字状の単位文と充填縄文を施す。第191図３は、口縁部無文帯を隆線により一部縦に区画し、胴上部文様帯には沈線により「Ｊ」字状の単位文と充填縄文を施す。また両面調整石器１点、磨石１点が出土した。また、剥片類が3.０g出土した。

【所見・時期】埋設された土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）と考えられる。土器が逆位に埋設され、さらにその直上に土器片が被せられることから、土器棺墓である可能性がある。　（森谷）

SR241（第85図）

【検出状況】KM59グリッドに位置する。ＣⅥ層検出時に暗褐色のプラン内に土器の割れ口を確認し、断面を観察したところ、土器が横位に埋まっていたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】平面は、長径0.33m、短径0.28mの円形を呈し、主軸方向はＮ－66°－Ｅである。深さは0.1mで、壁はやや急に立ち上がる。土器は西へ斜位に埋設され、口縁部は打ち欠かれている。

【堆積土】２層に分層した。ＣⅤ層由来の暗褐色土を基調とし、土器内には地山ブロックや焼土ブロックが含まれる。地山ブロックが斑状に含まれるため人為堆積と思われる。

【出土遺物】第191図４は小型の深鉢で、底部から直線的に外傾し頸部でわずかに屈曲し、口縁部が緩く外反する。口縁部文様帯には、口端に縦位の短い縄圧痕を、その下に３条一組の斜走・横走縄圧痕を施す。

【所見・時期】検出層位や出土土器から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ２式期）と考えられる。土器の側面に焼土が付着し、土器内にも焼土ブロックが混入していたため、土器埋設炉として利用された可能性があるが、被熱赤色化面が確認できないことや土器が斜位に埋設されていることから土器埋設遺構と判断した。　（小松）

SR244（第85図）

【検出状況】KB51グリッドに位置する。ＣⅥ層検出時に黒褐色のプラン内に土器が埋まっているのを確認した。断面を観察したところ、土器が斜位に埋まっていたため土器埋設遺構と判断した。セクションポイントの記録を取れておらず、グリッド内の正確な位置は不明である。

【規模・形態】掘方平面形は長径0.31ｍ、短径0.23ｍの楕円形を呈する。深さ0.14ｍで、壁はやや急に立ち上がる。土器は正位に埋設されている。

【堆積土】２層に分層した。いずれもＣⅢａ～ｂ層由来の黒褐色土を基調とし、人為的な埋め戻し土と思われる。

【出土遺物】第191図５は、小型の深鉢で、底部から外傾して胴部が張り出し、口縁部に向けて直立気味に立ち上がる。器表面には地文のみ施す。

【所見・時期】埋土から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭に属すると思われ、本来はより上層から掘り込まれたものと考えられる。　（小松）

SR290（第85図）

【検出状況】LE・LF67グリッドに位置する。ST247及びSI638精査時に調査区北壁断面でSI638－８層及び９層から掘り込まれる逆位の土器を検出した。土器の両側に立ち上がりが確認できたため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】断面で確認できる規模は幅0.50ｍ、深さ0.38ｍで、壁はやや緩やかに立ち上がる。土器は逆位に埋設されており、底部は打ち欠かれている。土器上部には蓋として利用されたと思われる扁平な砂岩がある。

【堆積土】２層に分層した。地山ブロックや炭化物を多く含む褐色土が主体である。周囲の堆積と異なり、地山ブロックを多量に含む。

【出土遺物】第192図１は、４単位波状口縁で、直立気味に立ち上がり口縁部が外反する器形である。波頂部下に貫通孔または内面にのみ盲孔を各２単位施す。胴上部には隆線により横展開の弧状文を施す。胴上部文様帯にも地文を施す。また、剥片類が5.2ｇ出土した。

【所見・時期】埋設された土器から縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ式期）と考えられる。土器を逆位に埋設した後、蓋として扁平礫を乗せており、土器棺墓として利用された可能性がある。　（小松）

SR321（第85図、図版43）

【検出状況】LF64グリッドに位置する。埋没沢上面（地山相当）で褐色の円形プランを確認した。断ち割った結果、土器が埋設されていたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方の平面形は、直径0.32ｍの円形を呈する。深さは0.26ｍで、壁は急に立ち上がる。土器は正位に設置され、口縁部は打ち欠かれている。

【堆積土】６層に分層した。掘り込み内に土器を据えた後、掘り込み・土器内とも2/3程度までⅤ層由来の黄褐色砂（５層）で埋め戻している。土器内の３層には焼土層で、骨片が出土した。

【出土遺物】第191図６は、口縁部と底部を欠く。地文のみが確認でき、胴部下位は横走縄文になっている。

【所見・時期】口縁部が欠けており、時期は不明である。焼土層や土器の変色はあまり進んでいない。
（小松）

SR454（第86図、図版44）

【検出状況】LT49グリッドに位置する。ST252東西トレンチを西へ拡張した際、ST252Ⅱ層で正位に埋設されていた土器を検出したため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘り込みの東側はトレンチ掘削により消失した。直径0.47ｍの円形を呈していたと思われる。確認面からの深さは0.41ｍで、壁はやや急に立ち上がる。土器は正位に埋設されており、口縁部は打ち欠かれている。

【堆積土】２層に分層した。ST252Ⅱ層由来の炭化物を含む暗褐色土を基調とする。土器内の２層には微細骨片と思われる灰白色粒が含まれる。

【出土遺物】第192図５は頸部以下が残存する。確認できる口縁部文様帯は、横位の隆帯間に刺突列を施す。また、土器上部に蓋をするように石皿１点がのせられ、土器内から敲石１点、剥片類が72.1ｇ出土した。

【所見・時期】ST252Ⅱ層に構築されていることから、縄文時代中期後葉（最花式期）に古手の土器を意図的に埋めたと推測される。石皿や敲石の出土状況から、土器棺墓である可能性がある。

（小松・大上）

SR520（第86図）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に土器の縁辺が半円状に出土した。平面観察で掘り込みを確認できず、南北軸に西側を箱掘りして断面観察を行ったところ、掘り込みが確認できたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方の平面形は、長軸0.48ｍ、短軸0.42ｍの不整形で、主軸方向はＮ－19°－Ｗである。確認面からの深さは0.25ｍで、断面は北側に段を持つ緩やかな皿形を呈する。土器はやや北へ傾斜しているが正位に埋設され、底部付近しか残存していない。

【堆積土】３層に分層した。土器内の１・２層はいずれもST252Ⅱ層由来の流れ込みである。掘り込み内の３層はST252Ⅱ層由来の人為堆積である。

【出土遺物】第192図５は底部付近のみの資料で、横位に展開する結束羽状縄文が確認できる。

【所見・時期】ST252Ⅱ層に構築されていることから、縄文時代中期後葉（最花式期）に古手の土器を意図的に埋めたと推測される。（久住・大上）

SR529（第86図、図版44）

【検出状況】LT50グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に土器の縁辺が半円状に出土した。平面観察で掘り込みを確認できず、東西軸に南側を箱掘りし断面観察を行ったところ、掘り込みが確認できたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長軸0.68ｍ、短軸0.49ｍの不整形で、主軸方向はＮ－84°－Ｗである。確認面からの深さは0.42ｍである。断面はやや角形を呈し、東側の壁は直立し、西側は段をなす。土器は西側へ斜位に埋設され、口縁部は残存していない。

【堆積土】４層に分層した。いずれもST252Ⅱ層由来のもので人為堆積である。

【出土遺物】第192図３は口縁部を欠き、横位に展開する結束羽状縄文のみ確認できる。また、敲石１点、剥片類が130.1ｇ、石核が76.0ｇ出土した。

【所見・時期】縄文時代中期後葉（最花式期）に古手の土器を意図的に埋めたと推測される。

（久住・大上）

SR560（第87図）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層下層掘削中に土器片が集中して出土した。土器片を取り上げた後、土器の胴部が円形状に検出された。東西軸に南側を箱掘して断面観察を行ったところ、掘り込みが確認できたため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長径0.48ｍ、短径0.36ｍの楕円形で、主軸方向はＮ－68°－Ｅである。確認面からの深さは0.29ｍで、断面形はＵ字状を呈する。土器は西へ向かって斜位に埋設され、底部から胴部の一部が残存している。

【堆積土】１層はST252Ⅳ層下層由来で地山ブロックを含む。土器内土の様相は不明である。

【出土遺物】第192図４は底部から直線的に外傾し、口縁部がわずかに外反する。口縁部文様帯は横位隆帯で区画し、波頂部下に蝶形の貼り付けを配して、その周囲を横位多段の縄圧痕で埋めている。また、剥片類が8.4ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位と出土した土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。最初に出土した土器片は倒れ込んだ口縁部で、土圧により崩壊したものと思われる。　（久住）

SR570（第87図、図版44）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。ST252Ⅱ層精査時に検出した。断面観察の結果、掘り込みを確認したことから土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.30ｍ、短径0.27ｍで平面形は円形を呈し、主軸方向はＮ－77°－Ｅである。深さは0.22ｍで、断面形は逆台形を呈する。土器は正位に埋設され、底部は打ち欠かれている。

【堆積土】４層に分層した。土器内の１～３層はST252Ⅱ層とよく似るが、比較的炭化物の混入が多く、地山由来の黄色土をブロック状に含む。

【出土遺物】第193図１は口縁部と底部を欠き、口縁部文様帯には隆帯間の刺突列が、胴部には結束羽状縄文が確認できる。また、剥片類が64.3ｇ出土した。

【所見・時期】縄文時代中期後葉（最花式期）に古手の土器を意図的に埋めたと推測される。

（森谷・大上）

SR571（第87図、図版44）

【検出状況】LS52グリッドに位置する。ST252Ⅱ層精査時に土器の縁辺を円形に検出した。断面観察の結果、掘り込みを確認したことから土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】長径0.26ｍ、短径0.20ｍ、主軸方向はＮ－１°－Ｗである。土器確認面から掘り込み底面までの深さは0.24ｍで、土器を据えるための掘り込みは確認できなかったが、土器直下には断面Ｕ字状の掘り込みがある。土器は正位に埋設され、口縁部及び底部を欠いている。

【堆積土】２層に分層した。１層は炭化物、焼土のほか微細な骨片を含む。土器は被熱を受けているが周囲の土に赤色化は見られない。

【出土遺物】第193図２～５は、SR571の埋設土器及び出土土器である。２、４、５は埋設土器で、口縁部に平行沈線による文様を施し、胴部は地文のみとなることが窺える。３は平行沈線で横展開の文様を施す。また、剥片類が5.8ｇ出土した。

【所見・時期】縄文時代中期後葉（最花式期）に古手の土器を意図的に埋めたと推測される。堆積土中に細かい骨片が含まれているが、ST252Ⅱ層自体に骨片が含まれていることから本遺構に伴うものではないと判断した。　（森谷・大上）

SR576（第87図、図版45）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に焼土や炭化物、土器片の集中地点を検出した。断面観察の結果、地山面を掘り込んでいることから土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長径0.78m、短径0.75mの楕円形で、主軸方向はＮ－11°－Ｅである。深さ0.16mで、断面形は逆台形を呈する。土器が正位に２つ並んで埋設され、土器及び周囲の土は強く被熱し赤色化している。

【堆積土】３層に分層した。土器周辺は強く被熱し、周囲の土は強く赤色化している。土器内の１・２層は比較的焼土の混入が少ないⅤ層由来土で埋め戻されており、土器の底部は打ち欠かれ、地山面をそのまま炉床として利用している。３層はⅤ層由来の黄色土に焼土と炭化物を多量に含む。

【出土遺物】第193図７は波状口縁で、胴上部が張り出し、頸部でわずかに屈曲し、口縁部が外反する。波頂部下に円形、橋状貼付を配して縦区画とし、そこから横に斜位の隆帯及び３条一単位の縄圧痕を施す。第193図６は、波頂部下に縦と「ハ」字状の隆帯を配し、その隙間に横走縄圧痕と一部に縦位の短い縄圧痕を施す。また、剥片類が3.2ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ２式期）と考えられる。土器を２個体並べて埋設した遺構である。竪穴建物に伴う炉であった可能性が考えられるが、周囲に住居壁面の立ち上がり等は確認できなかった。なお、遺構内から検出した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、3,494calBC～3,118calBC(2σ)の年代値が得られた。　（森谷）

SR580（第88図、図版45）

【検出状況】LS51グリッドに位置する。ST252南北ベルトを掘削時に検出した。ベルトの断面を観察したところ、掘り込みが確認できたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、径約0.23mの円形を呈していたと思われる。深さは0.29mで、断面形はU字状を呈し、壁はやや急に立ち上がる。土器は北から南へ向かってやや斜位に埋設されている。

【堆積土】２層に分層した。土器内土・掘り込み土ともにST252由来の黒褐色である。１層は周囲に比べてしまりが弱く、炭化物なども少ないため自然堆積とみられる。２層中にはⅤ層由来土、炭化物、礫が混在していることから人為堆積と思われる。

【出土遺物】第193図８は底部から直線的に外傾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。４単位の突起により小波状口縁となり、口縁部文様帯には幅広の隆帯を横位、波状に配して、一部に刺突列を施す。胴部には結束原体による斜縄文を施す。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。土器埋設遺構の隣で出土した扁平礫は埋設土器の蓋として用いられていた可能性もある。　（小松）

SR585（第88図、図版45）

【検出状況】MA51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層下層掘削中に土器の縁辺が円形に出土した。平面観察で掘り込みが確認できなかったことから、東西軸の南側を箱掘りし、断面観察を行ったところ、掘り込みが確認できたことから土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】長軸0.38m、短軸0.29mの不整形で、主軸方向はＮ－79°－Ｅである。確認面からの深さは0.25mで、断面形はU字状を呈する。埋設土器は逆位で据えられており、やや南側に傾いている。

【堆積土】２層に分層した。掘り込み内の１層は、やや炭化物を多く含む。

【出土遺物】第193図９は底部から直線的に外傾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。小波状口縁で、波頂部下に「X」字状の隆帯を配し、両側に横位の縄圧痕を多段に施す。胴部は斜縄文を施す。

【所見・時期】出土した土器や検出層位から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。

（久住）

SR587（第88図、図版45）

【検出状況】LT50・51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層上層掘削中に検出した。北側でも同様に土器の縁辺が出土したため、南北軸に東側を箱掘りし断面観察を行ったところ、掘り込みを確認できたため土器埋設遺構と判断した。SR590より旧い。

【規模・形態】掘方平面形は、長径0.40m、短径0.34m（推定）の楕円形で、主軸方向はＮ－13°－Ｗである。確認面からの深さは0.38mで、断面はU字状を呈する。土器は南に向かって斜位に埋設され、胴部から底部が残存している。

【堆積土】４層に分層した。土器内の１～３層はいずれもST252Ⅱ層由来の流れ込み土である。掘り込み内の４層は地山ブロックを多く含むため、ST252Ⅱ層由来のものであると考えられる。

【出土遺物】第194図１は底部から直線的に外傾して立ち上がり、頸部が屈曲して口縁部がわずかに外反する。平口縁で、口縁部文様帯には４か所に円形貼付を配し、その間に横走縄圧痕を多段に施す。胴部には斜縄文を施す。第193図10はSR587出土土器で、波状口縁の波頂部下に縦位隆帯、両側に多段の縄圧痕を施す。胴部には斜縄文を施す。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。

（久住）

SR590（第88図、図版45）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層上層掘削中に検出した。平面観察では掘り込みが確認できず、SR587と併せて南北軸に沿って東側を箱掘りし断面観察を行ったところ、掘り込みを確認できたため、土器埋設遺構と判断した。SR587より新しい。

【規模・形態】掘方平面形は、長軸0.37m、短軸0.29mの不整形で、主軸方向はＮ－０°－Ｅである。確認面からの深さは0.30mで、断面はやや角形を呈する。土器は南へ向かって斜位に埋設され、口縁部を欠いている。

【堆積土】２層に分層した。掘り込み土・土器内土はいずれもST252Ⅳ層由来である。

【出土遺物】第194図２は底部から直立気味に立ち上がり、口縁部が外反する。口縁部の大部分を欠くが、小波状口縁になるとみられる。波頂部下に縦位隆帯を配置し、両側に横位多段の縄圧痕を施す。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。

（久住）

SR616（第89図）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に検出した。断面観察を行ったところ、掘り込みが確認できたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長軸0.39m、短軸0.33m（推定）で、主軸方向はＮ－11°－Ｗである。確認面からの深さは0.18mで、断面はU字状を呈する。土器は南へ向かって斜位に埋設され、胴

部から底部が残存している。

【堆積土】３層に分層した。いずれもST252Ⅱ層由来のものである。

【出土遺物】第194図３は、胴部中位以下が残存する。地文のみ確認できる。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（久住）

SR654（第89図、図版46）

【検出状況】LS52グリッドに位置する。Ⅴ層上面で暗褐色土の広がりに、土器底部付近が突き出た状態で確認した。断面観察の結果、掘り込みを確認したため土器埋設遺構と判断した。SKP655より新しい。

【規模・形態】掘り込みは直径0.30mの円形を呈する。確認面からの深さは0.59mで、断面形はU字状である。土器は逆位に埋設され、底部は打ち欠かれている。土器直下には蓋石として石皿が置かれていた。

【堆積土】Ⅴ層由来の人為的な埋め戻し土である。

【出土遺物】第194図４は、胴部中位が張り出し、頸部で屈曲して口縁部が外反する。波頂部が二股になる小波状口縁で、波頂部下に円形貼付、波底部下に楕円形貼付を配し、間を横走縄圧痕で埋める。また蓋石として石皿１点が利用されていた。

【所見・時期】検出層位や出土土器から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。穴を掘った後、1/3程を３層で埋め戻して底面に平らな面を作っている。その後、蓋石をした土器を逆位に埋設し、さらに埋め戻したと思われることから、土器棺墓である可能性が高い。　（髙橋）

SR700（第89図、図版45）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層下層中で検出した。断面観察の結果、掘り込みを伴っていたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、直径0.30mの円形を呈する。確認面からの深さは0.28mである。断面形は不整形で、壁は急に立ち上がる。土器は北から南へ向かって斜位に埋設されている。

【堆積土】３層に分層した。土器内の１・２層は褐色ブロックを含む黒褐色粘質土、掘り込み内の３層は黒褐色土である。いずれもⅤ層由来土が含まれるため人為堆積と思われる。

【出土遺物】第194図５は口縁部を欠くが、口縁部文様帯の横走縄圧痕が一部認められる。胴部には地文を施す。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。

（小松）

SR702（第89図、図版47）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層下層中で検出した。断面観察の結果、土器が斜位に埋設されていたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、直径0.29mの円形を呈する。確認面からの深さは0.21m、断面形は方形で、壁は急に立ち上がる。土器は南へ向かって斜位に埋設されており、土器内に蓋と思われる礫石、土器の南側に扁平礫が縦位で埋設されている。

【堆積土】３層に分層した。１・２層は地山ブロックを含む暗褐色土を基調とし、凹み石の下はしまりが弱い。３層の掘り込み内土は地山ブロック・炭化物を少量含む暗褐色土である。

【出土遺物】第194図６は、底部から外傾して頸部で屈曲し、口縁部が外反する。平口縁で、全面地文のみを施文する。他に敲石１点、扁平な自然礫１点が出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。土器下の扁平礫は土器埋設時の支えであると推測される。土器内から敲石が１点出土したことから、土器棺墓の可能性がある。（小松）

SR704（第90図、図版47）

【検出状況】LS50・51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層下層中で検出した。その周囲に暗褐色の楕円形プランを確認したため半裁したところ、土器が埋設されていたため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長径0.60ｍ、短径0.52ｍの楕円形を呈しており、主軸方向はＮ－36°－Ｅである。確認面からの深さは0.33ｍで、断面形は方形を呈し、壁は急に立ち上がる。土器は南へ向かって斜位に埋設され、土器の南側上部に人頭大の礫が付随する。

【堆積土】５層に分層した。土器内土、掘り込み内土ともにST252Ⅳ層由来の暗褐色土を基調とする。いずれもⅤ層由来土や炭化物などが混在していることから、人為堆積と思われる。

【出土遺物】第195図１は口縁部の大部分を欠き、一部楕円形貼付と横走縄圧痕が認められる。また、剥片類が35.9ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。底部に打ち欠かれた痕跡があることから、埋設前に土器の底部を打ち欠いて切り離し、胴部を埋設した後で土器内へ底部を戻している可能性がある。出土した礫はもともと蓋として用いられていたとみられ、土器棺墓である可能性がある。（小松）

SR706（第90図、図版47）

【検出状況】LS51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層で検出した。掘り込みを伴うため、土器埋設遺構と判断した。SK589より旧い。

【規模・形態】掘方平面形は、直径0.36ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍで、断面形は半楕円形を呈し、壁はやや急に立ち上がる。土器は正位に埋設される。

【堆積土】６層に分層した。１層はST252Ⅱ層由来の褐色砂質土、２層は焼土層である。３層は下部への蓋の役目を持つ地山由来の明黄褐色砂質土である。４層は骨片や炭化物、焼土ブロック等を含む暗褐色土である。掘り込み内の５・６層はST252由来の暗褐色土を基調とする。いずれも人為堆積と思われる。

【出土遺物】第195図２は、胴部中位以下が残存する。地文のみ確認できる。石箆１点、剥片類が10.4ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（小松）

SR707（第90図、図版46）

【検出状況】LS51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層上層中で検出した。土器が下部へ続いていたためサブトレンチを設定して断面観察を行ったところ、逆位に埋設されていた土器と掘り込みを確認したため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長径0.46ｍ、短径0.42ｍの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－33°－Ｗである。確認面からの深さは0.26ｍで、断面形はやや半円形で、壁はやや急に立ち上がる。土器は南へ

向かって斜位に埋設される。土器に接するように扁平礫が置かれ、土器の下には石皿が埋設されている。土器の内側からは扁平石器や白色を呈する石製品が出土した。

【堆積土】４層に分層した。１・２層はST252由来の地山ブロックを含む黒褐色土を基調とする。土器内の３・４層はしまりの弱い褐色～暗褐色土である。掘り込み内土は炭化物などが斑状に混在していることから人為堆積と思われる。

【出土遺物】第195図３は、口縁部文様帯の区画隆帯のみ確認できる。胴部には結節回転を伴う斜縄文を施す。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。土器内から出土した石器は副葬品の可能性がある。土器直上の扁平礫は蓋として用いられた可能性が考えられ、本遺構は土器棺墓である可能性が高い。（小松）

SR711（第91図、図版47）

【検出状況】MA51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層上層中で検出した。断面観察の結果、掘り込みを伴っていたため土器埋設遺構と判断した。SR713より新しい。

【規模・形態】直径0.56ｍの円形を呈し、確認面からの深さは0.28ｍである。断面形は半円形を呈し、壁はやや急に立ち上がる。土器は南へ向かって斜位に埋設されている。土器直上には人頭大の礫が置かれていた。

【堆積土】２層に分層した。土器内の１層はしまりの弱い暗褐色土である。掘り込み内の２層はST252Ⅳ層由来の暗褐色土である。２層は、炭化物などが斑状に混在していることから人為堆積と思われる。

【出土遺物】第195図４は、胴部中位が張り出し頸部でわずかにくびれ、口縁部が外反する。波頂部が二股になる小波状口縁で、直下を起点に「ハ」字状、その下に縦位の隆帯を配し、隆帯に沿った縄圧痕を施す。「ハ」字状隆帯と口縁部下端区画の隆帯の接点は円形貼付になる。胴部は結節回転を伴う斜縄文である。

【所見・時期】検出層位や出土土器から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ２式期）と考えられる。土器上部の蓋と思われる扁平礫の存在から、土器棺墓の可能性がある。（小松）

SR713（第91図、図版47・48）

【検出状況】MA51グリッドに位置する。ST252Ⅳ層上層中で一周する土器の口縁部を検出した。断面観察の結果、立ち上がりを確認したため土器埋設遺構と判断した。SR711より旧い。

【規模・形態】調査区外へ延びるため平面形は不明だが、径0.4ｍ程度の円形と推定される。確認面からの深さは0.32ｍで、断面形は半円形である。土器は正位に埋設され、僅かに北へ傾いている。

【堆積土】２層に分層した。１層は炭化物・焼土ブロックを含む暗褐色土、２層は黄褐色ブロックや炭化物、偽礫を含む暗褐色土である。いずれも炭化物などが混在していることから人為堆積と思われる。

【出土遺物】第195図５は、底部から直線的に外傾して立ち上がり、口端がわずかに内湾する。４単位の小波状口縁で、波頂部下に縦位の縄圧痕と円形貼付を配し、両側に横走縄圧痕を多段に施す。胴部には斜縄文のみ施す。

【所見・時期】検出層位や土器から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。（小松）

SR715　（第91図、図版48）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252南北ベルト掘削時に検出した。断面観察の結果、掘り

込みを伴うほぼ完形の土器であったため、土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、直径0.44mの円形を呈していたと思われ、確認面からの深さは0.32mである。断面形はやや半円形を呈し、壁はやや急に立ち上がる。土器は南へ向かって斜位に埋設されている。

【堆積土】４層に分層した。１～３層は褐色ブロックを含む暗褐色土及び黒褐色土で、４層は褐色ブロックや炭化物、偽礫を含む黒褐色粘質土である。いずれも炭化物などが混在していることから人為堆積と思われる。

【出土遺物】第196図１は胴上部が張り出し、頸部でくびれて口縁部が外反する。口縁部の上下を隆帯で区画し、内部に蛇行隆線とその間に斜走縄圧痕と列点状の縄圧痕を交互に施す。胴部は結束原体を用いた斜縄文を施す。

【所見・時期】検出面はST252Ⅳ層下層であるが、より上位から掘り込まれている可能性がある。縄文時代中期前葉（円筒上層ｂ式期）と考えられる。（小松・大上）

SR716（第91図、図版48）

【検出状況】LS50グリッドに位置する。ST252南北ベルト掘削時、ST252Ⅳ層下層中で検出した。断面観察の結果、掘り込みを伴っていたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】残存幅は0.42mで、平面形は楕円形を呈していたと思われる。確認面からの深さは0.30mで、断面は隅丸方形を呈し、壁はやや急に立ち上がる。土器は南へ向かって斜位に埋設され、土器上部に蓋と思われる石皿、そして土器底部下にも礫が置かれている。

【堆積土】３層に分層した。１層はしまりの弱い暗褐色粘質土である。２・３層はST252由来の暗褐色土を基調とする。土器底部付近から骨片を検出したが、微細なため詳細は不明である。掘り込み内土は炭化物などが斑状に混在していることから人為堆積と思われる。

【出土遺物】第196図２は、底部から直線的に外傾し、口縁部がわずかに外反する。波状口縁で、波頂部下に橋状突起を配し、両側に口縁に平行する縄圧痕を施す。胴部には結束羽状縄文を施す。また、蓋石として石皿が１点用いられているほか、土器内から石皿１点、石製品２点が出土した。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。蓋と思われる石皿や副葬品と思われる石器が存在すること、底部付近から骨片が検出されたことなどから、本遺構は土器棺墓である可能性が高い。（小松）

SR719（第92図、図版49）

【検出状況】LS51グリッドに位置する。ST252南北ベルト掘削時、ST252Ⅳ層下層中で検出した。断面観察の結果、掘り込みを伴っていたため土器埋設遺構と判断した。

【規模・形態】掘削により北側及び南側の一部が消失したため、平面プランは不明である。残存幅は0.50mで、確認面からの深さは0.22mである。断面形は逆台形を呈し、壁はやや急に立ち上がる。土器は正位に埋設されているが、口縁部は欠損している。土器上部に蓋と思われる扁平礫が２点乗せられている。

【堆積土】２層に分層した。土器内の１層は褐色ブロックを含む暗褐色粘質土で、掘り込み内の２層は褐色ブロック・炭化物を含む暗褐色土である。

【出土遺物】第196図３は、口縁部を欠いており、胴部の乱雑な羽状縄文のみ確認できる。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。土器上部の蓋と思われる扁平礫の存在から、本遺構は土器棺墓である可能性がある。（小松）

SR3010（第92図、図版49）

【検出状況】ML46グリッドに位置する。平場Ⅳ層精査中に検出した。断面観察の結果、掘り込みを確認したことから土器埋設遺構であると判断した。

【規模・形態】掘方の平面形は、長径0.49m、短径0.39mの楕円形である。確認面からの深さは0.10mで、断面形は逆台形を呈する。掘り込み周辺には不鮮明だが、わずかに焼土が確認された。当初は土器が正位に埋設されたものと想定して精査を進めた。正位であれば胴部の部分に底部、底部の部分に胴部片が配され、掘り込みとの間には土器小片が縦位に挟まれていた。そのため、土器一個体が埋設されたのではなく、底面に敷かれた土器片とその直上に横倒しに埋設された２つの土器があり、その掘り込みに沿って土器片が配されたものと判断した。

【堆積土】２層に分層した。土器内の１層は暗褐色砂ブロックをわずかに含む平場Ⅲ層由来の黒褐色シルト、掘り込み内の２層は平場Ⅲ層由来の黒褐色シルトである。

【出土遺物】第196図４は胴部中位以上を欠損するが、胴部上位から懸垂する３～４条の沈線が底部付近に達し、その途中に渦巻文が付いている。地文は単節原体を縦回転で施している。第196図５は胴部が直立気味に立ち上がり、口縁部が外反する。全面地文のみである。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期中葉（榎林式期）と考えられる。　（小山）

SR3026（第92図、図版49）

【検出状況】MH45グリッドに位置する。Ｅ区平場の中央ベルトを掘削したところ、検出した。断面観察の結果、掘り込みを確認したことから土器埋設遺構と判断した。確認面直上が現代の盛土層であり、本来の遺構面は削平されている。

【規模・形態】掘方の長径は推定0.25m、短径は推定0.19mで、楕円形を呈したとみられる。確認面からの深さは0.20mで断面形はU字状を呈する。土器は正位に埋設されるが、土器上部は削平された可能性が高い。

【堆積土】単層で、炭化物や小礫をわずかに含む平場Ⅲ層由来の黒褐色シルト質砂である。周辺に焼土はみられない。

【出土遺物】第196図６は、胴部上位以上を欠き、底部付近の斜縄文のみ確認できる。

【所見・時期】検出層位や周辺の状況から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｅ式～榎林式期）である可能性が高い。土器内と掘り込み内埋土が同一層であるため、土器内外の埋土は間をおかずに人為的に埋め戻されたと考えられる。　（小山）

SR3027（第92図、図版49）

【検出状況】MK47グリッドに位置する。平場Ⅳ層掘削時に土器が埋設されているのを確認した。断面観察の結果、掘り込みを確認したことから土器埋設遺構と判断した。北西側の一部は攪乱によって切られる。

【規模・形態】掘方の平面形は、長軸0.22m（残存）、短軸0.20m（残存）の円形を呈したとみられる。確認面からの深さは0.15mで、断面形は逆台形を呈し、壁はやや急角度で立ち上がる。土器は正位に埋設される。

【堆積土】２層に分層した。しまりの弱い褐色砂層に掘り込まれ、掘り込み内にも褐色砂が堆積する。１層には炭化物粒をわずかに含むにぶい黄褐色シルトが堆積しており、焼土はみられない。２層には暗褐色砂ブロックが混入するため、土器設置後に充填したものと思われる。

【出土遺物】第196図７は、胴部中位以下のみ残存する。破片上端に文様帯の下端区画とみられる横走沈線が２条確認でき、以下は縦走縄文の地文を施文する。
【所見・時期】埋設土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｅ式期）と考えられる。　（小山）

SR3067（第93図、図版49）
【検出状況】MC52グリッドに位置する。ST252Ⅲ層精査中に斜位に埋納された土器の口縁部を検出した。平面・断面観察の結果、掘り込みは確認されなかったが、土器がほぼ完形であることから土器埋設遺構と判断した。
【規模・形態】土器本体は長軸0.38ｍ、短軸0.28ｍで斜位に埋設される。
【堆積土】土器内は単層で、ST252Ⅲ層由来の褐色シルトである。２～４層はST252Ⅲ層の堆積土である。掘り込みが確認されないため、ST252Ⅲ層造成直前に地面を掘り込まずに周辺に土を盛ることで斜位に固定された土器と考えられる。
【出土遺物】第197図１は長胴の深鉢で、底部から直立気味に立ち上がり、口縁部が外反する。小波状口縁で、口縁部文様帯は多くを欠くが、口端に楕円状隆帯の連続貼付、以下に横位の隆帯と連続刺突文が交互に重なることが確認できる。胴部は結束羽状縄文を施す。
【所見・時期】検出層位や土器から縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。土器がⅣ層直上に置かれる。次のSR3068と合わせて、掘り込みを持たず、周囲に土を盛って土器を固定している特殊な事例である。　（大上）

SR3068（第93図、図版49）
【検出状況】MC52グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を精査中にほぼ完形の土器が斜位に埋設された状態で検出された。断面観察の結果、掘り込みは確認できなかったが、土器がほぼ完形であることから土器埋設遺構と判断した。
【規模・形態】土器は長軸0.47ｍ、短軸0.32ｍで、斜位に埋設される。
【堆積土】掘り込みは確認されず、土器内は２層に分層した。１・２層はいずれもしまりが弱く、土質はST252Ⅱ・Ⅲ層とは全く異なる。
【出土遺物】第197図２は、底部から直線的に外傾して立ち上がる。４単位の突起が付くことで小波状口縁となる。口端は折返口縁状になり、上部に波状隆線を施す。波頂部下には指頭圧痕を加える縦位の隆帯を配し、そこから両側に隆線で弧線文を施す。底部から口端にかけて横回転の単節縄文を地文とする。
【所見・時期】検出層位や出土土器から縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ式期）と考えられる。掘り込みが確認されなかったため、土器が斜位に置かれた後、周囲に土を盛ることで固定したと思われる。土器内の土質が周囲と全く異なることから、内容物が入っていた可能性がある。SR3067はⅣ層直上に土器が置かれていたが、本遺構は、ST252Ⅲ層上に土器が置かれた後にST252Ⅲ層でその周囲を固定している。　（大上）

SR3145（第93図、図版49）
【検出状況】MD51グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に検出した。断面観察の結果、掘り込みを持つことから、土器埋設遺構と判断した。SKI3053より旧い。
【規模・形態】掘方平面形は、長軸0.22ｍ、短軸0.19ｍで円形を呈し、主軸方向はＮ－75°－Ｗであ

る。断面形はＵ字形で、壁の立ち上がりは直立気味である。確認面からの深さは0.07ｍである。北側の土器と掘り方の間の空隙はほぼ無い。土器は正位に埋設される。

【堆積土】ST252Ⅳ層由来土の単層である。炭化物、地山由来土を粒・斑状に含むことから人為堆積と考えられる。

【出土遺物】第197図４はロ縁部破片で、口端に縦位の短い縄圧痕を連続し、狭いロ縁部文様帯には横走縄圧痕を施す。第197図３は底部付近の資料で、斜縄文のみ確認できる。

【所見・時期】検出層位や出土土器から縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式期）と考えられる。また一部、重複するSKI3053に削平されたと考えられる。（大上）

SR4034（第93図、図版49）

【検出状況】ME38グリッドに位置する。丘陵部Ⅲ・Ⅳ層精査中に完形に近い土器を検出した。土器の周辺に黒褐色土の円形プランを確認したため、遺構と判断した。

【規模・形態】掘方平面形は、長軸0.39ｍ（残存）、短軸0.36ｍ（残存）で、主軸方位はＮ－５°－Ｅである。不整円形プランを呈し、確認面からの深さは0.38ｍで、断面形は浅いＵ字形を呈する。土器は南側に向かって斜位に埋設される。

【堆積土】２層に分層した。土器内の１層は炭化物を含む黒褐色シルト、掘り込み内の２層は暗褐色シルトである。２層は丘陵部Ⅲ・Ⅳ層由来だが、１層は異なる土質である。

【出土遺物】第197図５は、胴部中位が張り出し、頸部にかけて直立気味に立ち上がり、口縁部が外反する。折り返し状になるロ端にのみ波状隆線を施し、以下は全面斜縄文を施す。

【所見・時期】検出層位や出土土器から、縄文時代中期と考えられる。（大上）

（10）焼土遺構

SN60（第94図）

【検出状況】LS・LT55グリッドに位置する。ST252Ⅰ層で検出した。確認調査時に焼土遺構と報告されていたものである。SKP4181より新しい。

【規模・形態】平面形は、長径0.80ｍ、短径0.65ｍの楕円形を呈する。深さは0.16ｍである。

【堆積土】現地性の焼土でST252Ⅰ層由来の黒褐色土が所々赤色化している。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式期）と考えられる。被熱赤色化面があるため地床炉の可能性があるが、周囲にピットがないため、住居に伴う炉であるかは判然としない。（小松・大上）

SN63（第94図、図版50）

【検出状況】KF55グリッドに位置する。ＣⅢａ～ｂ層上面で、暗赤褐色焼土の不整形プランを確認した。断面観察の結果、被熱硬化面が確認されたため焼土遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は長軸1.20ｍ、短軸0.48ｍの不整形である。確認面からの深さは0.10ｍで、全体の断面形は根攪乱により明らかではないが、壁はやや急角度で立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。１層は赤褐色焼土を含むＣⅡ層由来の黒褐色シルトで、２層は赤褐色焼土である。１層は明確な人為堆積の痕跡がみられないため、自然堆積と判断した。木根の影響で焼土が混入したとみられる。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。他に検出さ

れた焼土遺構に比べると被熱が弱いが、硬化面を持つことから現地性の焼土と判断した。周囲に掘り込みや柱穴がみられないため、比較的短期間にわたって使用された屋外炉の可能性がある。

（小山・大上）

SN198（第94図、図版50）

【検出状況】LT50グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に赤褐色の焼土を検出した。精査を行った結果、南北に細長い楕円形の焼土の広がりを検出した。

【規模・形態】平面形は、長径0.56m、短径0.36mで楕円形を呈し、焼土の厚さは0.14mで、断面は緩やかな皿形を呈する。

【出土遺物】第198図１は口縁部付近の破片で、上部に２個一対の円形貼付、その下に横位の隆線が２条、以下縦位、横位の沈線が確認できる。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期中葉（円筒上層ｅ式期）と考えられる。焼土は赤褐色を呈し、堅く焼き締まる。焼土の下から被熱により劣化した礫が出土しており、この場で火を使用していると考えられる。（久住）

SN210（第94図）

【検出状況】KL58グリッドに位置する。ＣⅢｂ層精査時に薄い褐色の焼土の広がりとして検出した。

【規模・形態】長径0.52m、短径0.42mの楕円形を呈する。焼土の厚さは0.05mであった。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。焼土の赤色化はあまり進行しておらず、短期間の利用であったと思われる。（小松）

SN211（第94図）

【検出状況】KM58グリッドに位置する。ＣⅢｂ層精査時に褐色の焼土の広がりとして検出した。

【規模・形態】長径0.27m、短径0.23mの楕円形を呈する。焼土の厚さは0.04mであった。

【所見・時期】検出層位や出土した縄文土器から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。焼土の赤色化はあまり進行しておらず、短期間の利用であったと思われる。（小松）

SN212（第94図）

【検出状況】KN59グリッドに位置する。ＣⅢｂ層精査時に薄い褐色焼土の広がりとして検出した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.35m、短軸0.23mの楕円形を呈する。焼土の厚さは0.04mである。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。焼土の赤色化面はなく、焼土ブロックが集中しているのみであり、焼土を廃棄しただけの可能性もある。

（小松）

SN219（第94図）

【検出状況】LT50グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に褐色の焼土を埋土とする東西に長い楕円形の被熱プランとして検出した。

【規模・形態】平面形は、長径0.81m、短径0.59mで楕円形を呈する。焼土の厚さは0.10mで、緩やかな皿形を呈する。

【所見・時期】焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、ま

たしまりも弱いことから異地性の焼土と判断した。検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（久住）

SN220（第95図）

【検出状況】LT・MA48グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に赤褐色の焼土を埋土とする東西に長い楕円形のプランとして検出した。

【規模・形態】長径0.72m、短径0.40mで平面形は楕円形を呈する。焼土の厚さは0.16mで、緩やかな皿形を呈する。

【出土遺物】第198図２は口縁部破片で、波状口縁の波頂部に波状隆帯、その下に縦、横、斜位または口縁に平行した隆帯を配し、その隙間に刺突列を施す。また、剥片類が128.8g出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。西側に焼土が集中しており、東側はⅣ層由来の土に焼土ブロックが混入している。しまりは弱い。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。（久住）

SN287（第95図）

【検出状況】LE64グリッドに位置する。調査区東壁のSI286直下でしまりの強い赤褐色の、南北に細長い楕円形の被熱プランとして検出した。SI286より旧く、SX248より新しい。

【規模・形態】断面で確認できる最大幅は0.46mである。平面形は楕円形を呈していたと思われ、深さは0.08mである。

【所見・時期】縄文時代中期後葉（最花式期）のSI286直下から検出したため、同時期と考えられる。焼土層の上部に地山由来の黄褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたと思われる。（小松）

SN411（第95図）

【検出状況】LF65グリッドに位置する。攪乱土を掘削中、Ⅴ層にて一部を礫に囲まれた赤褐色焼土が不整形に広がる状況で検出した。攪乱土の掘削に伴い、大部分の焼土と礫を取り上げてしまっており、その正確な記録が取れていない。SI404より新しい。

【規模・形態】長軸0.88m（残存）、短軸0.66m（残存）、深さ0.10mである。

【出土遺物】第198図３は口縁部破片で、波状口縁の波頂部に横位隆線、以下縦、横の沈線が確認できる。第198図４は胴部破片で、縦位の３本一組の平行沈線の上部に渦巻文を施す。また、石鏃が１点、剥片類が41.8g出土した。

【所見・時期】出土した土器から、縄文時代中期中葉（榎林式期）と考えられる。焼土の中心は西側にあり、被熱した礫も検出されている。礫の配置は乱れ、抜けている部分もあるが石囲炉だった可能性が高い。地山由来の黄色土に炭化物が極めて多く混入し、焼土・微細骨片が含まれる。焼土は広い範囲に及んでいるが、炉内の堆積物が拡散し広がった結果で、もともとは狭い範囲にまとまっていたものと考えられる。明確な石組は確認できないが、0.2m大程の被熱した礫が円形に並んで検出され、円形の内側には炭化物が集中していた。なお、SN411から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、2,906calBC～2,706calBC（2σ）の年代値が得られた。（森谷・大上）

SN458（第95図、図版50）

【検出状況】LS52・53グリッドに位置する。ST252Ⅲ層で赤褐色の焼土の集中を確認し、焼土遺構と

判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.78m、短径0.6mで不整楕円形を呈する。深さは0.07mである。

【堆積土】レンズ状に赤色化しており、その上に骨片を含む暗褐色土が堆積している。

【出土遺物】剥片類が1.3g、石核が19.5g出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式期）と考えられる。しまりが強くレンズ状に赤色化しているため、地床炉であると思われる。住居に伴うものかは判然としないが、周囲には柱穴と思われるピットが多く検出されているため、それらと対応して竪穴建物の屋内炉となる可能性がある。（小松）

SN507（第96図、図版50）

【検出状況】LS53グリッドに位置する。ST252中央部に設けた断面観察用ベルトのST252Ⅱ層中にて焼土として確認した。

【規模・形態】長軸1.31m、短軸0.45m（残存）、確認面からの深さは0.17mである。

【堆積土】２層に分層した。１層は焼土粒を大量に含み、炭化物・微細骨片が混入する。２層は薄い炭化物層で、水平に堆積する。

【出土遺物】剥片類が4.5g出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。（森谷）

SN525（第96図、図版50）

【検出状況】LS52・53グリッドに位置する。Ⅴ層精査中に焼土の集中範囲として検出した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.60m、短軸0.50mで隅丸方形を呈し、確認面からの深さは0.08mで、断面形はレンズ状を呈する。

【堆積土】２層に分層した。底面は均一に被熱して赤色化している。最上層にはST252Ⅲ層由来の暗褐色土が堆積している。底面直上の白色粘質シルトは灰と考えられる。

【出土遺物】剥片類が84.9g出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。地床炉の可能性も考えられる。底面はそれほど硬化しておらず、赤色化もそれほど深く進行していないことから、使用された期間は短かったと考えられる。（森谷）

SN594（第96図）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層を掘削中に明褐色の焼土を埋土とする円形のプランとして検出した。

【規模・形態】平面形は、長径0.27m、短径0.25mで円形を呈し、焼土の厚さは0.06mで、断面は皿形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】焼土は明褐色を呈する。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。（久住）

SN601（第96図、図版50）

【検出状況】LS52グリッドに位置する。Ⅴ層精査中に楕円形に広がる焼土を確認したため、焼土遺構

と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.59m、短径0.23mの楕円形を呈する。

【堆積土】焼土は赤褐色を呈する。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。しまりが強くレンズ状に赤色化しているため、地床炉であると思われる。住居に伴うものかは判然としないが、周囲には柱穴と思われる柱穴様ピットが多く検出されているため、それらと対応して竪穴建物となる可能性がある。（小松）

SN617（第31図、図版18）

【検出状況】LE66グリッドに位置する。ST247－CD断面において、ST247層中で褐色の被熱赤色化面として検出した。

【規模・形態】断面で確認できる最大幅は0.50m、焼土の厚さは0.07mである。

【堆積土】焼土は褐色を呈する。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。しまりが強く、レンズ状に赤色化している。地床炉の可能性が高いが、住居に伴うものかは不明である。（小松）

SN695（第96図、図版50）

【検出状況】LT52グリッドに位置する。Ｖ層上面で焼土及び褐色土の広がりとして検出した。SI786より旧い。

【規模・形態】平面形は、長径0.76m、短径0.54mで楕円形を呈し、確認面からの深さは0.12mである。

【堆積土】３層に分層した。１層は人為的に埋め戻された層である。

【所見・時期】住居に伴わない焼土遺構である。中央部に径８cmの凹みがある。縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ～ｄ式期）のSI786に切られていることから、それ以前と推定される。（髙橋）

SN696（第97図、図版50）

【検出状況】MA53グリッドに位置する。Ｖ層上面で褐色土の広がりとして検出した。東側をトレンチで切られる。

【規模・形態】平面形は、直径0.69mの円形を呈する。深さは焼土面まで0.03m、被熱下端まで0.07mである。

【堆積土】４層に分層した。被熱面の上は炭化物を含む褐色土で埋め戻されている。

【出土遺物】剥片類が38.5g出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。掘り込みを持つ焼土遺構である。住居の掘込炉の可能性が高いが、SX4186により住居の立ち上がりは削平されたと推定される。（髙橋）

SN762（第97図、図版51）

【検出状況】LT53グリッドに位置する。SI795床面で焼土の広がりとして確認した。

【規模・形態】平面形は、長径0.53m、短径0.29mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.05mである。

【堆積土】焼土は暗赤褐色を呈する。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ～ｄ式期）と考えられる。住居の地床炉と推定されるが、SI795に伴うかは不明である。検出時、薄く暗褐色土がかぶっていたため、周りの底面（Ｖ層）よりもわずかに掘りくぼめたか、炉として使用しているうちに窪んだと思われる。（髙橋）

SN766（第97図、図版51）

【検出状況】LS52・53グリッドに位置する。Ｖ層上面（SI795床面相当）で、焼土及び炭化物の広がりとして確認した。

【規模・形態】平面形は、長軸は0.50ｍ、短軸0.16ｍで不整形を呈する。確認面からの深さは0.05ｍである。

【堆積土】西側は焼土のみである。東側は灰褐色土の上部に炭化物が面的に堆積する。

【所見・時期】上部を削平された焼土遺構で、住居に伴うかは不明である。状況的にはSI795に切られていると推定される。縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）の遺構と考えられる。（髙橋）

SN789（第97図）

【検出状況】LT51グリッドに位置する。Ｖ層上面で焼土の広がりとして確認した。SKP779より旧い。

【規模・形態】平面形は、長径は0.36ｍ、短径は0.17ｍで楕円形を呈する。確認面からの深さは0.04ｍである。

【堆積土】暗赤褐色の現地性の焼土である。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。住居に伴わない焼土遺構である。（髙橋）

SN3038（第97図、図版51）

【検出状況】MC52・53グリッドに位置する。ST252Ⅰ層精査中に、焼土が斑状に含まれる層を検出し、焼土範囲として精査を進めた。

【規模・形態】平面形は、残存長軸0.71ｍ、残存短軸0.36ｍで、南北に延びる不整形プランを呈する。確認面からの深さは0.04ｍである。

【堆積土】単層である。褐色焼土ブロックを斑状に含むにぶい黄褐色シルトである。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。（大上）

SN3040（第97図）

【検出状況】MC50・51グリッドに位置する。Ⅲｂ層下層精査中に、骨片混じりの焼土粒を斑状に含む層を検出した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.83ｍ、残存短軸0.38ｍの不整形である。東半部は調査区外へ延びるため、主軸は不明である。

【堆積土】褐色砂中に炭化物や焼土、骨片を多量に含む。

【出土遺物】剥片類が11.1ｇ、石核が29.0ｇ出土した。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期末葉（大木10式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（大上）

SN3043（第98図）

【検出状況】MC52・53グリッドに位置する。ST252Ⅰ層精査中に、焼土や炭化物、骨片が不整形プラン状に広がる状況を確認した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.83m、短軸0.58mで不整形を呈する。

【堆積土】焼土中に、炭化物、骨片が多く混じる。

【出土遺物】第198図５は渦巻文を、６は縦位の逆「U」字状や楕円文を施すロ縁部破片である。第198図７は小型の深鉢で、口縁部が無文で、以下単節斜縄文を施す。また、剥片類が297.0ｇ出土した。

【所見・時期】出土した土器は混入と考えられる。検出層位から、縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（大上）

SN3046（第98図）

【検出状況】MC52グリッドに位置する。ST252Ⅰ層中で、大量の土器や石器、礫、炭化物と共に焼土粒が多く混入する箇所が２か所確認され、そのうちの南側をSN3046とした。

【規模・形態】平面形は、長軸0.85m、短軸0.61mの、東西方向に延びる不整形を呈する。

【堆積土】褐色土中に、橙色焼土が斑状に混入する。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（大上）

SN3047（第98図）

【検出状況】MC53グリッドに位置する。ST252Ⅰ層中で、大量の土器や石器、礫、炭化物と共に焼土粒が多く混入する箇所が２か所確認され、そのうちの北側をSN3047とした。

【規模・形態】平面形は、長径1.08m、短径0.46mで、北東から南西に延びる不整長楕円形を呈する。

【堆積土】黒褐色土中に橙色焼土が粒状に混じる。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（大上）

SN3049（第98図、図版51）

【検出状況】MJ・MK47グリッドに位置する。平場Ⅴ層精査中に埋没沢上面で赤褐色焼土の円形プランを確認した。

【規模・形態】平面形は、長径0.78m、短径0.52mの不整楕円形を呈する。確認面からの深さは0.07mで、断面形は浅い皿形を呈する。

【堆積土】２層に分層した。１層は黄褐色地山層、２層は被熱した黒褐色土混じりの土である。

【所見・時期】周辺から検出した遺構・遺物の状況から、縄文時代中期中葉（円筒上層ｄ～榎林式

期）と考えられる。　（小山）

SN3074（第98図）

【検出状況】MF53グリッドに位置する。ST252Ⅲ層を精査中に、赤褐色焼土の不整形プランを確認した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.29ｍ、短軸0.14ｍの不整形を呈する。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（小山）

SN3080（第99図）

【検出状況】MF52グリッドに位置する。ST252Ⅱ層を精査中に、赤褐色焼土の円形プランを確認した。

【規模・形態】平面形は、長径0.31ｍ、短径0.28ｍの円形を呈する。深さは0.14ｍで、断面形は浅い皿形である。

【堆積土】暗赤褐色焼土と炭化物ブロック、極小の骨片を含む黒褐色シルトである。焼土と炭化物がブロック状に混入するため、人為的な埋め戻し土と考えられる。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（小山）

SN3082（第99図）

【検出状況】MF53グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に、赤褐色焼土の円形プランを確認した。

【規模・形態】検出時の焼土範囲は長軸0.20ｍ、短軸0.17ｍの円形を呈する。ピット平面形の長軸は0.19ｍ、短軸0.15ｍの円形で、主軸方向はＮ－34°－Ｅである。

【堆積土】褐色焼土や黄褐色シルトブロックを多量に含む暗褐色シルトである。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｂ式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（小山）

SN3091（第99図）

【検出状況】MC51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層を精査していたところ、焼土や炭化物が斑状に含まれる不整楕円形プランを検出した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.44ｍ、残存短軸0.25ｍで、東西にのびる不整楕円形プランを呈する。

【堆積土】暗赤褐色焼土を主体に、赤橙色焼土や炭化物、骨片を含む。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（大上）

SN3092（第99図、図版51）

【検出状況】MF52グリッドに位置する。SK3085精査中に、底面南東側で暗赤褐色焼土と炭化物を含む暗褐色シルトの円形プランを確認した。SK3085より旧い。

【規模・形態】平面形は、長径0.30ｍ、短径0.23ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.05ｍで、

断面形は浅いＵ字状を呈する。被熱部分の残存状況が悪く、プラン外周に約１cm幅でしか残っていない。

【堆積土】２層に分層した。１層は黄褐色シルトブロックを含む暗褐色シルト、２層は暗赤褐色焼土粒を含む暗褐色シルトである。１層は黄褐色シルト、２層は焼土がブロック状に全体に斑状に混入することから、人為的な埋め戻し土と考えられる。

【所見・時期】SK3085に切られることから、縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１～ｃ式期）と考えられる。被熱部分の状況から、全体的に削平されていると考えられる。　（小山）

SN3093（第99図）

【検出状況】MC51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層精査中に、焼土や骨片、炭化物を含む層を検出した。

【規模・形態】平面形は、長径0.10m、短径0.09mで、楕円形を呈する。

【堆積土】焼土や骨片、炭化物を多く含む。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（大上）

SN3099（第99図）

【検出状況】ME53グリッドに位置する。ST252Ⅱ層精査中に、赤褐色焼土の不整形プランを確認した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.39m、短軸0.21m（残存）である。平面形は楕円形を呈するとみられる。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（小山）

SN3146（第99図）

【検出状況】MC51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層精査中に、焼土や骨片、炭化物を含む範囲を検出した。

【規模・形態】長径0.28m、短径0.24m、主軸方向Ｎ－13°－Ｗで不整楕円形を呈する。

【堆積土】異地性の焼土や炭化物、骨片が混入したものと考えられる。

【所見・時期】検出層位から、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。　（大上）

SN4019（第99図、図版51）

【検出状況】ML49・50グリッドに位置する。MM50南北ベルト９層掘削中に赤褐色焼土の不整形プランを確認した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.72m、短軸0.45mで不整形を呈する。断面形は浅い皿形を呈し、確認面からの深さは0.15mである。

【堆積土】２層に分層した。１層は粘性のやや強い暗褐色シルトで、にぶい赤褐色焼土を含む。２層は炭化物粒を含む暗褐色シルトで、にぶい赤褐色焼土を含む。

【所見・時期】周辺では縄文時代中期後葉（最花式期）～後期初頭の遺物が混在している。よって本遺構は縄文時代中期後葉（最花式期）～後期初頭に属する遺構と考えられる。　（小山）

SN4060（第99図、図版51）

【検出状況】MF39グリッドに位置する。丘陵部Ⅲ層精査中に焼土の広がりを確認した。

【規模・形態】平面形は、長径0.49m、短径0.35mで不整長楕円形を呈する。断面形は浅いU字形を呈する。

【堆積土】丘陵部Ⅲ層由来土である暗褐色土中に、赤褐色焼土を含む。

【所見・時期】SI4049－１層直上に自然堆積した丘陵部Ⅲ層中に形成されていることから、SI4049よりも新しい。よって縄文時代中期中葉以降と考えられる。焼土ブロックと炭化物を含むプランとして確認したが、明確な被熱の痕跡はなく、異地性の焼土と判断した。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、2,291calBC～2,141calBC（2σ）の年代値が得られている。SI4049廃絶に際して形成されたと考えられるSN4077で検出した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果は、3,334calBC～3,028calBC（2σ）の年代値を示していることからも、本遺構はSI4049に伴うものではないと言える。（大上）

（11）性格不明遺構

SX248（第31図）

【検出状況】LD64・65、LE64～66グリッドに位置する。ST247－CDライン断面において、立ち上がりを検出した。SI286、SK615、SN287、SKP288より旧い。

【規模・形態】検出した最大幅は6.14m、確認面からの深さは0.66mである。北側の壁はやや急に、南側はやや緩やかに立ち上がる。

【堆積土】13層に分層した。地山ブロックや炭化物、焼土ブロックを含む黄褐色～暗褐色土が斜位に堆積しており、崩落土または投げ入れ土による堆積と思われる。

【出土遺物】石核が１点、剥片類が268.5ｇ出土した。

【所見・時期】SI286より旧いことから、縄文時代中期後葉（最花式期）以前に属すると考えられる。（小松）

SX270（第100図）

【検出状況】LI64・65、LJ64グリッドに位置する。Ⅳ層上面で炭化物を多量に含む褐色の不整形プランとして検出した。土層観察の結果、明確な掘り込みがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】遺構の大半が調査区外へ続くため全形は不明であるが、平面形は長軸2.25m、短軸1.08mの不整形で、主軸方向はN－73°－Eである。確認面からの深さは0.67mで、断面形はU字状を呈し、壁は角度を持って立ち上がる。

【堆積土】７層に分層した。１・２層はⅢｂ層由来の暗褐色シルトで、明確な人為堆積の痕跡がみられないため、自然堆積であると考えられる。３層はⅢｂ層由来の褐色シルト、４層はⅢｂ層由来の暗褐色シルトである。５層はしまりの強いⅢｂ層由来の褐色シルト、６層は黄褐色シルトブロックや炭化物、焼土を含むⅢｂ由来のにぶい黄褐色シルトである。７層は多量の炭化物・土器片を含む黒褐色シルトである。３～７層は混入物の状況から人為堆積と考えられる。

【出土遺物】第198図８は口縁部を沈線で区画した無文帯とし、沈線の下に沿って円形刺突を施す。胴部には平行沈線で懸垂文を施す。また、スクレイパー１点、両面調整石器１点、剥片類が210.5ｇ出土した。

【所見・時期】埋土から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。最下層の７層に

遺物片が多く、その上層には炭化物と焼土が多量に含まれることから、落ち込みもしくは竪穴建物跡が廃棄物の捨て場として利用された可能性が考えられる。　（小山）

SX315（第30図、図版18）

【検出状況】LF67グリッドに位置する。ST247－AB断面で掘り込みに伴う集石を確認したが、壁面のみの確認だったため性格が判然とせず性格不明遺構とした。SI638より新しく、ST247より旧い。

【規模・形態】検出した最大幅は0.77ｍで、深さ0.35ｍの不整半円形を呈している。壁はやや緩やかに立ち上がる。大きさ約14cmの扁平な礫が密集している。

【堆積土】単層である。地山ブロック・炭化物を含むST247由来の褐色土である。地山ブロック・炭化物が斑状に混入しているため人為堆積と思われる。

【出土遺物】石錘１点が出土した。

【所見・時期】ST247の掘削時、SX315と同レベルで周辺から礫が多く出土しているものの、これらが本遺構に伴うものであるかは判然としない。SI638より新しく、ST247より旧いことから、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（小松）

SX470（第100図）

【検出状況】LT54グリッドに位置する。ST252Ⅱ層を精査中に褐色シルトの円形プランを確認した。土層観察の結果、明確な掘り込みがみられたため遺構と判断した。SK485、SKP518に切られる。

【規模・形態】平面形は長軸1.81ｍ、短軸1.34ｍ（推定）の不整形で、主軸方向はＮ－71°－Ｗである。確認面からの深さは0.36ｍで、断面形は角形を呈する。壁の東側は直立後に開き、西側は急角度で立ち上がる。

【堆積土】３層に分層した。いずれも黄褐色シルトブロックを含む褐色～黄褐色シルトである。盛土造成行為に伴い堆積したと考えられる。２・３層により埋没した段階でSK485とSKP518が構築され、その上に１層が堆積する。

【出土遺物】第198図９は口縁部突起で内外面を一巡する隆線が確認できる。第198図10は底部で、底面に網代痕が確認できる。また石鏃１点、棒状礫１点が出土した。

【所見・時期】検出層位から縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。　（小山）

SX4179（第101図）

【検出状況】LR54・55、LS54・55、LT55グリッドに位置する。調査段階でSQ266以南は斜面地であるのに対し、SQ266周辺は平坦であることは確認していたが、断面観察等が十分に行えず遺構としては把握できていなかった。整理作業時にST252－KLラインの記録写真を見返したところ、緩やかながら掘り込みを確認した。さらに堆積物微細構造軟Ｘ線写真撮影観察からは、ST252－UVラインにおいて、ST252Ⅰ層「堆積前の地山表面の加工と運搬された土の堆積という工程が推定」（第４章第７節参照）された。よって、平坦地を作出した痕跡と判断し、遺構として認定した。なお、掘り込み面は不明である。

【規模・形態】調査時に平面形を十分に把握できていなかったため、不詳であるが、SQ266を構成する各礫がおおむね平坦に並ぶことから、その周辺がSX4179の範囲と考えられる。検出した範囲内における長軸は推定約10.80ｍ、短軸は推定約3.45ｍである。

【堆積土】調査段階で、SQ266を構成する礫の上に堆積する層と、その下に堆積する層とを明確に分

層することができなかった。整理作業時にST252－KLライン断面の記録写真を見返すと、礫の上に堆積する層は地山土粒が少ないのに対し、礫の下に堆積する層は地山土粒が比較的多いことを確認した。そこで上層を１層、下層を２層とし、土層断面図には記録写真から推定した分層線を破線で示している。１層はⅢｂ層由来土、２層はⅢｂ下層由来土である。また、ST252－UVラインでは本遺構の直上にST252Ⅰ・Ⅱ層が堆積する。

【出土遺物】整理作業時に確認した遺構であるため、出土遺物は不明である。

【所見・時期】本遺構による削平はⅣ～Ⅴ層に及ぶ。また、ST252－KLライン付近では削平した範囲の直上にⅢb層下層由来の土が堆積した後、SQ266が構築されることが分かった。つまり、削平とSQ266構築には時間差が生じることとなる。本遺構による削平の目的は明らかではないものの、SQ266構築が直接の目的ではないといえる。またST252－UVラインでは、本遺構の直上にST252Ⅰ・Ⅱ層が堆積する。また、本遺構の推定範囲とST252Ⅱ層の分布範囲が一部重なることからも、ST252Ⅱ層堆積直前に形成された平坦地を、Ⅲｂ層堆積前まで利用し続けた可能性がある。よって、時期は縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式期）と推測される。　（大上）

SX4182・4183（第102図、図版51・52）

【検出状況】調査の中盤から終盤にかけて、ST252Ⅱ～Ⅳ層土層断面観察のためにMC52～51ラインに沿って、東西方向にのびる幅約１ｍのベルトを設定してその周囲の掘削を行っていた。調査終盤にベルト断面にてST252Ⅲ層上面が一部平坦に削られている箇所（SX4182－ABライン７層上面）や、断面方形状の浅い掘り込みを確認した（SX4182－ABライン６層）。平面で確認を行うべく、ベルト上のST252Ⅲ層を掘り下げると、その直下であるST252Ⅳ層下層上面にて、黄褐色土と暗褐色土が入り込む小規模な不整形プランがまとまって検出された。その後、調査が進み、Ｅ区東壁付近の堆積土を掘削し終え、ST252－AABBライン土層断面を観察したところ、同ライン62層南側でのみ急角度の立ち上がりを確認した。さらにST252－CCDDライン土層断面を観察すると、ST252Ⅲ層直下とST252Ⅱ層直下で断面方形、あるいは細長いＵ字形を呈する浅い立ち上がりを複数確認した。これらの平面分布を確認するためにST252－CCDDライン土層断面観察用ベルトを掘削すると、ST252Ⅱ・Ⅲ層直下、ST252Ⅳ層上層直上にて、SX4182－ABライン断面観察用ベルトで以前検出されたものと同様の不整形プランが集中して検出された。この小規模な不整形プランが集中する範囲として調査段階で確認できたのは、以上の２か所に留まる。本来はより広がっていたはずであるが、断面で平坦面や浅い立ち上がりを確認するまでは、遺構と認識できていないまま掘削を進めてしまっていた。その後、整理作業時に遺構・遺物の平面分布状況を確認する過程で、ST252Ⅲ層とST252Ⅳ層上層直上の境界で、完形で出土したＡ４類土器と、先述した不整形プラン集中範囲が近接していることに気づき、さらにこの土器の出土状況の写真を確認すると、黄褐色土と暗褐色土が入り込む小規模な不整形プランが土器の周囲に分布していることが判明した。調査段階で確認した削平行為の層位と、このＡ４類土器の出土層位も同じであることから、一連の遺構であると考えた。ST252－AABBライン土層断面を見ると、北側ではST252Ⅲ層、南側ではST252Ⅱ層が直上に堆積する。よって、北側をSX4182、南側をSX4183とした。なお、両遺構は調査区外をはさんで、Ａ区へと延びていく可能性もある。だが、令和元年度の調査ではこうした認識がないままに調査が進んだため、その広がりは不明である。

【規模・形態】SX4182について、検出した範囲内における長軸は3.68ｍである。MC52付近（SX4182－ABライン東側）で確認できるSX4182の短軸は1.39ｍである。SX4182の主軸方位は、Ｎ－27°－Ｗである。ST252－AABBライン土層断面を見ると、ST252Ⅲ層直下で浅い掘り込みが確認できるのは、AA＋Ｓ

14.2m付近までである。つまり、それより北側におけるSX4182の範囲は、調査段階に確認した範囲内に収まるものといえる。よって、SX4182は、調査区外に向かって円形状に広がるものではなく、南東へ向かって緩やかな曲線を描きながら、幅約1.4mで広がる溝状プランを呈するものと推察される。SX4183について、検出した範囲内における長軸は2.27mである。短軸は調査区外へと延びており、不明である。主軸方位はN－15°－Wである。ST252－BB＋N15.7m付近では、急角度な掘り込みを伴うものの、それ以外の箇所で同様な立ち上がりは確認できない。不整形プランの広がり方とST252－BB＋N15.7m付近で確認した立ち上がりからすると、この部分で南東に向かって曲がるものと考えられ、カーブ部分で深めにST252Ⅳ層下層を掘ることでテラス状の平坦面を作出している可能性がある。それ以外の部分では、SX4182・4183とも南に向かって傾斜に沿いながらゆるやかに下るようである。SX4182－ABラインで平坦面を確認できることから、SX4182の底面形状は一部平坦であったと考えられるものの、現場で確認したSX4182・4183の範囲のほとんどで、底面に無数の不整形状の掘り込みがある。底面で確認できるこの不整形状プランは、１～20cmほどと、その大きさにはバラツキがある。深さについては、すべての不整形状プランを掘っているわけではないものの、概ね４～６cmほどと統一性がある。

【堆積土】SX4182底面直上にST252Ⅲ層が、SX4183底面直上にST252Ⅱ層が堆積する。SX4182の浅い不整形状プラン内にはST252Ⅲ層由来土が入り込む。SX4183の浅い不整形状プラン内にはST252Ⅱ層由来土が入り込む。なお、両遺構で確認された不整形状プランの一部には、直下のST252Ⅳ層由来土が混ざり込むものもある。

【出土遺物】第198図11は長胴の深鉢で、底部から直立気味に立ち上がり、口端がわずかに外反する。口唇の多くを欠くが、突起が付いて小波状口縁になるとみられる。口端には波状隆帯を巡らし、波頂部下に縦位の隆帯と円形貼付さらに楕円と円形貼付を配して縦区画としており、そこから横位に横走・弧状の隆帯を配してその間に角頭状の刺突を連続施文する。胴部には結束原体の横回転により斜縄文を施すが、一部施文が重なり羽状縄文風になっている。

【所見・時期】底面直上でＡ４類土器が出土したことから、SX4182は縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。また、SX4182の底面直上にST252Ⅲ層由来土が堆積することから、本遺構はST252Ⅲ層を盛る直前に構築されたものと考えられ、ST252Ⅲ層造成と本遺構の構築の時間差はほぼないと考えられる。さらに浅い不整形状のプラン内に、直上に堆積する層が入り込むことからは、本来この不整形状プラン内に隙間が生じないような、何らかの内容物が入れられており、盛土造成の際にそれを抜き出した可能性がある。また掘方も持たず、それぞれが浅いことからすると、細い木の棒などを上から突き立てたのではないだろうかと推測される。SX4183は、底面直上にST252Ⅱ層が堆積することから、縄文時代中期後葉（最花式期）以前に構築されたものといえ、SX4182よりも新しいと考えられる。だが、両遺構が隣接すること、底面標高値が近似すること、さらにST252Ⅲ層を掘り込む不整形状プランがないことからすると、この二つの遺構の構築は同時期、あるいは連続していた可能性がある。SX4182を構築したが、その直上にST252Ⅲ層が堆積したことで埋没してしまったために、その南側に同様の機能を持つ施設を再度構築したものがSX4183であったと推測される。よって、SX4183の時期も縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。

両遺構の性格について、SX4182北側で出土した完形の土器からは、内容物の入っていない土器をST252Ⅲ層造成直前に意図的に置いたものと考えられ、祭祀的な意味合いを持つ遺構であろうかと推測される。（大上）

SX4184（第103図）

【検出状況】ST252－ABライン、IJライン、KLライン、ZAAライン、AABBライン土層断面を観察すると、Ⅴ層直上にST252Ⅲ層が堆積していることが分かる。Ⅳ層やST252Ⅳ層上・下層を挟まないことから、ST252Ⅲ層を盛る直前にそれまで堆積していた土を人為的に削平したと考えられる。よって、遺構と判断した。範囲についての記録を現場で取れておらず、ST252土層断面図をもとにした推定範囲を第26図に示した。一部、SX4186により切られている。

【規模・形態】平面形は東西に延びる不整長楕円形状を呈すると推察される。調査範囲内において推定できる長軸は19.41ｍ、短軸は4.98ｍである。主軸方位はＮ－89.3°－Ｅである。底面は概ね平坦である。

【所見・時期】ST252Ⅲ層直前に削平したものであることから、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。このときに生じた排土には、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前の遺構埋土、旧表土、地山土の一部が含まれているものと考えられ、これらがST252Ⅲ層の最下層の由来土になっているものと推察される。（大上）

SX4185（第103図）

【検出状況】ST252－YZライン、EEFFライン、LLMMライン土層断面を観察すると、Ⅴ層直上にST252Ⅲ層が堆積していることが分かる。Ⅳ層やST252Ⅳ層上・下層を挟まないことから、ST252Ⅲ層を盛る直前にそれまで堆積していた土を人為的に削平したと考えられる。よって、遺構と判断した。範囲についての記録を現場で取れておらず、ST252土層断面図をもとにした推定範囲を第26図に示した。なお、SKI3096・3097精査時にⅤ層上面が露出する範囲とⅣ層が残存する範囲を確認しており、その範囲も含めている。

【規模・形態】平面形は南北に延びる楕円形状を呈すると推察される。調査範囲内において推定できる長軸は7.44ｍ、短軸は5.85ｍである。主軸方位はＮ－85°－Ｅである。底面は概ね平坦である。

【所見・時期】ST252Ⅲ層造成直前に削平したものであることから、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）と考えられる。このときに生じた排土には、縄文時代中期前葉（円筒上層ｃ式期）以前の遺構埋土、旧表土、地山の一部が含まれているものと考えられ、これらがST252Ⅲ層の最下層の由来土になっているものと推察される。（大上）

SX4186（第103図）

【検出状況】ST252－QRライン、STライン、UVライン土層断面を観察すると、Ⅴ層直上にST252Ⅱ層が堆積していることが分かる。Ⅳ層、ST252Ⅳ層上・下層、ST252Ⅲ層を挟まないことから、ST252Ⅱ層を盛る直前にそれまで堆積していた土を人為的に削平したと考えられる。よって、遺構と判断した。範囲についての記録を現場で取れておらず、ST252土層断面図をもとにした推定範囲を第25図に示した。本遺構はSX4184の推定範囲上に位置しており、SX4184により削平された範囲を再び削平したものと考えられる。

【規模・形態】平面形は南北に延びる長楕円形状を呈すると推察される。調査範囲内において推定できる長軸は12.67ｍ、短軸は2.96ｍである。主軸方位はＮ－12.4°－Ｅである。底面は概ね平坦である。

【所見・時期】ST252Ⅱ層直前に削平したものであることから、縄文時代中期後葉（最花式期）と考えられる。このときに生じた排土には、縄文時代中期後葉（最花式期）以前の遺構埋土、旧表土、地山の一部が含まれているものと考えられ、これらがST252Ⅱ層の由来土の一部になっているものと推

察される。ただ、ST252Ⅱ層が地山由来土を主体とすることからは、SX4184・4185よりもさらに深い箇所を削り出した、あるいは前段階までに居住域として利用されていなかった範囲も削り出した可能性が考えられる。

（大上）

（12）柱穴様ピット

SKP179（第101図）

【検出状況】LT・MA51グリッドに位置する。ST252Ⅱ層掘削中に黒褐色の不整円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりを確認できたことから遺構と判断した。

【規模・形態】長軸1.02m、短軸0.74mで平面形は不整楕円形を呈する。主軸方向はN－20°－Eである。確認面からの深さは0.16mで、断面はU字状を呈する。

【堆積土】単層で、地山ブロックが少量含まれることからⅢｂ層由来の人為堆積であると考えられる。

【出土遺物】剥片類が34.2ｇ出土した。

【所見・時期】急斜面地に位置するため土壌の流出が激しく、時期を決定する遺物も出土していないが、堆積土から縄文時代中期末葉（大木10式期）～後期初頭と考えられる。なお、出土した骨片の動物遺体同定の結果、哺乳類との年代値が得られた。（久住）

３　古代以降

（１）掘立柱建物跡

SB4147（第104図、図版53）

【検出状況】NO31・32、NP32グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中にＬ字形に並ぶ黒褐色ピットのプランを確認した。ピット間の距離が等間隔に並ぶため、掘立柱建物跡と判断した。

【規模・形態】長軸4.48m（残存値）、短軸1.51m（残存値）で、主軸方向はN－59°－Eである。各ピットは径0.13～0.28mで、いずれも断面形がU字形を呈する。Ｐ１の調査区壁面観察から、構築面からの深さは0.38m前後とみられる。

【堆積土】Ｐ２～４は単層で、丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色シルトである。Ｐ１は柱痕が確認され、その周囲を丘陵部Ⅳ層及び丘陵部Ⅲ層由来の褐色～黒色土で埋め戻している。

【所見・時期】確認面は丘陵部Ⅳ層だが、調査区壁面を観察した結果、各ピットは丘陵部Ⅲ層から掘り込まれているとみられる。そのため、古代以降に属すると考えられ、傾斜地上にあることから掘立柱建物跡ではなく柵列跡である可能性もある。（小山）

（２）柵列・柱列跡

SA3044（第104図）

【検出状況】MH45･46グリッドに位置する。埋土が同グリッド周辺にはみられない丘陵部Ⅱ層由来であることや柱穴の中心距離が1.6mであることから、同一時期の柱列であると判断した。

【規模・形態】SKP3029の平面形は、長軸0.41m（推定）、短軸0.34mで、トレンチにより削平されているが、円形を呈するものとみられる。深さは0.28mで、断面形はU字状を呈する。SKP3039は長軸0.38m、短軸0.33mの円形を呈し、深さは0.36mで、断面形はU字状を呈する。柱列の主軸方向はN－13°－Wである。

【堆積土】いずれも平場Ⅱ層由来の黒褐色シルトである。SKP3039はしまりが弱く、褐色砂ブロック

が多量に含まれるため人為的な埋め戻し土と考えられる。

【所見・時期】平場Ⅱ層由来土が堆積することから、古代以降に属すると考えられる。沢によって削られてしまっているが、本来は周辺にも同様の柱穴が存在したとみられる。　（小山）

SA4116（第104図）

【検出状況】NT・0A31グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に同程度の大きさの黒色円形プランが並ぶことから、遺構と判断した。

【規模・形態】Ｐ１・２の芯々距離は1.34ｍで、主軸方向はＮ－49°－Ｅである。Ｐ１は長軸0.35ｍで、確認面からの深さは0.22ｍ、Ｐ２は長軸0.31ｍで、確認面からの深さは0.34ｍである。

【堆積土】Ｐ１は単層、Ｐ２は３層に分層した。いずれも丘陵部Ⅱ層由来の黒色シルトで、自然堆積とみられる。

【所見・時期】丘陵部Ⅱ層由来の黒色土が堆積することから、古代以降に属すると考えられる。

（小山）

（３）炭焼遺構

SW2021（第105図、図版53）

【検出状況】L033グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の長楕円形プランを検出し、部分的に焼土を確認した。北西側には被熱痕のある礫が検出された。

【規模・形態】平面形は、長径1.42ｍ、短径0.83ｍの南北に延びる長楕円形を呈し、主軸方位Ｎ－16°－Ｗである。断面形は浅い皿形で、壁の立ち上がりは北壁が比較的急であるが、それ以外はゆるやかに外反する。確認面からの深さは0.28ｍである。

【堆積土】４層に分層した。１～３層は人為的な埋め戻し土である。１層は、SW2021床面が僅かに窪む部分にのみ確認され、２層は１層を囲むようにして堆積する。北西側の２層直上には被熱した礫が置かれ、その直下には0.5cm程の比較的大きな炭化物が存在していた。３層は遺構内全体及び４層焼土直上を覆っているが、部分的に４層焼土が露出している。４層は赤褐色焼土で、現地性である。北西側の一部を除き、全体に広がっている。

【出土遺物】２層直上より被熱した礫が１点出土した。

【所見・時期】北側の底面が一段低くなっており、４層焼土は一部が消失している。これは燃焼が行われた後、出来上がった木炭等を取り出す際に、床面が削平され、焼土も一部削り取られたためと推察される。出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、1,690～1,954calAD(2σ)の年代値が得られ、近・現代の遺構と考えられる。　（大上）

SW4004（第105図、図版53）

【検出状況】MP48・49グリッドに位置する。沢堆積層精査中に黒褐色土の円形プランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長径2.22ｍ、短径1.94ｍの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－94°－Ｅである。断面形は皿形で、確認面からの深さは0.24ｍである。

【堆積土】１層は沢堆積層由来の黒褐色砂で、炭化物を多く含むことから人為堆積と考えられる。２層は黒色砂で炭化物を斑状に50%含む。焼土は含まない。人為堆積である。

【所見・時期】炭化物を多く含む２層は、焼土を含まないことから、出来上がった木炭等を取り出す際に、それらがこぼれたり、あるいは残滓を隅に寄せたりするなどして形成されたと考えられる。

なお、SW4004内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、1,037calAD～1,160calAD（2σ）の年代値が得られ、古代の遺構と考えられる。（大上）

SW4022（第106図、図版53）

【検出状況】MN47・48、MO47・48グリッドに位置する。沢堆積層、地崩れ堆積層の精査中に黒褐色の不整長楕円形プランを確認した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径2.79m、短径1.07mの楕円形を呈し、主軸方向はN－60°－Wである。断面形は皿形で、確認面からの深さは0.38mである。

【所見・時期】最下層の８層炭化物層は除湿のために敷かれたと考えられ、３層も同様である。現地性焼土が確認できたのは７層のみである。本来、３層上面にも焼土層は形成されたであろうが、出来上がった木炭等を取り出す際に削平され、その後人為的に埋め戻されたとみられる。なお、放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、SW4022－３層炭化物は542calAD～605calAD（2σ）、SW4022－６層炭化物は774calAD～988calAD（2σ）年代値が得られ、古代の遺構と考えられる。（大上）

SW4100（第106図、図版53）

【検出状況】LT39・40、MA39・40グリッドに位置する。丘陵部Ⅴ層精査中に黒褐色土の円形プランを検出し、円形プランの外縁に炭化物や焼土を確認した。

【規模・形態】平面形は、長径2.0m、短径1.8mで主軸方向N－10°－Eの円形を呈する。断面形は浅いⅢ形を呈し、確認面からの深さは0.29mである。

【堆積土】１層は丘陵部Ⅱ層由来土で、本遺構が埋め戻されたわずかな窪みに自然堆積したものと考えられる。２層は丘陵部Ⅲ層由来土で、炭化物や地山土粒を比較的多く含むことから人為堆積と判断した。３・４層は炭化物を多く含む層で、５層は現地性の焼土である。

【所見・時期】出来上がった木炭等を取り出す際に、それらがこぼれるなどして形成されたのが、４層と考えられる。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、４層は1,038calAD－1,162alAD（2σ）、５層は642calAD－757 calAD（2σ）の年代値が得られ、古代の遺構と考えられる。（大上）

（４）土坑

SK67（第107図）

【検出状況】KM59グリッドに位置する。CⅢa～b層上面で黒褐色シルトの円形プランを確認した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため土坑と判断した。SK610を切る。

【規模・形態】平面形は長径0.31m、短径0.26mの円形で、主軸方向はN－51°－Eである。確認面からの深さは0.16mで、断面形はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】単層のCⅡ層由来の黒褐色シルトである。明瞭な人為堆積の痕跡がみられないため、自然堆積と判断した。

【出土遺物】時期不明の縄文土器片が出土した。また、両面調整石器１点、剥片類が31.2g出土した。

【所見・時期】遺構内から縄文土器片が出土しているものの、堆積土がCⅡ層由来であることから古代以降の可能性がある。性格は不明である。（小山）

SK610（第107図）

【検出状況】KM59グリッドに位置する。ＣⅢa～ｂ層上面で黒褐色土の円形プランを確認した。土層観察の結果、明確な掘り込みがみられたため土坑と判断した。SK67に切られる。

【規模・形態】平面形は長径0.47ｍ、短径0.36ｍの円形で、主軸方向はＮ－85°－Ｗである。確認面からの深さは0.26ｍで、断面形は中央が高いＵ字状を呈し、壁は角度を持って立ち上がる。

【堆積土】単層で、ＣⅡ層由来の黒褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡がみられないため、自然堆積であると考えられる。

【所見・時期】遺物が出土していないが、堆積土がＣⅡ層由来であることから古代以降の可能性がある。（小山）

SK818（第21図、図版10）

【検出状況】MA53グリッドに位置する。調査区西壁断面で黒褐色シルトの明瞭な掘り込みを確認した。

【規模・形態】壁面で確認した最大幅は0.54ｍ、確認面からの深さは0.21ｍである。断面形は浅いＵ字状を呈する。

【堆積土】単層で、しまりの弱い黒褐色シルトである。地山ブロックや炭化物等の混入物が少ないため、Ⅱ層由来の自然堆積土と考えられる。

【所見・時期】Ⅱ層由来土が底面直上に堆積することから、古代以降の土坑の可能性がある。（小山）

SK3014（第107図、図版54）

【検出状況】MF43グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に、南北に長い黒褐色シルトの楕円形プランとして検出した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。SKP3018より新しい。

【規模・形態】平面形は、長径1.31ｍ、短径0.80ｍの長楕円形を呈し、主軸方向はＮ－18°－Ｗである。確認面からの深さは0.29ｍで、断面形はＵ字状を呈する。東側の壁はやや急角度、西側の壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。いずれも丘陵部Ⅱ層由来のしまりの弱い黒褐色シルトである。検出面が斜面地であるため土壌の流出が激しく、斜面上方からの流入土と考えられる。

【所見・時期】埋土が丘陵部Ⅱ層由来であることから、古代以降の可能性がある。（小山）

SK3019（第107図、図版54）

【検出状況】ML45・46グリッドに位置する。平場Ⅳ層上で黒褐色シルトの円形プランとして検出した。断面観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長軸0.83ｍ、短軸0.59ｍのだるま形を呈し、主軸方向はＮ－55°－Ｅである。確認面からの深さは0.30ｍで、断面形はＵ字状を呈する。

【堆積土】しまりのやや弱い平場Ⅱ層由来の黒褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡がないため、自然堆積土と考えられる。

【所見・時期】埋土が平場Ⅱ層由来であることから、古代以降の可能性がある。（小山）

SK3030（第107図、図版54）

【検出状況】MK46グリッドに位置する。平場Ⅳ層上で黒褐色シルトの不整形プランを確認した。断面

観察の結果、明瞭な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.95m、短径0.60mの楕円形を呈し、主軸方向はN－33°－Eである。確認面からの深さは0.25mで、断面形は皿形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。

【堆積土】暗褐色シルトブロックを含む平場Ⅱ層由来の黒褐色シルトである。明確な人為堆積の痕跡がないため、自然堆積土と考えられる。

【所見・時期】埋土が平場Ⅱ層由来であることから、古代以降の可能性がある。　（小山）

SK4008（第107図、図版54）

【検出状況】MD38グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の円形プランとして検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.50m、短径0.42mの楕円形を呈し、主軸方向はN－59°－Eである。断面形はU字形で、確認面からの深さは0.19mである。

【堆積土】単層で、丘陵部Ⅱ層由来のしまり・粘性とのやや弱い黒色シルトである。人為的な堆積状況ではないため、自然堆積層と考えられる。

【所見・時期】丘陵部Ⅱ層由来の黒色土が堆積することから、古代以降と考えられる。　（小山）

SK4033（第107図、図版54）

【検出状況】ME38グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の長楕円形プランとして検出した。断面観察の結果、明確な立ち上がりを確認したため、遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.79m、短径0.54mの円形を呈し、主軸方向はN－79°－Eである。断面形はU字形を呈し、確認面からの深さは0.44mである。

【堆積土】３層に分層した。１層は黒褐色シルト。２層は３層中にブロック状に含まれる黒色粘質土で、３層は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。いずれも丘陵部Ⅱ層及び丘陵部Ⅲ層由来である。

【所見・時期】埋土が丘陵部Ⅱ層及び丘陵部Ⅲ層由来であることから古代以降と考えられる。

（大上）

SK4057（第107図、図版54）

【検出状況】MF29グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の円形プランを確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため、遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径1.00m、短径0.95mの円形を呈し、主軸方向はN－48°－Wである。断面形は浅いU字形を呈し、確認面からの深さは0.25mである。

【堆積土】２層に分層した。１層は粘性のやや強い丘陵部Ⅱ層由来の黒褐色シルト、２層は褐色土を多く含む丘陵部Ⅲ層由来の暗褐色シルトで、いずれも自然堆積とみられる。

【所見・時期】丘陵部Ⅱ・Ⅲ層由来の埋土のため古代以降の可能性がある。　（小山）

SK4090（第107図、図版54）

【検出状況】MP36グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒色土の円形プランを確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.45m、短径0.38mの円形を呈し、主軸方向はN－63°－Wである。断面形はU字形を呈し、確認面からの深さは0.14mである。

【堆積土】単層で、丘陵部Ⅱ層由来の黒色シルトで、自然堆積とみられる。
【所見・時期】丘陵部Ⅱ層由来の黒色土が堆積することから、古代以降に属するとみられる。（小山）

SK4131（第107図、図版54）
【検出状況】NT31グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒色土の不整形プランを確認した。断面観察の結果、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。
【規模・形態】平面形は、長軸1.17m、短軸0.62mで主軸方向Ｎ－33°－Ｅの不整形を呈する。断面形は南側がフラスコ状になっており、確認面からの深さは0.44mである。
【堆積土】３層に分層した。１層は丘陵部Ⅱ層由来の黒色シルトで、自然堆積とみられる。２層は地山ブロックを多量に含む丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色シルトで、崩落土の可能性がある。３層は丘陵部Ⅳ層由来の黒褐色シルトで、自然堆積とみられる。
【所見・時期】丘陵部Ⅳ層で検出したが、埋土の主体が丘陵部Ⅱ層であることから、古代以降に属する遺構とみられる。（小山）

SK4135（第108図）
【検出状況】NR33グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒褐色土の不整形プランとして検出した。断面観察の結果、南側は撹乱を受けているものの、北側に立ち上がりがみられたため遺構と判断した。
【規模・形態】平面形は、長軸0.44m、短軸0.36mの不整形を呈し、主軸方向はＮ－59°－Ｗである。断面形はＵ字形を呈し、確認面からの深さは0.15mである。
【堆積土】２層に分層した。いずれも黒褐色シルトで、丘陵部Ⅲ層由来の自然堆積土とみられる。
【所見・時期】丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色土が堆積することから、古代以降に属する可能性がある。
（小山）

（５）焼土遺構
SN4015（第108図、図版55）
【検出状況】MA37・38、MB37・38グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に明赤褐色焼土及び黄褐色地山土の不整形プランを確認した。
【規模・形態】平面形は、長径1.35m（推定）、短径1.08m（推定）の円形を呈し、主軸方向はＮ－76°－Ｅである。断面形は深い皿形を呈し、確認面からの深さは0.35mである。
【堆積土】遺構内の土層状況は確認できなかったが、調査区壁面をみると丘陵部Ⅱ層由来の黒褐色土が自然堆積していたとみられる。底面には暗赤褐色焼土が広がっており、これが機能面と考えられる。
【所見・時期】精査の結果、当初確認したプランは撹乱を受けた部分であることが判明し、底面及び側面で焼土が確認された。遺構内には丘陵部Ⅱ層由来の黒褐色土が堆積することから、古代以降と考えられる。なお、底面から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、1,694calAD～1,918calAD（2σ）の年代値が得られた。（小山）

SN4087（第108図、図版55）
【検出状況】MS・MT36グリッドに位置する。丘陵部Ⅲa～ｂ層精査中に褐色焼土の円形プランを確認した。遺構の約半分が倒木痕の影響を受けている。
【規模・形態】長径1.32m、短径1.22m（推定）の円形を呈し、主軸方向はＮ－45°－Ｅである。断

面形は浅い皿形を呈し、確認面からの深さは0.20ｍである。

【堆積土】３層に分層した。１層は丘陵部Ⅰ層由来の黒色シルト、２層は炭化物を含む丘陵部Ⅱ層由来の黒色シルトで、いずれも自然堆積である。３層は粘性がやや弱い極暗褐色焼土で、機能面とみられる。

【所見・時期】出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、1,036calAD～1,160calAD（2σ）の年代値が得られたことから、古代に属する遺構と考えられる。　（小山）

（６）溝跡

SD4062（第109図、図版55）

【検出状況】MD32、ME32・33、MF32・33グリッドに位置する。丘陵部Ⅲ層掘削中に黒色土の溝状プランとして検出した。遺構プランが明確でないため、Ｖ層まで掘り下げ　断面観察を行い、明確な立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】長軸6.19ｍ、最大幅1.68ｍ、最小幅0.53ｍで、西側調査区外へ続く。主軸方向はＮ－60°－Ｗである。断面形は浅い皿形を呈し、確認面からの深さは0.17ｍである。

【堆積土】２層に分層した。１層は丘陵部Ⅱ層由来の黒色シルト、２層は丘陵部Ⅲ層由来の黒褐色シルトで、いずれも自然堆積とみられる。

【所見・時期】丘陵部Ⅱ・Ⅲ層由来の埋土のため、古代以降の可能性がある。　（小山）

（７）性格不明遺構

SX136（第110図、図版55）

【検出状況】LQ・LR43グリッドに位置する。27トレンチ設定時に底面に広がった炭化物を検出した。トレンチを南側に拡張し精査を行った結果、炭化物と礫が円状に出土した。

【規模・形態】平面形は、長軸1.66ｍ（推定）、短軸1.47ｍの不整形を呈し、主軸方向はＮ－７°－Ｗである。

【堆積土】小礫を含む炭化物層の単層である。

【出土遺物】時期不明の縄文土器片が出土した。加えて、剥片類が44.1ｇ出土した。

【所見・時期】沢の流路に沿って堆積している様相はなく、円形に広がっている。そのため、炭化物が堆積した時には流水の影響を受けていないと考えられる。このことから、沢の水が一時的にひいた岸辺に炭化物が投棄された後、徐々に緩やかな流水堆積によって埋まったものと考えられる。放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、998calAD～1154calAD（2σ）の年代値が得られ、古代の遺構と考えられる。　（久住）

SX156（第110図）

【検出状況】KM58グリッドに位置する。調査区南壁で確認した。ＣⅢa～ｂ層中で立ち上がりを確認したため遺構としたが、断面での確認であったため、全体の形状が判然とせず性格不明遺構とした。

【規模・形態】断面で確認できる規模は幅1.76ｍ、深さ0.44ｍで、断面形は逆台形を呈する。壁はやや緩やかに立ち上がる。

【堆積土】２層に分層した。焼土、炭化物を含む黒褐色土の上に地山ブロックを多く含む暗褐色土が堆積している。焼土、炭化物を廃棄後、埋められたと思われる。

【所見・時期】検出層位から古代以降の可能性がある。　（小松）

SX2010（第110図、図版55）

【検出状況】LQ29グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒色土の長楕円形プランを検出し、断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径1.34m、短径0.78mの長楕円形プランを呈し、主軸方位はN－39°－Nである。南壁は直立気味に立ち上がる。北壁は、底面付近では直立気味に、中位以上からは外反しながら立ち上がる。確認面からの深さは1.73mである。

【堆積土】４層に分層した。いずれも丘陵部Ⅱ・Ⅳ層由来である。特に３層はしまりが弱く、木片が含まれていた。自然堆積土と考えられる。

【所見・時期】木片があることや、断面形態から柱穴の可能性がある。だが、SX4127・4130・4170と埋土が類似し、また同じ丘陵部に位置することから、土石流により埋没した古代の埋没木の可能性もある。なお、出土した木片の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、774～942calAD(2σ)の年代値が得られた。（大上）

SX3017（第111図、図版55）

【検出状況】MC～MF48～50に位置する。沢堆積層中に、炭化物・木片が多くみられる黒色土の溝状プランとして検出した。南西端から焼土が検出されたことから、遺構であると判断した。

【規模・形態】残存長軸12.9m、木片集中範囲の残存短軸9.6mで、主軸方位はN－65°－Wである。木片が集中する箇所は、南東付近である。CDライン付近には比較的細かい木片が散在する。焼土の南東部では比較的大きく、板状の木片が折り重なって検出された。またその南東側には、棒状の木片が１本検出されたが、加工の痕跡はない。ABライン付近では比較的大きな木片が一部列状に並びながら、南東側に向かって比較的大きな木片が列状に並んだように検出された。

【堆積土】いずれも沢由来の砂層で、複数の沢が切り合っている様子が窺える。木片・炭化物が検出される層は、ABライン４層、CDライン１・３層である。ABライン４層は黒褐色粘質シルト、CDライン１・３層は黒色～黒褐色砂質シルト、それらの直上にはABライン３層で確認した暗灰黄色砂が堆積する。この暗灰黄色砂層を切るオリーブ褐色砂層であるABライン１層には木片・炭化物は含まれない。

【出土遺物】北西側で時期不明の縄文土器片が出土した。また磨製石斧が１点出土した。

【所見・時期】本遺構は広範囲にまたがり、西から東へと広がっている。板状の木片が直交して折り重なる部分があり、元々列状に一直線に並んでいた木片が新しい時期の沢に浸食を受け、南側へ流されたものと考えられる。木片には棒状のものや板状のものがあるが、加工の痕跡の有無は判然としない。また、焼土が１か所確認されているが、沢の周辺の湿度が高い場所でどのような行為が行われていたかは不明である。出土した遺物は沢の上流から流れ込んだと考えられる。なお、出土した木片の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、RW11は774～949 calAD (2σ)、RW12は774～972 calAD (2σ)、RW32は257～408calAD (2σ)の年代値が得られ、古代の遺構と考えられる。（大上）

SX3076（第112図、図版56）

【検出状況】MF51グリッドに位置する。ST252上に堆積した暗褐色遺物包含層を掘削中に、黒色シルトの不整形プランとして検出した。遺構が検出された層の上面が近代とみられることや、黒色シルトのしまりがかなり弱いことから当初は攪乱と判断した。その後、掘り込みも東側へ斜めに抉られるように続くことから攪乱として掘削を進めたが、0.8m程掘削したところで樹皮の残る自然木が西側へ斜めに倒れる形で出土したため、性格不明遺構として精査を進めた。

【規模・形態】確認プランは長軸1.33m、短軸0.68mの不整形を呈し、主軸方向はN－86°－Eである。出土した埋没木は長さ1.54m、直径0.72mで、中心が空洞となっており、樹皮が残る状態の丸太状である。計測できた埋没木の最深部は遺構認定面から2.0mで、黒色土及び地山土の変色部分の断面形は約60度で西側に傾斜する。

【堆積土】上層及び埋没木の中心部はしまりの弱い黒色シルトで、時期不明の縄文土器など遺物が多数含まれるものの、ST252からの崩落土と考えられる。中層はしまりの強い白色粘質シルトで、地山土との境目に鉄分が沈殿している。埋没木周辺の下層はしまりがかなり強い青灰色粘質シルトである。中層と下層は混入物もみられないため、地山土がグライ化したものとみられる。

【出土遺物】ST252崩落土である黒色土内から、縄文土器片が多数出土した。加えて、剥片類が83.0g出土した。

【所見・時期】埋没木周辺は変色した地山土である。上層の黒色シルトは、埋没木の中心部分が腐植したことにより陥没した部分にST252由来の遺物を含む包含層が崩落したものである。なお、出土した埋没木の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、774calAD～884calAD（2σ）の年代値が得られた。そのため、古代に大規模な土石流が起こり、その際に自然木がここに流れ着いて埋没したものと考えられる。（小山）

SX4127・4130・4170（第112図、図版56）

【検出状況】SX4127はNM33・34グリッド、SX4130はNL33グリッド、SX4170はNL・NM33グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に３か所の黒色土の不整長楕円形プランとして検出した。掘り下げると、いずれも湧水層中から木片を検出したため、性格不明遺構として精査を進めた。

【規模・形態】SX4127は長径0.79m、短径0.51mで不整長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.52mである。SX4130は長軸0.58m、短軸0.53m（残存）で不整形を呈する。確認面からの深さは1.55mである。SX4170は長軸0.49m、短軸0.37m（残存）で不整形を呈する。確認面からの深さは2.14mである。

【堆積土】本遺構よりも上層には、しまりの弱い丘陵部Ⅱ層由来の黒褐色シルト層が堆積する。木片の周囲には、上層側にオリーブ褐色砂、下層側にオリーブ黒色砂が確認された。これは木片から伝った水分の影響により、周囲がグライ化したためと考えられる。また、下層側の方がよりグライ化が進んでいる。

【所見・時期】丘陵部Ⅱ層由来の黒色土が堆積することに加え、出土した炭化物の放射性炭素年代測定（暦年較正年代）の結果、SX4127は671calAD～820calAD（2σ）、SX4130は667calAD～774calAD（2σ）、SX4170は675calAD～823calAD（2σ）の年代値が得られたことから、古代に帰属するものと考えられる。SX3076と概ね一致する年代と言え、当時この周辺で大規模な土石流があったものと考えられる。

（大上）

（８）柱穴様ピット

SKP81（第112図、図版56）

【検出状況】LP61グリッドに位置する。Ⅴ層を精査中に黒色土の円形プランとして検出した。断面観察の結果、明確な立ち上がりと焼土を確認したため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径0.81m、短径0.65mで、東側が平坦な円形を呈する。主軸方向はN－9°－Wである。確認面からの深さは0.60mで、断面形はU字状を呈する。壁は北側が急角度、南側

がやや緩やかに立ち上がる。

【堆積土】３層に分層した。１層は地山ブロックを多量に含む黒色シルト、２層は明赤褐色焼土層、３層は炭化物・焼土を含むしまりの弱い黒褐色シルトである。１・３層は人為的な埋め戻し土とみられる。

【所見・時期】焼土が硬く焼き締まっているため、ピット内で火が使用されたとみられる。焼土下の炭化物や焼土を含む埋め戻し土は、火を焚く前の除湿効果を狙った可能性もあるが、遺構の性格は不明である。Ⅴ層での検出であるが、堆積土がⅡ層及びⅢa～ｂ層由来であることから、古代の可能性がある。なお、出土した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、716～887calBC（2σ）の年代値が得られた。（小山）

４　所属時期不明

（１）配石遺構

SQ42（第113図、図版56）

【検出状況】LR44・45グリッドに位置する。沢堆積層掘削中に北東から南西方向にかけて広がる40個程度の礫が出土した。礫の分布方向が沢の流路に沿わないことや、周辺に礫層などがみられなかったことから、集石遺構であると判断した。

【規模・形態】長軸4.6m、短軸1.6mで平面形は南北に長い不整形を呈する。主軸方向はN－17°－Eである。0.1m～0.3m大の円礫が51個分布する。

【堆積土】沢堆積層中の褐色シルト砂層の上面に集石されている。掘り込みはない。

【所見・時期】礫は円礫が主であるが、偽礫が３点ほど混入しており、崩落した土砂による可能性がある。しかし、礫を伴う流水堆積層が広がらず、この礫が局所的に分布することから、人為的な集石である思われる。出土遺物がみられないため時期や用途は不明である。（久住）

SQ46（第114図、図版56）

【検出状況】LR44グリッドに位置する。SQ42を取り外したところ、その下層から礫が組まれた状態で出土した。周辺も掘り下げ精査をおこなった結果、礫が放射状に並んで検出されたため、集石遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長軸1.52m、短軸1.33mの不整形を呈し、長軸方向はN－63°－Eである。

【堆積土】礫は沢堆積層中のにぶい黄褐色シルト砂層の上面に集石されている。掘り込みはない。

【所見・時期】礫は円礫である。SQ42と一連である可能性があるが、間に沢の堆積層を数cmはさんでいることから、同時期にあったものとは考えられない。用途や時期特定に至るような遺物が出土しなかったため時期も不明である。（久住）

SQ69（第114図、図版56）

【検出状況】LR44グリッドに位置する。SQ46南東より検出した。礫が組まれているわけではなく散らばって分布しているが、SQ42・46と関連するものと考え、集石遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径1.40m、短径0.80mの楕円形を呈し、主軸方向はN－２°－Wである。

【堆積土】沢堆積層中の褐色シルト砂から出土した。

【所見・時期】同じレベルから出土しているSQ46と同一遺構である可能性があるが、SQ69 はSQ46検出層より上面に位置しているため、別遺構と判断した。遺物がないため時期不明であるが、SQ46より

やや新しいものであると考える。　（久住）

（２）土坑

SK2024（第114図）

【検出状況】L029グリッドに位置する。丘陵部Ⅳ層精査中に黒色土の楕円形プランを検出した。断面観察の結果、立ち上がりがみられたため遺構と判断した。

【規模・形態】平面形は、長径1.30ｍ、短径0.96ｍの楕円形を呈し、主軸方向はＮ－14°－Ｅである。断面形は斜面上に立地しているため、南壁の立ち上がりは緩やかで、確認面からの深さは0.26ｍである。

【堆積土】２層に分層した。いずれも丘陵部Ⅳ・Ⅴ層由来の中礫を含み、１層の黒色土、２層の暗褐色砂質シルトは丘陵部Ⅳ層由来の人為堆積と考えられる。

【所見・時期】丘陵部Ⅳ層由来の堆積土であるが、土砂の流出が激しい急斜面に構築されており、出土遺物もないことから時期は不明である。　（大上）

５　遺構外出土遺物

土器

第201図～第206図に遺構外出土土器を図示した。

第201図１～７は丘陵部出土土器である。主体はⅡ群土器で、Ⅰ群１類とみられる土器がわずかに含まれる。Ⅱ群土器の中では、Ａ１・２類は少なく、Ａ３～８類が目立つ。明確なＢ６類は確認できない。

第202図は平場出土土器である。平場出土土器は全体的に少量で、遺構も少ないことから、場の利用頻度が低いとみられる。その中でもＡ５・６類、Ｂ３類の出土が目立つ。

第202図８～11、第203図は尾根裾部出土土器である。この地区は大部分がST252に重なっており、同様にⅡ群、Ⅲ群の土器が確認できる。

第204、205図は平坦部東側出土土器である。ST252から離れた地区であるが、Ａ１～４類の大型破片が比較的多く出土しており、同時期のＢ２類も一定量出土する。次に目立つのがＢ４、Ｂ５類であり、Ⅲ群土器については破片がまとまって出土する地点が認められるが、個体数としては数個体分であり、さらに同時期のものと考えられることから、Ⅲ群期の利用は限定的なものだったと考えられる。

第206図は平坦部西側出土土器である。ST247や配石遺構が多く分布する地区であり、Ⅱ群Ａ８類やＢ５類、Ⅲ群土器が目立つ傾向にある。一方で、Ａ１～５類やＢ１～３類が極端に少なく、尾根裾部や平坦部東側に挟まれた地点であるが、偏った出土傾向を示している。

土製品

遺構外出土土製品としては、土偶10点、ミニチュア土器38点、三角形土製品10点、その他土製品33点が出土している。

土偶はいずれも尾根裾部から出土した。その他の地点からは、出土していない。

ミニチュア土器は、尾根裾部から24点、丘陵部から１点、平坦部西側から10点、平坦部東側から３点出土した。

三角形土製品は、尾根裾部から７点、沢部から３点出土した。なお沢部から出土した３点は、いずれもST252に隣接する地点から出土したものである。沢がST252の一部を削っていることからすると、

沢部から出土した３点は、本来はST252の範囲内に遺棄されていた可能性が高い。

その他土製品としては、耳飾りや棒状土製品、垂飾なども含まれるが、土器片利用土製品と焼成粘土塊が多数を占める。尾根裾部から25点、平坦部西側から６点、平坦部東側から１点、沢部から１点出土した。

石器・石製品

尾根裾部、平坦部東側、西側から出土した縄文時代の石器・石製品については、第77～97表にて示すこととし、それ以外の地点から出土した遺物について述べることとする。

はじめに縄文時代の石器・石製品について述べる。

丘陵部からは、石鏃１点、石匙１点、有撥石器１点、両面調整石器１点、磨製石斧２点、敲石３点、凹み石２点、特殊磨石２点、石皿８点、石錘１点、石刀１点が出土しているが、その多くがSI4049やSI4011の周辺で出土している。第273図１・２は、SI4049とSKF4043の間から並んで出土し、さらに第273図１の石皿の直下から第272図１の特殊磨石が出土した。

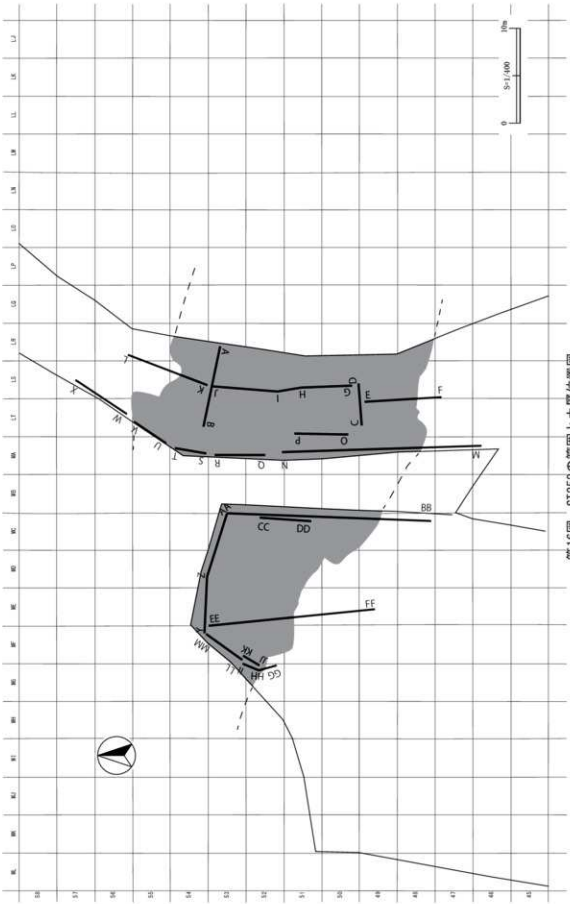
平場からは石鏃、石匙、石篦、扁平石器、特殊磨石が各１点ずつ出土したのみである。遺構も少なく、土器の出土量も少ないことから、この場の利用は低調であったと考えられる。

沢部から出土した遺物は、原位置を保っていないものがほとんどであると考えられる。この沢は、自然堆積土のみならず、ST252の一部を削っていることからすると、沢部から出土した遺物の中には、本来ST252中に含まれていたものもあると推測される。また、側縁有溝石器（第290図６）や、斜め方向に走る線刻が表面全面に施された玉類（第291図１）は本遺跡内においては、他に類例がなく、今後の検討が望まれる資料である。

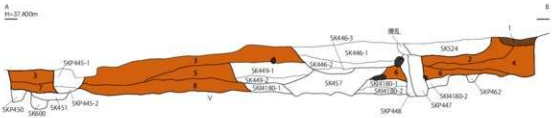
また、古代の石製品としては、砥石が２点出土した。

その他

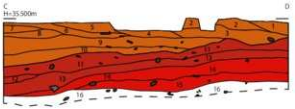
尾根裾部において、鉄滓が３点出土した。古代以降に小規模ながら鉄生産が行なわれていたものと考えられる。



第16図　ST252の範囲と土層位置図

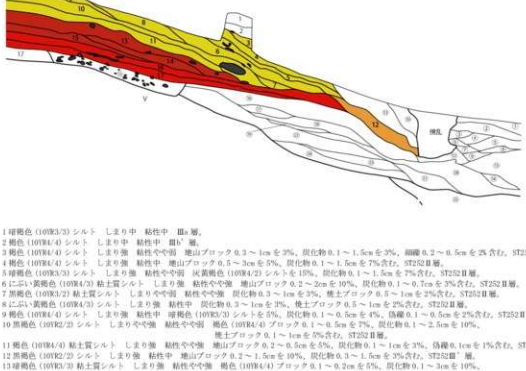


1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを5%、縞礫２～4cmを2%含む、ST252Ⅱ層。
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.2～0.5cmを3%、炭化物0.3～1cmを5%含む、ST252Ⅲ層。
3 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.4cmを2%、炭化物0.1～0.3cmを3%含む、ST252Ⅲ層。
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック1～1.5cmを3%、炭化物0.1～0.5cmを3%含む、ST252Ⅲ層。
5 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　地山ブロック0.2～0.4cmを2%、炭化物0.1～0.3cmを2%含む、ST252Ⅲ層。
6 黒褐色（10YR3/2）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.3～3cmを7%、炭化物0.1～0.3cmを2%含む、ST252Ⅲ層。
7 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.2～1cmを3%、炭化物0.1～0.2cmを2%含む、ST252Ⅲ層。
8 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.2～1.5cmを5%、炭化物0.3～1.5cmを3%含む、ST252Ⅲ層。
SKP445-1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　地山ブロック0.2～0.5cmを5%、炭化物0.1～0.3cmを3%含む。
SKP445-2 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　粘性中　地山ブロック0.2～1cmを3%、炭化物0.1～0.3cmを2%、縞礫３～5cmを1%含む。
SKP450 褐色（10YR4/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　暗褐色（10YR3/3）ブロック2～4cmを3%含む。
SK457 暗褐色（10YR3/2）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.1～1cmを3%、炭化物0.1～1cmを2%含む。
SKP462 黄褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性中　暗褐色（10YR3/3）シルトを30%、炭化物0.1～0.3cmを2%含む。
SKH180-1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　黒褐色（10YR3/2）ブロック1～3cmを3%、炭化物0.1～0.2cmを2%含む、ST252Ⅲ層由来。
SKH180-2 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.1～3cmを7%、炭化物0.2～2cmを3%含む、ST252Ⅲ層由来。



1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを15%、炭化物0.12～3cmを5%含む、ST252Ⅲ層。
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを15%、褐色（10YR4/4）ブロック1～1.5cmを5%、炭化物0.1～2cmを7%、
地土ブロック0.1～0.3cmを2%含む、ST252Ⅲ層。
3 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.2～2cmを10%、炭化物0.1～0.7cmを3%含む、ST252Ⅲ層。
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.1～3cmを3%、地土ブロック0.2～1.5cmを3%含む、ST252Ⅲ層。
5 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.2～5cmを15%、炭化物0.1～2cmを5%、縞7～15cmを2%含む。
ST252Ⅲ層。
6 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色（10YR4/6）ブロック0.2～1cmを3%、炭化物0.1～1cmを5%、地土ブロック0.1～1cmを2%、
縞礫1cmを1%含む、ST252Ⅲ層。
7 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまり強　粘性弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを5%、炭化物0.1～0.3cmを3%含む、ST252Ⅲ層。
8 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　黄褐色（10YR5/6）ブロック0.1～2cmを5%、炭化物0.1～1cmを3%、地土（7.5YR4/6）を3%、
偽礫0.3～0.5cmを2%含む、ST252Ⅲ層。
9 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり強　粘性中　炭化物0.3～1cmを3%、地土ブロック0.5～1cmを2%含む、ST252Ⅲ層。
10 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　暗褐色（10YR3/3）シルトを5%、炭化物0.1～0.5cmを4%、偽礫0.1～0.5cmを2%含む、ST252Ⅲ層。
11 暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　褐色（10YR4/4）ブロック0.1～2cmを5%、炭化物0.1～3cmを10%、
地土ブロック0.1～0.5cmを3%含む、ST252Ⅳ層上。
12 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　褐色（10YR4/6）ブロック0.2～1.5cmを3%、炭化物0.1～0.8cmを3%、
偽礫0.3～0.5cmを2%含む、ST252Ⅳ層上。
13 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性中　褐色（10YR4/4）ブロック0.2～0.3cmを3%、炭化物0.1～1.5cmを5%、
地土ブロック0.1～0.3cmを2%含む、ST252Ⅳ層上。
14 黒色（10YR2/1）粘土　しまり強　粘性強　褐色（10YR4/4）ブロック0.5～0.7cmを2%、炭化物0.1～2cmを10%、地土ブロック0.2～0.5cmを2%含む、
ST252Ⅳ層下。
15 黒色（10YR2/1）粘土　しまり強　粘性強　褐色（10YR4/4）ブロック0.5～0.7cmを2%、炭化物0.1～2cmを10%、地土ブロック0.2～0.5cmを2%、
偽礫0.5～1cmを5%、縞0.5～10cmを5%含む、ST252Ⅳ層下。
16 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　炭化物0.1～0.5cmを粒状に5%、縞0.1～10cmを10%含む、Ⅳ層。

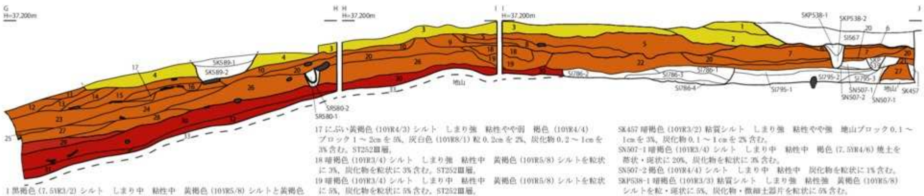
第17図　ST252土層断面図（１）



1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　Ⅲa 層。
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　Ⅲb' 層。
3 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.3 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 1.5cm を 3%、縞礫 0.2 ～ 0.5cm を 2% 含む。ST252Ⅱ層。
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　地山ブロック 0.5 ～ 3cm を 5%、炭化物 0.1 ～ 1.5cm を 7% 含む。ST252Ⅱ層。
5 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　灰黄褐色（10YR4/2）シルトを 15%、炭化物 0.1 ～ 1.5cm を 7% 含む。ST252Ⅱ層。
6 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 0.2 ～ 2cm を 10%、炭化物 0.1 ～ 0.7cm を 3% 含む。ST252Ⅱ層。
7 黒褐色（10YR3/2）粘土質シルト　しまりやや弱　粘性やや強　炭化物 0.3 ～ 1cm を 3%、焼土ブロック 0.5 ～ 1cm を 2% 含む。ST252Ⅱ層。
8 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり強　粘性中　炭化物 0.3 ～ 1cm を 3%、焼土ブロック 0.5 ～ 1cm を 2% 含む。ST252Ⅱ層。
9 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　暗褐色（10YR3/3）シルトを 5%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を 4%、偽礫 0.1 ～ 0.5cm を 2% 含む。ST252Ⅱ層。
10 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック 0.1 ～ 0.5cm を 7%、炭化物 0.1 ～ 2.5cm を 10%、
焼土ブロック 0.1 ～ 1cm を 5% 含む。ST252Ⅱ層。
11 褐色（10YR4/4）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 0.2 ～ 0.5cm を 5%、炭化物 0.1 ～ 1cm を 3%、偽礫 0.1cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
12 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性中　地山ブロック 0.2 ～ 1.5cm を 10%、炭化物 0.3 ～ 1.5cm を 3% 含む。ST252Ⅲ' 層。
13 暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　褐色（10YR4/4）ブロック 0.1 ～ 0.2cm を 5%、炭化物 0.1 ～ 3cm を 10%、
焼土ブロック 0.1 ～ 0.5cm を 3% 含む。ST252Ⅳ層上。
14 暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 0.1 ～ 4cm を 20%、炭化物 0.1 ～ 1.5cm を 5% 含む。ST252Ⅳ層上。
15 暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 0.1 ～ 0.5cm を 7%、炭化物 0.1 ～ 2cm を 8%、偽礫 0.2 ～ 0.5cm を 2% 含む。
ST252Ⅳ層下。
16 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性中　褐色（10YR4/4）ブロック 0.2 ～ 0.3cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 1.5cm を 5%、
焼土ブロック 0.1 ～ 0.3cm を 2% 含む。ST252Ⅳ層下。
17 黒色（10YR2/1）粘土　しまり強　粘性強　褐色（10YR4/4）ブロック 0.5 ～ 0.7cm を 2%、炭化物 0.1 ～ 2cm を 10%、焼土ブロック 0.2 ～ 0.5cm を 2%、
偽礫 0.5 ～ 1cm を 5%、縞 0.5 ～ 10cm を 5% 含む。ST252Ⅳ層下。
18 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性強　酉層。
①黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂を 3%、炭化物 0.3 ～ 1.5cm を 2% 含む。沢埋積層。
②にぶい黄褐色（10YR4/3）砂　しまり中　粘性弱　黒色（10YR2/1）シルトを 5% 含む。沢埋積層。
③暗褐色（10YR3/3）砂　しまりやや強　粘性弱　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂を 5% 含む。沢埋積層。
④にぶい黄褐色（10YR4/3）砂　しまりやや弱　粘性弱　沢埋積層。
⑤灰白色（10YR8/2）礫層　しまり中　粘性中　沢埋積層。
⑥黒褐色（10YR3/2）砂　しまり中　粘性やや強　沢埋積層。
⑦灰黄褐色（10YR4/2）砂　しまり中　粘性弱　沢埋積層。
⑧灰黄褐色（10YR4/2）砂　しまりやや強　粘性弱　沢埋積層。
⑨褐灰色（10YR4/1）砂　しまり中　粘性弱　灰黄褐色（10YR4/2）砂を 5% 含む。沢埋積層。
⑩褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　黒褐色（10YR2/2）シルトを斑状に 20% 含む。沢埋積層。
⑪黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　沢埋積層。
⑫黒色（10YR2/1）シルト　しまり強　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトを 40% 含む。沢埋積層。
⑬浅黄橙色（10YR8/3）礫層　しまり中　粘性中　沢埋積層。
⑭黒色（N2/0）粘土　しまり中　粘性強　偽礫 0.2 ～ 0.5cm を 2% 含む。沢埋積層。
⑮黄褐色（10YR6/8）礫層　しまり中　粘性中　沢埋積層。
⑯褐色（7.5YR4/4）砂　しまりやや強　粘性弱　黒褐色（10YR2/2）シルトを 10% 含む。沢埋積層。
⑰褐色（10YR4/4）砂　しまり強　粘性弱　偽礫 0.3 ～ 1.5cm を 5%、縞 1 ～ 5cm を 10% 含む。沢埋積層。
⑱にぶい黄褐色（10YR5/4）粘土質砂　しまり強　粘性やや強　黒褐色（10YR3/2）砂を 10%、偽礫 0.5 ～ 2cm を 5% 含む。沢埋積層。
⑲黒褐色（10YR3/2）粘土　しまり強　粘性強　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂を 10% 含む。沢埋積層。
⑳褐色（10YR4/4）砂　しまり強　粘性中　縞礫 0.3 ～ 0.5cm を 5% 含む。沢埋積層。
㉑黒褐色（10YR2/1）砂　しまり強　粘性やや弱　縞礫 0.3 ～ 1cm を 25% 含む。沢埋積層。
㉒黒褐色（10YR3/2）砂質粘土　しまり強　粘性やや強　偽礫 0.5 ～ 2cm を 5%、縞 1 ～ 20cm を 35% 含む。沢埋積層。
㉓にぶい黄褐色（10YR5/4）砂　しまりやや強　粘性弱　縞礫 0.5 ～ 1cm を 10% 含む。沢埋積層。
㉔黒褐色（10YR3/2）粘土　しまり強　粘性強　偽礫 0.3 ～ 1cm を 3%、縞 2 ～ 5cm を 10% 含む。沢埋積層。
㉕灰白色（10YR8/1）礫層　しまり中　粘性中　沢埋積層。

0　S=1/60　1m

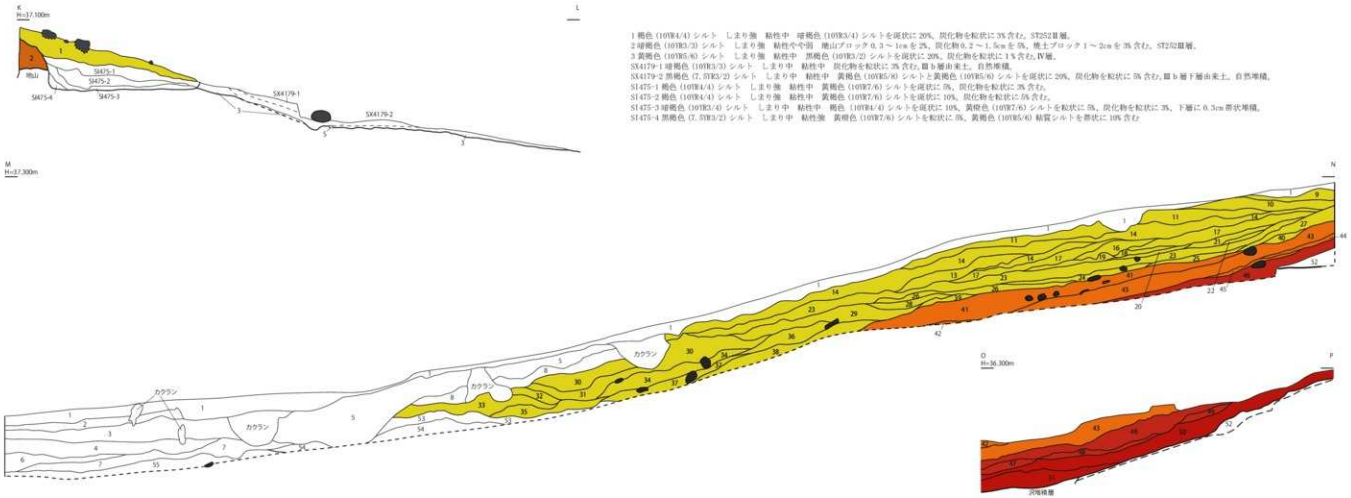
第18図　ST252土層断面図（２）



1 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/8）シルトと黄褐色（10YR5/6）シルトを斑状に20%、炭化物を粒状に5%含む。ST252Ⅱ層。
2 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり中　粘性強　黒褐色（10YR2/2）シルトを斑状に40%、明黄褐色（10YR6/6）シルトを斑状に10%、炭化物を粒・帯状に20%含む。ST252Ⅱ層。
3 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　暗褐色（10YR3/4）シルトを斑状に10%、炭化物を粒状に3%含む。ST252Ⅱ層。
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　暗褐色（10YR3/4）シルトを斑状に10%、炭化物を粒状に5%含む。ST252Ⅱ層。
5 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　明黄褐色（10YR6/8）シルトを粒状に1%、灰白色（10YR8/1）粘土を粒状に3%、炭化物を粒状に3%含む。ST252Ⅲ層。
6 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを斑状に5%、炭化物を粒状に3%、橙（7.5YR6/8）焼土を粒状に1%含む。ST252Ⅲ層。
7 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトを斑状に5%、炭化物を粒状に5%含む。ST252Ⅲ層。
8 黒褐色（7.5YR3/2）粘質シルト　しまり強　粘性強　橙（7.5YR6/8）シルトを粒状に1%、炭化物を粒状に3%、褐色（7.5YR4/6）焼土を粒状に1%含む。ST252Ⅲ層。
9 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック1～3cmを5%、にぶい黄褐色（10YR7/3）粘土ブロック5cmを1%、炭化物0.2～1cmを5%含む。ST252Ⅲ層。
10 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック1～3cmを5%、にぶい黄褐色（10YR7/3）粘土ブロック5cmを1%、炭化物0.2～1cmを3%含む。ST252Ⅲ層。
11 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック1～3cmを3%、地山ブロック0.3cmを2%、炭化物0.1～1cmを3%含む。ST252Ⅲ層。
12 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　灰白色（10YR8/1）粒0.1～0.5cmを3%、炭化物0.1～0.5cmを3%、擬礫0.5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
13 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック1～3cmを5%、炭化物0.1～1.5cmを3%含む。ST252Ⅲ層。
14 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック1～2cmを3%、炭化物0.1～1.5cmを7%含む。ST252Ⅲ層。
15 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを7%、地山ブロック1～3cmを3%、炭化物0.3～1cmを3%含む。ST252Ⅲ層。
16 暗褐色（7.5YR3/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック0.3～0.5cmを2%、炭化物0.1～1cmを3%、焼土ブロック0.5～1cmを5%、礫5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
17 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック1～2cmを5%、灰白色（10YR8/1）粒0.2cmを2%、炭化物0.2～1cmを3%含む。ST252Ⅲ層。
18 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性中　黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に3%、炭化物を粒状に3%含む。ST252Ⅲ層。
19 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に5%、炭化物を粒状に5%含む。ST252Ⅲ層。
20 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.3～1cmを2%、炭化物0.2～1.5cmを5%、焼土ブロック1～2cmを3%含む。ST252Ⅲ層。
21 褐色（7.5YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/6）シルトを粒状に5%、炭化物を粒状に3%含む。ST252Ⅲ層。
22 褐色（7.5YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/6）シルトを粒状に3%、炭化物を粒状に3%含む。ST252Ⅲ層。
23 暗褐色（7.5YR3/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック0.3～0.5cmを2%、炭化物0.1～1cmを3%、焼土ブロック0.5～1cmを5%、礫1～5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
24 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック1～2cmを5%、灰白色（10YR8/1）粒0.2cmを2%含む。ST252Ⅲ層。
25 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを15%、炭化物0.12～3cmを5%含む。ST252Ⅲ層。
26 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック0.5～1.53cmを5%、褐色（10YR4/4）ブロック0.2cmを2%含む。ST252Ⅲ層。
27 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを15%、褐色（10YR4/4）ブロック1～1.5cmを5%、炭化物0.1～2cmを7%、焼土ブロック0.1～0.3cmを2%含む。ST252Ⅲ層。
28 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック0.2～0.5cmを5%、炭化物0.1～1cmを5%、偽礫0.5cmを2%含む。ST252Ⅲ層。
29 暗褐色（10YR3/3）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　褐色（10YR4/4）ブロック0.1～2cmを5%、炭化物0.1～3cmを10%、焼土ブロック0.1～0.5cmを3%含む。ST252Ⅳ層上。
30 黒色（10YR2/1）粘土　しまり強　粘性強　褐色（10YR4/4）ブロック0.5～0.7cmを2%、炭化物0.1～2cmを10%、焼土ブロック0.2～0.5cmを2%含む。ST252Ⅳ層下。
31 黒色（10YR2/1）粘土　しまり強　粘性強　褐色（10YR4/4）ブロック0.5～0.7cmを2%、炭化物0.1～2cmを10%、焼土ブロック0.2～0.5cmを2%、偽礫0.5～1cmを5%、礫0.5～10cmを5%含む。ST252Ⅳ層下。
32 黒褐色（10YR2/2）粘土質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.1～3cmを15%、炭化物0.1～1cmを3%、擬礫0.3～1cmを3%含む。ST252Ⅳ層下。
33 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　Ⅳ層。

SK457 暗褐色（10YR3/2）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.1～1cmを3%、炭化物0.1～1cmを2%含む。
SN507-1 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（7.5YR4/6）焼土を帯状・斑状に20%、炭化物を粒状に3%含む。
SN507-2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　炭化物を粒状に1%含む。
SKP538-1 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり強　粘性強　黄褐色（10YR5/8）シルトを粒・斑状に5%、炭化物・微細土器片を粒状に5%含む。
SKP538-2 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性強　明黄褐色（10YR6/6）シルトを粒状に3%、炭化物を粒状に5%、褐色（7.5YR4/6）焼土を粒状に5%含む。
SKP539 明黄褐色（10YR6/6）粘質シルト　しまり強　粘性強　褐色（10YR4/6）シルトを斑状に10%、炭化物を粒状に1%含む。
SI567 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/6）シルトを粒状に5%、炭化物を粒状に3%、赤褐色（5YR4/8）焼土を粒状に1%含む。
SR580-1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり弱　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック0.3～0.5cmを3%、炭化物0.3～0.6cmを3%含む。
SR580-2 暗褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）ブロック0.3～0.5cmを2%、炭化物0.3～0.7cmを3%、礫1～2cmを8%含む。
SK589-1 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.2～2cmを5%、炭化物0.1～1.5cmを5%、礫2～5cmを2%含む。
SK589-2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを7%、炭化物0.2～1cmを3%、礫1～8cmを2%含む。
SI786-1 暗褐色（10YR3/4）砂質土　しまりやや強　粘性やや弱　暗赤褐色焼土を40%、炭化物0.1～0.5cmを3%含む。
SI786-2 褐色（10YR4/4）砂質土　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物0.1cmを1%未満含む。
SI786-3 暗褐色（10YR3/4）砂質土　しまりやや強　粘性やや弱　地山土粒0.1～0.3cmを1%、炭化物0.1～1cmを5%含む。
SI786-4 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり強　粘性強　黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に3%、炭化物を粒・帯状に10%含む。
SI795-1 暗褐色（10YR3/4）砂質土　しまりやや強　粘性やや弱　地山土粒0.1～0.3cmを1%、炭化物0.1～1cmを3%含む。
SI795-2 暗褐色（10YR3/4）砂質土　しまりやや強　粘性やや弱　地山土粒0.1～0.3cmを3%、炭化物0.1～1cmを3%含む。
SI795-3 暗褐色（10YR3/2）砂質土　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック0.1～2cmを30%含む。

第19図　ST252土層断面図（3）

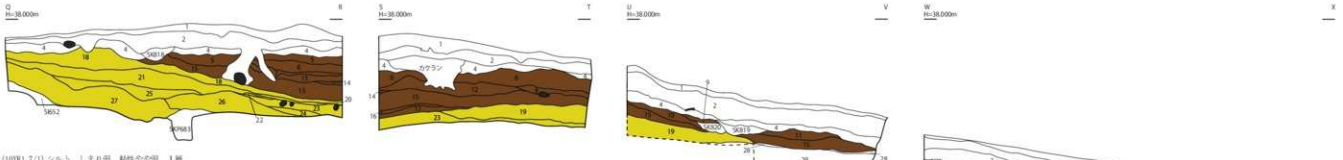


1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　暗褐色（10YR3/4）シルトを斑状に20%、炭化物を粒状に3%含む。ST252Ⅱ層。
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.3～1cmを2%、炭化物0.2～1.5cmを5%、埴土ブロック1～2cmを3%含む。ST252Ⅲ層。
3 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性中　黒褐色（10YR3/2）シルトを斑状に20%、炭化物を粒状に1%含む。IV層。
SX479-1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　炭化物を粒状に3%含む。Ⅲb層由来土。自然堆積。
SX479-2 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/8）シルトと黄褐色（10YR5/6）シルトを斑状に20%、炭化物を粒状に3%含む。Ⅲb層下層由来土。自然堆積。
SX475-1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　黄褐色（10YR7/6）シルトを斑状に5%、炭化物を粒状に3%含む。
SX475-2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　黄褐色（10YR7/6）シルトを斑状に10%、炭化物を粒状に5%含む。
SX475-3 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトを斑状に10%、黄褐色（10YR7/6）シルトを粒状に5%、炭化物を粒状に3%、下層に0.3cm帯状堆積。
SX475-4 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　しまり中　粘性強　黄褐色（10YR7/6）シルトを斑状に5%、黄褐色（10YR5/6）粘質シルトを帯状に10%含む

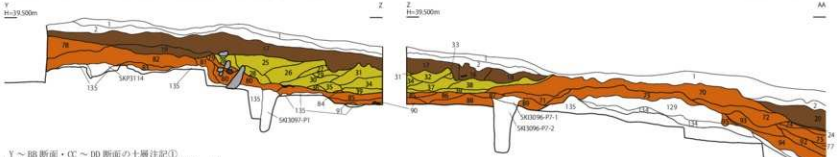
1 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり弱　粘性やや弱　Ⅰ層。
2　25トレンチ3層。沢。
3　25トレンチ4層。沢。
4 黒色（7.5YR2/1）砂　しまりやや弱　粘性中　暗褐色（10YR3/3）砂ブロック1～3cmを3%、炭化物粒0.5cmを1%含む。沢。
5 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性やや弱　明黄褐色（10YR6/6）シルトブロック1cmを3%含む。Ⅱ層。
6　25トレンチ6層。沢。
7 黒色（10YR1.7/1）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　沢。
8 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトブロック5～10cmを15%含む。Ⅲb層。
9 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　明黄褐色（10YR6/6）シルトブロック1～2cmを10%、炭化物粒0.5cmを2%、褐色（5YR6/8）埴土ブロック0.5～1cmを3%含む。ST252Ⅱ層。
10 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色（10YR7/8）シルトブロック1～5cmを5%、炭化物ブロック0.5～1cmを7%、赤褐色（5YR4/8）埴土粒1cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
11 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色（10YR7/8）シルトブロック1～8cmを25%、炭化物ブロック1cmを7%含む。ST252Ⅱ層。
12 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトブロック5～10cmを20%、炭化物粒0.5cmを3%含む。ST252Ⅱ層。
13 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物ブロック1cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
14 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/8）シルトブロック1～5cmを40%、炭化物ブロック0.5～1cmを10%、赤褐色（5YR4/8）埴土ブロック1cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
15 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック1～2cmを25%、炭化物粒0.5～1cmを25%、炭化物ブロック0.5～1cmを7%含む。ST252Ⅱ層。
16 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや弱　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック1～7cmを20%、炭化物ブロック0.5～2cmを7%、明赤褐色（5YR5/8）埴土ブロック1～15cmを30%含む。ST252Ⅱ層。
17 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性中　にぶい黄褐色（10YR5/4）シルトブロック1～5cmを20%、小礫1cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
18 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトブロック1～3cmを10%含む。ST252Ⅱ層。
19 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR7/8）シルトブロック1～3cmを20%、炭化物ブロック1cmを7%、明赤褐色（5YR5/8）埴土粒0.5cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
20 黄褐色（10YR5/8）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色7.5YR4/4）シルトブロック3～5cmを40%、炭化物ブロック0.5～1cmを25%、にぶい赤褐色（5YR4/4）埴土ブロックを30%含む。ST252Ⅱ層。
21 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　炭化物粒0.5cmを15%、明赤褐色（2.5YR5/8）埴土ブロック1cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
22 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや弱　粘性中　炭化物粒0.5cmを10%含む。ST252Ⅱ層。
23 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒0.5cmを3%、褐色（10YR7/8）埴土粒0.5cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
24 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや弱　粘性中　明黄褐色（10YR6/8）シルトブロック5～10cmを15%、炭化物ブロック0.5～2cmを10%、明赤褐色（5YR5/8）埴土粒0.5cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
25 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　明黄褐色（10YR7/6）粘質シルトブロックを2cm幅で筋状に30%含む。ST252Ⅱ層。
26 褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまりやや弱　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック3～5cmを30%、炭化物ブロック0.5～3cmを15%含む。ST252Ⅱ層。
27 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　炭化物ブロック0.5～1cmを3%、黄褐色（10YR7/8）偽礫0.5～1cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
28 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや弱　粘性中　炭化物ブロック0.5～1cmを1%、明赤褐色（5YR5/8）埴土粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
29 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）砂ブロック10cmを7%、炭化物粒0.5～1cmを15%含む。ST252Ⅱ層。
30 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　炭化物粒0.5cmを3%、明赤褐色（2.5YR5/8）埴土粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
31 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物ブロック1cmを25%、礫0.5～1cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
32 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色（10YR4/6）シルトブロック1cmを1%、炭化物ブロック0.5～1cmを10%、明赤褐色（5YR5/8）埴土粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
33 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性中　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック1～6cmを20%、炭化物ブロック0.5～1cmを10%、明赤褐色（5YR3/6）埴土粒0.5cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
34 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトブロック1～5cmを全体に斑状に30%、炭化物ブロック0.5～2cmを10%含む。ST252Ⅱ層。
35 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトブロック5～10cmを25%、炭化物粒0.5cmを5%含む。ST252Ⅱ層。
36 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性中　炭化物ブロック0.5～1cmを10%、赤褐色（5YR4/8）埴土粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
37 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック3cmを5%、炭化物ブロック1～4cmを1%、明赤褐色（5YR5/8）埴土粒0.5cmを1%、小礫5cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
38 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色（10YR4/6）シルトブロック1～5cmを20%、炭化物ブロック0.5～3cmを1%、橙色（5YR6/8）埴土粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
39 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色（10YR4/6）シルトブロック5cmを10%、炭化物粒0.5cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
40 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや弱　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトブロック1～10cmを15%、炭化物ブロック1～3cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
41 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック1～5cmを7%、炭化物粒0.5cmを7%、明褐色（7.5YR5/6）埴土粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
42 褐色（10YR4/6）シルト　しまりや中　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック0.5cmを5%、炭化物粒0.5cmを10%含む。ST252Ⅲ層。
43 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや強　黄褐色（10YR5/8）シルトブロック1cmを5%、炭化物ブロック1～3cmを上層に多く10%含む。ST252Ⅲ層。
44 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
45 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや強　褐色（10YR4/6）シルトブロック1～5cmを40%、炭化物粒0.5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
46 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性中　褐色（10YR4/6）シルトブロック1～3cmを10%、炭化物ブロック0.5～2cmを10%含む。ST252IV層上。
47 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物ブロック1～3cmを20%、明赤褐色（5YR5/8）埴土粒0.5cmを1%、褐色（10YR4/6）偽礫0.5cmを1%含む。ST252IV層上。
48 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物ブロック0.5～1cmを7%、褐色（10YR4/6）偽礫0.5cmを2%含む。ST252IV層上。
49 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック1～3cmを斑状に50%、炭化物ブロック0.5～2cmを15%、橙色（5YR6/8）埴土粒0.5cmを1%含む。ST252IV層上。
50 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　粘性やや強　褐色（10YR4/4）シルトブロック1～5cmを7%、炭化物粒0.5cmを2%、小礫1cmを1%含む。ST252IV層下。
51 黒褐色（7.5YR3/1）シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物ブロック1cmを2%、暗赤褐色（5YR3/6）埴土粒0.5cmを1%、小礫1cmを1%含む。ST252IV層下。
52 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや弱　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトブロック1～10cmを15%、炭化物粒0.5cmを1%以下含む。IV層。
53 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　沢。
54 褐色（10YR4/4）砂　しまりやや強　粘性やや弱　小礫0.5～1cmを7%含む。沢。
55 黒褐色（2.5Y3/2）砂　しまりやや弱　粘性やや強　沢。

0　S=1/60　1m

第20図　ST252土層断面図（４）



1 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり弱　粘性やや弱　Ⅰ層。
2 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性やや弱　明黄褐色（10YR6/6）シルトブロック 1cmを 3% 含む。Ⅱ層。
3 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中　明黄褐色（10YR6/6）シルトブロック 1cmを 1% 含む。Ⅲ層。
4 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトブロック 5～10cmを 15% 含む。Ⅲ b 層。
5 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性やや弱 褐色（10YR4/4）シルトブロック 1～3cmを 3%、炭化物 0.5～1cmを 5%、赤褐色（5YR4/8）焼土粒 0.5cmを 5% 含む。ST252 Ⅰ層。
6 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱 褐色（10YR4/4）シルトブロック 3cmを 2%、炭化物ブロック 1～5cmを 7%、褐色（7.5YR4/6）焼土粒 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
7 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや弱　粘性中 黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 3～5cmを 7%、炭化物 0.5cmを 5% 含む。ST252 Ⅰ層。
8 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性中 褐色（10YR4/6）シルトブロック 1～5cmを現状に 20%、炭化物ブロック 0.5～1cmを 10% 含む。ST252 Ⅰ層。
9 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱 褐色（10YR4/6）焼土粒 0.5cmを 5%、赤褐色（5YR4/8）焼土粒 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
10 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中 褐色（10YR4/6）シルトブロック 1cmを 7%、炭化物ブロック 0.5～1cmを 5% 含む。ST252 Ⅰ層。
11 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや弱　粘性中 褐色（10YR4/6）シルトブロック 10cmを 30%、明赤褐色（5YR5/8）焼土粒 0.5cmを 5% 含む。ST252 Ⅰ層。
12 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性やや弱 黄褐色（10YR5/8）シルトブロック 1cmを 1%、炭化物ブロック 0.5～1cmを 15%、赤褐色（5YR4/6）焼土ブロック 1cmを 3% 含む。ST252 Ⅰ層。
13 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトブロック 1～2cmを 3%、炭化物ブロック 0.5～3cmを 10%、赤褐色（5YR4/6）焼土粒 0.5cmを 2% 含む。ST252 Ⅰ層。
14 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中 炭化物ブロック 1～3cmを 3%、赤褐色（5YR4/6）焼土粒 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
15 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性やや強 黄褐色（10YR6/8）シルトブロック 1～5cmを 10%、明赤褐色（5YR5/8）焼土ブロック 0.5～1cmを 7% 含む。ST252 Ⅰ層。
16 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱 暗褐色（10YR3/4）シルトブロック 1～5cmを現状に 25%、炭化物ブロック 1cmを 10% 含む。ST252 Ⅰ層
17 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性中 上層 3cmの範囲に炭化物粒 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
18 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱 炭化物ブロック 0.5～1cmを 3%、明赤褐色（5YR5/8）焼土粒 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
19 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱 炭化物ブロック 0.5～3cmを 10%、明赤褐色（5YR5/8）焼土 1cmを 7% 含む。ST252 Ⅱ層。
20 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中 黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1～2cmを 25%、炭化物粒 0.5～1cmを 2% 含む。ST252 Ⅱ層。
21 明褐色（10YR3/4）シルト　しまりや強　粘性やや強 炭化物ブロック 0.5～2cmを 7%、褐色（7.5YR4/6）焼土ブロック 1cmを 2% 含む。ST252 Ⅱ層。
22 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱 炭化物粒 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
23 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱 黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1cmを 10%、炭化物ブロック 0.5～1cmを 3% 含む。ST252 Ⅱ層。
24 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性中 炭化物粒 0.5cmを 3% 含む。ST252 Ⅱ層。
25 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱 炭化物粒 0.5cmを 7%、褐色（5YR6/8）焼土ブロック 1cmを 1%、黄褐色（7.5YR7/8）焼土粒 1cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
26 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱 黄褐色（10YR7/8）シルトブロック 2cmを 20%、炭化物粒 0.5cmを 5%、暗赤褐色（5YR3/6）焼土粒 0.5cmを 2%、黄褐色（10YR7/8）焼土粒 1cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
27 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性やや弱 炭化物ブロック 0.5～1cmを 5%、黄褐色（10YR7/8）焼土粒 0.5～1cmを 2% 含む。ST252 Ⅱ層。
28 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中 暗褐色（10YR6/6）シルトブロック 0.5～1cmを 3%、黒褐色（10YR2/2）シルトブロック 5～10cmを 5%、炭化物粒 0.5cmを 7% 含む。Ⅳ層。
29 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりや強　粘性やや強　Ⅴ層。
30 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまり中　粘性中 にぶい黄褐色（10YR6/4）砂質シルトを水平方向に帯状に 3～5cm、その直上に明褐色（7.5YR5/6）砂質シルトを水平方向に 1cm含む。Ⅴ層。
31 にぶい黄色（2.5YR4/4）粘土　しまり強　粘性強　Ⅴ層。
SKP683 にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト　しまり中　粘性中
SK818 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり弱　粘性やや弱 褐色（10YR4/6）シルトブロック 0.5～1cmを 2%、炭化物粒 0.5cmを 1% 含む。
SK819 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　粘性中 黄褐色（10YR6/8）シルト粒 0.5cmを 5%、炭化物 0.5cmを 5%、赤褐色（5YR4/6）焼土粒 0.5cmを 3% 含む。
SK820 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中 炭化物ブロック 0.5～1cmを 5%、褐色（7.5YR4/6）焼土粒 0.5cmを 1% 含む。
SKP821 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性中 黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1～10cmを 50%、炭化物粒 0.5cmを 5%、焼土粒 0.5cmを 1% 含む。

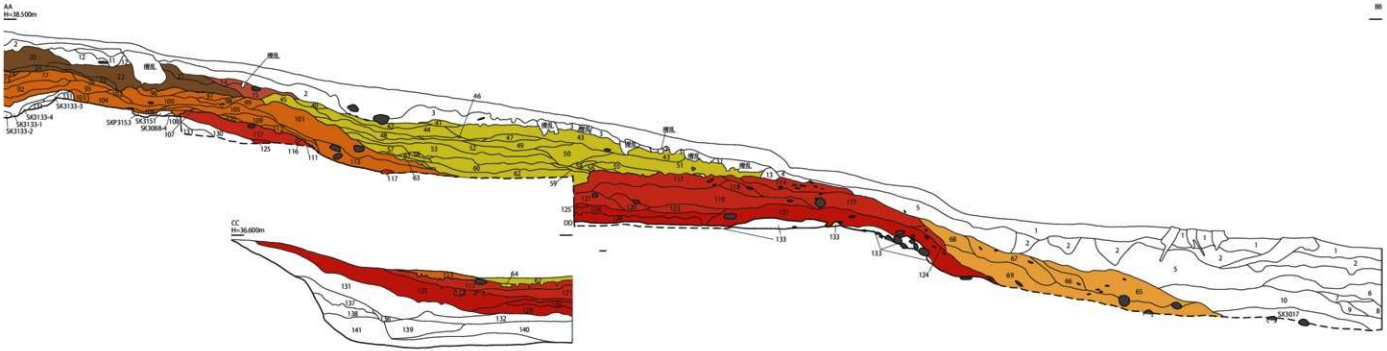


Y～BB 断面・CC～DD 断面の土層注記①
1 黒褐色（10YR3/2）砂質シルト　しまりやや強　粘性弱　表土。
2 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまり中　粘性弱　表土由来黒褐色（10YR2/3）砂質シルトを帯状に 20% 含む。Ⅰ層。
3 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中 褐色（10YR4/4）シルト（ST252 Ⅱ層黄褐色土由来）を現状に 30% 含む。Ⅰ層。
4 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中 黒褐色（10YR2/3）シルトをブロック状に 10%、炭化物 0.1～0.2cmを粒状に 1% 含む。Ⅰ層。
5 黒褐色（10YR2/2）粘質シルト　しまり中　粘性強 黒褐色（10YR2/3）土を現状に 5%、炭化物 0.1～0.3cmを粒状に 1% 含む。Ⅰ層。
6 黒褐色（10YR2/3）粘質シルト　しまり中　粘性強 褐色（10YR4/6）砂を現状に 10%、中礫 0.4～1.5cmを帯状に 1% 含む。Ⅰ層。
7 黒褐色（10YR3/1）砂　しまりやや強　粘性弱 砂分で赤化した砂を現状に 5% 含む。Ⅰ層。
8 黒褐色（10YR2/2）砂　しまりやや強　粘性弱 褐色（10YR4/6）砂を帯状に 5%、砂分で赤化した砂を現状に 10%、炭化物 0.1～0.5cmを粒状に 1% 含む。Ⅰ層。
9 黒色（10YR1.7/1）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強　褐色（10YR4/6）砂を帯状に 10%、砂分で赤化した砂を現状に 5%、炭化物 0.1～0.5cmを粒状に 1% 含む。Ⅰ層。
10 黒褐色（10YR2/2）粘質シルト　しまり強　粘性強　砂分で赤化した砂を現状に 2%、炭化物 0.1～0.5cmを粒状に 1%、焼礫 0.5～1.5cmを現状に 1% 含む。Ⅰ層。
11 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性弱　褐色（10YR4/6）シルトブロック 2cmを 10%、炭化物 0.5cmを 1% 含む。Ⅰ層。
12 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性弱　褐色（10YR4/4）シルトブロック 1cmを 3%、暗赤褐色（5YR3/6）焼土粒 0.5cmを 1% 含む。Ⅰ層。
13 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性中　黒褐色（10YR4/6）シルト（しまりがない強い、ST252 Ⅱ層がブロックと落ちてきたか）をブロック状に 10%、炭化物 0.1～0.3cmを粒状に 2% 含む。Ⅰ層。
14 黒褐色（10YR2/3）砂質シルト　しまり弱　粘性弱　炭化物 0.1～0.5cmを粒状に 5% 含む。ST252 Ⅰ層の再堆積層。
15 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　粘性中　地山土を粒状に 1%、炭化物 0.1～1cmを粒状に 10%、明赤褐色（2.5YR5/8）焼土を粒状に 1%、骨片 1cmを粒状に 1% 含む。ST252 Ⅰ層の再堆積層。
16 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性弱　褐色（10YR4/6）シルトブロック 1cmを 5%、炭化物 0.5cmを 5% 含む。ST252 Ⅰ層。
17 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1～2cmを 5%、炭化物 0.5～1cmを 5% 含む。ST252 Ⅰ層。
18 褐色（10YR4/6）シルト質砂　しまりやや強　粘性弱　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック 2cmを 7%、黄褐色（10YR5/6）粘土 0.5cmを 2%、炭化物 1cmを 2% 含む。ST252 Ⅰ層。
19 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.5～1cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
20 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1～3cmを西側に 10×東側に 1%、炭化物 1～3cmを西側に 7×東側に 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
21 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまり中　粘性弱　炭化物 0.5～1cmを 1% 含む。褐色（10YR4/6）砂質シルトを現状に 50%、炭化物 0.1～0.3cmを粒状に 1%、中礫 0.4～0.5cmを粒状に 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
22 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1～3cmを 5%、褐色（7.5YR4/3）焼土ブロック 10cmを 7%、褐色（7.5YR4/6）焼土ブロック 10cmを現状に 7% 含む。ST252 Ⅰ層。
23 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや強　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 0.5～1cmを 5%、小礫 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
24 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1～5cmを 10%、炭化物 0.5cmを 2% 含む。ST252 Ⅰ層。
25 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性弱　炭化物 0.5cmを 10%、礫 1cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
26 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1cmを 15%、炭化物 0.5～1cmを 10% 含む。ST252 Ⅰ層。
27 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物 1cmを 10%、暗赤褐色（5YR3/6）焼土 0.5cmを 1%、小礫 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅰ層。
28 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　炭化物 1cmを 2% 含む。ST252 Ⅰ層。
29 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 5cmを 5%、炭化物 0.5cmを 10% 含む。ST252 Ⅱ層。
30 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　明黄褐色（10YR6/6）粘土ブロック 0.5cmを 2%、炭化物 0.5～1cmを 7% 含む。ST252 Ⅱ層。

Y～BB 断面・CC～DD 断面の土層注記②
31 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）粘土ブロック 1cmを 2%、炭化物 1cmを 2% 含む。ST252 Ⅱ層。
32 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1cmを 15%、炭化物 0.5～1cmを 5%、赤褐色（10YR4/6）焼土 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
33 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　粘性弱　明黄褐色（10YR6/6）粘土ブロック 0.5cmを 1%、炭化物 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
34 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
35 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性弱　黄褐色（10YR5/6）砂ブロック 1cmを 2%、にぶい黄褐色（10YR6/4）粘土ブロック 0.5cmを 1%、炭化物 0.5～1cmを 5% 含む。ST252 Ⅱ層。
36 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトブロック 1cmを 2%、炭化物 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
37 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1cmを 10%、炭化物 0.5cmを 2%、赤褐色（5YR4/8）焼土 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
38 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1～2cmを 7%、炭化物 0.5～1cmを 7%、明黄褐色（10YR7/6）焼礫 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
39 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1cmを 2%、炭化物 0.5cmを 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
40 褐色（10YR4/4）砂　しまり強　粘性　暗褐色（10YR3/4）シルトを現状に 10%、炭化物 0.1～1.5cmを粒状に 7%、明赤褐色（5YR5/8）焼土を粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
41 褐色（10YR4/6）砂　しまり強　粘性弱　灰黄褐色（10YR4/2）砂を現状に 10%、炭化物 0.1～0.5cmを粒状に 3% 含む。ST252 Ⅱ層。
42 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性中　暗褐色（10YR3/4）シルトを現状に 20%、炭化物 0.1～1cmを粒状に 5%、赤色（10R5/6）焼土を粒状に 1%、中礫 3cmを粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
43 褐色（10YR4/6）砂　しまり強　粘性弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを現状に 30%、褐粗粒砂 0.1～0.2cmを粒状に 10%、炭化物 0.1～2cmを粒状に 10%、明赤褐色（2.5YR5/8）焼土を粒状に 1%、中礫 0.4～1.5cmを粒状に 1%、大礫 15cmを下層に 1 個体含む。ST252 Ⅱ層。
44 暗褐色（10YR3/4）砂　しまり強　粘性弱　褐色（10YR4/6）砂を帯状に 40%、炭化物 0.1～1.5cmを粒状に 7%、中礫 0.4～4cmを粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
45 褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　黒褐色（10YR2/3）シルトを現状に 20%、炭化物 0.1～1cmを粒状に 3%、赤褐色（2.5YR4/8）焼土を粒状に 1%、中礫 0.4～1cmを粒状に 3% 含む。ST252 Ⅱ層。
46 褐色（7.5YR4/4）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）砂質シルトを現状に 20%、炭化物 0.1～0.5cmを粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
47 褐色（7.5YR4/4）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.1～1.5cmを粒状に 7% 含む。ST252 Ⅱ層。
48 褐色（10YR4/6）砂　しまり強　粘性弱　暗褐色（10YR3/4）砂を帯状に 30%、炭化物 0.1～1cmを粒状に 5%、暗赤褐色（2.5YR3/6）焼土を粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
49 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）砂質シルトを現状に 30%、炭化物 0.1～3cmを粒状に 5%、赤色（10YR4/6）焼土を粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
50 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.1～1.5cmを粒状に 10%、赤色（10R4/6）焼土を粒状に 1%、中礫 0.4～1cmを粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
51 褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまり強　粘性中　炭化物 0.1～2cmを粒状に 15%、明赤褐色（2.5YR5/8）焼土を現状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
52 褐色（10YR4/4）砂　しまり強　粘性弱　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂を帯状に 15%、炭化物 0.1～1.5cmを粒状に 3% 含む。ST252 Ⅱ層。
53 明黄褐色（10YR6/6）砂　しまり強　粘性弱　褐色（10YR4/4）砂を現状に 5%、炭化物 0.1～1cmを粒状に 10%、明赤褐色（5YR5/8）焼土を粒状に 1%、中礫 0.4～0.5cmを粒状に 1% 含む。ST252 Ⅱ層。
54 褐色（7.5YR4/4）砂　しまり強　粘性弱　暗褐色（10YR3/4）砂を現状に 20%、炭化物 0.1～1cmを粒状に 5% 含む。ST252 Ⅱ層。
55 褐色（10YR4/6）砂　しまり強　粘性弱　暗褐色（10YR6/8）砂を現状に 5%、炭化物 0.1～3cmを現状に 15%、赤褐色（5YR4/8）焼土を両端にブロック状に 30%、明赤褐色（5YR5/8）焼土を現状に 15%、骨片 0.1cmほど下を粒状に 10% 含む。ST252 Ⅱ層。
56 黄褐色（10YR5/8）砂　しまり強　粘性弱　炭化物 0.5～1cmを下層に帯状に 5%、にぶい赤褐色（5YR4/4）焼土を下層に帯状に 5% 含む。ST252 Ⅱ層。

0　S=1/60　1m

第21図　ST252土層断面図（５）



Ｙ～ BB 断面・CC ～ DD 断面の土層注記③

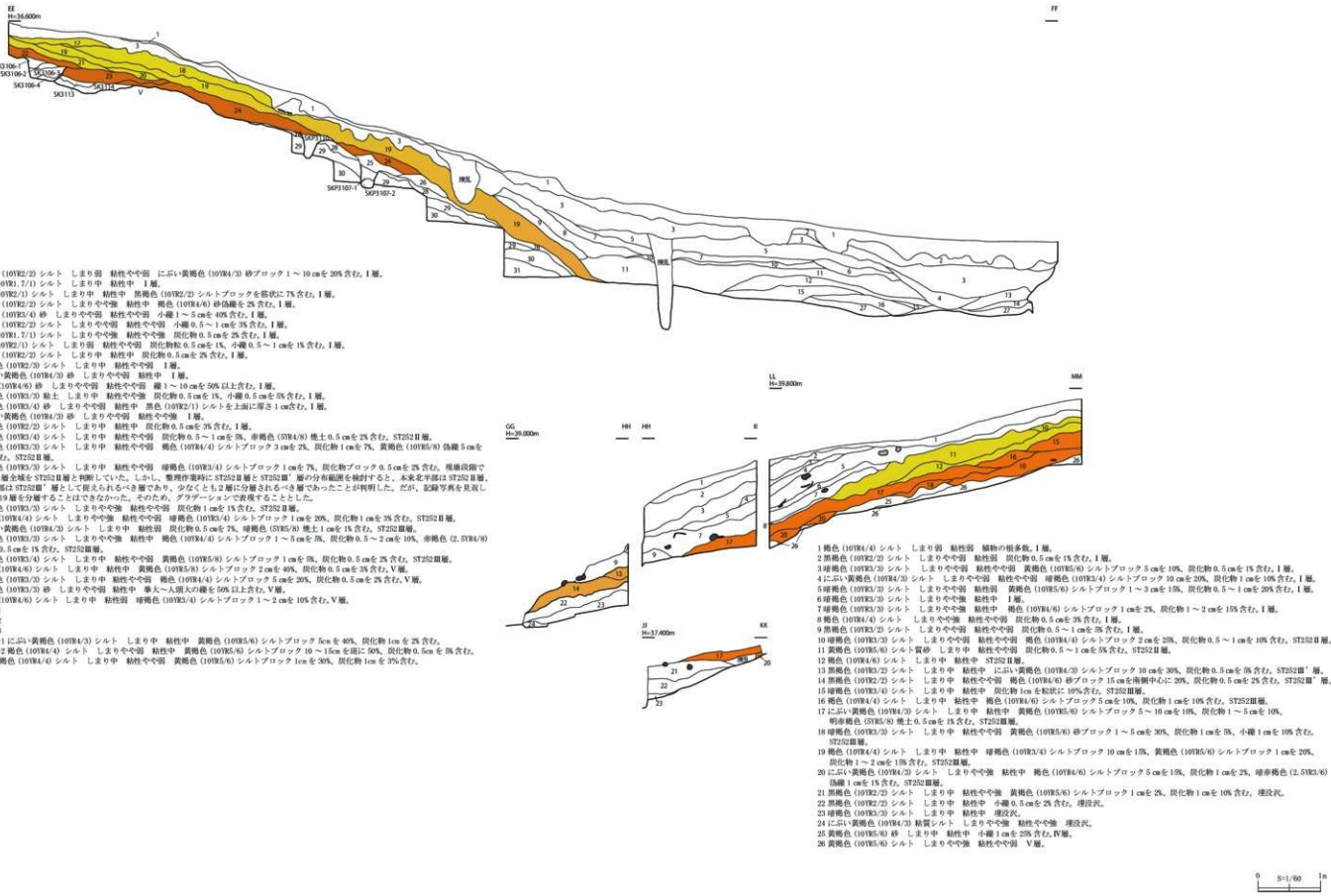
57 にぶい黄橙色 (10YR5/4) 砂　しまり強　粘性弱　砂分で赤化した砂を帯状に 10%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 2%、中礫 0.4 ～ 1 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
58 褐色 (10YR4/6) 砂　しまり強　粘性弱　黄橙色砂 (10YR5/8) を帯状に 3%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 3% 含む。ST252Ⅱ層。
59 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト　しまり強　粘性弱　炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 5% 含む。ST252Ⅱ層。
60 褐色 (10YR4/4) 砂　しまり強　粘性弱　明黄褐色 (10YR7/6) 砂を下層に帯状に 20%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を斑状に 5%、赤褐色 (2.5YR4/8) 焼土を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
61 褐色 (10YR4/4) 砂　しまり強　粘性弱　砂分で赤化した砂を斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
62 黄褐色 (10YR5/8) 砂　しまり強　粘性弱　褐色 (10YR4/4) 砂を下層に帯状に 20%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 3% 含む。ST252Ⅱ層。
63 褐色 (10YR4/6) 砂　しまり強　粘性弱　赤褐色 (5YR4/6) 焼土を粒状に 1%、炭化物 0.1 cm以下を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
64 黄褐色 (10YR5/6) 砂　しまり強　粘性弱　117 層を斑状に 50% 含む。ST252Ⅱ層。
65 極暗褐色 (7.5YR2/3) 粘質シルト　しまりやや強　粘性強　褐色 (7.5YR4/4) 砂を帯状に 1%、黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト (ST252Ⅱ層由来) を斑状に 10%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 10%、中礫 0.4 ～ 5 cm を粒状に 2% 含む。ST252Ⅱ' 層。
66 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト　しまり強　粘性強　炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 2%、中礫 0.4 ～ 1 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ' 層。
67 暗褐色 (10YR3/4) 粘質シルト　しまり強　粘性強　黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルトを斑状に 20%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 10%、暗赤褐色 (10YR3/6) 焼土を粒状に 1%、中礫 0.1 ～ 2 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ' 層。
68 褐色 (10YR4/6) シルト　しまり強　粘性中　黒褐色 (10YR2/3) シルトを斑状に 20%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 3%、赤色 (7.5R4/8) 焼土を粒状に 1%、骨片 0.1 ～ 0.3 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ' 層。
69 暗褐色 (10YR3/3) 粘質シルト　しまり強　粘性強　黒褐色 (10YR3/2) 砂 (10 層由来) をブロック状に 5%、暗赤色 (10YR3/6) 焼土塊 0.5 cm を粒状に 1%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 7%、大礫 4 ～ 15 cm を粒状に 3% 含む。ST252Ⅱ' 層。
70 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 ～ 3 cm を西側に 10%・東側に 1%、炭化物 1 ～ 3 cm を西側に 7%・東側に 1% 含む。ST252 層。
71 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 cm を 1%、炭化物 1 cm を西側に 2%・東側に 1%、礫 0.5 cm を 1% 含む。ST252 層。
72 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまり強　粘性弱　褐色 (10YR4/4) シルトブロック 1 cm を 3%、炭化物 0.5 cm を 2% 含む。ST252 層。
73 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性中　褐色 (10YR4/6) シルトブロック 0.5 ～ 1 cm を 3%、炭化物 0.5 cm を 2% 含む。ST252 層。
74 褐色 (10YR4/4) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 ～ 5 cm を 10%、炭化物 0.5 cm を 2% 含む。ST252 層。
75 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 cm を 2%、炭化物 1 ～ 2 cm を 10%、明褐色 (7.5YR5/6) 焼土 0.5 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
76 褐色 (10YR4/4) シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 0.5 ～ 1 cm を 5%、小礫 0.5 cm を 1% 含む。ST252 層。
77 褐色 (10YR4/4) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 2 ～ 5 cm を 15%、炭化物 0.5 cm を 5% 含む。ST252 層。
78 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) 砂ブロック 1 cm を 10%、炭化物 1 cm を 2% 含む。ST252Ⅱ層。
79 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色 (10YR4/6) シルトブロック 5 cm を 10%、炭化物 1 cm を 10% 含む。ST252Ⅱ層。
80 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) 砂ブロック 1 cm を 10%、炭化物 1 cm を 2% 含む。ST252Ⅱ層。
81 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.5 ～ 1 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
82 褐色 (10YR4/4) シルト　しまり中　粘性中　暗褐色 (10YR3/4) シルトブロック 10 cm を 15%、黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 cm を 20%、炭化物 1 ～ 2 cm を 15% 含む。ST252Ⅱ層。
83 黒褐色 (10YR3/2) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 2 cm を 2%、褐色 (10YR4/6) シルトブロック 0.5 cm を 1%、炭化物 0.5 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
84 黒褐色 (10YR2/2) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　ST252Ⅱ層。
85 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 cm を 7%、炭化物 0.5 cm を 2%、褐色 (7.5YR6/8) 偽礫 1 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
86 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり強　粘性中　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 cm を西側に 50%・東側に 7%、炭化物 0.5 cm を 2% 含む。ST252Ⅱ層。
87 黒褐色 (10YR3/2) シルト　しまりやや強　粘性中　にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトブロック 1 cm を 3%、炭化物 0.5 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
88 黒褐色 (10YR3/2) シルト　しまり強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 0.5 ～ 1 cm を 5%、炭化物 0.5 ～ 2 cm を 2%、褐色 (7.5YR4/6) 焼土 0.5 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
89 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性中　褐色 (10YR4/6) シルトブロック 1 ～ 3 cm を 20% 含む。ST252Ⅱ層。
90 極暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性中　褐色 (10YR4/3) シルトブロック 1 ～ 5 cm を 7%、炭化物 1 ～ 2 cm を 5% 含む。ST252Ⅱ層。
91 黒色 (10YR1.7/1) 炭化物層　しまり強　粘性弱　ST252Ⅱ層。
92 黄褐色 (10YR5/6) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色 (10YR4/4) シルトブロック 1 ～ 3 cm を 7%、炭化物 0.5 ～ 1 cm を 5% 含む。ST252Ⅱ層。
93 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 5 cm を 2%、礫 5 cm を 3%、ST252Ⅱ層。
94 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまり強　粘性弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1cm を 10%、炭化物 0.5 cm を 5%、礫 0.5 ～ 1 cm を 5% 含む。ST252Ⅱ層。
95 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまり強　粘性弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1cm を 30%、炭化物 0.5 cm を 5%、礫 0.5 ～ 1 cm を 10% 含む。ST252Ⅱ層。
96 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト　しまり強　粘性弱　褐色 (10YR4/6) 砂質シルトを斑状に 15%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 15%含む。ST252Ⅱ層。
97 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト　しまり強　粘性弱　褐色 (10YR4/6) 砂質シルトを斑状に 20%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 5%、にぶい赤褐色 (5YR4/4) 焼土を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 0.5 cm を粒状に 20% 含む。ST252Ⅱ層。
98 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまりやや強　粘性中　褐色 (10YR4/6) シルトを斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 5%、にぶい赤褐色 (5YR4/4) 焼土を帯状に 40% 含む。ST252Ⅱ層。
99 暗褐色 (10YR3/4) 粘質シルト　しまりやや強　粘性強　褐色 (10YR4/6) シルトを粒状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 5%、にぶい赤褐色 (5YR4/4) 焼土を斑状に 5% 含む。ST252Ⅱ層。
100 暗褐色 (10YR3/4) シルト　しまり強　粘性中　褐色 (10YR4/6) 砂質シルトを斑状に 10%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 5% 含む。ST252Ⅱ層。

Ｙ～ BB 断面・CC ～ DD 断面の土層注記④

101 暗褐色 (10YR3/3) 粘質シルト　しまり強　粘性強　地山土を粒状に 3%、炭化物 0.1 ～ 2 cm を粒状に 3%、大礫 25 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
102 褐色 (10YR4/4) シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 cm を 10%、炭化物 0.5 cm を 5%、礫 0.5 ～ 1 cm を 5% 含む。ST252Ⅱ層。
103 褐色 (10YR4/4) シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 ～ 2 cm を 20%、炭化物 0.5 cm を 1% 含む。ST252Ⅱ層。
104 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) シルトブロック 1 ～ 3 cm を 7%、炭化物 0.5 ～ 1 cm を 5% 含む。ST252Ⅱ層。
105 暗褐色 (10YR3/4) シルト　しまり強　粘性中　褐色 (10YR4/6) シルトを斑状に 10%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状・帯状に 7% 含む。ST252Ⅱ層。
106 黒褐色 (10YR2/3) シルト　しまりやや強　粘性やや強　黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルトをブロック状に 3%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を帯状に 30% 含む。ST252Ⅱ層。
107 暗褐色 (10YR3/4) 砂質シルト　しまり中　粘性弱　褐色 (10YR4/6) 砂質シルトを斑状に 30%、炭化物 0.1 ～ 0.3 cm を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 0.5 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
108 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強　褐色 (7.5YR4/4) シルトを斑状に 15%、炭化物 0.1 ～ 0.3 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
109 褐色 (10YR4/6) 粘質シルト　しまり強　粘性強　暗褐色 (10YR3/4) シルトを斑状に 10%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 0.5 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
110 暗褐色 (10YR3/4) 粘質シルト　しまり中　粘性強　褐色 (10YR4/4) シルトを斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
111 黄褐色 (2.5YR5/8) 砂質シルト　しまり強　粘性弱　炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅱ層。
112 褐色 (10YR4/4) 粘質シルト　しまり中　粘性強　黒褐色 (10YR2/3) シルトを斑状に 30%、赤褐色 (5YR4/8) 焼土を粒状に 1% 含む。ST252 層。
113 暗褐色 (10YR3/4) 粘質シルト　しまり強　粘性強　地山土を斑状に 30%、炭化物 0.1 ～ 2 cm を粒状に 5% 含む。ST252Ⅱ層。
114 暗褐色 (10YR3/4) シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 5%、明赤褐色 (5YR5/8) 焼土を粒状に 1% 含む。ST252Ⅳ層上層。
115 暗褐色 (10YR3/4) 粘質シルト　しまり中　粘性強　黄褐色 (10YR5/6) 粘土を斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 5%、中～大礫 0.4 ～ 20 cm を粒状に 3% 含む。ST252Ⅳ層上層。
116 黒色 (10YR2/1) 粘質シルト　しまり強　粘性強　地山土を粒状に 3%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 2%、暗赤色 (10R3/6) 焼土を粒状に 1% 含む。ST252Ⅳ層上層。
117 黒褐色 (10YR2/2) 粘質シルト　しまり強　粘性強　地山土を斑状に 15%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 10%、大礫 15 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅳ層上層。
119 極暗褐色 (7.5YR2/3) 粘質シルト　しまり強　粘性強　地山土を斑状に 7%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 5%、赤褐色 (2.5YR4/6) 焼土を粒状に 1%、中～大礫 0.4 ～ 20 cm を粒状に 5% 含む。ST252Ⅳ層上層。
ST252Ⅳ層上層。
118 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト　しまり強　粘性強　地山土を斑状に 15%、炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 10%、大礫 15 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅳ層上層。
119 極暗褐色 (7.5YR2/3) 粘質シルト　しまり強　粘性強　地山土を斑状に 7%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 5%、赤褐色 (2.5YR4/6) 焼土を粒状に 1%、中～大礫 0.4 ～ 20 cm を粒状に 5% 含む。
ST252Ⅳ層上層。
120 黒褐色 (10YR2/2) 粘質シルト　しまり強　粘性強　褐色 (10YR4/6) 砂を斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.7 cm を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 1.5 cm を粒状に 2% 含む。ST252Ⅳ層上層。
121 黒褐色 (10YR2/2) 粘質シルト　しまり強　粘性中　地山土を粒状に 2%、炭化物 0.1 ～ 0.3 cm を粒状に 1%、暗赤色 (10YR3/6) 焼土を斑状に 1% 含む。ST252Ⅳ層上層。
122 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト　しまり強　粘性強　125 層を斑状に 50% 含む。ST252Ⅳ層上層。
123 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト　しまり中　粘性強　黒褐色 (7.5YR3/2) シルトを斑状に 3%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 1.5 cm を粒状に 2% 含む。ST252Ⅳ層上層。
124 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト　しまり中　粘性強　炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 1%、中礫 0.5 ～ 1.5 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅳ層上層。
125 褐色 (10YR4/4) 粘質シルト　しまり中　粘性強　炭化物 0.1 ～ 0.2 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅳ層下層。
126 黒褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト　しまり中　粘性弱　黒色 (10YR2/1) 粘質シルトを斑状に 30%、中礫 0.4 ～ 3 cm を粒状に 1% 含む。ST252Ⅳ層下層。
127 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト　しまり中　粘性やや強　炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 1%、中～大礫 0.4 ～ 30 cm を粒状に 3% 含む。ST252Ⅳ層下層。
128 黒色 (10YR2/1) 粘質シルト　しまり中　粘性強　炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 1.5 cm を粒状に 2% 含む。ST252Ⅳ層下層。
129 黄褐色 (10YR5/6) シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色 (10YR4/4) シルトブロック 1 ～ 15 cm を 25% 含む。Ⅳ層。
130 黒褐色 (10YR2/3) シルト　しまり中　粘性中　褐色 (10YR4/6) シルトを斑状に 30%、炭化物 0.1 ～ 0.6 cm を粒状に 1% 含む。Ⅳ層。
131 暗褐色 (10YR3/3) 粘土　しまり強　粘性強　炭化物 0.1 ～ 0.5 cm を粒状に 2%、焼土を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 1 cm を粒状に 2% 含む。Ⅳ層。
132 暗褐色 (10YR3/4) 砂　しまり強　粘性弱　炭化物 0.1 ～ 0.2 cm を粒状に 1%、中礫 0.4 ～ 1 cm を粒状に 3% 含む。Ⅳ' 層。
133 黒褐色 (10YR2/3) 砂　しまり中　粘性弱　中～大礫 0.4 ～ 20 cm を下層にブロック状に 20% 含む。Ⅳ' 層。
134 黄褐色 (10YR5/6) 砂　しまりやや強　粘性弱　小礫 0.5 ～ 1 cm を 30% 含む。Ⅴ層。
135 黄褐色 (10YR5/6) シルト　しまり強　粘性弱　Ⅴ層。
136 褐色 (10YR4/4) 粘土　しまり強　粘性強　131 層由来暗褐色粘土を斑状に 20% 含む。Ⅴ層。
137 褐色 (10YR4/4) 粘土　しまり強　粘性強　炭化物 0.1 cm を粒状に 1% 含む。Ⅴ層。
138 褐色 (10YR4/4) 粘土　しまり強　粘性強　炭化物 0.1 cm を粒状に 1% 含む。137 層より粒土大きい。Ⅴ層。
139 暗褐色 (10YR3/4) 砂　しまり強　粘性弱　中礫 0.4 ～ 6.4 cm を 3% 含む。Ⅴ層。
140 礫層。　しまり強　粘性弱　Ⅴ層。
141 褐色 (10YR4/4) 砂　しまり強　粘性弱　Ⅴ層。
SK3097-P2 黒褐色 (10YR2/3) 粘質シルト　しまり強　粘性中　炭化物 0.1 ～ 1 cm を粒状に 1% 含む。
SK3114 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性中　褐色 (10YR4/3) シルトブロック 1 ～ 5 cm を 7% 含む。
SK3153 暗褐色 (10YR3/4) シルト　しまりやや強　粘性強　黄褐色 (10YR5/8) シルトを斑状に 30%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を粒状に 3% 含む。

0　S=1/60　1m

第22図　ST252土層断面図（６）

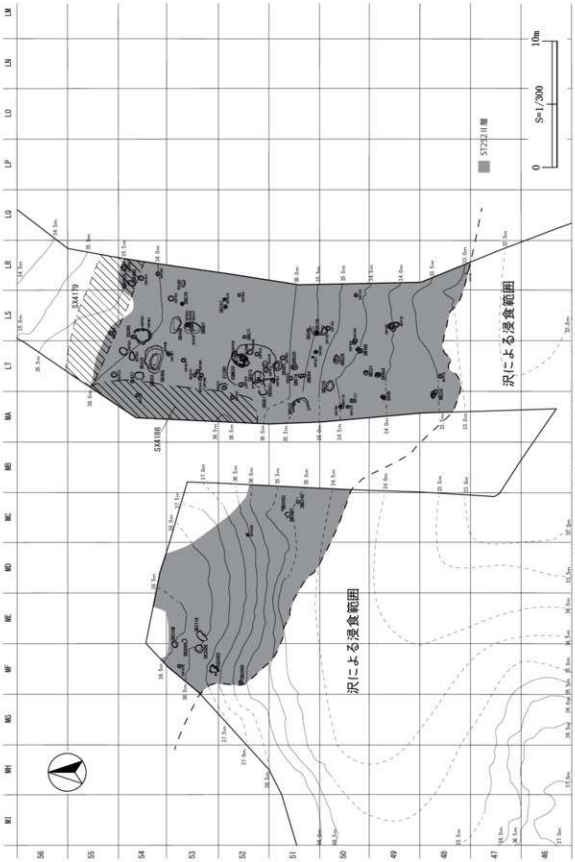


1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり弱　粘性やや弱　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂ブロック１～10 cmを20%含む。Ⅰ層。
2 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中　Ⅰ層。
3 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中　黒褐色（10YR2/2）シルトブロックを筋状に7%含む。Ⅰ層。
4 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや強　粘性中　褐色（10YR4/6）砂偽層を2%含む。Ⅰ層。
5 暗褐色（10YR3/4）砂　しまりやや弱　粘性やや弱　小礫１～５cmを40%含む。Ⅰ層。
6 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　小礫0.5～１cmを3%含む。Ⅰ層。
7 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまりやや強　粘性やや強　炭化物0.5cmを2%含む。Ⅰ層。
8 黒色（10YR2/1）シルト　しまり弱　粘性やや弱　炭化物0.5cmを1%、小礫0.5～１cmを1%含む。Ⅰ層。
9 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中　炭化物0.5cmを2%含む。Ⅰ層。
10 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　Ⅰ層。
11 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂　しまりやや弱　粘性中　Ⅰ層。
12 褐色（10YR4/6）砂　しまりやや弱　粘性やや弱　礫１～10 cmを50%以上含む。Ⅰ層。
13 暗褐色（10YR3/3）粘土　しまり中　粘性やや強　炭化物0.5cmを1%、小礫0.5cmを5%含む。Ⅰ層。
14 暗褐色（10YR3/4）砂　しまりやや弱　粘性中　黒色（10YR2/1）シルトを上面に厚さ１cm含む。Ⅰ層。
15 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂　しまりやや弱　粘性やや強　Ⅰ層。
16 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中　炭化物0.5cmを3%含む。Ⅰ層。
17 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性やや弱　炭化物0.5～１cmを5%、赤褐色（5YR4/8）焼土0.5cmを2%含む。ST252Ⅱ層。
18 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトブロック３cmを2%、炭化物１cmを7%、黄褐色（10YR5/8）偽層5cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
19 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック１cmを7%、炭化物ブロック0.5cmを2%含む。現場段階では19層全域をST252Ⅱ層と判断していた。しかし、整理作業時にST252Ⅱ層とST252Ⅲ″層の分布範囲を検討すると、本来北半部はST252Ⅱ層、南半部はST252Ⅲ″層として捉えられるべき層であり、少なくとも２層に分層されるべき層であったことが判明した。だが、記録写真を見返しても19層を分層することはできなかった。そのため、グラデーションで表現することとした。
20 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物１cmを1%含む。ST252Ⅱ層。
21 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック１cmを20%、炭化物１cmを3%含む。ST252Ⅱ層。
22 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性弱　炭化物0.5cmを7%、暗褐色（5YR5/8）焼土１cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
23 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトブロック１～５cmを5%、炭化物0.5～２cmを10%、赤褐色（2.5YR4/8）焼土0.5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
24 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/8）シルトブロック１cmを5%、炭化物0.5cmを2%含む。ST252Ⅲ層。
25 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/8）シルトブロック２cmを40%、炭化物0.5cmを3%含む。V層。
26 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトブロック５cmを20%、炭化物0.5cmを2%含む。V層。
27 暗褐色（10YR3/3）砂　しまりやや弱　粘性中　事大～人頭大の礫を50%以上含む。V層。
28 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性弱　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック１～２cmを10%含む。V層。
29 地山１
30 地山２
31 地山３
SKP3107-1 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック5cmを40%、炭化物1cmを2%含む。
SKP3107-2 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック10～15cmを密に50%、炭化物0.5cmを5%含む。
SKP3110 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック1cmを30%、炭化物1cmを3%含む。

1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり弱　粘性弱　植物の根多数。Ⅰ層。
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性弱　炭化物0.5cmを1%含む。Ⅰ層。
3 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック5cmを10%、炭化物0.5cmを1%含む。Ⅰ層。
4 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック10cmを20%、炭化物1cmを10%含む。Ⅰ層。
5 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック１～３cmを15%、炭化物0.5～１cmを20%含む。Ⅰ層。
6 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中　Ⅰ層。
7 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中　褐色（10YR4/6）シルトブロック１cmを2%、炭化物１～２cmを15%含む。Ⅰ層。
8 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物0.5cmを3%含む。Ⅰ層。
9 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物0.5～１cmを5%含む。Ⅰ層。
10 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトブロック２cmを25%、炭化物0.5～１cmを10%含む。ST252Ⅱ層。
11 黄褐色（10YR5/6）シルト質砂　しまり中　粘性やや弱　炭化物0.5～１cmを5%含む。ST252Ⅱ層。
12 褐色（10YR4/6）シルト　しまり中　粘性中　ST252Ⅱ層。
13 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり中　粘性中　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトブロック10cmを30%、炭化物0.5cmを5%含む。ST252Ⅲ″層。
14 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色（10YR4/6）砂ブロック15cmを南側中心に20%、炭化物0.5cmを2%含む。ST252Ⅲ″層。
15 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりや　粘性中　炭化物1cmを転状に10%含む。ST252Ⅲ層。
16 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/6）シルトブロック５cmを10%、炭化物１cmを10%含む。ST252Ⅲ層。
17 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック５～10 cmを10%、炭化物１～５cmを10%、明赤褐色（5YR5/8）焼土0.5cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
18 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）砂ブロック１～５cmを30%、炭化物１cmを5%、小礫１cmを10%含む。ST252Ⅲ層。
19 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック10cmを15%、黄褐色（10YR5/6）シルトブロック１cmを20%、炭化物１～２cmを15%含む。ST252Ⅲ層。
20 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまりやや強　粘性中　褐色（10YR4/6）シルトブロック５cmを15%、炭化物１cmを2%、暗赤褐色（2.5YR3/6）偽層１cmを1%含む。ST252Ⅲ層。
21 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや強　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック１cmを2%、炭化物１cmを10%含む。埋没沢。
22 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中　小礫0.5cmを2%含む。埋没沢。
23 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　埋没沢。
24 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強　埋没沢。
25 黄褐色（10YR5/6）砂　しまり中　粘性中　小礫１cmを25%含む。Ⅳ層。
26 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　V層。

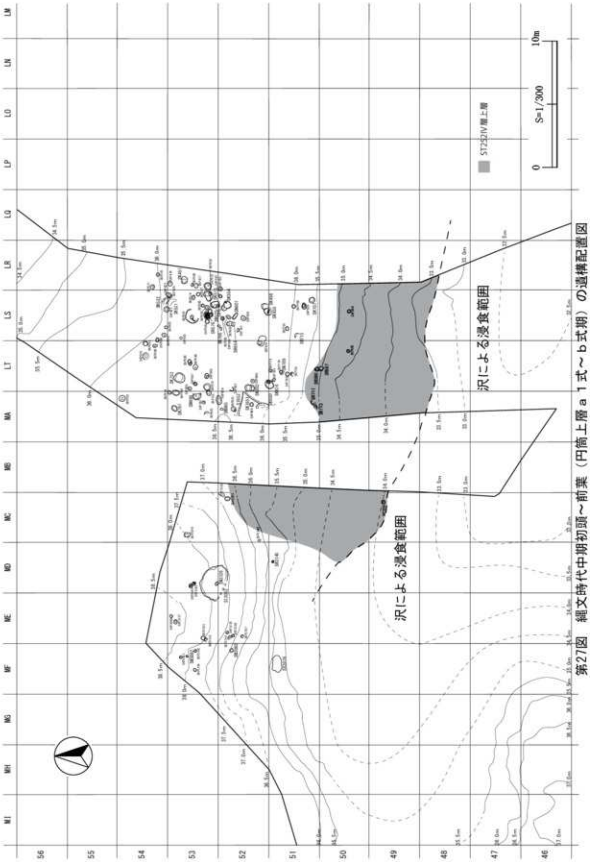
第23図　ST252土層断面図（７）

第24図　縄文時代中期後葉～末葉（最花式～大木10式並行期）の遺構配置図

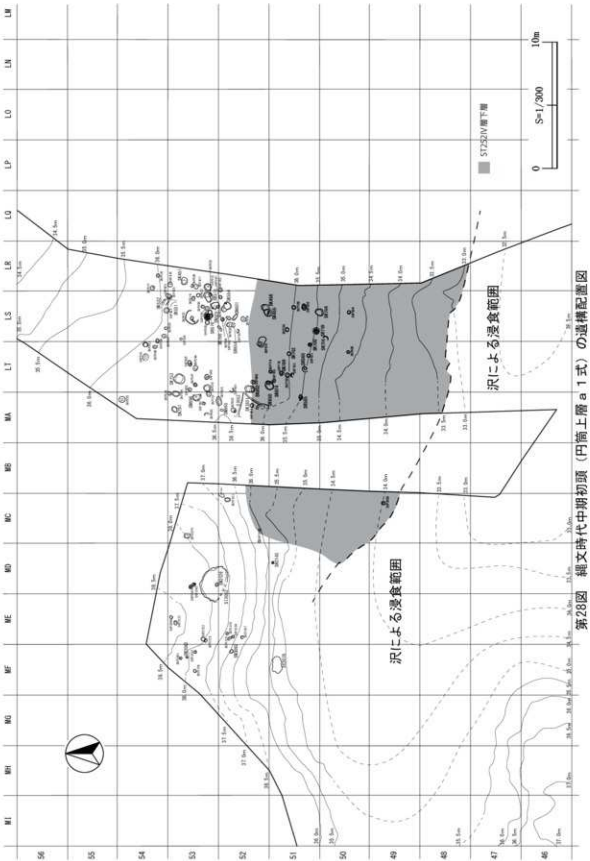


第25図　縄文時代中期後葉（裏花式期）の遺構配置図

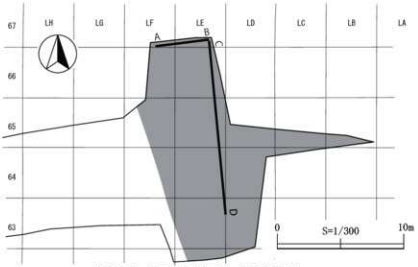
第26図　縄文時代中期前葉～中葉（円筒上層ｃ式～榎林式期）の遺構配置図



第27図　縄文時代中期初頭～前葉（円筒上層ａ１式～ｂ式期）の遺構配置図

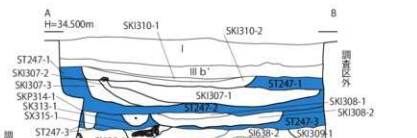


第28図　縄文時代中期初頭（円筒上層ａ１式）の遺構配置図

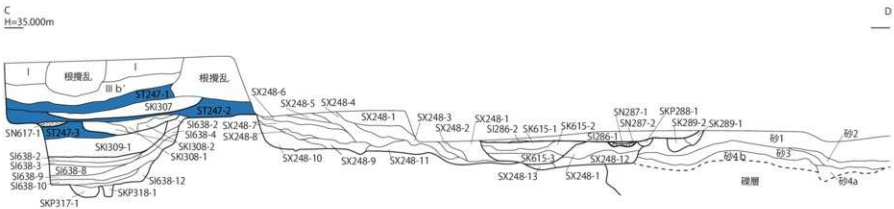


第29図　ST247の範囲と土層位置図

ST247　1 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）シルト を5%、炭化物 0.2～1cm を 5% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 1～2cm を 2%、炭化物 0.2～3cm を 2%、焼土ブロック 0.2～0.5cm を 2% 含む
3 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 1～2cm を 5%、炭化物 0.5～1cm を 2% 含む
SI638　1 褐色（10YR4/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 1～2cm を 3%、炭化物 0.2～1cm を 5%、焼土ブロック 0.5cm を 1% 含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.2～1cm を 3%、炭化物 0.3～1.5cm を 5%、焼土ブロック 0.2cm を 1% 含む
3 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中　地山ブロック 0.3～1cm を 5%、灰白色（10YR8/1）粒 0.01cm を 1%、炭化物 0.1～3cm を 15%、焼土を 10% 含む
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性中　地山ブロック 0.2～1cm を 5%、炭化物 0.2～1.5cm を 3%、焼土ブロック 0.5cm を 1% 含む
5 暗褐色（10YR3/2）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 0.5～1cm を 5%、炭化物 0.3～2cm を 3%、焼土ブロック 0.5cm を 2% 含む
6 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5～1cm を 3%、炭化物 0.2～0.5cm を 2% 含む
7 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5～3cm を 5%、炭化物 0.5～1cm を 3%、焼土ブロック 0.5～1cm を 3% 含む
8 褐色（10YR4/4）粘質シルト　しまり強　粘性中　地山ブロック 0.5～1cm を 3%、炭化物 0.5～1cm を 3%、細礫 0.8cm を 1% 含む
9 暗褐色（10YR3/1）粘質シルト　しまり強　粘性強　黒色（10YR2/2）粘質シルトを 15% 含み、地山由来黄褐色粘質シルトが混じに 15% 堆積、炭化物 0.2～1cm が上部に 2% 点在　水成堆積か
10 暗褐色（10YR3/4）粘質シルト　しまり強　粘性中　地山ブロック 0.5～1cm を 5%、炭化物 0.5～1cm を 3% 含む
11 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 0.5～1cm を 3%、炭化物 0.5～1cm を 3%、細礫 0.5cm を 1% 含む
12 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5～1cm を 3%、炭化物 0.5～2cm を 3% 含む
13 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.1～0.5cm を 3%、炭化物 0.5cm を 1%、礫 4cm を 1% 含む
SKI307　1 黒色（10YR2/1）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを 20%、炭化物 0.5～2cm を 10%、焼土ブロック 0.5～1cm を 3%、砂岩 1～5cm を 2% 含む
2 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5～1cm を 20%、炭化物 1cm を 1% 含む
3 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.3～1cm を 5%、炭化物 0.1～1cm を 2%、焼土ブロック 0.3cm を 2% 含む
SKI308　1 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.2～0.5cm を 3%、炭化物 0.1～0.2cm を 1% 含む
2 暗褐色（10YR3/2）粘質シルト　しまりやや強　粘性中　地山ブロック 1～3cm を 3%、炭化物 0.2～2cm を 20%、焼土ブロック 0.5～3cm を 2% 含む
SKI309　1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/3）シルトを 20%、地山ブロック 1～3cm を 5%、炭化物 0.2～2cm を 5%、焼土ブロック 0.5cm を 1% 含む
SKI310　1 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 1cm を 1% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5～1cm を 10%、炭化物 0.1～0.5cm を 3%、焼土ブロック 0.3cm を 1% 含む
SKI313　1 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　ST247-3 層由来黄褐色ブロック 0.5～3cm を 10%、炭化物 0.3～1.5cm を 7% 含む
SKP314　1 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　ST247-3 層由来黄褐色ブロック 0.2～0.5cm を 10%、炭化物 0.1～0.5cm を 3%、焼土ブロック 0.2cm を 1% 含む
SX315　1 褐色（10YR4/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや弱　明黄褐色（10YR6/6）粘土 1cm を 3%、地山ブロック 0.1～0.5cm を 3%、炭化物 0.3～1cm を 3% 含む
SR290　1 褐色（10YR4/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック 0.5～1cm を 10%、炭化物 0.5～1cm を 5% 含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.3～1cm を 15%、炭化物 0.1～0.3cm を 2%、焼土ブロック 0.2cm を 1% 含む

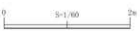


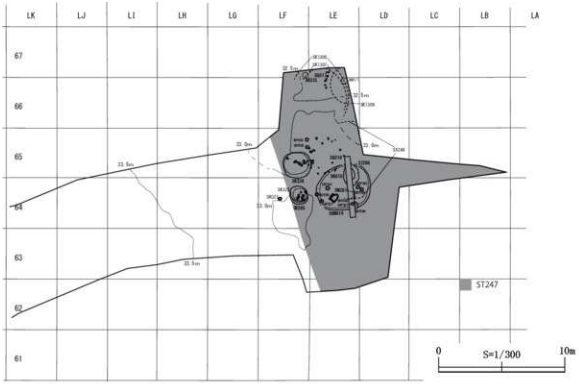
第30図　ST247土層断面図（１）



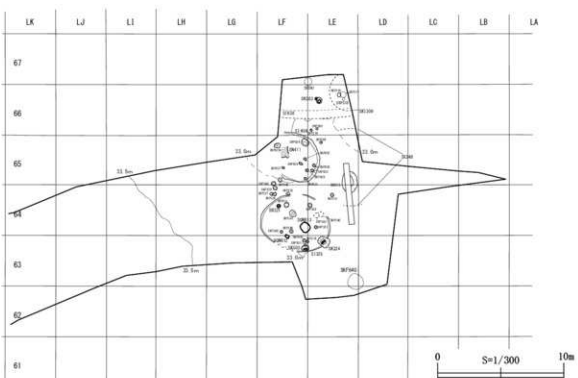
ST247　1 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）シルトを5%、炭化物0.2～1cmを3%含む
　2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック1～2cmを2%、炭化物0.2～3cmを2%、焼土ブロック0.2～0.5cmを2%含む
　3 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　暗褐色（10YR3/4）シルトを5%、炭化物1cmを2%含む
SX248　1 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック0.5～1cmを5%、炭化物0.2cmを2%、細礫0.5cmを1%含む
　2 褐色（10YR4/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック1～2cmを3%、炭化物0.5cmを1%含む
　3 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.5cmを1%、炭化物0.5cmを3%含む
　4 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.5cmを2%、炭化物0.5cmを1%含む
　5 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物0.2cmを1%、砂粒2cmを1%含む
　6 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.3cmを3%、炭化物0.1～0.3cmを2%含む
　7 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　粘性中　地山ブロック0.1～0.3cmを3%、炭化物0.5～1cmを2%、砂礫1～2cmを2%含む
　8 黄褐色（10YR5/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック0.5cmを3%、炭化物0.5cmを1%、砂礫0.5cmを1%含む
　9 黄褐色（10YR5/6）粘土　しまり強　粘性強　地山ブロック1～2cmを3%、炭化物0.5cmを3%、砂礫1cmを2%含む
　10 にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強　黒褐色（10YR2/2）シルトを斑状に15%、地山ブロック1～20cmを10%、炭化物0.5～2cmを1%、焼土ブロック0.5cmを1%含む
　11 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック0.5cmを1%、炭化物1cmを1%、焼土ブロック0.5cmを1%含む
　12 明黄褐色（10YR6/6）シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック1～2cmを5%、炭化物1cmを1%含む
　13 礫層
SKP317　1 褐色（10YR3/4）粘質シルト　しまり強　粘性中　地山砂を15%、炭化物0.5～1cmを2%含む
SKP318　1 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック0.3～1cmを10%、炭化物0.3～1cmを3%含む
SN617　1 褐色の焼土
砂　1 黄褐色（10YR5/6）砂質粘土　しまり強　粘性中　炭化物0.5～1cmを1%含む
　2 明黄褐色（10YR6/8）砂質粘土　しまり強　粘性中
　3 黄褐色（10YR5/6）砂　しまり強　粘性弱　炭化物0.2cmを1%含む
　4a 黄褐色（10YR6/8）砂質粘土　しまりやや強　粘性弱
　4b にぶい黄色（2.5YR6/3）砂　しまり強　粘性弱　黄褐色（10YR5/8）砂を5%含む

第31図　ST247土層断面図（2）

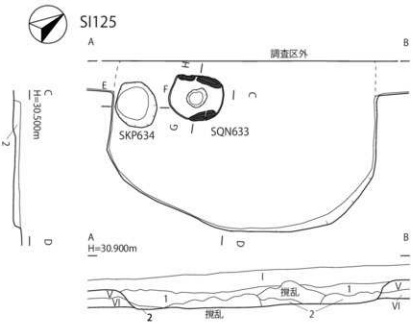




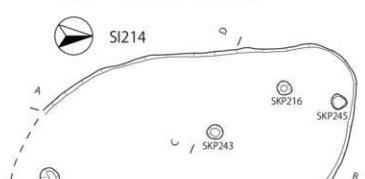
第 32 図　縄文時代中期後葉（最花式期）の遺構配置図



第 33 図　縄文時代中期中葉（榎林式期）以前の遺構配置図

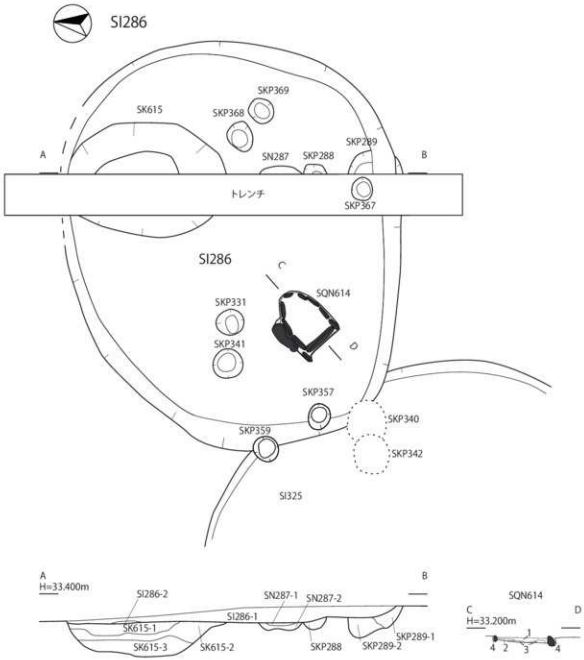


SI125　1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5 ～ 3cm を 3%、炭化物 0.3cm を 1%、焼土ブロック 0.2cm を 2% 含む
　　2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5cm を 1%、焼土ブロック 0.2cm を 1% 含む
SKP634　1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.1cm を 2%、炭化物 1cm を 1%、焼土ブロック 0.1cm を 1%、礫 0.5 ～ 1cm を 2% 含む
SQN633　1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　黒色土を 10%、炭化物 1 ～ 2cm を 3%、焼土ブロック 0.5cm を 2% 含む
　　2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.1 ～ 0.5cm を 3%、炭化物 0.5 ～ 2cm を 10%、焼土ブロック 0.3cm を 2% 含む



SI214　1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや弱　地山ブロック 3 ～ 5cm を 3%、炭化物 1 ～ 5cm を 3%、焼土ブロック 0.1 ～ 0.3cm を 1% 含む
SR209　1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5 ～ 1cm を 2%、炭化物 1cm を 2%、焼土ブロック 0.3 ～ 1cm を 3% 含む
　　2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 1 ～ 3cm を 3%、炭化物 0.5 ～ 1.5cm を 5%、焼土ブロックを 15% 含む
　　3 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.5cm を 1%、焼土ブロック 1 ～ 2cm を 1% 含む

第34図　SI125･214竪穴建物跡



SI286　1 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック０.１～０.５cm を３%、炭化物０.３～１cm を１5%、焼土ブロック０.３cm を１%、砂礫０.５cm を１%含む
2 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱

SQN614　1 暗褐色（10YR2/3）シルト　しまり強　粘性やや強　地山ブロック１～１.５cm を３%、炭化物０.５～１cm を２%含む
2 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック０.１～０.３cm を２%、炭化物１cm を３%、骨片０.01cm を１%含む
3 褐色（7.5YR4/4）砂　しまり強　粘性弱　炭化物０.５cm を１%含む
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　10YR3/2暗褐色シルトを15%含む　礫混り込み

SKP288　1 明黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック０.３～０.５cm を２%、炭化物０.１～０.３cm を１%含む

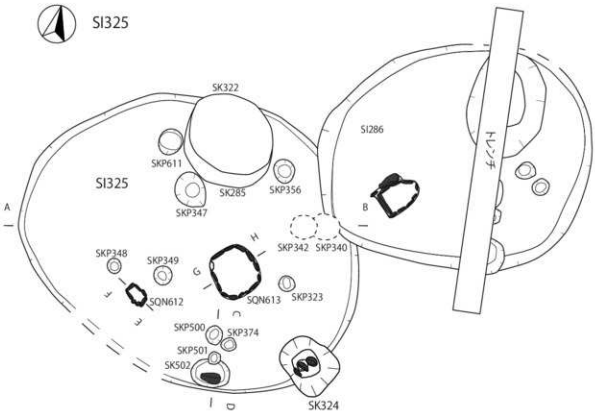
SKP289　1 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり強　粘性中　地山ブロック１～２cm を３%、炭化物０.１～０.２cm を１%含む
2 黄褐色（10YR5/6）シルト　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトを10%、地山ブロック１～２cm を３%、炭化物０.１～０.２cm を２%含む

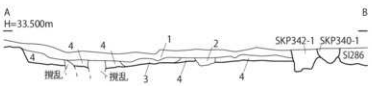
SN287　1 明黄褐色（10YR5/6）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強　炭化物を０.２～０.５cm を１%含む
2 赤褐色（5YR4/6）砂　しまり強　粘性弱　地山ブロック０.５cm を２%、炭化物を０.１～０.３cm を１%含む

SK615　1 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物０.５～１cm を２%含む
2 黄褐色（10YR5/6）粘質シルト　しまりやや強　粘性やや強　地山ブロック１cm を２%、炭化物１～２cm を２%、焼土ブロック０.５～１cm を10%含む
3 明黄褐色（10YR6/6）砂　しまり強　粘性弱　炭化物１～２cm を２%、礫礫０.５cm を１%含む

0　S=1/40　1m

第35図　SI286竪穴建物跡

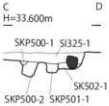




SI325　1 にぶい黄褐色（10YR5/4）細砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.3 ～ 0.5cm を 5% 含む
　　2 にぶい黄褐色（10YR5/4）細砂　しまりやや強　粘性中
　　3 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質シルト　しまり強　粘性中　炭化物 0.3 ～ 0.5cm を 7% 含む
　　4 にぶい黄色（2.5Y6/4）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　炭化物 0.2 ～ 0.3cm を 3% 含む
SKP340　1 灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　炭化物 0.2 ～ 0.3cm を 4% 含む
SKP342　1 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり強　粘性やや弱

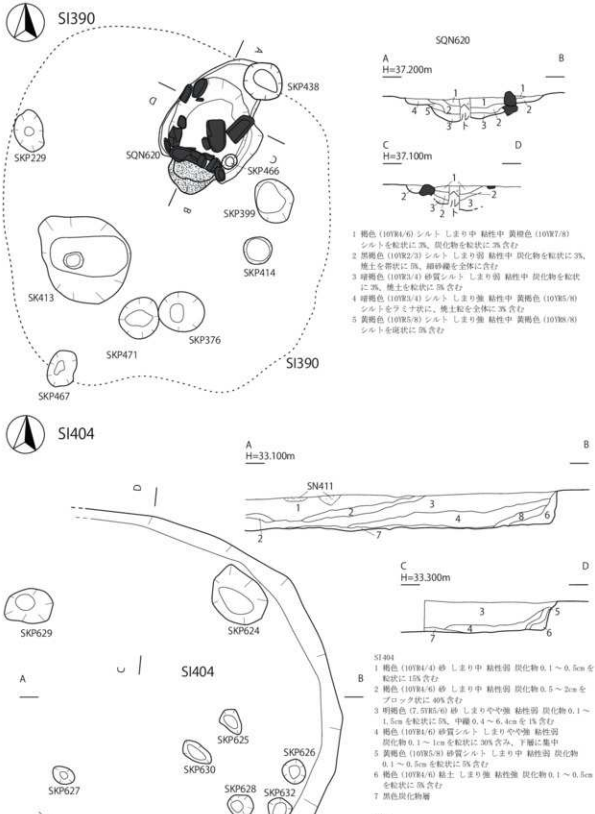
1 暗褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック 0.5 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.2 ～ 1cm を 7%、暗褐色（7.5YR3/4）焼土を 7% 含む

1 暗褐色（7.5YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.1 ～ 0.6cm を 3%、炭化物 0.3 ～ 1cm を 20% 含む
2 赤褐色（5YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.3 ～ 1cm を 3% 含む
3 褐色（10YR4/4）砂　しまり強　粘性弱　繊維 0.1 ～ 0.3cm を 1% 含む

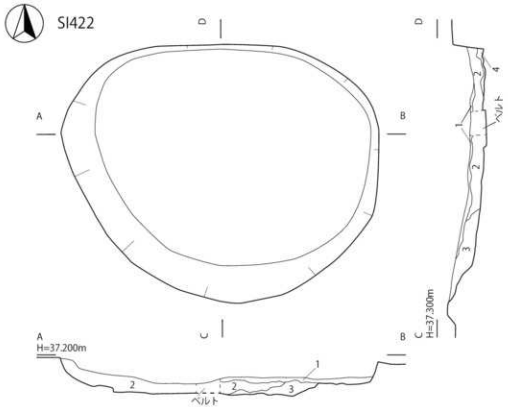


SK502　1 褐色（10YR4/4）砂　しまり強　粘性弱　地山ブロック 1 ～ 3cm を 5%、炭化物 0.2 ～ 1 cm を 3% 含む
SKP500　1 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.1cm を 1% 含む
　　2 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　地山ブロック 0.2 ～ 5.5cm を 3%、
　　炭化物 0.2 ～ 0.3cm を 3% 含む
SKP501　1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性中　地山ブロック 0.2 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.2 ～ 1cm を 3% 含む

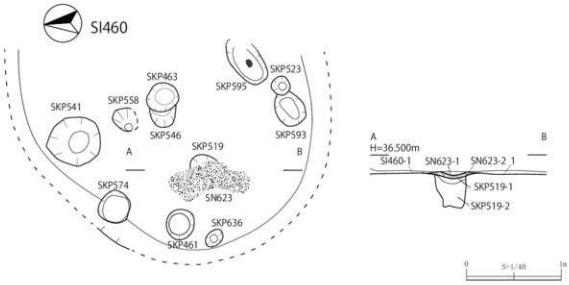
第36図　SI325竪穴建物跡



第37図　SI390・404竪穴建物跡



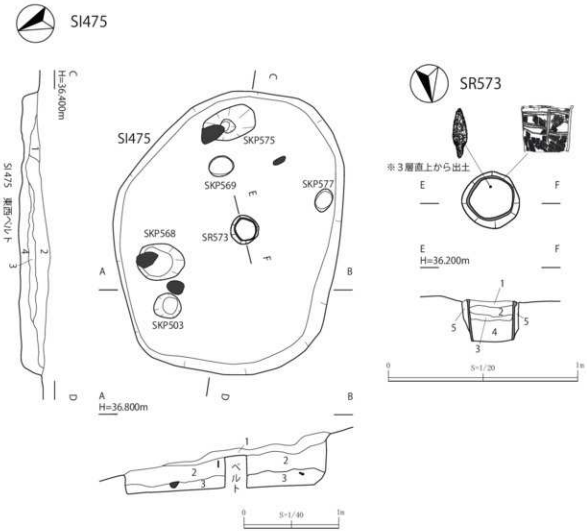
(A-B 断面、C-D 断面共通)
1 明褐色 (10YR3/4) シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に 3%、赤褐色 (5YR4/6) 焼土を粒状に 3% 含む
2 褐色 (10YR4/4) シルト しまり中 粘性中 黄褐色 (10YR5/6) シルトを粒状・斑状に 10%、炭化物を粒状に 5% 含む
3 暗褐色 (10YR3/4) シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に 5%、焼礫 0.2cm を粒状に 3% 含む
4 黄褐色 (10YR5/6) シルト しまり強 粘性弱 炭化物を粒状に 1% 含む



SI460　1 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまりやや強 粘性やや弱 地山ブロック 0.5 ～ 2cm を 5%、炭化物 0.1 ～ 1cm を 3% 含む
SN623　1 褐色 (10YR4/6) シルト しまりやや強 粘性やや弱 暗褐色 (10YR3/3) ブロック 1 ～ 3cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 2cm を 7%、焼土ブロック 0.3 ～ 0.5cm を 3% 含む
　　2 褐色 (7.5YR4/4) シルト しまり強 粘性やや弱 暗褐色 (10YR3/3) ブロック 1 ～ 3cm を 5%、地山ブロック 0.5 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.5 ～ 1cm を 3% 含む

SKP519　1 褐色 (10YR4/6) シルト しまり強 粘性中 暗褐色 (10YR3/3) ブロック 1cm を 2% 含む
　　2 暗褐色 (10YR3/3) 粘質シルト しまり中 粘性やや強 地山ブロック 0.3 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を 3% 含む

第38図　SI422・460竪穴建物跡



断面A-B

1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/6）シルト0.3cmを1%、炭化物0.5～1cmを斑状に3%含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや強　炭化物0.5～1cmを斑状に7%含む
3 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/6）シルト0.5～1cmを斑状に10%、炭化物0.5cmを斑状に7%、
　焼土粒0.5cmを1%含む

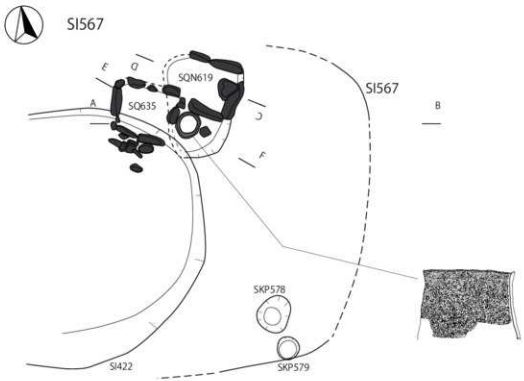
断面C-D

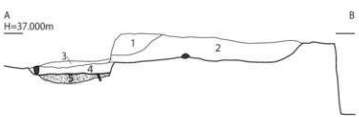
1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　黄褐色（10YR7/6）シルトを斑状に5%、炭化物を粒状に3%含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　黄褐色（10YR7/6）シルトを斑状に10%、炭化物を粒状に5%含む
3 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトを斑状に10%、黄褐色（10YR7/6）シルトを粒状に5%、
　炭化物を粒状に3%、下層に帯状（0.3cm）堆積
4 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　しまり中　粘性強　黄褐色（10YR7/6）シルトを粒状に5%、黄褐色（10YR5/6）粘質シルトを帯状に10%含む

SR573

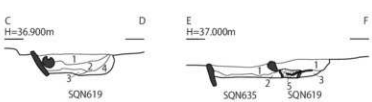
1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に5%、炭化物を粒状に1%含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　炭化物を粒状に1%、明褐色（7.5YR5/8）焼土を粒状に3%、微細骨片を3%含む
3 黒色（7.5YR1.7/1）炭化物層　しまり弱　粘性中　炭化物が厚く堆積
4 明黄褐色（10YR7/6）シルト　しまり中　粘性中　炭化物を粒状に1%含む
5 明黄褐色（10YR6/8）シルト　しまり中　粘性中　炭化物を粒状に5%含む　掘り方

第39図　SI475竪穴建物跡

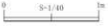




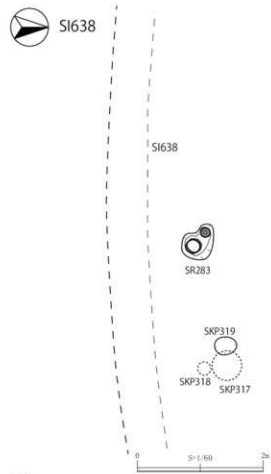
1 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまり中 粘性中 黒色 (10YR1.7/1) シルトを斑状に 10%、炭化物を粒状に 3% 含む
2 暗褐色 (10YR3/4) シルト しまり強 粘性中 炭化物を粒状に 3%、赤褐色 (5YR4/8) 焼土を粒状に 3% 含む
3 暗褐色 (10YR3/4) シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に 10%、微細礫 0.1cm を全体に 5% 含む
4 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に 3%、赤褐色 (5YR4/8) 焼土を粒状に 1% 含む
5 暗褐色 (7.5YR3/4) 焼土 しまり中 粘性中 にぶい黄橙色 (10YR6/4) シルトを帯状に 5%、炭化物を粒状に 1% 含む

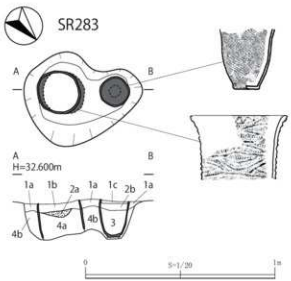


1 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまり中 粘性中 黒色 (10YR1.7/1) シルトを斑状に 10%、炭化物を粒状に 3% 含む
2 暗褐色 (7.5YR3/3) シルト しまり中 粘性強 明黄褐色 (10YR7/6) シルトを粒状に 3%、炭化物を粒状に 5%、
　微細礫 0.5cm を全体に 5% 含む
3 暗褐色 (10YR3/4) シルト しまり中 粘性強 炭化物を粒状に 3%、暗褐色 (7.5YR3/4) 焼土を斑状に 10% 含む
4 黒褐色 (10YR2/3) シルト しまり弱 粘性中 炭化物を粒状に 40% 含む
5 暗褐色 (7.5YR3/4) 焼土 しまり中 粘性中 炭化物を帯状に 20% 含む

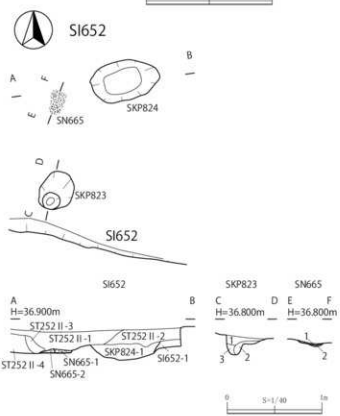


第40図　SI567竪穴建物跡





1a 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.2～1.5cm を 3%、炭化物 0.5～1cm を 5% 含む
1b 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性中　地山ブロック 0.5～1cm を 10%、炭化物 0.1～1cm を 1% 含む　廃棄時の埋土か
1c 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物 0.5cm を 3% 含む　廃棄時の埋土か
2a 褐色（7.5YR4/6）シルト　しまり強　粘性弱　炭化物 0.5～1cm を 10% 含む　上層に集中、焼土層
2b 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色（10YR4/4）シルトを 5% 含む、炭化物層
3 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物 0.5～0.3cm を 7% 含む
4a 黄褐色（10YR5/6）砂　しまりやや強　粘性弱　地山ブロック 0.5～1cm を 2%、炭化物 0.1～0.2cm を 1% 含む
4b 黄褐色（10YR5/6）砂　しまり強　粘性弱　明黄褐色（10YR6/6）粘土を 3%、炭化物 0.1～0.3cm を 2% 含む



SI652
1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.1cm を 1% 未満含む

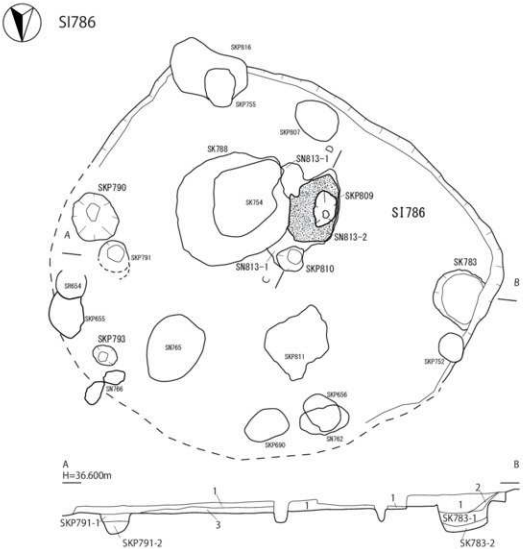
SKP824
1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.1～0.5cm を 3% 含む

SKP823
1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.1～0.5cm を 3% 含む
2 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.1～0.5cm を 3% 含む
3 黒褐色（10YR2/3）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
黄褐色土を斑状に 40%、炭化物 0.1～0.3cm を 2% 含む

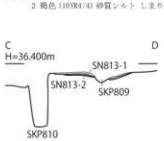
SN665
1 にぶい黄褐色（5YR4/4）砂質シルト　しまり中　粘性やや弱
2 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
黄褐色土ブロック 0.1～0.3cm を 3% 含む

ST252 II
1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.1～1cm を 7% 含む
2 褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.1～0.3cm を 2% 含む
3 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
地山ブロックを斑状に 45% 含む
4 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
地山ブロック 0.1～0.2cm を 3%、
炭化物 0.1～0.2cm を 2% 含む

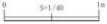
第41図　SI638・652竪穴建物跡



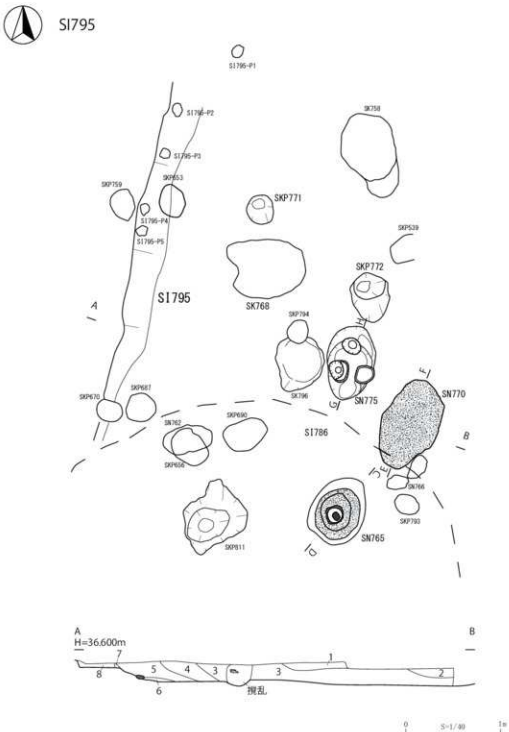
A-B断面
SI786　1 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト しまりやや強 粘性やや弱 黄褐色土ブロック 0.1～1.5cm を 10%,
炭化物 0.1cm を 1%, 焼土ブロック 1cm を 1% 含む
2 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまりや中 粘性中 黄褐色土ブロック 0.1～0.2cm を 2% 含む
3 黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルト しまり強 粘性やや弱 暗褐色土を斑状に 5% 含む
SKP791 1 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト しまりや中 粘性やや弱 黄褐色土ブロック 0.1～1cm を 40% 含む
2 黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルト しまりやや強 粘性やや弱 炭化物を 1% 含む
SK783　1 黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルト しまりやや強 粘性やや弱 暗褐色土 0.1～0.5cm を 10% 含む
2 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト しまりやや強 粘性やや弱 黄褐色土を斑状に 40% 含む



C-D断面
SN813　1 炭化物層
2 暗褐色 (5YR4/4) 砂質シルト

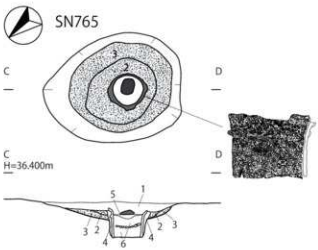


第42図　SI786竪穴建物跡

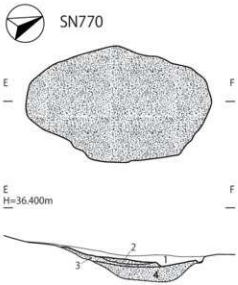


1 褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土を斑状に10%、炭化物 0.1～0.3cmを2%含む
2 暗色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土を斑状に20%含む
3 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色土を斑状に10%、炭化物0.1～0.5cmを7%含む
4 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色ブロック0.1～0.5cmを30%、炭化物0.1～0.2cmを1%含む
5 暗褐色（10YR3/3）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色ブロック0.1～0.5cmを2%、炭化物0.1～0.3cmを1%含む
6 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色ブロック0.1～0.3cmを40%含む
7 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　暗褐色土を斑状に45%含む
8 黄褐色（10YR5/8）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱　地山

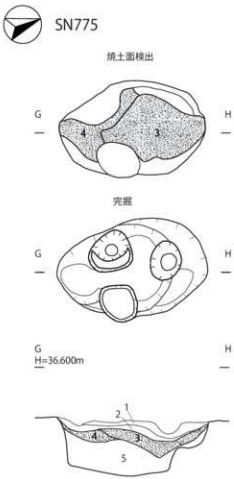
第43図　SI795竪穴建物跡（１）



1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
2 暗赤褐色（5YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
3 にぶい赤褐色（5YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
4 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　暗褐色土を0.1cmを2%含む
5 炭化物層
6 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまり中　粘性やや弱
　炭化物を0.1～0.2cmを2%、焼土粒を0.1cmを2%含む



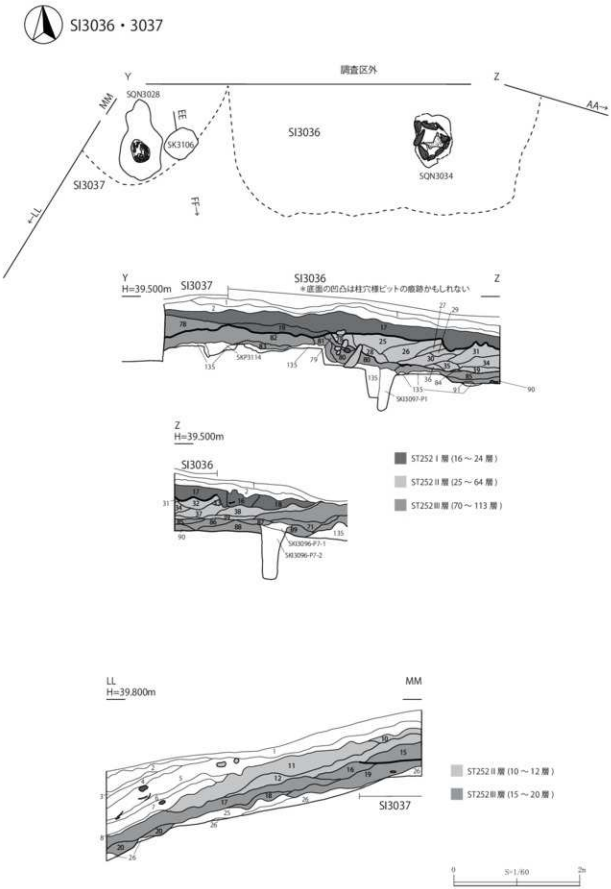
1 褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまり中　粘性中
　炭化物を斑状に20%、焼土ブロック0.1～2cmを3%含む
2 赤褐色（5YR4/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
3 暗赤褐色（5YR3/2）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
4 暗赤褐色（5YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱



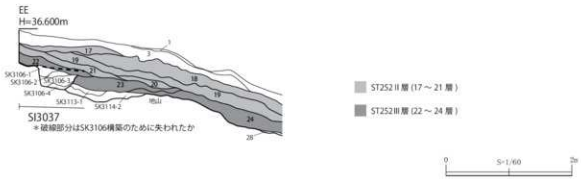
1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　暗褐色土を斑状に10%含む
2 暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　炭化物0.1～0.2cmを2%含む
3 にぶい赤褐色（5YR4/4）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱
4 赤褐色（10R6/8）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱
　炭化物0.1～0.5cmを1%含む
5 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　暗褐色土を斑状に10%、炭化物0.1cmを1%、
　焼土0.1～0.2cmを2%含む

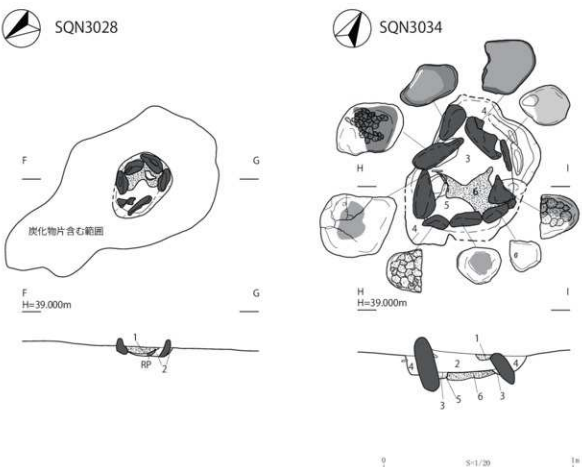
0　S=1/20　1m

第44図　SI795竪穴建物跡（２）



第45図　SI3036・3037竪穴建物跡（１）

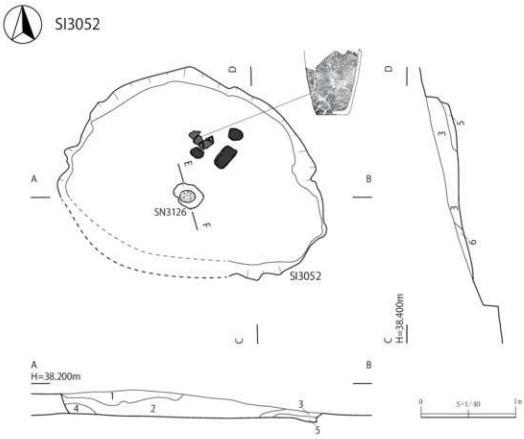




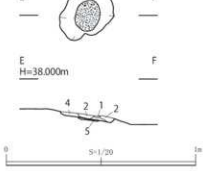
SQN3028　1　暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり弱　粘性中　焼土（5YR7/8）ブロック 0.5cm を 2% 含む
　　2　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性中　黄褐色（10YR5/8）シルトブロック 1cm を 2%、炭化物 1cm を 3% 含む

SQN3034　1　にぶい赤褐色（5YR4/4）焼土　しまり強　粘性弱　黒褐色（10YR2/3）シルトを全体に 50% 含む
　　2　黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物 0.05～3cm を粒状に 20% 含む
　　3　暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物 0.1～0.3cm を粒状に 5% 含む
　　4　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性中　炭化物 0.1～0.5cm を粒状に 10% 含む
　　5　黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.5cm を粒状に 5%、焼土を粒状に 5% 含む
　　6　暗赤褐色（2.5YR3/6）焼土　しまり強　粘性弱　柳暗褐色（7.5YR2/3）シルトを斑状に 40%、炭化物 0.1cm を粒状に 3% 含む

第46図　SI3036・3037竪穴建物跡（２）

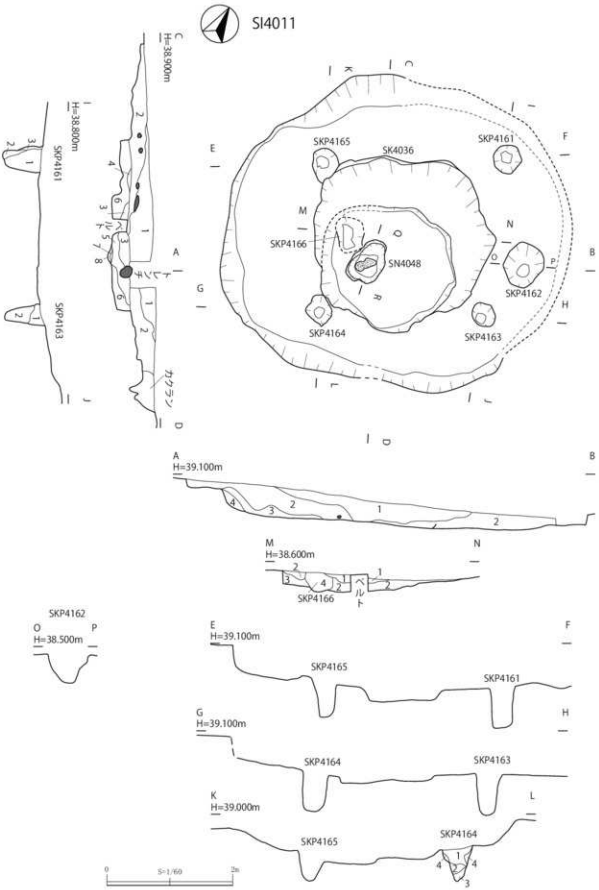


SI3052 1 暗褐色（10YR3/4）粘質シルト　しまりやや強　粘性中　地山土粒を斑状に15%、炭化物0.1～1.5cmを粒状に30%、焼土粒をブロック状に10%含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中　地山ブロックを30%、炭化物0.1～1.5cmを粒状に20%含む
3 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性中　地山土粒を10%、炭化物0.1～0.3cmを粒状に5%含む
4 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり強　粘性中　地山土粒を20%、炭化物0.1～1cmを粒状に10%含む
5 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり強　粘性中　地山土粒を10%、炭化物0.1～0.5cmを粒状に5%含む
6 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや強　粘性中　黒褐色土を斑状に20%、炭化物0.1～0.3cmを粒状に5%含む

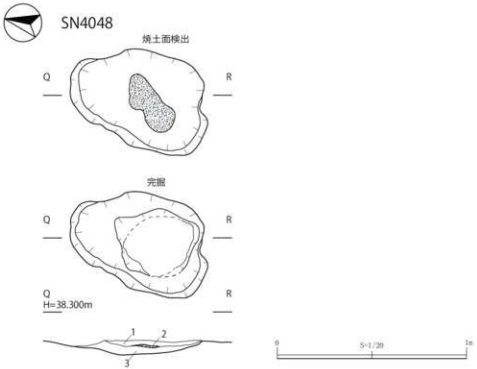


SN3126 1 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性やや強　地山土を斑状に20%、炭化物0.1～0.5cmを粒状に3%、暗赤褐色（5YR3/6）焼土を斑状に3%含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　地山土を斑状に10%、炭化物0.1～0.3cmを粒状に1%、にぶい赤褐色（5YR4/4）焼土を斑状に10%含む
3 極暗赤褐色（5YR2/4）焼土　しまり強　粘性弱
4 褐色（10YR2/3）砂質シルト　しまり中　粘性弱　炭化物0.1～0.2cmを粒状に1%、小礫0.1～0.5cmを粒状に1%含む　廃棄層か
5 にぶい赤褐色（5YR4/4）焼土　しまり強　粘性弱　炭化物0.1cm以下を粒状に1%含む

第47図　SI3052竪穴建物跡



第48図　SI4011竪穴建物跡（１）



A-B 断面
SI4011　1 黒色 (10YR2/1) シルト　しまり中　粘性中　褐色 (10YR4/4) シルトブロック 1cm を 1% 含む
　　2 黒褐色 (10YR2/2) シルト　しまり中　粘性やや弱　礫 0.5 ～ 1cm を 2% 含む
　　3 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性やや弱　褐色 (10YR4/4) シルトブロック 1 ～ 5cm を 15% 含む
　　4 褐色 (10YR4/6) シルト　しまりやや強　粘性中

C-D 断面
SI4011　1 黒色 (10YR2/1) シルト　しまり中　粘性中　褐色 (10YR4/4) シルトブロック 1cm を 1% 含む
　　2 黒褐色 (10YR2/2) シルト　しまり中　粘性やや弱　礫 0.5 ～ 1cm を 2% 含む
(SK4036) 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト　しまり中　粘性やや弱　小礫 0.5 ～ 1cm を 7%、炭化物 0.5cm を 2% 含む
　　4 褐色 (10YR4/4) 砂　しまりやや強　粘性やや弱　礫 0.5 ～ 2cm を 5% 含む
　　5 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性中　炭化物 0.5cm を 3%、小礫 0.5 ～ 2cm を 5% 含む
　　6 褐色 (10YR4/4) 砂　しまり中　粘性やや弱　炭化物 0.5cm を 2%、礫 0.5 ～ 1cm を 3% 含む
(SN40-48) 7 褐色 (7.5YR4/6) 焼土　しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物 1cm を 3% 含む
　　8 褐色 (10YR4/6) シルト質砂　しまり中　粘性やや弱

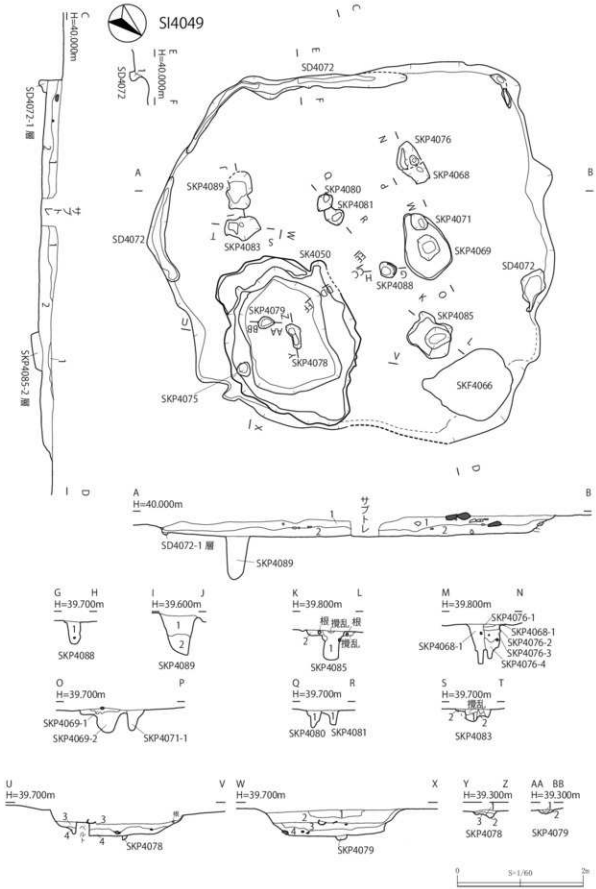
I-J 断面
SKP4161　1 褐色 (10YR4/4) シルト　しまり中　粘性中　炭化物 0.5cm を 2%、黄褐色 (10YR5/8) シルトブロック 1 ～ 5cm を 30% 含む
　　2 褐色 (10YR4/4) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/8) シルトブロック 1cm を 5% 含む
　　3 褐色 (10YR4/6) シルト　しまり中　粘性やや弱　炭化物 0.5cm を 2% 含む
SKP4163　1 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまりやや弱　粘性中　炭化物 0.5cm を 1%、黄褐色 (10YR5/8) シルトブロック 0.5 ～ 1cm を 3% 含む
　　2 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物 0.5cm を 1%、黄褐色シルトブロック 1cm を 1% 含む

K-L 断面
SKP4164　1 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性やや弱　炭化物 0.5cm を 2%、礫 0.5 ～ 5cm を 3% 含む
　　2 褐色 (10YR4/4) シルト　しまりやや強　粘性中　炭化物 0.5cm を 1% 含む
　　3 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　褐色 (10YR4/6) シルトブロック 2cm を 2% 含む
　　4 褐色 (10YR4/4) シルト質砂　しまり中　粘性やや弱

M-N 断面
SK4036　1 黒褐色 (10YR2/2) シルト　しまり中　粘性やや弱　小礫 0.5 ～ 1cm を 7%、炭化物 0.5cm を 2% 含む
　　2 褐色 (10YR4/4) 砂　しまり中　粘性やや弱　炭化物 0.5cm を 2%、礫 0.5 ～ 1cm を 3% 含む
　　3 黄褐色 (10YR5/6) 砂　しまりや中　粘性やや弱　褐色 (10YR4/4) 砂ブロック 5 ～ 10cm を 20% 含む
SKP4166　4 暗褐色 (10YR3/4) シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色 (10YR5/6) 砂ブロック 1 ～ 5cm を 15%、炭化物 0.5cm を 1%、礫 1cm を 7% 含む

Q-R 断面
SN4048　1 暗褐色 (10YR3/3) シルト　しまり中　粘性中　炭化物 0.5 ～ 1cm を 2%、赤褐色焼土 0.5cm を 7% 含む
　　2 褐色 (7.5YR4/4) 焼土　しまりやや弱　粘性やや弱
　　3 褐色 (10YR4/4) 焼土　しまりやや強　粘性やや弱

第49図　SI4011竪穴建物跡（２）



第50図　SI4049竪穴建物跡（１）

A-B 断面、C-D 断面 SI4049 1 黒褐色（10YR2/3）シルト しまり中 粘性中 炭化物 0.1 ～ 0.3cm を粒状に 1%、礫 0.1 ～ 15cm を粒状に 3% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり中 粘性中 地山土を斑状に 20%、炭化物 0.1cm を粒状に 1%、風化岩片 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 1% 含む

E-F 断面 SD4072　1 暗褐色（10YR3/4）粘土質シルト しまり強 粘性強 炭化物 0.1cm を粒状に 1% 含む

G-H 断面 SKP4088 1 暗褐色（10YR3/4）粘土質シルト しまりやや強 粘性強 地山土を斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 1%、礫 3cm を粒状に 1% 含む

I-J 断面 SKP4089 1 黒褐色（7.5YR2/2）シルト しまり中 粘性中 地山土を斑状に 15%、炭化物 0.1 ～ 0.3cm を粒状に 1%、礫 0.1 ～ 1.5cm を粒状に 3% 含む
2 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘土質シルト しまり強 粘性やや強 炭化物 0.1 ～ 0.3cm を粒状に 1% 含む

K-L 断面 SKP4085 1 暗褐色（7.5YR3/3）シルト しまり中 粘性中 炭化物 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 2%、地山礫 0.1 ～ 1cm を粒状に 10% 含む
2 褐色（7.5YR4/4）砂質シルト しまり中 粘性やや弱 地山由来土を粒状に 30%、炭化物 0.1cm を粒状に 1% 含む

M-N 断面 SKP4068 1 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり中 粘性中 地山土を斑状に 40%、炭化物 0.1cm 以下を粒状に 1%、礫 0.1 ～ 3cm を粒状に 2% 含む
SKP4076 1 黒褐色（10YR2/3）粘土質シルト しまり中 粘性やや強 炭化物 0.1cm 以下を粒状に 1%、礫 0.1 ～ 3cm を粒状に 2% 含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト しまりや 粘性中 炭化物 0.1 ～ 0.3cm を粒状に 1%、礫 0.1 ～ 1cm を粒状に 1% 含む
3 褐色（10YR4/4）粘土質シルト しまり中 粘性やや強 地山土を斑状に 5%、炭化物 0.1cm 以下を粒状に 1%、礫 0.3 ～ 2cm を粒状に 2% 含む
4 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 鹿屋由来の褐色（10YR4/4）粘土質シルトを斑状に 40%、炭化物 0.1cm を粒状に 1%、
礫 0.1 ～ 1cm を粒状に 1% 含む

O-P 断面 SKP4069 1 黒褐色（10YR2/3）シルト しまり中 粘性中 地山土を斑状に 5%、礫 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 1% 含む
2 黒褐色（7.5YR3/2）粘土質シルト しまりやや強 粘性強 地山土を斑状に 15%、炭化物 0.1cm ～ 1cm を粒状に 2%、礫 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 3% 含む
SKP4071 1 黒褐色（7.5YR3/2）シルト しまりやや弱 粘性中 地山土を斑状に 20%、炭化物 0.1cm ～ 0.5cm を粒状に 1% 含む

Q-R 断面 SKP4080 1 黒褐色（10YR2/3）粘土質シルト しまり強 粘性強 地山土を粒状に 2%、炭化物 0.1cm を粒状に 1% 含む
SKP4081 1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまりやや強 粘性中 地山土を粒状に 5%、炭化物 0.1 ～ 1cm を粒状に 1% 含む

S-T 断面 SKP4083 1 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性やや強 地山土を斑状に 10%、炭化物 0.1cm ～ 0.2cm を粒状に 1% 含む
2 褐色（10YR4/6）シルト しまりやや強 粘性中 地山土を斑状に 20%、炭化物 0.1cm を粒状に 1% 含む

U-V 断面、W-X 断面 SK4050 1 黒色（10YR2/1）シルト しまり中 粘性中 炭化物粒状 0.1cm を粒状に 1% 含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 炭化物 0.1cm を粒状に 1%、礫 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 3% 含む
3 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり中 粘性中 地山土を粒状に 3%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 1%、礫 0.1 ～ 1cm を粒状に 1% 含む
4 褐色（7.5YR4/4）シルト しまりやや強 粘性弱 3 層由来土をブロック状に 10%、炭化物 0.1 ～ 1cm を粒状に 1%、
礫 0.1 ～ 10cm を粒状に 2% 含む

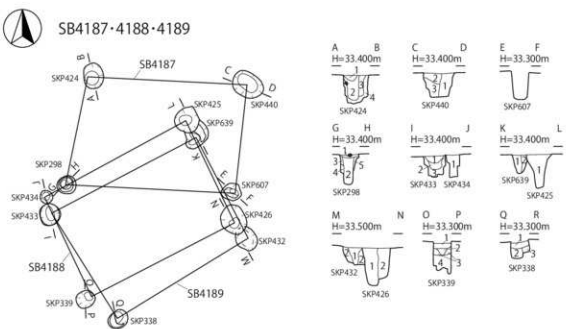
Y-Z 断面 SKP4078 1 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや弱 粘性やや弱 炭化物 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 1% 含む
2 黄褐色（10YR5/8）シルト しまり中 粘性やや弱 1 層由来褐色シルトを斑状に 30% 含む
3 明褐色（7.5YR5/8）シルト しまり中 粘性中

AA-BB 断面 SKP4079 1 黒褐色（10YR3/2）シルト しまり中 粘性中 炭化物 0.1 ～ 1.5cm を 10% 含む
2 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト しまり中 粘性中 1 層由来黒褐色シルトを斑状に 20% 含む

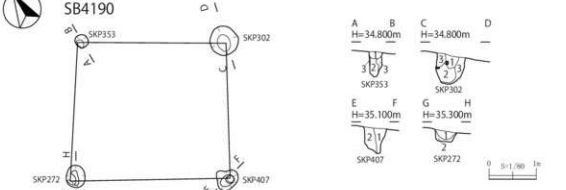
CC-DD 断面 SN4077 1 暗赤褐色（2.5YR5/8）焼土 しまり強 粘性弱　現地製焼土

EE-FF 断面 SR4070 1 暗褐色（10YR2/3）粘土質シルト しまり中 粘性強　礫 1 ～ 10cm を粒状に 1% 含む

第51図　SI4049竪穴建物跡（２）

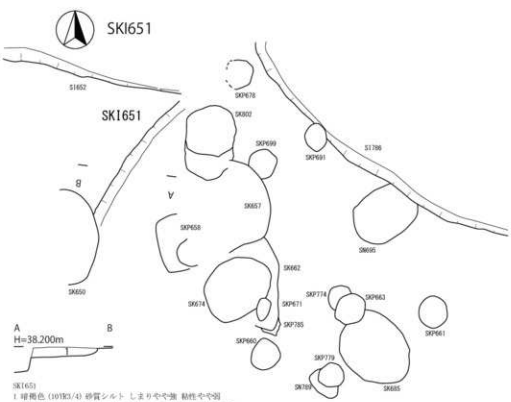


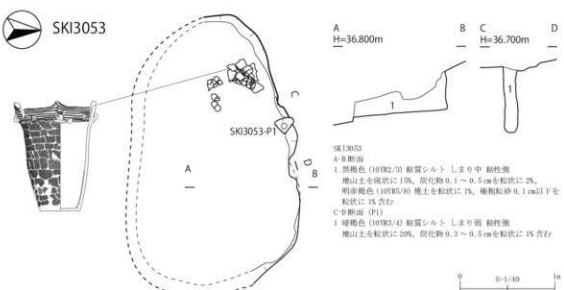
SB4187 SKP424 1 褐色（10YR4/4）シルト しまり強 粘性中 明黄褐色（10YR6/8）シルトを粒状に3%、炭化物を粒状に1%含む
2 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 明黄褐色（10YR6/8）シルトを粒・ブロック状に10%、炭化物を粒状に5%含む
3 黒褐色（10YR2/3）シルト しまり弱 粘性中 明黄褐色（10YR6/8）シルトを粒状に5%、炭化物を粒状に5%含む
4 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり中 粘性中 明黄褐色（10YR6/8）シルトを粒状に10%、炭化物を粒状に5%含む
SKP440 1 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR7/8）シルトを粒状に30%、炭化物を粒状に3%含む
2 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR7/8）シルトを粒状に10%、炭化物を粒状に3%含む
3 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR7/8）シルトを粒状に10%、炭化物を粒状に3%含む
SKP298 1 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや弱 粘性中 炭化物粒0.2cmを1%含む
2 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 炭化物ブロック0.5～2cmを2%含む
3 黄褐色（10YR5/8）シルト しまりやや強 粘性中 地山ブロック1cmを3%含む
4 黄褐色（10YR5/8）シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に1%含む
5 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 地山土を混状に3%含む
SB4188 SKP434 1 褐色（10YR4/4）シルト しまり強 粘性中 明黄褐色（10YR6/8）シルトを混状に20%、炭化物を粒状に3%含む
SKP425 1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に10%、炭化物を粒状に5%含む
SKP426 1 黒褐色（10YR2/3）シルト しまり中 粘性中 褐色（10YR4/6）シルトを混状に10%、炭化物を粒状に5%含む
2 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/6）粘土を混状に20%、炭化物を粒状に10%含む
SKP339 1 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に3%含む
2 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを混状に5%、炭化物を粒状に3%含む
3 黄褐色（10YR5/8）粘質シルト しまり強 粘性強 炭化物を粒状に3%含む
4 明黄褐色（10YR6/8）粘質シルト しまり強 粘性強 褐色（10YR4/4）シルトを混状に10%含む
SB4189 SKP433 1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを混状に5%、炭化物を粒状に5%含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを混状に20%、炭化物を粒状に3%含む
3 暗褐色（7.5YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを粒・混状に10%、炭化物を粒状に3%含む
SKP639 1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを粒・混状に10%、炭化物を粒状に5%含む
2 褐色（10YR4/6）シルト しまり強 粘性中 炭化物を粒状に3%含む
SKP432 1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/6）粘質シルトを混状に20%、炭化物を粒状に20%含む
2 褐色（10YR4/6）シルト しまり強 粘性強 黄褐色（10YR5/6）粘土を混状に20%、炭化物を粒状に3%含む
SKP338 1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/6）シルトを混状に5%、炭化物を粒状に3%含む
2 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性強 黄褐色（10YR5/6）粘質シルトを混状に10%、炭化物を粒状に3%含む
3 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に3%含む



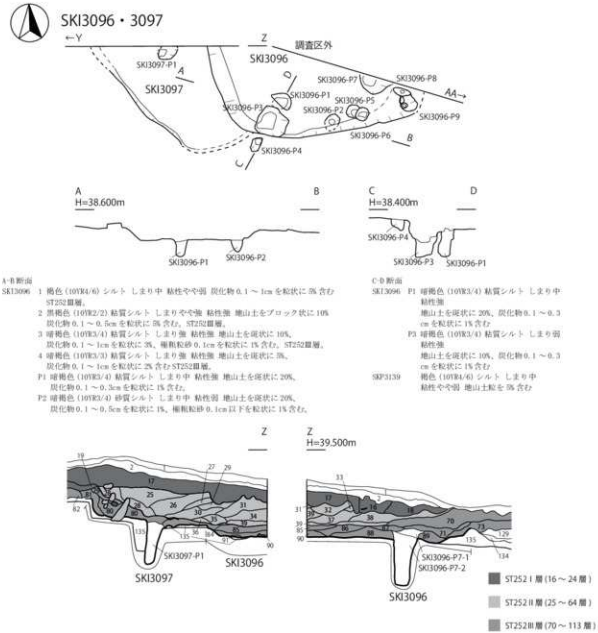
第52図　SB4187・4188・4189・4190掘立柱建物跡

SB4190 SKP353 1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 明黄褐色（10YR6/8）粘質シルトを粒状に 5%、炭化物を粒状に 5%含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 明黄褐色（10YR6/8）粘質シルトを粒状に 10%、炭化物を粒状に 10%含む
3 褐色（10YR4/4）粘質シルト しまり中 粘性強 明黄褐色（10YR6/8）粘質シルトをブロック状に 20%、炭化物を粒状に 5%含む
SKP302 1 黒色（10YR1.7/1）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを斑・粒状に 30%含む
2 黒色（10YR1.7/1）シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に 5%含む
3 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に 30%含む
SKP272 1 褐色（10YR4/6）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを斑状に 10%、炭化物を粒・ブロック状に 20%含む
2 明黄褐色（10YR6/6）シルト しまり中 粘性中 炭化物を粒状に 5%含む
SKP407 1 暗褐色（7.5YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトを斑状に 20%、炭化物を粒状に 5%含む
2 黄褐色（10YR5/8）シルト しまり中 粘性中 明黄褐色（10YR6/6）シルトを斑状に 20%、炭化物を粒状に 10%含む

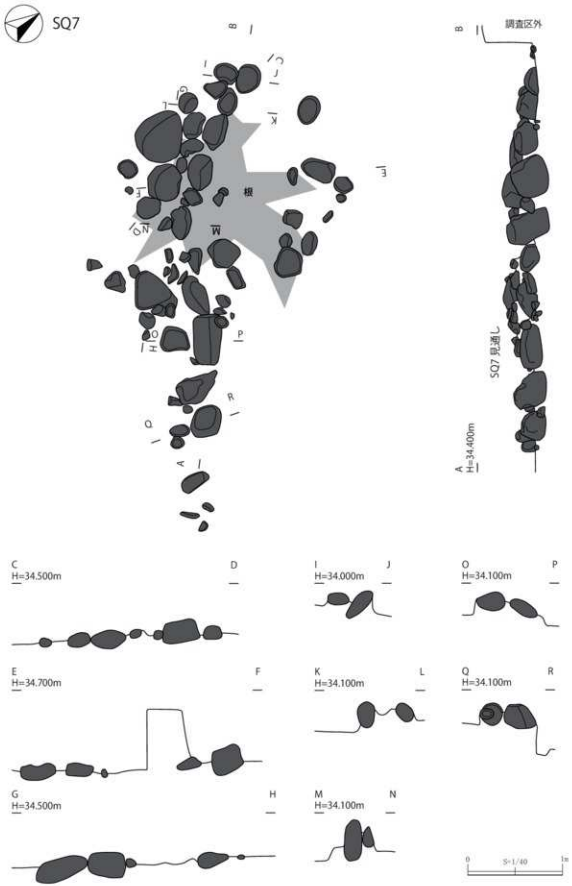




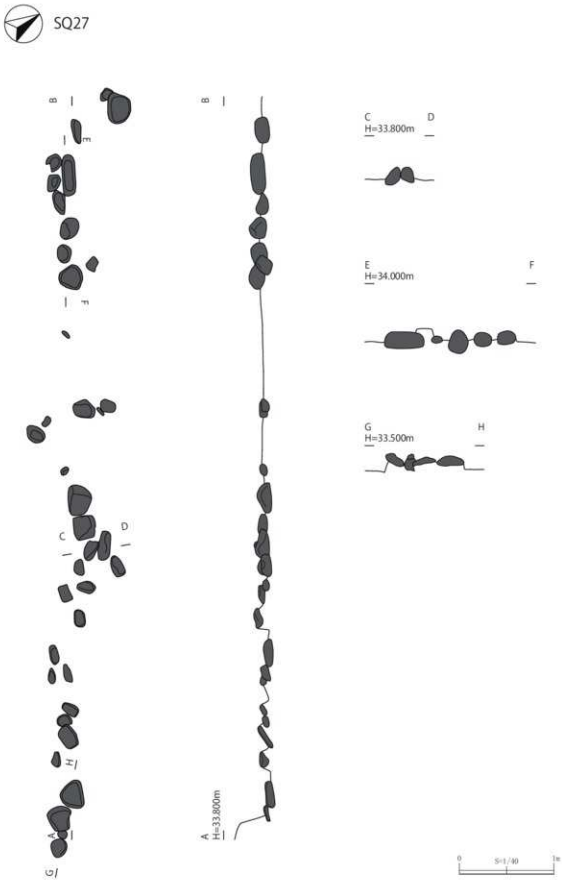
第53図　SB4190掘立柱建物跡、SKI651・3053竪穴状遺構



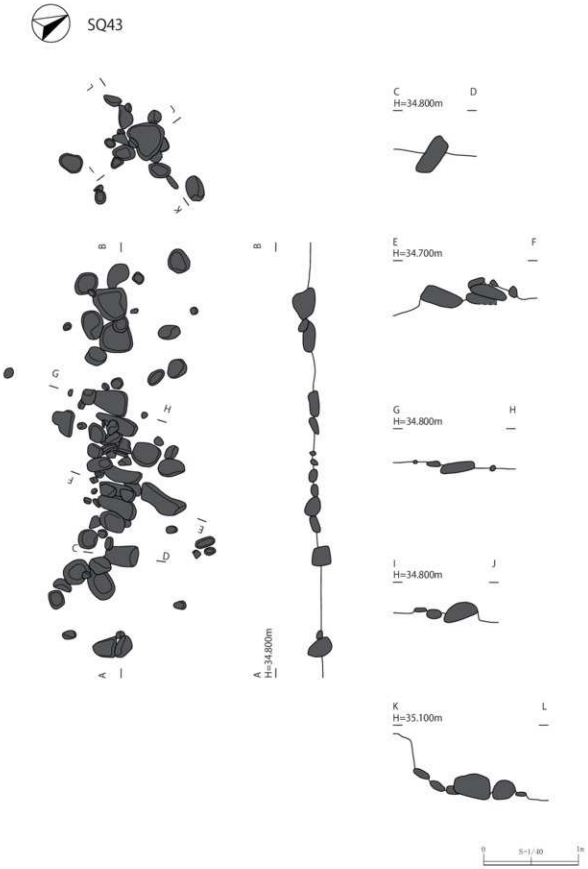
第54図　SKI3096・3097・4010竪穴状遺構



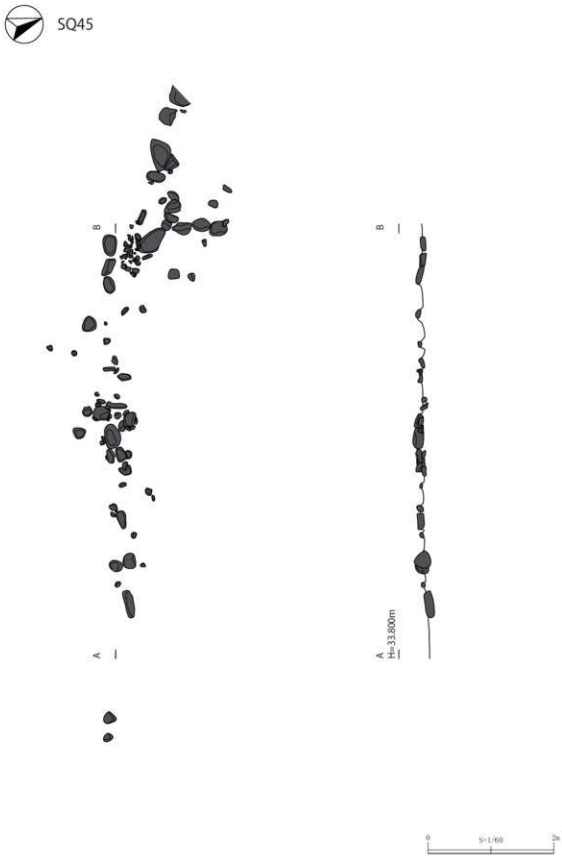
第55図　SQ７列石遺構



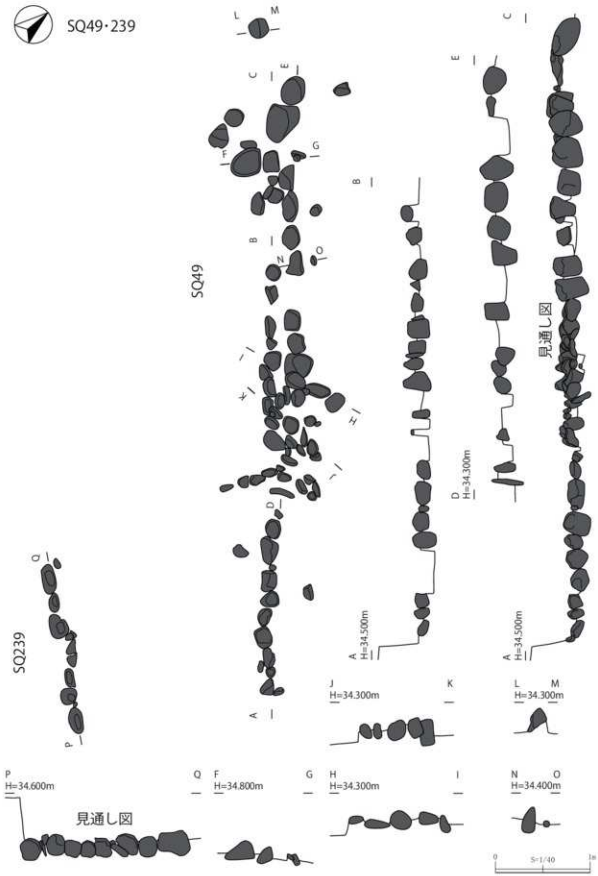
第56図　SQ27列石遺構



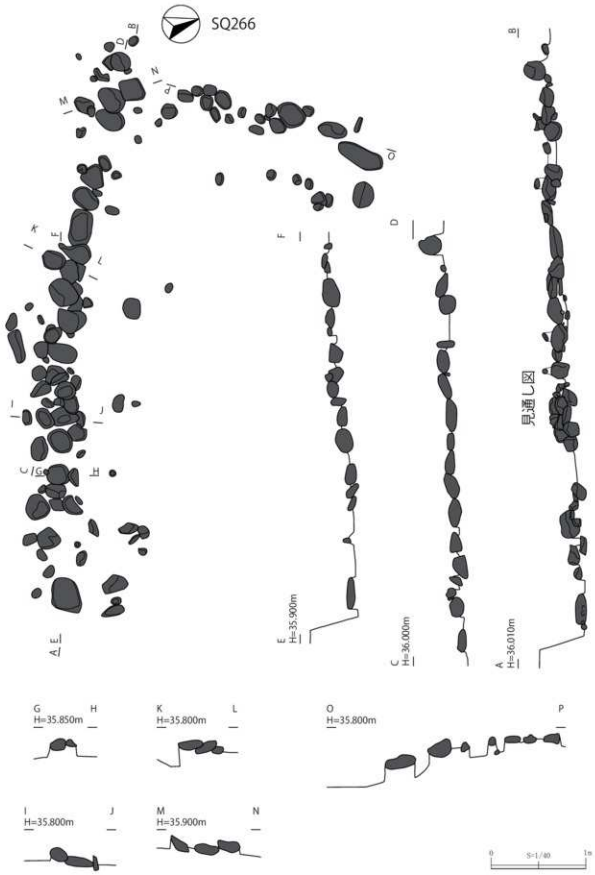
第57図　SQ43列石遺構



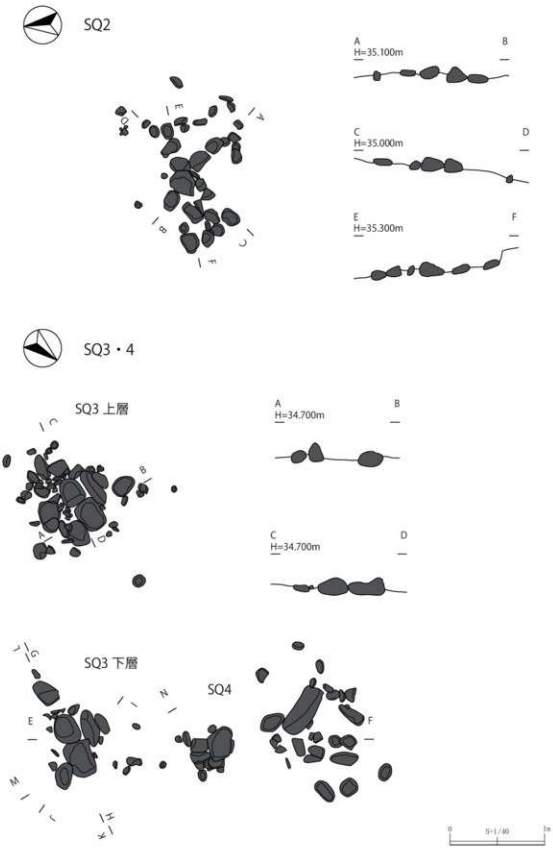
第58図　SQ45列石遺構



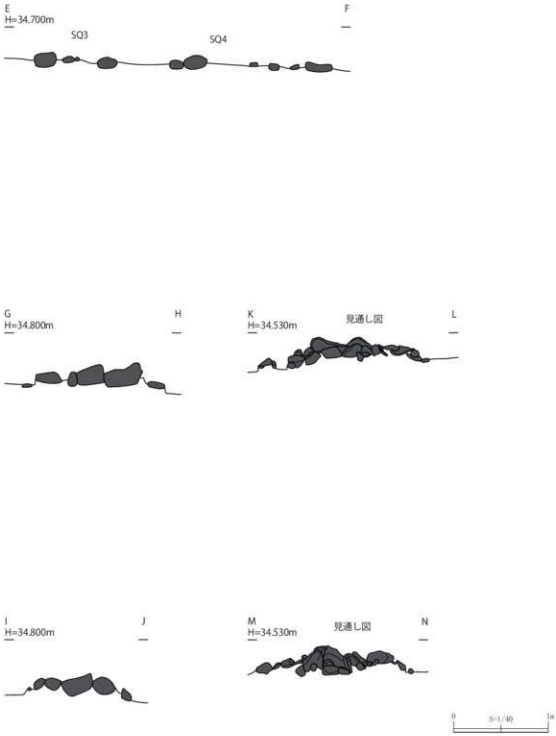
第59図　SQ49・239列石遺構



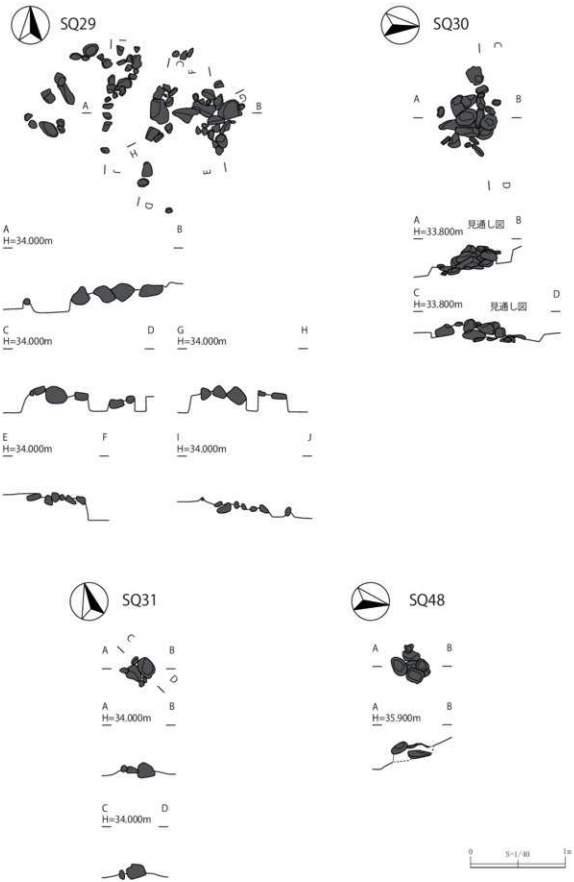
第60図　SQ266列石遺構



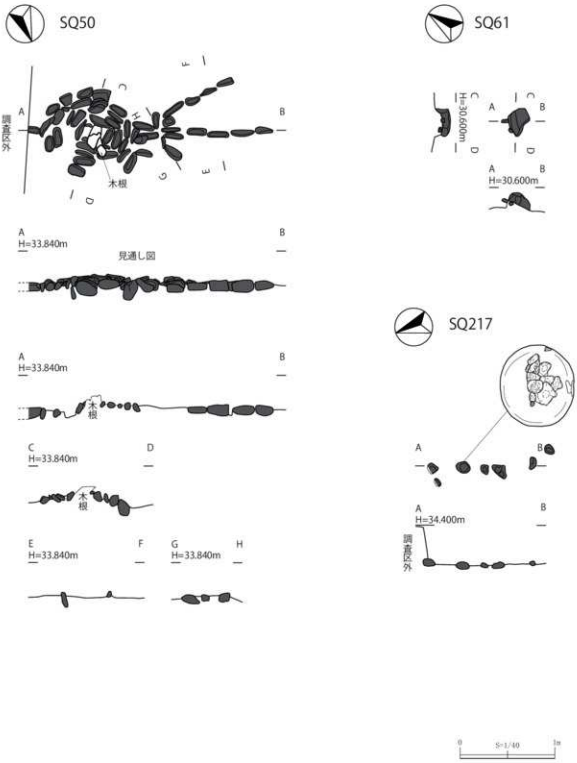
第61図　SQ２・３・４配石遺構



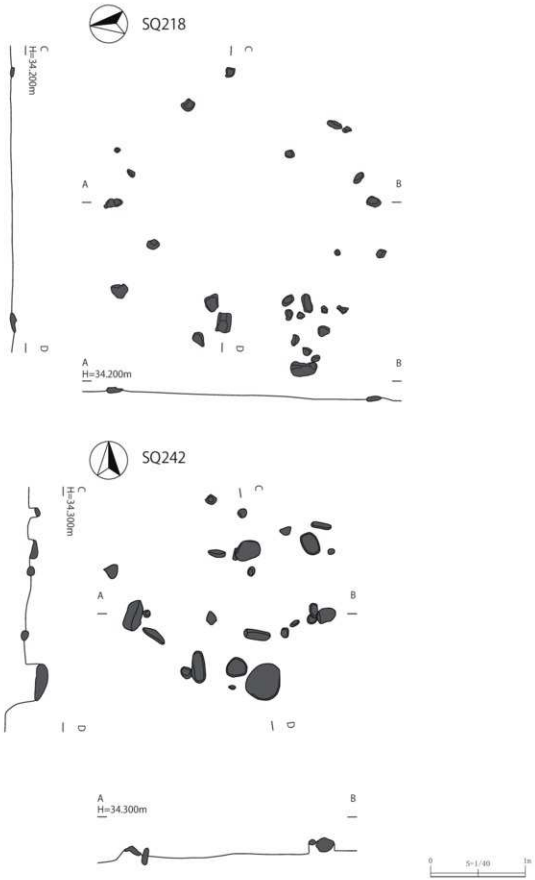
第62図　SQ３・４配石遺構



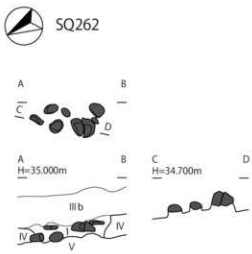
第63図　SQ29・30・31・48配石遺構



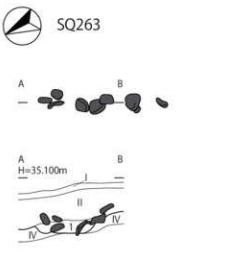
第64図　SQ50・61・217配石遺構



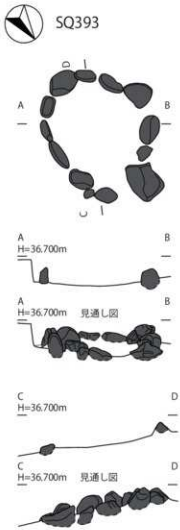
第65図　SQ218・242配石遺構

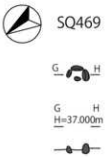


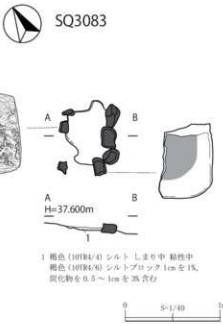
1 黒褐色（10YR2/2）シルト しまり中 粘性中
黄褐色（10YR5/8）シルトを斑状に 10% 含む



1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中 黄褐色（10YR7/8）シルトを斑状に 10%、炭化物を粒状に 10% 含む

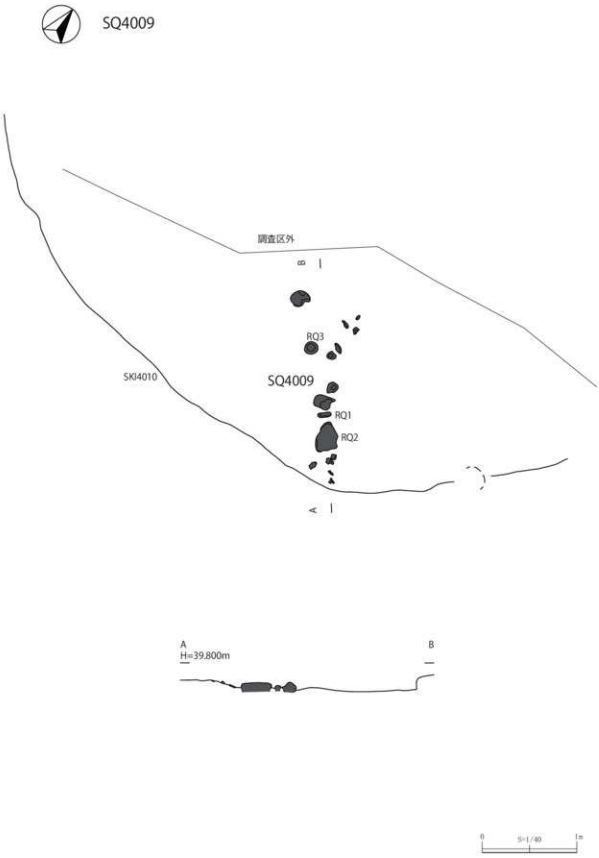






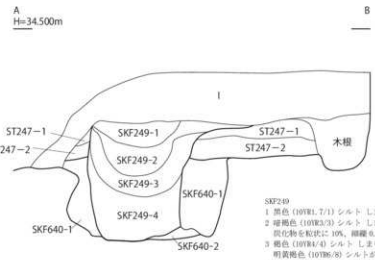
1 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性中
褐色（10YR4/6）シルトブロック 1cm を 1%、
炭化物を 0.5 ～ 1cm を 2% 含む

第66図　SQ262・263・393・469・3083配石遺構



第67図　SQ4009配石遺構

SKF249・640

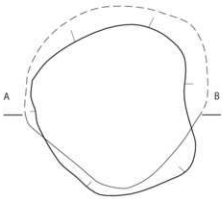


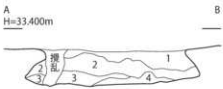
SKF249
1 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性弱
　炭化物を粒状に 10%、繊維 0.5～1cm を全体的に 3% 含む
3 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性強
　明黄褐色（10YR6/8）シルトが下層に帯状に堆積し、炭化物を粒状に 10% 含む
4 褐色（10YR4/6）シルト　しまり弱　粘性中
　炭化物が下層に帯状に堆積し、繊維 1cm を全体に 10% 含む

SKF640
1 褐色（10YR4/6）シルト　しまり弱　粘性中
　明黄褐色（10YR6/8）ローム を粒・ブロック状に 20%、炭化物を粒状に 10% 含み、
　暗褐色（7.5YR2/3）焼土が帯状に堆積する
2 明黄褐色（10YR6/8）粘質シルト　しまり中　粘性中
　炭化物・暗褐色（7.5YR3/4）焼土を帯状に含む

ST247
1 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱
　暗褐色（10YR3/4）シルトを 5%、炭化物を 0.2～1cm を 5% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱
　焼山ブロック 1～2cm を 2%、炭化物 0.2～3cm を 2%、
　焼土ブロック 0.2～0.5cm を 2% 含む

SKF337

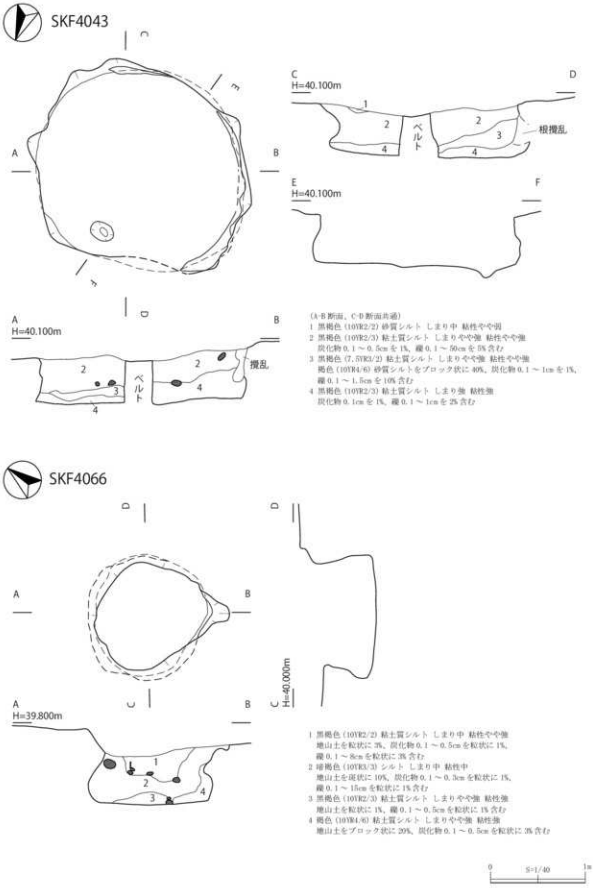




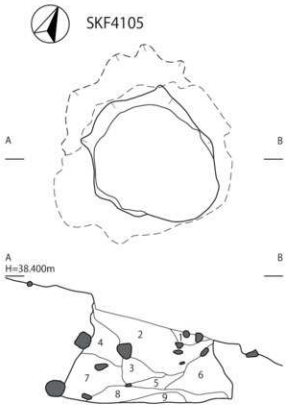
1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱
　焼山ブロック 0.5cm を 1%、焼土ブロック 0.3cm を 1% 以下、
　炭化物粒 0.3cm を 2% 含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　粘性中
　焼山ブロック 0.5～2cm を 10%、炭化物ブロック 0.2～0.8cm を 3% 含む
3 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中
　焼山ブロック 0.2～0.5cm を 2%、炭化物ブロック 0.2cm を 1% 含む
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性やや強
　焼山ブロック 1～8cm を 40% 含む

0　S=1/40　1m

第68図　SKF249・337・640フラスコ状土坑

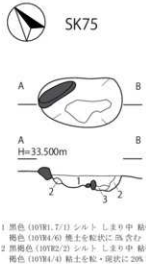


第69図　SKF4043・4066フラスコ状土坑

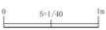


1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
　大礫 10 ～ 20cm を松状に 20% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中
　黒褐色（10YR2/3）シルトを塊状に 20%、地山土（褐色（10YR4/4）粘土）を
　斑状に 10%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 1%、中礫 4 ～ 10cm を粒状に 5%、
　大礫 20cm を粒状に 5%、小礫 0.5 ～ 1cm を 2% 含む
3 黒褐色（7.5YR3/2）シルト　しまりやや弱　粘性中
　地山土（褐色（10YR4/4）粘土）を斑状に 20%、中礫 0.5 ～ 1cm を粒状に 2% 含む
4 褐色（10YR4/4）粘土　しまりやや強　粘性強
　黒褐色（10YR2/3）シルト（層層由来）をブロック状に 10%、
　炭化物 0.1cm を粒状に 1% 含む
5 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや弱　粘性やや強
　炭化物 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 1%、小礫 0.1 ～ 3cm を粒状に 5% 含む
6 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや弱　粘性中
　明褐色（7.5YR5/6）粘土（SKF4105-7 層由来土）を斑状に 40%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm
　を粒状に 1%、小礫 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 2%、中礫 4cm を粒状に 1% 含む
7 明褐色（7.5YR5/6）粘土　しまりやや強　粘性強
　炭化物 0.1cm 以下を粒状に 1%、小礫 0.1 ～ 1cm を粒状に 1%、
　中礫 10 ～ 20cm を粒状に 1% 含む
8 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中
　地山土（褐色（10YR4/4）土）を斑状に 20%、炭化物 0.1cm 以下を粒状に 1% 含む
9 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり中　粘性中
　炭化物 0.1cm 以下を粒状に 1%、小礫 0.5 ～ 1cm を粒状に 3% 含む

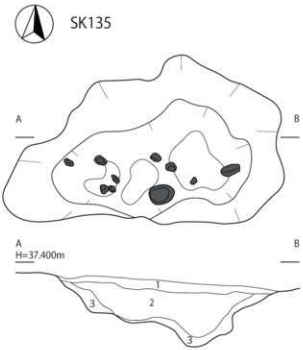
1 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　地山ブロック 1cm を 2%、炭化物を 2%、焼土を 10% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱
　地山ブロック 1 ～ 3cm を 5%、炭化物を 2%、焼土ブロック 0.5cm を 1% 含む
3 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　灰白色（10YR8/1）土粒を 1%、炭化物 0.3cm を 1%、焼土を 5% 含む　Ⅲb 層



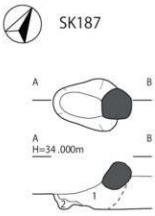
1 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
　褐色（10YR4/6）焼土を粒状に 5% 含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
　褐色（10YR4/4）粘土を粒・斑状に 20% 含む
3 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性強
　炭化物を粒状に 3% 含む



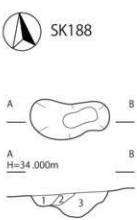
第70図　SKF4105フラスコ状土坑、SK44・75土坑



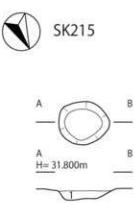
1 黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや弱　粘性弱
　Ⅱ層由来
2 黒褐色（2.5Y3/1）シルト　しまりやや強　粘性中
　Ⅲa層由来
3 黒褐色（2.5Y3/2）シルト　しまりや中　粘性やや弱
　Ⅲb層かⅤ層由来



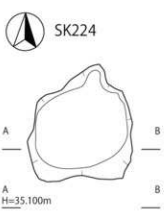
1 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
　黄褐色（10YR5/8）シルトを斑状に30%含む
2 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
　炭化物を粒状に10%含む



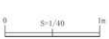
1 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
　黄褐色（10YR5/8）シルトを斑状に20%、
　炭化物を粒状に5%含む
2 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
　黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に5%含む
3 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性中
　黄褐色（10YR5/8）シルトを斑・粒状に10%含む



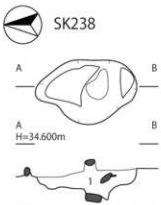
1 暗褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや強
　地山ブロック1～3cmを5%、焼土ブロック
　1cmを1%含む



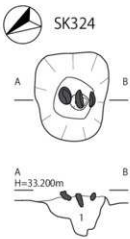
1 黒褐色（10YR3/1）砂質シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　炭化物0.5cmを2%含む



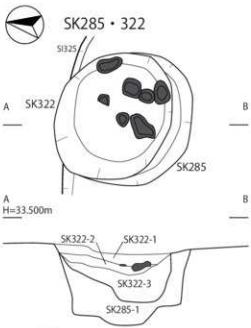
第71図　SK135・187・188・215・224土坑



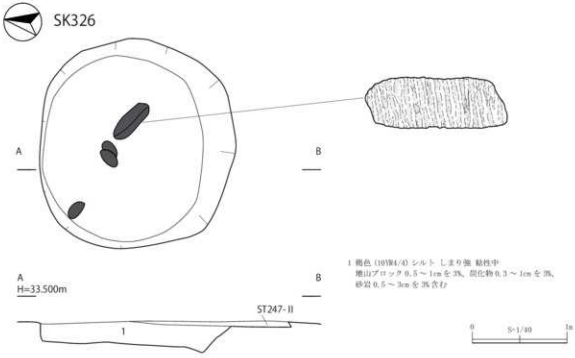
1 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性中
黄褐色（10YR5/6）粘質シルトをブロック状に 5%、
炭化物を粒状に 20%、焼土を粒状に 5% 含わ



1 褐色（10YR4/4）粘土　しまりやや強　粘性強
炭化物ブロック 0.3 ～ 0.6cm を 1% 未満含わ

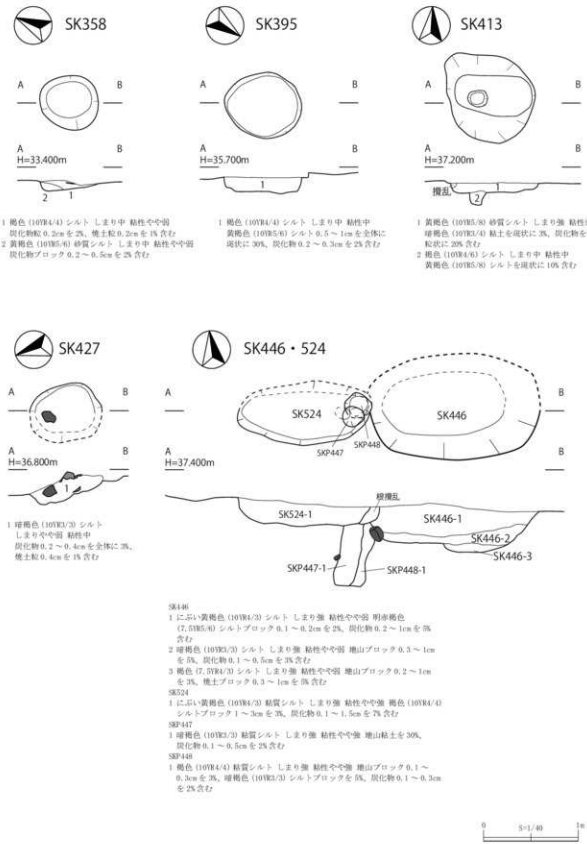


SK285
1 にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質シルト　しまり強　粘性やや強
地山ブロック 0.2 ～ 1cm を 5%、炭化物 0.3 ～ 1cm を 3% 含わ
SK322
1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山ブロック 1 ～ 1.5cm を 2%、炭化物 0.3 ～ 1.5cm を 3%、
焼土ブロック 0.3cm を 1% 含わ
2 暗褐色（7.5YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱
地山ブロック 0.5 ～ 1cm を 2%、炭化物 0.3 ～ 1cm を 3%、
焼土ブロック 0.3 ～ 1cm を 5% 含わ
3 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱
黄褐色（10YR5/6）シルトを 10%、炭化物 0.3 ～ 1.5cm を 7%、
焼土ブロック 0.5cm を 2% 含わ

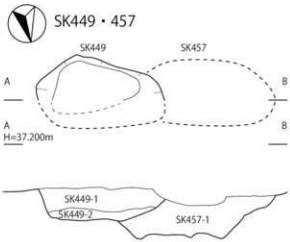


1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性中
地山ブロック 0.5 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.3 ～ 1cm を 3%、
砂岩 0.5 ～ 3cm を 3% 含わ

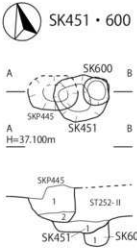
第72図　SK238・285・322・324・326土坑



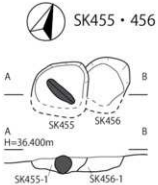
第73図　SK358・395・413・427・446・524土坑



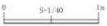
SK449
1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト しまり強 粘性やや弱
地山ブロック 0.2 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を 3% 含む
2 褐色 (10YR4/6) シルト しまり強 粘性やや弱
にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトブロックを 5%、炭化物 0.2 ～ 1cm を 2% 含む
SK457
1 暗褐色 (10YR3/2) 粘質シルト しまり強 粘性やや強
地山ブロック 0.1 ～ 1cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 1cm を 2% 含む



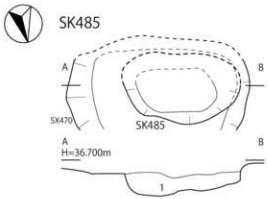
SK451
1 褐色 (10YR4/3) シルト しまり強 粘性やや弱
暗褐色 (10YR3/2) シルトブロック 1 ～ 5cm を 7%、
炭化物 0.1 ～ 0.3cm を 2% 含む
SK600
1 褐色 (10YR4/6) シルト しまり強 粘性やや弱
暗褐色 (10YR3/2) シルトブロック 1 ～ 5cm を 7%、
黄褐色シルトブロックを斑状に多量、
炭化物 0.1 ～ 0.3cm を 2% 含む
SKP445
1 暗褐色 (10YR3/3) シルト しまり中 粘性やや弱
地山ブロック 0.2 ～ 0.5cm を 3%、
炭化物 0.1 ～ 0.3cm を 3% 含む
2 黒褐色 (10YR3/2) シルト しまりやや強 粘性中
地山ブロック 0.2 ～ 1cm を 3%、
炭化物 0.1 ～ 0.3cm を 2%、繊維 3 ～ 5cm を 1% 含む



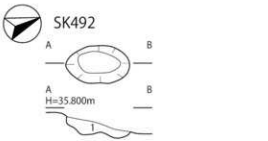
SK455
1 褐色 (10YR4/4) 粘質シルト しまりやや強 粘性やや強
地山ブロック 1 ～ 3cm を 3%、炭化物 0.3 ～ 1cm を 3% 含む
SK456
1 暗褐色 (10YR3/4) 粘質シルト しまりやや強 粘性やや弱
地山ブロック 1 ～ 5cm を 5%、炭化物 0.2 ～ 1cm を 3% 含む



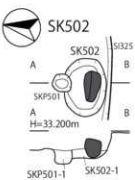
第74図　SK449・451・455・456・457・600土坑



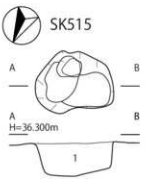
1 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性中
炭化物 0.5cm をブロック状に 1％含む



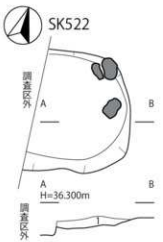
1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中
褐色（10YR4/4）シルト 1cm をブロック状に 5％、
炭化物 0.5cm を斑状に 5％含む



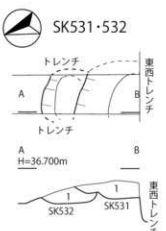
SK502
1 褐色（10YR4/4）砂 しまり強 粘性弱
地山ブロック 1～3cm を 5％、
炭化物 0.2～1cm を 3％含む
SKP501
1 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり強 粘性中
地山ブロック 0.2～1cm を 3％、
炭化物 0.2～1cm を 3％含む



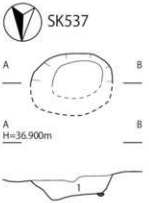
1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中
褐色（10YR4/6）砂質シルトを斑状に 10％、
暗褐色（10YR3/3）シルトを帯状に 20％、
炭化物を転状に 5％含む



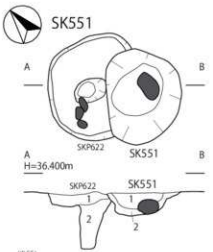
1 灰黄褐色（10YR4/2）シルト しまりやや強 粘性中
炭化物 0.3～0.6cm を 10％含む



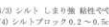
SK531
1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまりやや強 粘性中
黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1cm を斑状に
3％、炭化物 0.5cm を 2％含む
SK532
1 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり中 粘性中
黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1cm を 1％、
炭化物粒 0.5cm を 1％含む



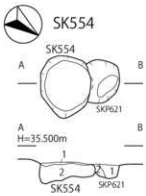
1 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり強 粘性やや弱
褐色（7.5YR4/4）シルトブロック 0.2～0.5cm
を 2％、地山ブロック 0.5cm を 1％、
炭化物 0.2～2cm を 5％含む



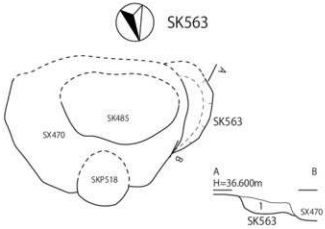
SK551
1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト しまり中 粘性中
褐色（10YR4/4）シルトを斑状に 20％、
炭化物を転状に 3％含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり中 粘性中
黄褐色（10YR5/6）シルトを斑状に 10％、
炭化物を転状に 5％含む
SKP622
1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト しまり強 粘性弱
暗褐色（10YR3/4）シルトを斑状に 20％、
炭化物を転状に 5％含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中
明黄褐色（10YR6/8）砂質シルトを斑状に 10％、
炭化物を転状に 3％含む



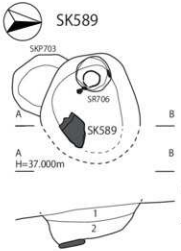
第75図　SK485・492・502・515・522・531・532・537・551土坑



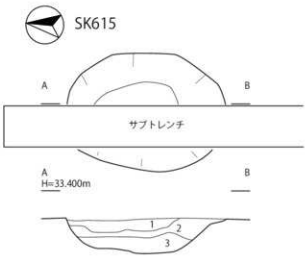
SK554
1 黄褐色（10YR5/6）シルト しまり強 粘性中
炭化物を粒・帯状に 10% 含む
2 黒褐色（10YR2/3）シルト しまり中 粘性強
黄褐色（10YR5/8）シルトを粒状に 20% 含む
SKP621
1 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 粘性中
炭化物を粒状に 5% 含む
2 黄褐色（10YR5/6）シルト しまり中 粘性中
暗褐色（10YR3/4）シルトを斑状に 10% 含む



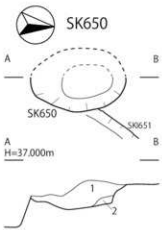
1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中
黄褐色（10YR5/6）シルトブロックを斑状に 30%、
炭化物 0.5cm を 1% 含む



1 黒褐色（10YR3/2）シルト しまり強 粘性やや弱
地山ブロック 0.2 ～ 2cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 1.5cm を 5%、
礫 2 ～ 5mm を 2% 含む
2 褐色（10YR4/4）シルト しまり強 粘性やや弱
暗褐色（10YR3/3）シルトを 7%、炭化物 0.2 ～ 1cm を 3%、
礫 1 ～ 8cm を 2% 含む



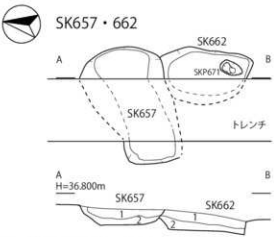
1 黄褐色（10YR5/6）シルト しまり強 粘性やや弱 炭化物 0.5 ～ 1cm を 2% 含む
2 黄褐色（10YR5/6）粘質シルト しまりやや強 粘性やや強 地山ブロック 1cm を 2%、
炭化物 1 ～ 2cm を 2%、焼土ブロック 0.5 ～ 1cm を 10% 含む
3 明黄褐色（10YR6/6）砂 しまり強 粘性弱 炭化物 1 ～ 2cm を 2%、細礫 0.5cm を 1% 含む



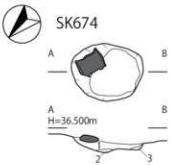
1 暗褐色（10YR4/3）砂質シルト しまり中 粘性やや弱
地山ブロック 0.1 ～ 3cm を斑状に 20% 含む
2 黄褐色（10YR5/8）砂質シルト しまりやや強 粘性中
暗褐色土ブロックを斑状に 20% 含む

0　S=1/40　1m

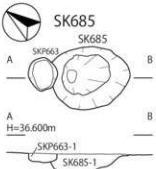
第76図　SK554・563・589・615・650土坑



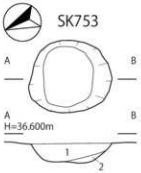
SK657　1　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　　2　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物 0.1 cmを 1% 未満含む
SK662　1　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物 0.1 ～ 0.5 cmを 2% 含む
　　2　褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色粒 0.1 ～ 1 cmを 5%、
　　炭化物 0.1 ～ 0.5 cmを 2% 含む



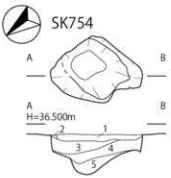
1　褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　黄褐色土ブロック 0.1 ～ 0.2cm を 3%、炭化物 0.1 ～ 0.3cm を 5% 含む
2　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　暗褐色土を斑状に 10% 含む
3　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　暗褐色土ブロック 0.1 ～ 0.2cm を 3% 含む



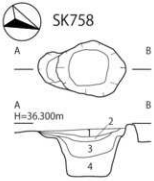
SK685
1　黄褐色（10YR5/8）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　炭化物 0.1 ～ 0.3cm を 2% 含む
SKP663
1　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　地山ブロックを含む



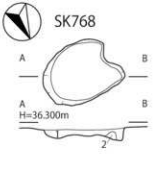
1　褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　炭化物 0.1 ～ 0.2cm を 3% 含む
2　褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　炭化物 0.1 ～ 0.2cm を 1% 含む



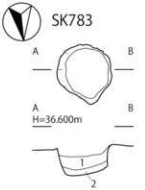
1　暗褐色（10YR4/3）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　炭化物 0.1 ～ 1.5 cm を 5% 含む
2　暗褐色（10YR3/3）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱
　黄褐色土を斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.3 cmを 7% 含む
3　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　炭化物 0.1 cmを 1%、焼土粒 0.1 ～ 0.2 cmを 1% 未満含む
4　褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　炭化物 0.1 ～ 0.3 cmを 3% 含む
5　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　炭化物 0.1 cmを 1% 未満含む



1　褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　黄褐色土粒 0.1 ～ 1 cmを 10% 含む
2　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱
3　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまり中　粘性やや弱
4　褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　黄褐色土を斑状に 40% 含む
5　黄褐色（10YR5/8）砂質シルト　しまり強　粘性やや弱

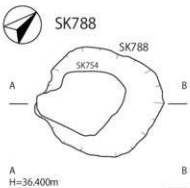


1　暗褐色（10YR3/4）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　黄褐色土ブロック 0.1 ～ 3 cmを
　2%、炭化物 0.1 ～ 0.3 cmを 10% 含む
2　黄褐色（10YR5/8）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　暗褐色土を斑状に 40% 含む

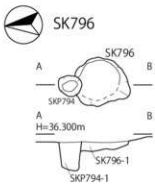


1　黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　暗褐色土 0.1 ～ 0.3 cmを 10% 含む
2　褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　黄褐色土を斑状に 40% 含む

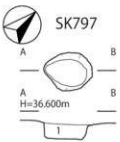
第77図　SK657・662・674・685・753・754・758・768・783土坑



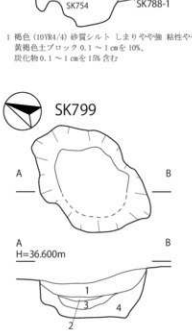
1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
黄褐色土ブロック 0.1 ～ 1 cmを 10%、
炭化物 0.1 ～ 1 cmを 1%含む



SK796
1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強
粘性やや弱　暗褐色土を斑状に 30%、
炭化物 0.1 ～ 0.5 cmを 5%、
地土ブロック 0.1 ～ 0.3 cmを 2%含む
SKP794
1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強
粘性やや弱　黄褐色土を斑状に 30%、
炭化物 0.1 ～ 0.2 cmを 1%含む

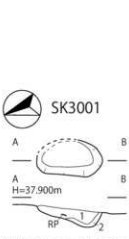


1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強
粘性やや弱　暗褐色土を斑状に 10%、
炭化物 0.1 ～ 0.2 cmを 3%含む

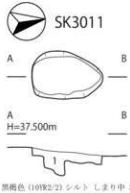


1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
黄褐色土ブロック 0.1 ～ 0.3 cmを 8%、
炭化物 0.1 ～ 0.5 cmを 3%含む
2 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質シルト　しまり中　粘性やや弱
3 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまり中　粘性やや弱
炭化物 0.1 ～ 0.2 cmを 1%含む
4 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.1 ～ 0.2 cmを 1%含む

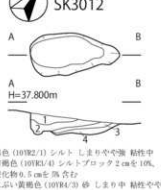
1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強
粘性やや弱　暗褐色土を斑状に 20%含む
2 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強
粘性やや弱　暗褐色土を斑状に 40%含む



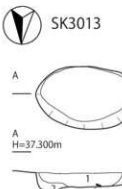
1 黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
褐色（10YR4/4）ブロック 0.3 ～ 1.5 cmを斑状に 3%、
地土ブロック 0.3 cmを 1%含む（人為か）
2 黒褐色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性やや弱
褐色（10YR4/4）シルトを 20%含む（自然か）



1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
にぶい黄褐色（10YR4/3）砂ブロック 2 cmを 7%、
炭化物 0.5 cmを 20%、赤褐色（2.5YR4/6）地土粒
0.5 cmを 1%、小礫 0.5 ～ 2 cmを 10%含む



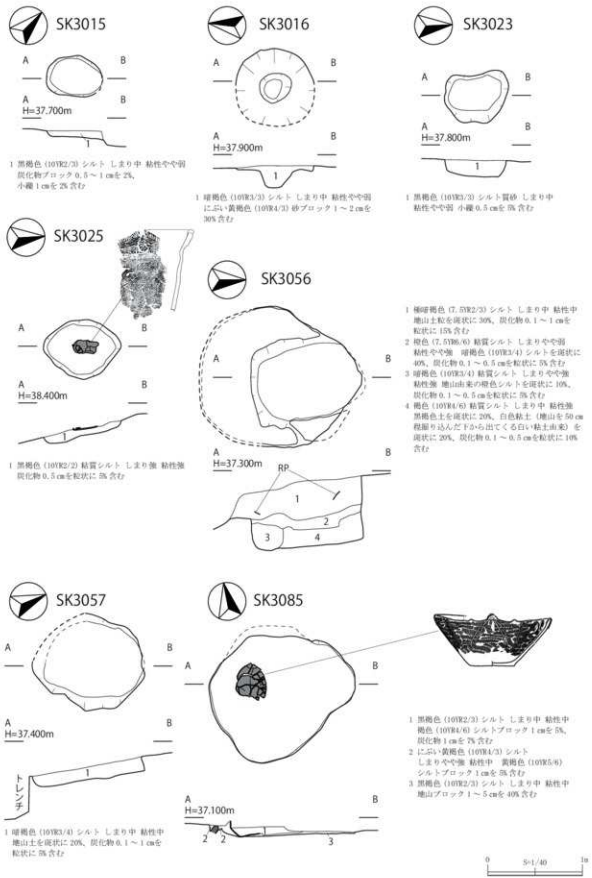
1 黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや強　粘性中
暗褐色（10YR3/4）シルトブロック 2 cmを 10%、
炭化物 0.5 cmを 5%含む
2 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂　しまり中　粘性やや弱
炭化物 0.5 cmを 1%含む
3 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性中
4 暗褐色（10YR3/3）砂　しまりやや弱　粘性弱



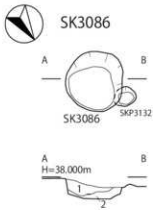
1 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1 cmを 7%、
炭化物粒 0.5 cmを 1%含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 1 ～ 5 cmを
40%含む

0　S=1/40　1m

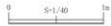
第78図　SK788・796・797・799・802・3001・3011・3012・3013土坑

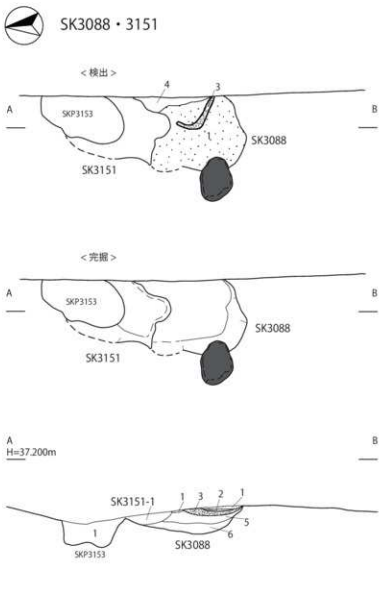


第79図　SK3015・3016・3023・3025・3056・3057・3085土坑



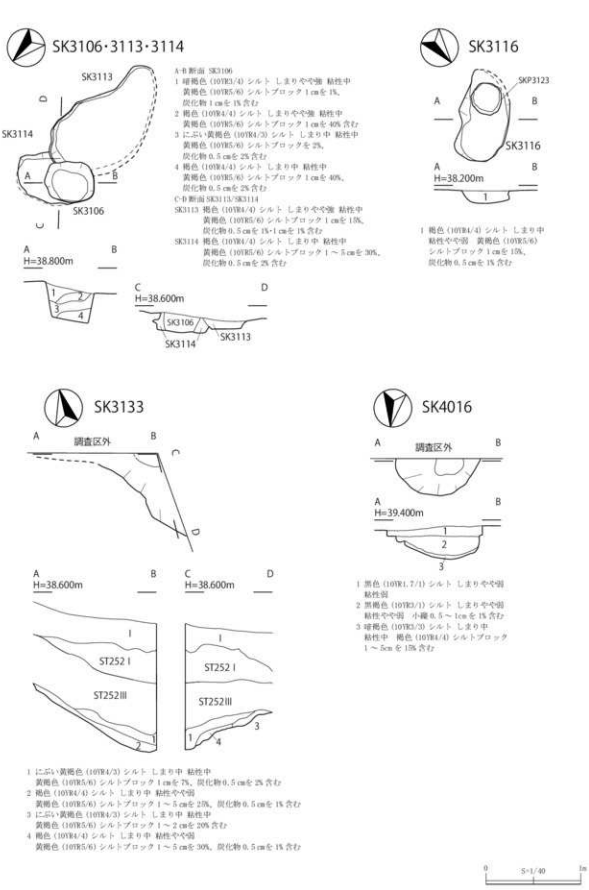
1 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性やや弱
黄褐色（10YR5/6）シルトブロック１cmを１%、
炭化物0.５～１cmを７%含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや弱
黄褐色（10YR5/6）シルトブロック１～５cmを２%、
炭化物0.５cmを２%含む



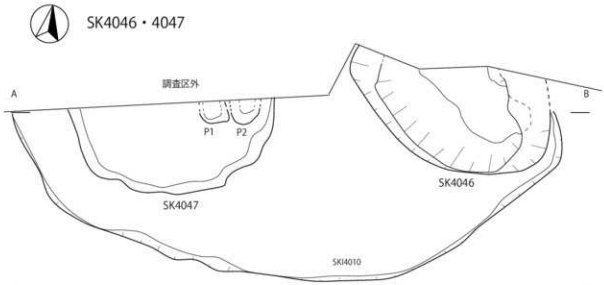


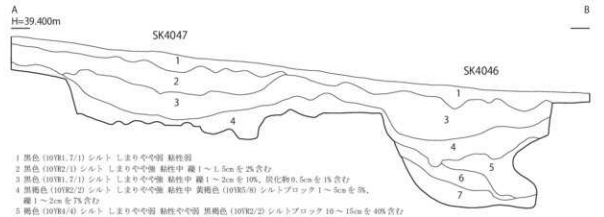
SK3088　1 黒褐色（7.5YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
地山土を斑状に15%、炭化物0.１～１cmを粒状
に1%、赤色（10R5/8）焼土を粒状に2%、
骨片をブロック状に1%含む
2 褐色（10YR4/6）砂　しまり中　粘性弱
骨片0.１～0.２cmを粒状に2%含む
3 暗赤褐色（10R3/2）焼土　しまりやや強　粘性弱
地山土を斑状に5%、炭化物0.１～0.３cmを
粒状に2%含む
4 にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　しまり中
粘性中　地山土をブロック状に10%、炭化物
0.５～1.５cmを粒状に20%含む
5 暗褐色（10YR3/4）粘質シルト　しまり中
粘性やや強　炭化物を帯状に30%、にぶい赤
褐色（2.5YR4/4）焼土をブロック状に10%、
中礫0.４～0.８cmを粒状に5%、骨片を1%含む
6 褐色（10YR4/6）砂質シルト　しまり中
粘性やや強　炭化物を0.１～0.３cm を粒状に
1%、中礫0.５cm を粒状に1%含む
SK3151　1 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性中
地山土を粒状に15%、炭化物0.１～１cmを
粒状に20%、暗赤色（7.5R3/6）焼土を粒状に
3%含む
SKP3153　1 暗褐色（10YR3/4）砂　しまり中　粘性弱
黒褐色粘質シルトを斑状に20%、地山土を
ブロック状に20%、炭化物0.１～１cmを粒状
に10%含む

第80図　SK3086・3088・3151土坑

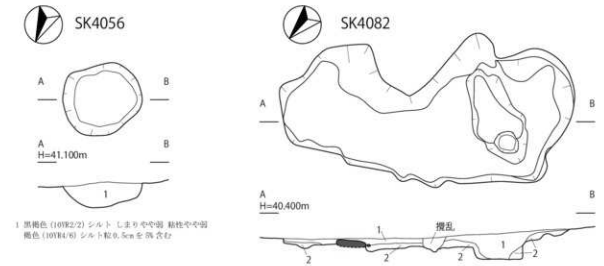


第81図　SK3106・3113・3114・3116・3133・4016土坑





1 黒色（10YR1.7/1）シルト しまりやや弱 粘性弱
2 黒色（10YR2/1）シルト しまりやや強 粘性中 礫1～1.5cmを2%含む
3 黒色（10YR1.7/1）シルト しまりやや強 粘性中 礫1～2cmを10%、炭化物0.5cmを1%含む
4 黒褐色（10YR2/2）シルト しまりやや強 粘性中 黄褐色（10YR5/8）シルトブロック1～5cmを5%、礫1～2cmを7%含む
5 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや弱 粘性やや弱 黒褐色（10YR2/2）シルトブロック10～15cmを40%含む
6 黒色（10YR1.7/1）シルト しまりや 粘性中 褐色（10YR4/4）シルトブロック5～10cmを15%含む
7 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや弱 粘性中 黒褐色（10YR2/2）シルトブロック5～10cmを50%含む



1 黒褐色（10YR2/2）シルト しまりやや弱 粘性やや弱
褐色（10YR4/6）シルト粒0.5cmを5%含む

1 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト しまり中 粘性中 地山土を斑状に10%、炭化物0.1～0.5cmを粒状に2%、礫0.1～1cmを粒状に2%含む
2 黄褐色（10YR5/6）シルト しまり中 粘性中 層面由来土を斑状に30%、炭化物0.1cmを粒状に1%、礫0.1～1cmを粒状に2%含む

0　S=1/40　1m

第82図　SK4046・4047・4056・4082土坑

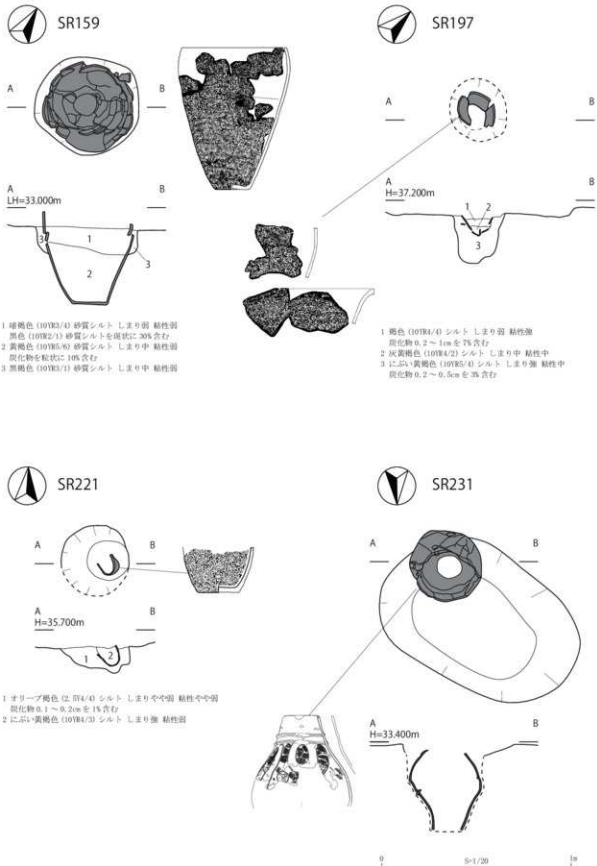
1 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物 0.3cm を 7%、焼土を 10% 含む
2 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山土を 10%、炭化物を 3cm を 3% 含む
3 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまりやや強　粘性やや弱
炭化物を 50%、焼土ブロック 1cm を 7% 含む、炭化物堆積層
4 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱
炭化物を 3%、焼土を 30% 含む
5 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや強　粘性やや弱
地山ブロック 0.5 ～ 2cm を 10%、焼土を 5% 含む

1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱
炭化物を 1% 含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや弱
灰白色（10YR8/1）土粒を 0.1cm を 1%、炭化物を 1% 含む
3 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや弱
灰白色（10YR8/1）土粒を 0.1cm を 1%、炭化物を 1% 含む

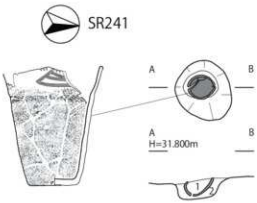
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性中
暗褐色（10YR3/3）シルトを全を 10%、地山ブロック 1cm を 1% 含む
2 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山ブロック 0.1 ～ 0.2cm を 1%、礫 0.3 ～ 0.6cm を 3% 含む

1 褐色（10YR4/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや強
地山ブロック 0.5cm を 1%、炭化物 0.2cm を 1%、
焼土ブロック 0.5cm を 1% 含む
2 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり中　粘性中
地山ブロック 0.3cm を 2% 含む

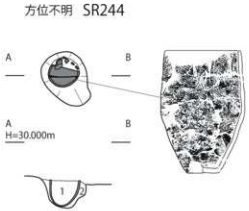
第83図　SR９・32・149・151土器埋設遺構



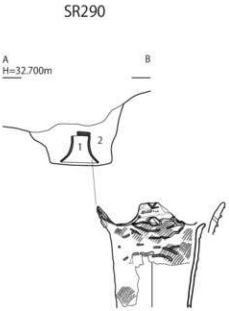
第84図　SR159・197・221・231土器埋設遺構



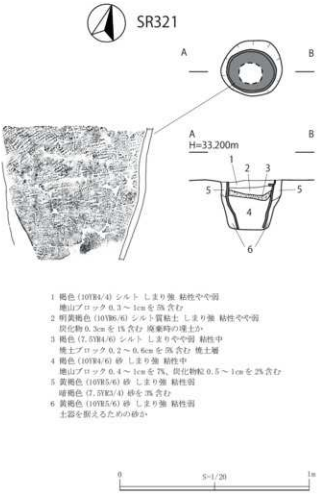
1 黒褐色（10YR2/2）シルト質粘土　しまりやや強　粘性やや強
地山ブロック 0.3～1cm を 5%、炭化物 0.3cm を 1%、
焼土ブロック 1～3cm を 3% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト質粘土　しまり強　粘性やや強
地山ブロック 0.3～1cm を 3%、
焼土ブロック 0.5～1cm を 2% 含む



1 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山ブロック 0.5cm を 5% 含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山ブロック 0.5cm を含む

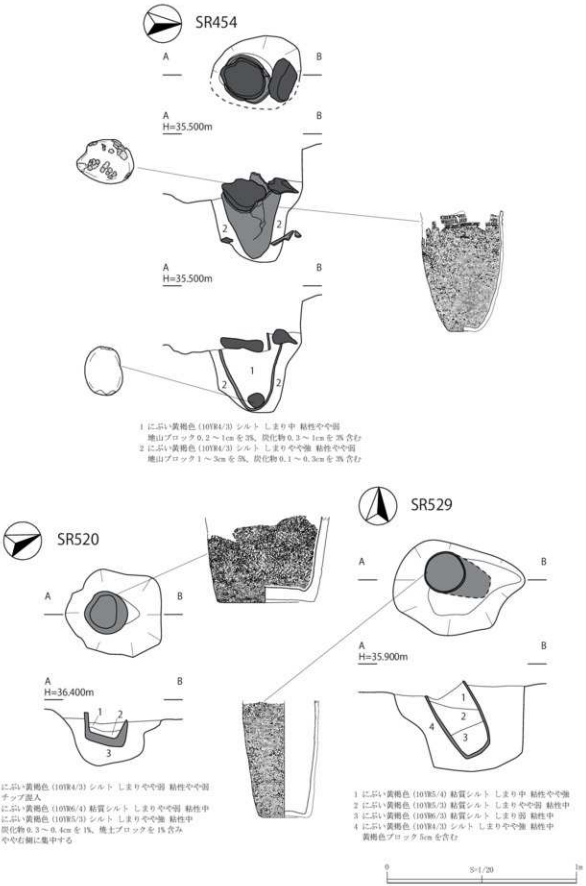


1 褐色（10YR4/6）粘質シルト　しまり強　粘性やや強
地山ブロック 0.5～1cm を 10%、炭化物 0.5～1cm を 5% 含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山ブロック 0.3～1cm を 15%、炭化物 0.1～0.5cm を 2%、
焼土ブロック 0.2cm を 1% 含む

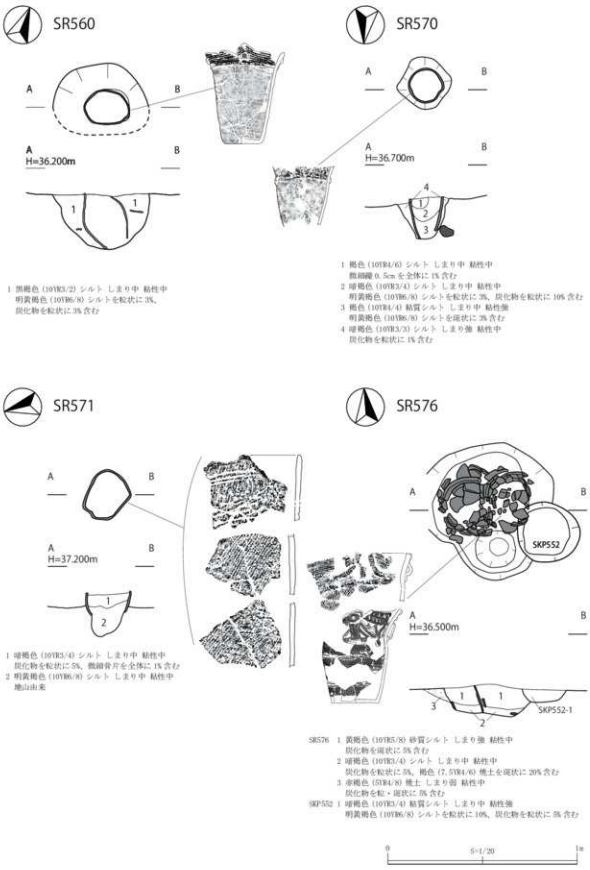


1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山ブロック 0.3～1cm を 5% 含む
2 明黄褐色（10YR6/6）シルト質粘土　しまり強　粘性やや弱
炭化物 0.3cm を 1% 含む　埋戻時の埋土か
3 褐色（7.5YR4/6）シルト　しまりやや弱　粘性中
焼土ブロック 0.2～0.6cm を 5% 含む　焼土層
4 褐色（10YR4/6）砂　しまり強　粘性中
地山ブロック 0.4～1cm を 7%、炭化物を 0.5～1cm を 2% 含む
5 黄褐色（10YR5/6）砂　しまり強　粘性弱
暗褐色（7.5YR3/4）砂を 3% 含む
6 黄褐色（10YR5/6）砂　しまり強　粘性弱
土器を据えるための砂か

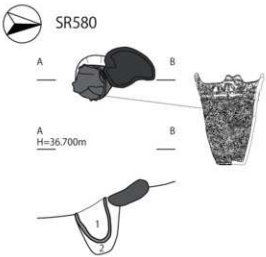
第85図　SR241・244・290・321土器埋設遺構



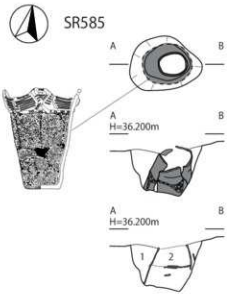
第86図　SR454・520・529土器埋設遺構



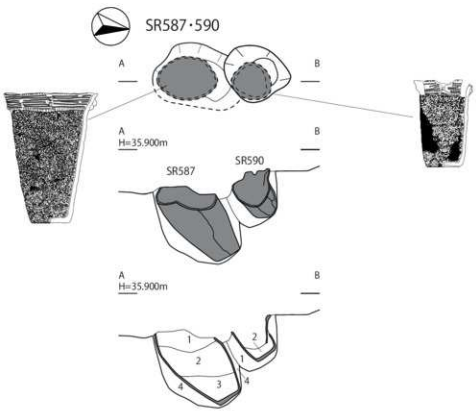
第87図　SR560・570・571・576土器埋設遺構



1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり弱　粘性やや弱
褐色（10YR4/4）シルトブロック 0.3～0.5cm を 3%、
炭化物 0.3～0.6cm を 3% 含む
2 暗褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　粘性やや弱
褐色（10YR4/4）シルトブロック 0.3～0.5cm を 2%、
炭化物 0.3～0.7cm を 3%、縄 1～2cm を 8% 含む



1 にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　しまりや　粘性やや強
地山ブロック 0.05～0.1cm を 5%、炭化物 0.05～0.1cm を 3% 含む
2 黒灰黄色（2.5Y4/2）シルト　しまりややや　粘性やや強



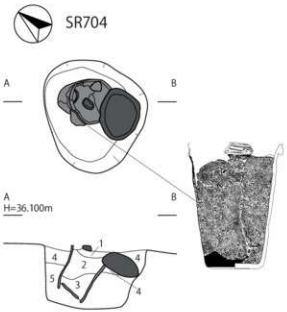
SR587
1 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや弱　粘性中
2 明褐色（7.5YR4/3）シルト　しまりやや弱　粘性中
地土ブロックを 5% 含む
3 オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
4 にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト　しまりやや弱　粘性中
炭化物 0.05～0.1cm を 3% 含む

SR590
1 にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト
しまりやや弱　粘性やや弱
2 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト
しまり中　粘性やや弱
炭化物 0.02cm を 1% 含む

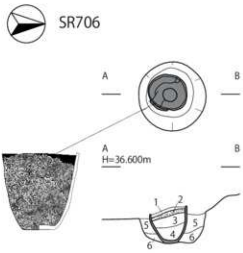
0　S=1/20　1m

第88図　SR580・585・587・590土器埋設遺構

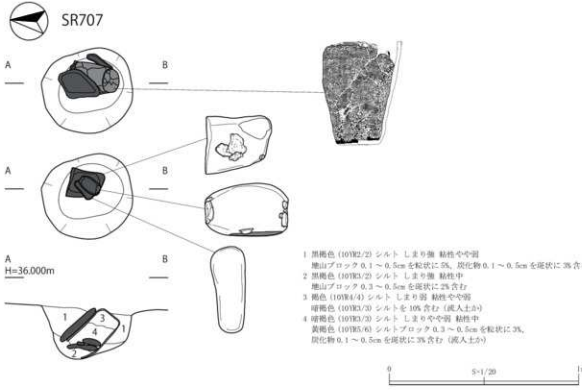
第89図　SR616・654・700・702土器埋設遺構



1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　地山ブロック 0.1 ～ 0.2cm を斑状に 7%、炭化物 0.1 ～ 0.3cm を斑状に 2% 含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトブロック 0.3 ～ 0.5cm を粒状に 3%、炭化物 0.1 ～ 0.3cm を斑状に 2% 含む
3 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性中　褐色（10YR4/4）シルトブロック 0.5 ～ 1cm を斑状に 3%、炭化物 0.1 ～ 0.3cm を斑状に 2% 含む
4 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　褐色（10YR4/6）シルトブロック 0.1 ～ 2cm を斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 1cm を斑状に 3%、焼土ブロック 0.1 ～ 0.2cm を粒状に 1% 含む
5 黒褐色（10YR2/1）粘質シルト　しまり強　粘性やや強　褐色（10YR4/4）シルトブロック 0.3 ～ 0.5cm を粒状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.7cm を斑状に 5%、偽礫 0.5 ～ 0.7cm を 2% 含む

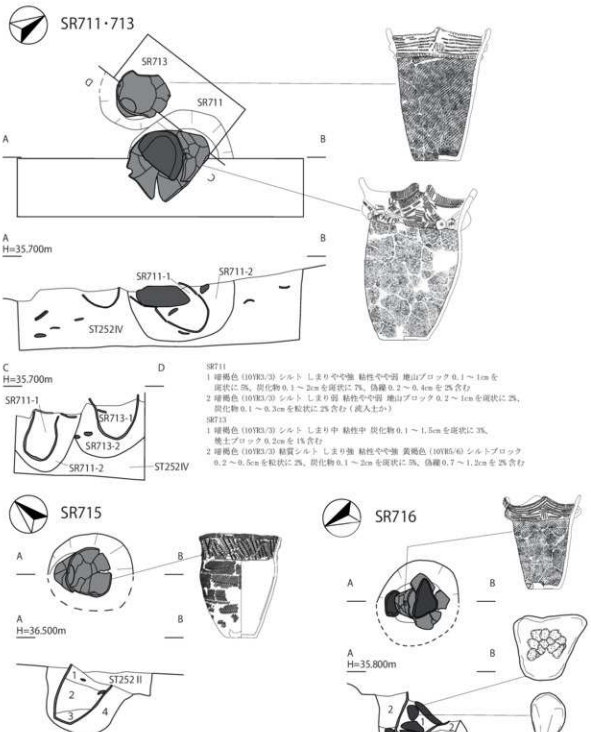


1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまり強　粘性弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 0.1 ～ 1cm を斑状に 7%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を斑状に 3% 含む
2 褐色（7.5YR4/4）シルト　しまり強　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 0.1 ～ 0.5cm を斑状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.4cm を斑状に 3% 含む
3 明黄褐色（10YR6/6）砂質シルト　しまり強　粘性弱　褐色（10YR4/4）シルトを 5%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を斑状に 3% 含む
4 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりや中　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 0.3 ～ 0.5cm を斑状に 3%、炭化物 0.1 ～ 1cm を斑状に 5%、焼土ブロック 0.2 ～ 0.5cm を粒状に 7%、炭化（10YR6/1）骨片 0.05cm を粒状に 2% 含む
5 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 0.2 ～ 1.5cm を斑状に 10%、炭化物 0.1 ～ 0.7cm を斑状に 5% 含む
6 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性やや弱　炭化物 0.1 ～ 1cm を斑状に 1 ～ 3% 含む

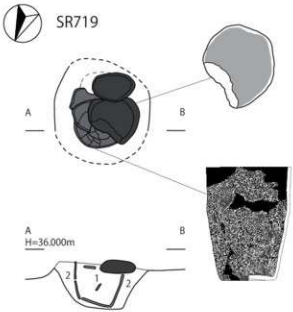


1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性やや弱
地山ブロック 0.1 ～ 0.5cm を粒状に 5%、炭化物 0.1 ～ 0.5cm を斑状に 3% 含む
2 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性中
地山ブロック 0.3 ～ 0.5cm を斑状に 2% 含む
3 褐色（10YR4/4）シルト　しまり弱　粘性やや弱
暗褐色（10YR3/3）シルトを 10% 含む（或人土か）
4 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性中
黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 0.3 ～ 0.5cm を粒状に 3%、
炭化物 0.1 ～ 0.5cm を斑状に 3% 含む（或人土か）

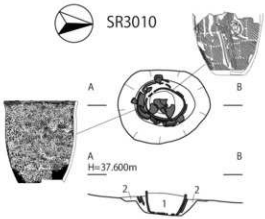
第90図　SR704・706・707土器埋設遺構



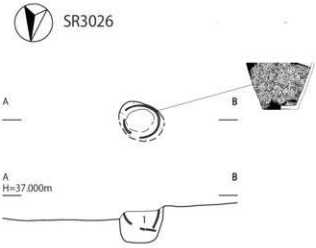
第91図　SR711・713・715・716土器埋設遺構



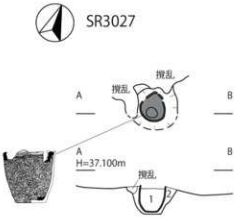
1 暗褐色（10YR3/3）粘質シルト　しまり やや強　粘性やや弱
褐色（10YR4/4）シルトブロック 0.2～0.5cm を斑状に 2%、
炭化物 0.1～0.5cm を斑状に 3% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり 強　粘性やや弱
褐色（10YR4/4）シルト 0.1～0.8cm を斑状に 4%、
炭化物 0.1～0.3cm を 2% 含む



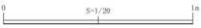
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり 中　粘性中
暗褐色（10YR3/3）砂ブロック 1cm を 2% 含む
2 黒褐色（10YR2/1）シルト　しまり 中　粘性中



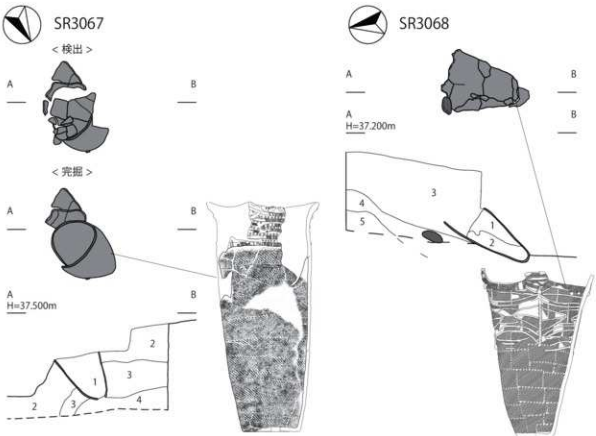
1 黒褐色（10YR2/3）シルト質砂　しまり 中　粘性中
炭化物 0.5cm を 2%、小礫 0.5cm を 7% 含む



1 にぶい黄褐色（10YR4/3）砂　しまり 中　粘性やや弱
暗褐色（10YR3/3）砂ブロック 1cm を 3%、
炭化物粒 0.5cm を 2% 含む
2 褐色（10YR4/4）砂　しまりやや弱　粘性やや弱
暗褐色（10YR3/3）砂ブロック 1cm を 10% 含む

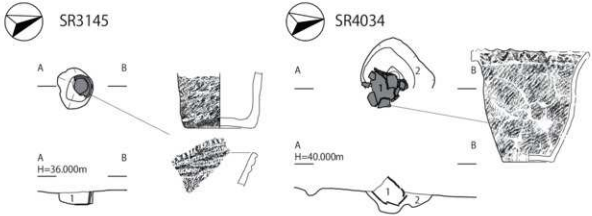


第92図　SR719・3010・3026・3027土器埋設遺構



1 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強 粘性中
暗褐色（10YR3/4）シルト（炭化物0.1cmを粒状に2%含む）を
斑状に1%含む
2 黒褐色（10YR2/3）粘質シルト しまりやや強 粘性強
地山土粒を3%、炭化物0.1～0.5cmを粒状に1%含む ST252Ⅲ層
3 黒褐色（10YR2/3）シルト しまりやや強 粘性やや強
地山土（10YR4/6）を斑状に30%、炭化物0.1～0.6cmを粒状に5%含む
ST252Ⅲ層
4 褐色（10YR4/6）粘質シルト しまり強 粘性強
炭化物0.1～0.5cmを粒状に3%含む Ⅳ層

1 暗褐色（10YR5/4）シルト しまり弱 粘性中
炭化物0.1～0.5cmを粒状に5%含む 空隙が非常に多い
2 黄褐色（10YR5/6）粘質シルト しまりやや弱 粘性強
炭化物0.3～0.5cmを粒状に3%含む
3 暗褐色（10YR3/3）シルト しまり強 粘性中
地山土粒を斑状に3%、炭化物0.1～1cmを粒状に10%含む ST252Ⅲ層
4 褐色（10YR4/6）砂質シルト しまり強 粘性やや弱
黒褐色土を斑状に40%、炭化物0.1～0.7cmを粒状に2%含む ST252Ⅲ層
5 黒褐色（10YR2/3）粘質シルト しまり強 粘性強
地山土粒を粒状に3%、炭化物0.1～0.7cmを粒状に3%含む ST252Ⅳ層

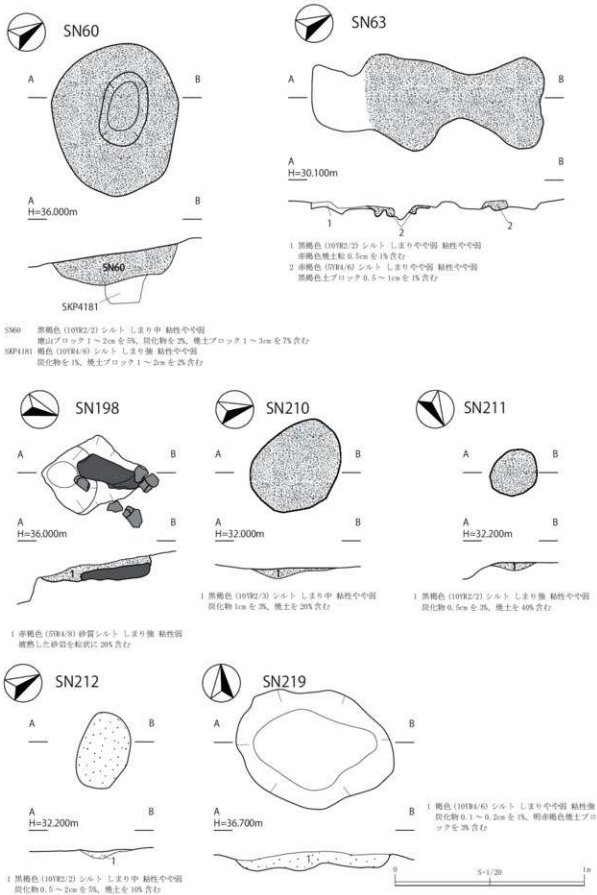


1 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 粘性中
地山土を斑状に2%、炭化物0.1～0.5cmを粒状に1%含む

1 黒褐色（10YR2/3）シルト しまり中 粘性中
炭化物0.2cmを1%含む
2 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり弱 粘性中
地山土粒を斑状に30%、炭化物0.5cmを1%含む

0　S=1/20　1m

第93図　SR3067・3068・3145・4034土器埋設遺構



SN60　黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや中　粘性やや弱
墨山ブロック１～2cmを5%，炭化物を2%，焼土ブロック１～3cmを7%含む
SKP4181　褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱
炭化物を1%，焼土ブロック１～2cmを2%含む

1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
赤褐色焼土粒0.5cmを1%含む
2 赤褐色（5YR4/6）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
黒褐色土ブロック0.5～1cmを1%含む

1 赤褐色（5YR4/8）砂質シルト　しまり強　粘性弱
被熱した砂岩を粒状に20%含む

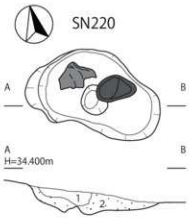
1 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまり中　粘性やや弱
炭化物1cmを3%，焼土を20%含む

1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり強　粘性やや弱
炭化物0.5cmを3%，焼土を40%含む

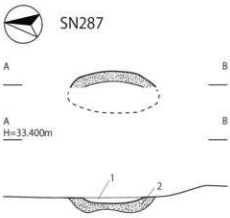
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや弱
炭化物0.5～2cmを5%，焼土を10%含む

1 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや弱　粘性強
炭化物0.1～0.2cmを1%，明赤褐色焼土ブロックを3%含む

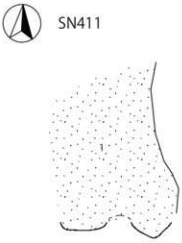
第94図　SN60・63・198・210・211・212・219焼土遺構



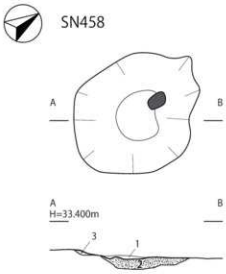
1 明赤褐色 (5YR5/6) 極細シルト しまり弱 粘性やや弱
2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質シルト しまり中 粘性中
焼化物 0.2～0.3cm を 2%、焼土ブロック 0.2～0.5cm を 2% 含む



1 明黄褐色 (10YR5/6) 粘質シルト しまりやや強 粘性やや強
焼化物を 0.2～0.5cm を 1% 含む
2 赤褐色 (5YR4/6) 砂 しまり強 粘性弱
地山ブロック 0.5cm を 2%、焼化物を 0.1～0.3cm を 1% 含む

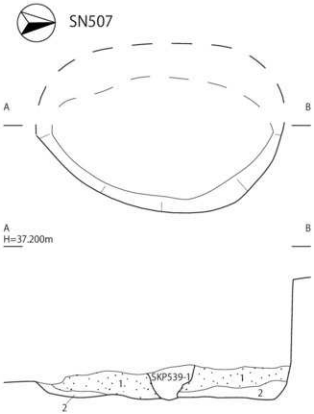


1 赤褐色 (2.5YR4/6) 焼土 焼化物 0.5～1cm を 2% 含む

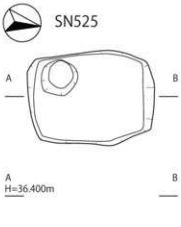


1 褐色 (10YR4/4) シルト しまり中 粘性やや弱
暗灰色 (10YR5/1) 粘 0.1～0.3cm を 3%、焼化物 0.1cm を 1% 含む
2 赤褐色 (2.5YR4/6) シルト しまりやや強 粘性やや弱
焼化物を 0.1～1cm を 3% 含む
3 暗赤褐色 (5YR3/2) シルト しまりやや強 粘性やや弱
地山ブロック 0.5～1cm を 3%、焼化物を 0.1～1.5cm を 3% 含む

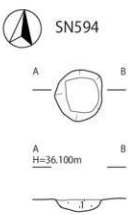
第95図　SN220・287・411・458焼土遺構



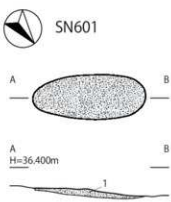
SK507　1 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中
炭化物を粒状に3%，褐色（7.5YR4/6）焼土を帯状・斑状に20%含む
2 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中
炭化物を粒状に1%含む
SKP539　1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
暗褐色土を斑状に5%含む



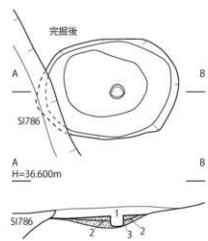
1 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中
黄褐色（10YR6/8）シルトを帯状に5%，
炭化物を斑状に10%含む
2 褐色（7.5YR4/6）焼土　しまり中　粘性中
焼土層



1 明褐色（7.5YR5/6）シルト　しまりやや弱
粘性やや弱



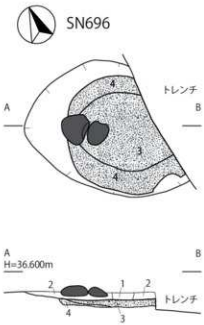
1 明褐色（7.5YR5/8）焼土　しまり強　粘性弱
暗赤褐色（5YR3/6）焼土を帯状に10%含む



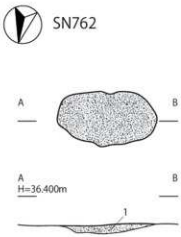
1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
黄褐色土を斑状に5%，炭化物を1～1cmを10%含む
2 赤褐色（5YR5/6）砂質シルト　しまり中　粘性やや弱
3 暗赤褐色（5YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱

0　S=1/20　1m

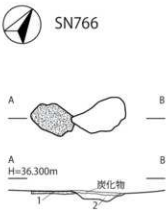
第96図　SN507・525・594・601・695焼土遺構



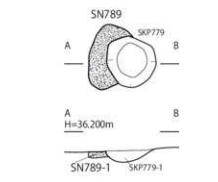
1 黄褐色（10YR5/6）砂質シルト　しまりやや弱　粘性中
　炭化物 0.1～0.2cm を 3% 含む
2 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　炭化物 0.1～0.5cm を 2% 含む
3 赤褐色（5YR5/6）砂質シルト　しまりや中　粘性中
4 暗赤褐色（5YR3/2）砂質シルト　しまりや中　粘性やや弱
　一部 2, 5YR4/6 赤褐色砂質シルトとなる



1 暗赤褐色（5YR3/4）砂質シルト　しまりやや強
　粘性やや弱　暗褐色土を混入に 30%、炭化物
　0.1～0.5cmを 5%、焼土ブロック 0.1～0.3cm
　を 2% 含む

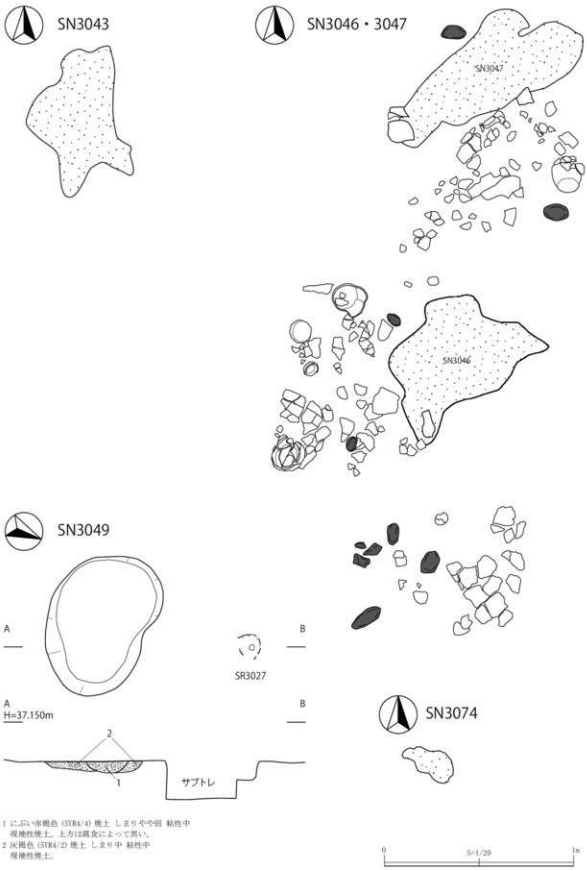


1 暗赤褐色（5YR3/4）砂質シルト
　しまりやや強　粘性やや弱
2 灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルト
　しまりやや強　粘性やや弱
　炭化物が上面に面的に堆積

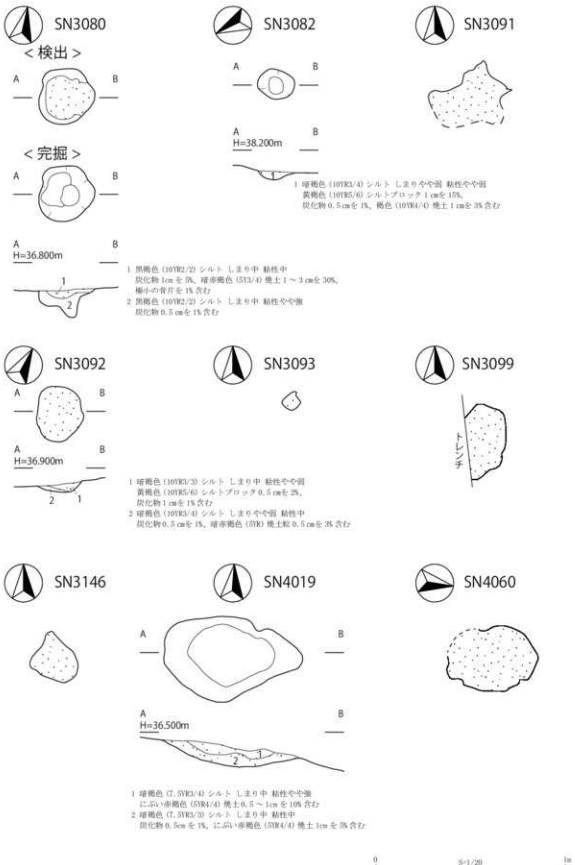


SN789
1 暗赤褐色（5YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
SKP779
1 褐色（10YR4/4）砂質シルト　しまりやや強　粘性やや弱
　黄褐色土ブロック 0.1～0.5cm を 3%、
　炭化物 0.1～1cm を 5% 含む

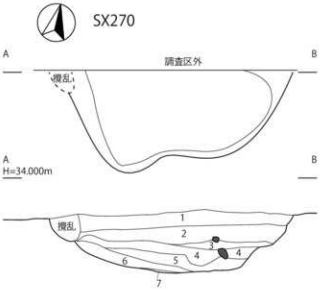
第97図　SN696・762・766・789・3038・3040焼土遺構



第98図　SN3043・3046・3047・3049・3074焼土遺構

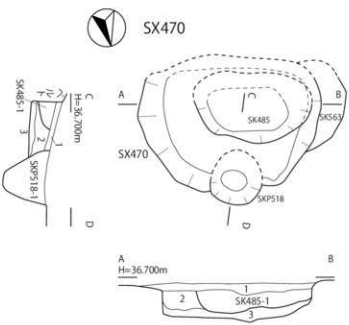


第99図　SN3080・3082・3091・3092・3093・3099・3146・4019・4060焼土遺構



1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒 0.2cm を 2% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性中　炭化物粒 0.2～0.5cm を 3% 含む
3 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性やや強
4 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり中　粘性やや強　炭化物粒 0.3～1cm を 10% 含む
5 暗褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性中　地山ブロック 0.5cm を 2% 含む
6 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　粘性中　地山ブロック 0.3cm を 3%、炭化物粒 5cm を 3%、焼土塊 0.5cm を 1% 含む
7 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物粒 0.2～0.3cm を 30% 含む　土器多量

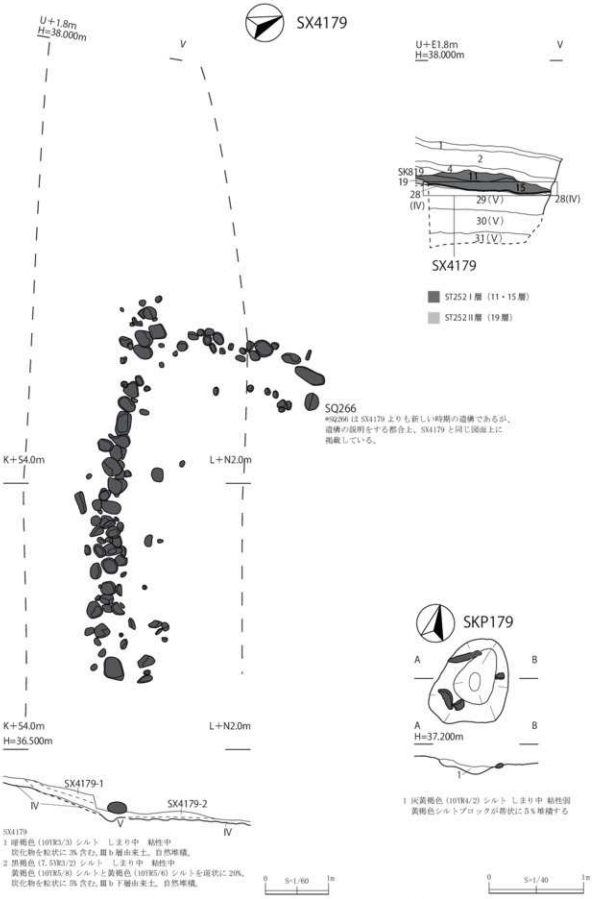
0　S=1/40　1m



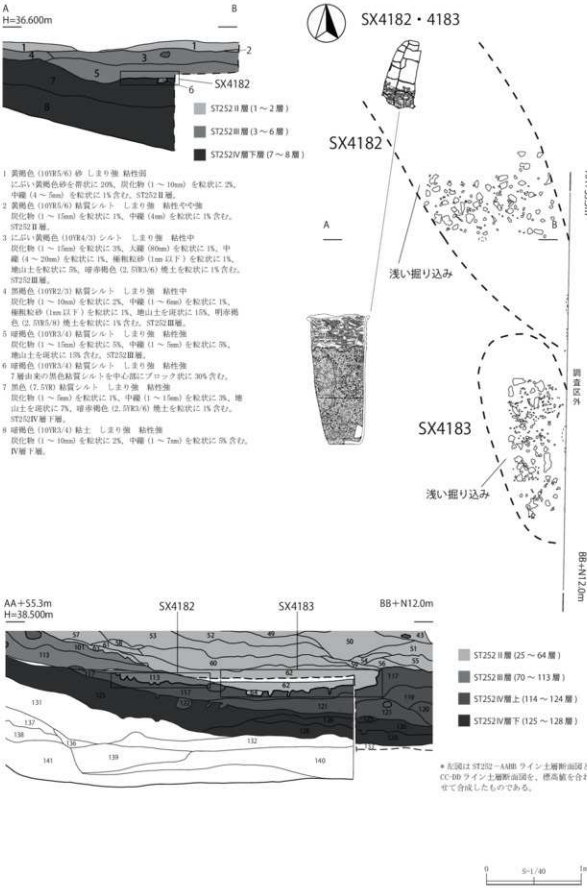
SX470　1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　炭化物 0.5cm を粒状に 2% 含む
　　2 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり中　粘性中　炭化物 1cm をブロック状に 1% 含む
　　3 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/4）シルト 1cm を斑状に 40% 含む
SK485　1 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　粘性中　褐色（10YR4/4）シルト 0.5～1cm をブロック状に 3%、炭化物 0.5cm をブロック状に 1% 含む
SKP518　1 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや弱　粘性中　褐色（10YR4/4）シルト 1cm をブロック状に 3% 含む

0　S=1/40　1m

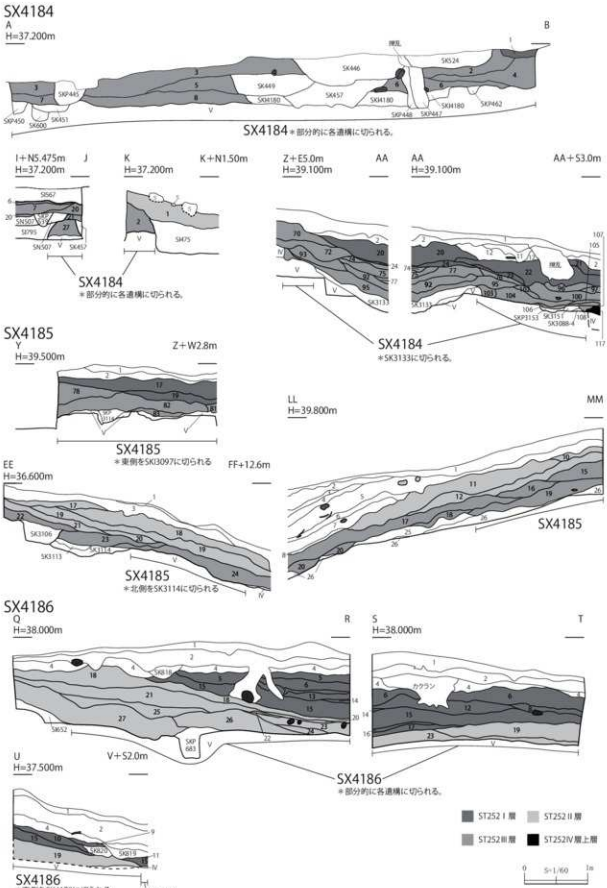
第100図　SX270・470性格不明遺構



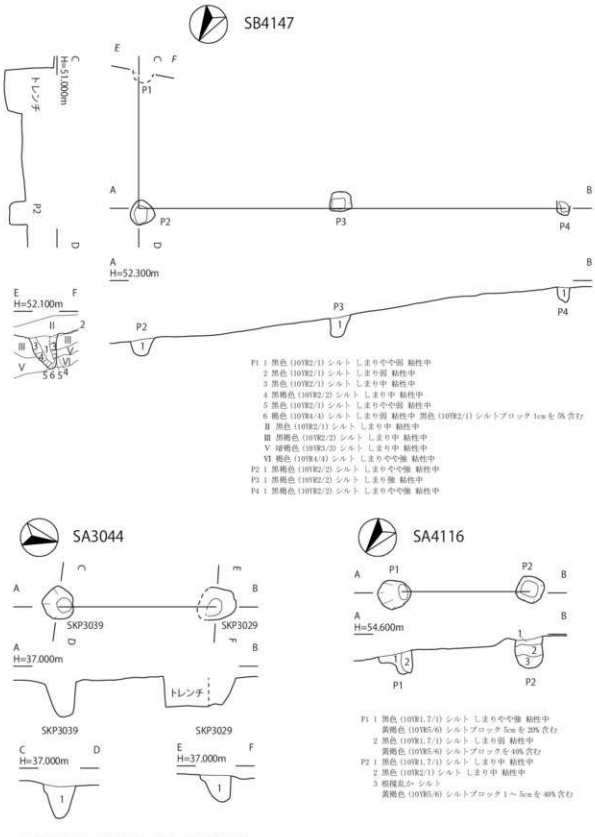
第101図　SX4179性格不明遺構、SKP179柱穴様ピット



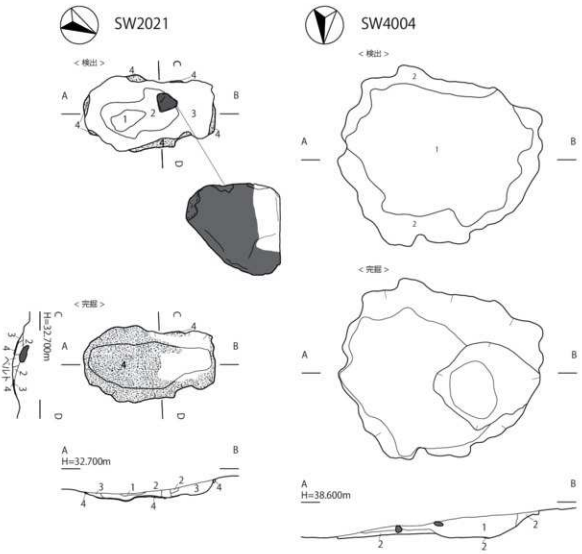
第102図　SX4182・4183性格不明遺構



第103図　SX4184・4185・4186性格不明遺構



第104図　SB4147掘立柱建物跡、SA3044・4116柵列・柱列跡

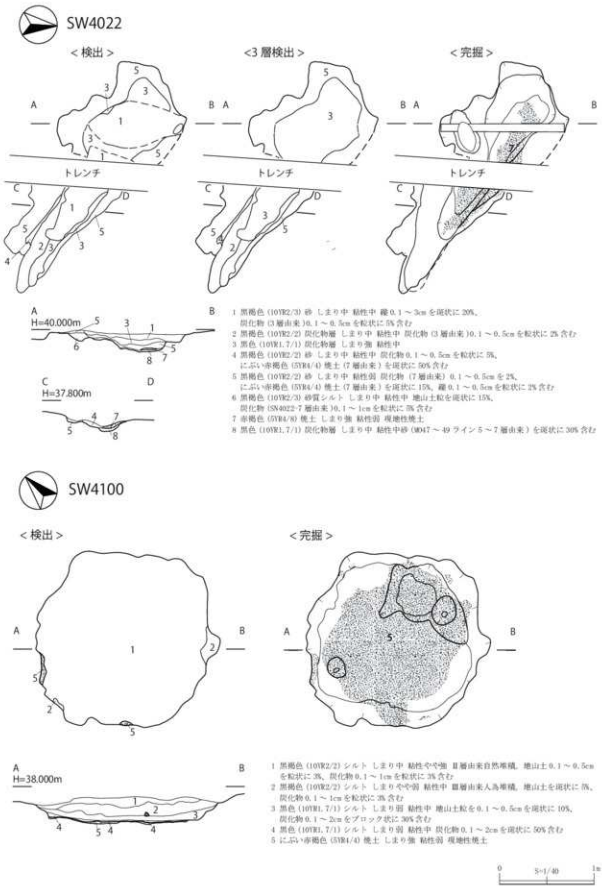


1 暗褐色（10YR3/3）砂質シルト　しまり弱　粘性弱
地山土粒を混状に 30%、炭化物 0.1 ～ 0.5 cmを粒状に 10%含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
地山土粒を混状に 40%、炭化物 0.1 ～ 1 cmを粒状に 10%含む
3 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり弱　粘性中
炭化物 0.5 ～ 5 cmを粒状に 20%、焼土粒を粒状に 10%含む
4 赤褐色（2.5YR4/6）焼土　しまり強　粘性弱
地山土を混状に 20%、炭化物 0.1 ～ 1.5 cmを粒状に 5%含む

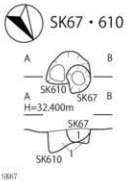
1 黒褐色（10YR2/2）砂　しまりやや弱　粘性弱
炭化物 0.5 ～ 1.5cmをブロック状に 10%、中礫 0.5 ～ 2cm を粒状に 30%、
大礫 15 ～ 20cmを 5%含む
2 黒色（10YR1.7/1）砂　しまりやや弱　粘性弱
炭化物 0.5 ～ 1.5cm を混状に 50%、中礫 0.5 ～ 1cm を粒状に 3%含む

0　S=1/40　1m

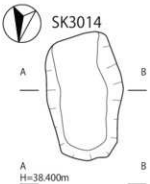
第105図　SW2021・4004炭焼遺構



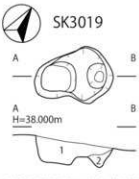
第106図　SW4022・4100炭焼遺構



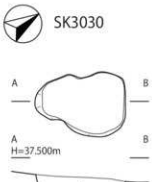
SK67
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや強　粘性中
　縁 0.7cm を 1% 含む
SK610
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
　炭化物粒 0.1cm を 1% 含む



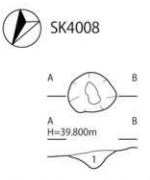
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性中
　黄褐色（10YR4/4）シルトブロック 1 ～ 5cm を 5%、
　炭化物ブロック 1cm を 1% 含む
2 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや弱　粘性中
　黄褐色（10YR4/4）シルトブロック 1 ～ 3cm を 10% 含む



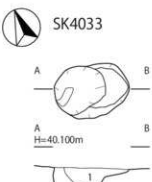
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　にぶい黄褐色砂ブロック 3cm を 1%、
　炭化物 0.5 ～ 1cm を 7% 含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性やや弱
　にぶい黄褐色ブロック 5cm を 5% 含む



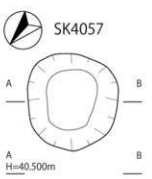
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり中　粘性中
　暗褐色（10YR3/4）シルトブロック 2cm を斑状に 15% 含む



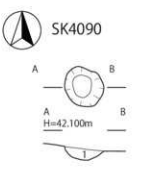
1 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　炭化物 0.5 ～ 1cm、縁 2cm を含む



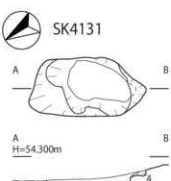
1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや強　粘性中
　縁 0.1 ～ 0.5cm を 1% 含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり弱　粘性中
　地山由来土を斑状に 5% 含む
3 黒色（10YR1.7/1）粘土質シルト　しまりやや強　粘性強



1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや弱　粘性やや強
　縁 1cm を 2% 含む
2 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや弱　粘性中
　褐色（10YR4/6）シルトブロック 1 ～ 5cm を 10%、
　縁 1 ～ 5cm を 5% 含む



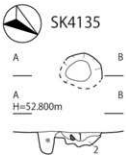
1 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中



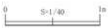
1 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
2 黒褐色（10YR3/1）シルト　しまり弱　粘性中
　黄褐色（10YR5/6）シルトブロック 5cm を 20% 含む
3 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
4 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　粘性中

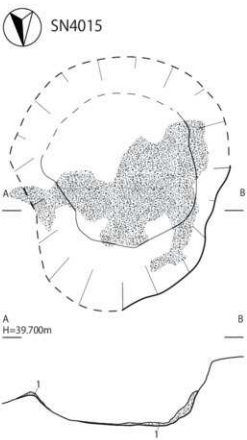
0　S=1/40　1m

第107図　SK67・610・3014・3019・3030・4008・4033・4057・4090・4131土坑

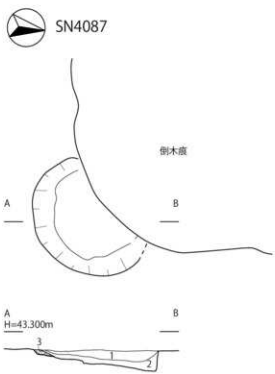


1 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや強　粘性中
2 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり中　粘性中

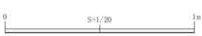


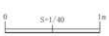


1 黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや弱　粘性やや弱
　褐色（10YR4/4）シルトブロック 1cm を斑状に 2% 含む

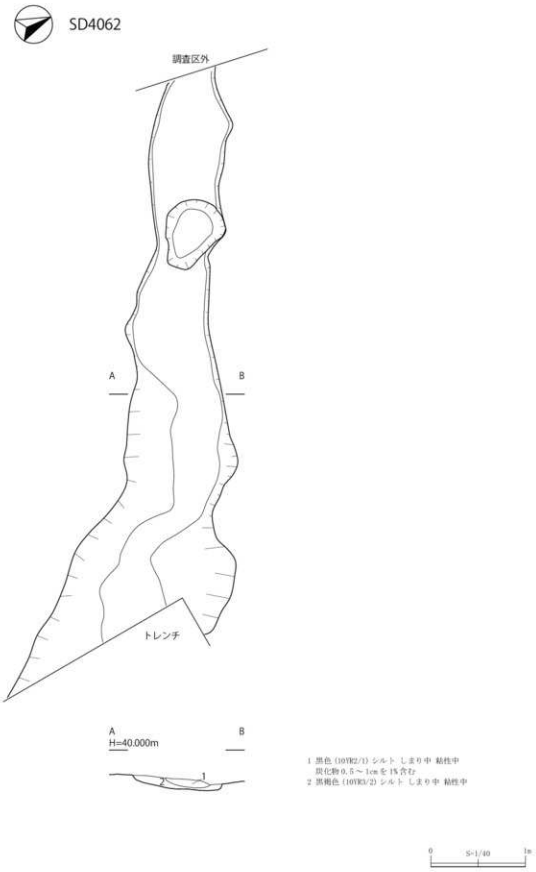


1 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性中
2 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性やや弱　炭化物 0.5 ～ 3cm を 7% 含む
3 極暗赤褐色（2.5YR2/3）焼土　しまり中　粘性やや弱

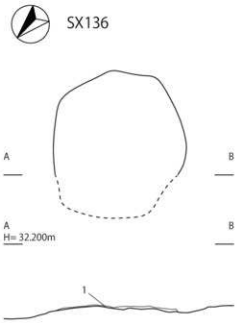




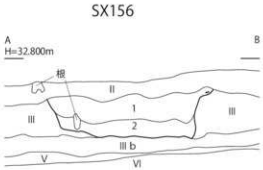
第108図　SK4135土坑、SN4015・4087焼土遺構



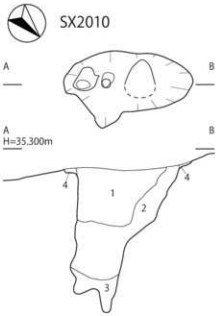
第109図　SD4062溝跡



1 黒色（10YR2/1）炭化物層　しまり中　粘性中
縞１～20cm を30% 含む



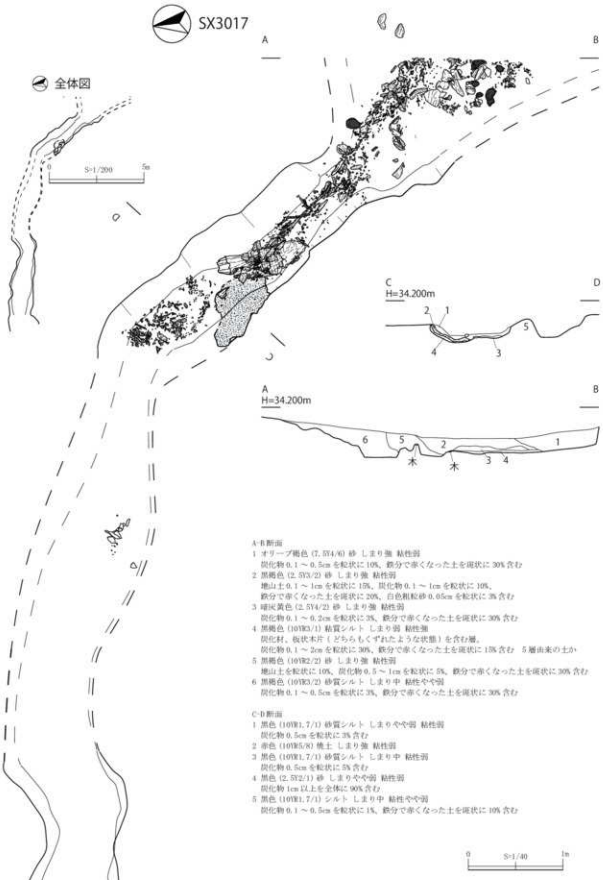
1 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまり強　粘性中
地山ブロック１～5cm を 5%、炭化物 0.2cm を 1% 含む
2 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり強　粘性中
炭化物 0.5～1cm を西側に集中して 3%、焼土を中央に集中して 5% 含む



1 黒色（10YR2/1）シルト　しまり中　粘性強
黄褐色土（V層由来）を斑状に 10% を含む
2 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり弱　粘性中
黄褐色土（V層由来）を斑状に 30%、炭化物を粒状に 1% 含む
3 黒褐色（10YR2/2）粘質シルト　しまりやや弱　粘性強
黒色土（V層由来）を斑状に 40% 含む
4 褐色（10YR4/6）シルト　しまり強　粘性やや弱
黒色土（V層由来）を粒状に 10%、
木片、木の皮を含む

0　S=1/40　1m

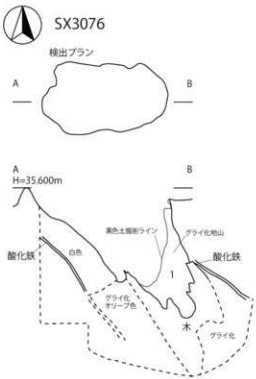
第110図　SX136・156・2010性格不明遺構

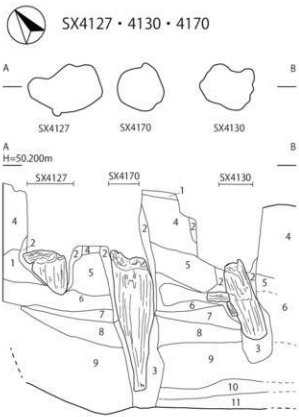


A-B断面
1 オリーブ褐色（7.5Y4/6）砂　しまり強　粘性弱
　炭化物0.1～0.5cmを粒状に10%、鉄分で赤くなった土を斑状に30%含む
2 黒褐色（2.5Y3/2）砂　しまり強　粘性弱
　地山土0.1～1cmを粒状に15%、炭化物0.1～1cmを粒状に10%、
　鉄分で赤くなった土を斑状に20%、白色粗粒砂0.05cmを粒状に3%含む
3 暗灰黄色（2.5Y4/2）砂　しまり強　粘性弱
　炭化物0.1～0.2cmを粒状に3%、鉄分で赤くなった土を斑状に30%含む
4 黒褐色（10YR3/1）粘質シルト　しまり弱　粘性強
　炭化材、板状木片（どちらもくずれたような状態）を含む層。
　炭化物0.1～2cmを粒状に30%、鉄分で赤くなった土を斑状に15%含む　5層由来の土か
5 黒褐色（10YR2/2）砂　しまり強　粘性やや弱
　地山土を粒状に10%、炭化物0.5～1cmを粒状に5%、鉄分で赤くなった土を斑状に30%含む
6 黒褐色（10YR3/2）砂質シルト　しまり中　粘性やや弱
　炭化物0.1～0.5cmを粒状に3%、鉄分で赤くなった土を斑状に30%含む

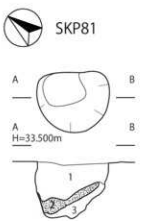
C-D断面
1 黒色（10YR1.7/1）砂質シルト　しまりやや弱　粘性弱
　炭化物0.5cmを粒状に3%含む
2 赤色（10YR5/8）焼土　しまり強　粘性弱
3 黒色（10YR1.7/1）砂質シルト　しまり中　粘性弱
　炭化物0.5cmを粒状に5%含む
4 黒色（2.5Y2/1）砂　しまりやや弱　粘性弱
　炭化物1cm以上を全体に90%含む
5 黒色（10YR1.7/1）シルト　しまり中　粘性やや弱
　炭化物0.1～0.5cmを粒状に1%、鉄分で赤くなった土を斑状に10%含む

第111図　SX3017性格不明遺構

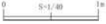




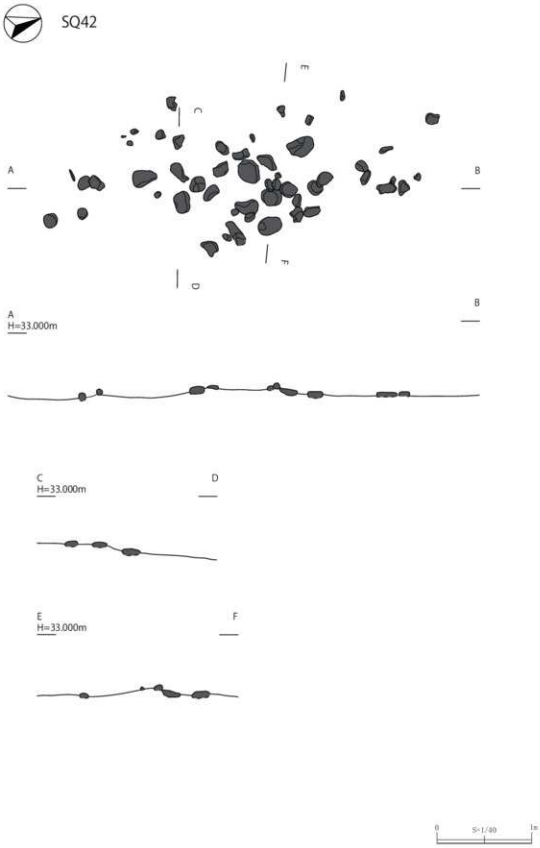
1 黒褐色 (10YR2/2) シルト しまり中 粘性中
基本土層層Ⅲ・Ⅳ層流出後に堆積。Ⅲ・Ⅳ層より黒みが強い。
2 オリーブ黄色 (5Y6/3) 砂 しまり中 粘性弱
明赤褐色 (5YR5/8) 砂で縁取られる 木の水分により変色したと考えられる。
3 オリーブ黄色 (10Y5/2) 砂 しまり中 粘性弱
明赤褐色 (5YR5/8) 砂で縁取られる 木の水分により変色。2層よりグライ化が進んだと考えられる。
4 浅黄橙色 (10YR8/4) 砂 しまり強 粘性弱
礫 0.1 ～ 1cm を粒状に 3% 含む 基本土層Ⅵ層
5 褐色 (7.5YR4/6) 砂 しまり強 粘性弱
礫 0.1 ～ 10cm を粒状に 40% 含む 砂の粒子は粗い。湧水層。
6 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂 しまり強 粘性弱
砂の粒子は細かい。
7 浅黄色 (2.5Y7/3) 砂 しまり強 粘性弱
赤褐色 (5YR4/8) 砂を帯状に 20%、明赤褐色 (5YR5/8) 砂を帯状に 10% 含む
浅黄砂、赤褐色砂、明赤褐色砂はラミナ状に堆積しており、右側（南側）に向かってすぼまる。
8 明褐色 (7.5YR5/6) 砂 しまり強 粘性弱 粒子は細かい。
9 褐色 (7.5YR4/6) 砂 しまり強 粘性弱
礫 0.1 ～ 40cm を粒状に 50% 含む 礫層、礫層は崩落が悪い。下層に大きい礫が堆積するわけでもなく、上層に小さな礫が堆積するわけでもない。地層が層が。
10 にぶい黄橙色 (10YR6/4) しまり強 粘性強
11 灰黄褐色 (10YR6/2) しまり強 粘性強



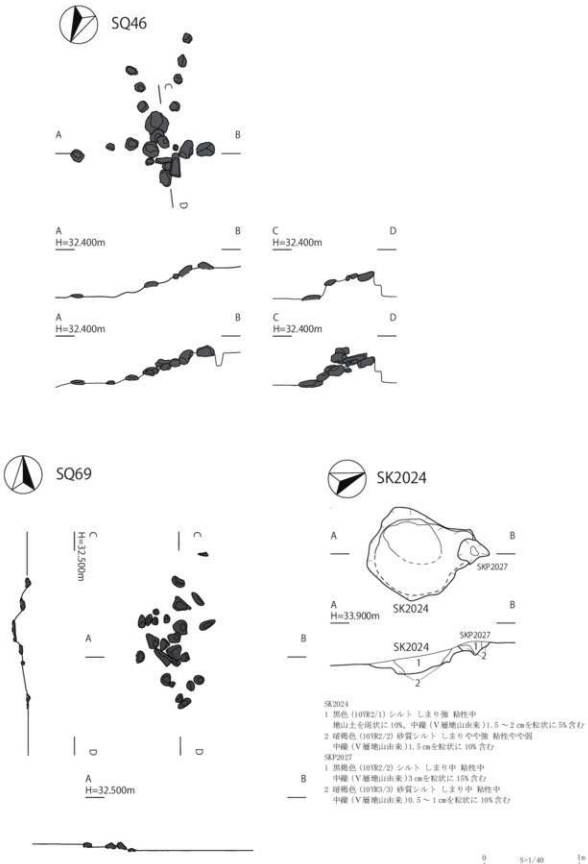
1 黒色 (10YR4/6) シルト しまり中 粘性中
褐色 (10YR4/6) 砂質シルト（地山由来）をブロック状に 40% （Ⅴ層を含む）投げ入れ土)、焼化物を粒状に 5%、褐色 (7.5YR4/6) 焼土を粒状に 5% 含む
2 明赤褐色 (5YR5/8) 焼土 しまり中 粘性弱
焼化物を斑状に 10% 含む 地山褐色砂が熱を受けて赤化した物。現地性焼土。
3 黒褐色 (5YR2/1) シルト しまり弱 粘性弱
地山由来黄褐色土をブロック状に含む
微細な焼化物が焼土に混ざる



第112図　SX3076・4127・4130・4170性格不明遺構、SKP81柱穴様ピット



第113図　SQ42配石遺構



第114図　SQ46・69配石遺構、SK2024土坑

第２表　柱穴様ピット一覧表（１）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)	重複（旧→新）	遺物	備考
SKP10	LO61	Ⅲａ	円形	0.36	0.37	0.14	33.450			
SKP18	LM62	Ⅲａ	円形	0.33	0.32	0.29	33.260			
SKP19	LM62	Ⅲａ	円形	0.55	0.46	0.40	33.160			
SKP39	LR48	ST252 Ⅱ層	円形	0.19	0.18	—	—			
SKP51	KR61	C Ⅵ	円形	0.19	0.18	0.14	32.320			
SKP52	KR61	C Ⅵ	円形	0.19	0.18	0.06	32.430			
SKP54	KS61	C Ⅵ	円形	0.19	0.18	0.05	32.400			
SKP56	LR56	Ⅲｂ	円形	0.38	0.24	0.27	34.270		縄文土器片	
SKP57	KR61	C Ⅵ	円形	0.19	0.17	0.10	32.260			
SKP58	KS61	C Ⅵ	不整形	0.17	0.15	0.06	32.360			
SKP62	KH56	C Ⅲａ～ｂ	不整形	0.28	0.26	0.32	30.380			
SKP65	KK57	C Ⅲａ～ｂ	不整形	0.54	0.41	0.32	31.600		縄文土器片	
SKP70	LS53-54	Ⅴ	円形	0.46	0.42	0.29	36.250		縄文土器片	
SKP72	LP60	Ⅴ	楕円形	0.52	0.44	0.25	33.190			
SKP73	LP60	Ⅴ	円形	0.34	0.30	0.25	36.670			
SKP74	LO60	Ⅴ	円形	0.30	0.29	0.50	32.940			
SKP76	LL62	Ⅴ	円形？	0.28	0.28	0.80	33.260	SKP76 → SKP77		
SKP77	LL-LM62	Ⅴ	楕円形	0.53	0.39	0.28	33.090	SKP76 → SKP77	縄文土器片	
SKP78	LL-LM62	Ⅴ	円形	0.33	0.27	0.34	32.740		三角形土製品（D類）	
SKP80	LP60	Ⅴ	楕円形	0.32	0.26	0.19	33.250		縄文土器片	
SKP81	LP61	Ⅴ	円形	0.77	0.64	0.60	32.650			
SKP82	LO61	Ⅴ	楕円形	0.57	0.39	0.22	33.200		縄文土器片	
SKP84	LO60	Ⅴ	楕円形	0.51	0.37	0.28	33.120			
SKP86	LO60	Ⅴ	円形	0.21	0.20	0.20	33.200			
SKP87	LO60	Ⅴ	楕円形	0.32	0.30	0.20	33.180			
SKP89	LN61	Ⅴ	楕円形	0.52	0.43	0.20	33.160			
SKP90	LQ58	Ⅴ	楕円形	0.36	0.26	0.22	33.540			
SKP93	KC51	C Ⅵ	円形	0.27	0.24	0.21	30.070			
SKP97	KB47	C Ⅵ	楕円形	0.36	0.31	0.23	28.720			
SKP102	KA48	C Ⅵ	円形	0.40	0.39	0.19	28.790			
SKP103	KA47	C Ⅵ	不整形	0.51	0.39	0.29	28.190			
SKP104	KB50	C Ⅵ	円形	0.27	0.22	0.19	29.610			
SKP107	KB50	C Ⅵ	円形？	0.38	0.34	0.14	29.870		剥片類	
SKP116	KA46	C Ⅵ	円形	0.29	0.25	0.23	28.150		縄文土器片、剥片類	
SKP117	KA46	C Ⅵ	楕円形	0.22	0.19	0.19	27.860			
SKP118	KA46	C Ⅵ	円形	0.22	0.20	0.16	27.550			
SKP119	KA46	C Ⅵ	楕円形	0.22	0.19	0.10	27.470			
SKP120	KA46	C Ⅵ	円形	0.18	0.17	0.18	27.460			
SKP122	JT46	C Ⅵ	楕円形	0.23	0.19	0.10	27.090			
SKP133	KB50	C Ⅵ	円形	0.27	0.24	0.26	29.650	SKP133 → SKP134	縄文土器片	
SKP134	KB50	C Ⅵ	円形	0.29	0.27	0.26	29.630	SKP133 → SKP134		
SKP140	KB50	C Ⅵ	円形	0.27	0.22	0.21	29.370			
SKP141	KB50	C Ⅵ	円形	0.25	0.21	0.11	29.470			
SKP142	KB51	C Ⅵ	円形	0.25	0.24	0.22	29.970			
SKP145	KC51	C Ⅵ	円形	0.27	0.26	0.20	30.190			
SKP150	KJ57	C Ⅵ	円形	0.48	0.45	0.08	31.440		縄文土器片（A4類）	
SKP152	KL58	SI214	円形	0.35	0.30	0.17	31.380			SI214柱穴
SKP153	KK58	SI214	円形	0.38	0.31	0.20	31.230	SKP153 → SKP154		SI214柱穴
SKP154	KK58	SI214	円形	0.28	0.24	0.15	31.270	SKP153 → SKP154		SI214柱穴

第３表　柱穴様ピット一覧表（２）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	底面標高 (m)	重複（目→新）	遺物	備考
SKP155	KX58	SI214	円形	0.25	0.23	0.30	31.190			SI214 柱穴
SKP158	LM62	V	楕円形	0.37	0.24	0.16	33.260		縄文土器片	
SKP160	LQ・LR59	V	円形	0.36	0.32	0.52	33.350		縄文土器片	
SKP161	LT48	Ⅲａ	楕円形	0.26	0.18	0.16	33.580		縄文土器片	
SKP167	MA52	ST252 Ⅱ	円形	0.32	0.30	0.10	37.420		縄文土器片	
SKP170	MA50	ST252 Ⅱ	楕円形	0.42	0.32	0.20	36.430		縄文土器片	
SKP172	LK62	V	円形	0.36	0.27	0.16	33.140		縄文土器片、磨製石製品	
SKP173	LT48	ST252 Ⅱ	円形	0.32	0.28	0.28	33.850			
SKP175	LS49	ST252 Ⅱ	不整形	0.94	0.74	0.37	34.920		縄文土器片（A4 類、D 類）、スクレイパー（E5 類）、剥片類	
SKP176	LS50	ST252 Ⅱ	円形	0.26	0.26	0.12	35.900		縄文土器片、剥片類	
SKP177	MA50	ST252 Ⅱ	円形	0.30	0.28	0.12	36.140		縄文土器片、剥片類	
SKP178	MA50	ST252 Ⅱ	楕円形	0.30	0.22	0.13	36.030		縄文土器片、剥片類	
SKP179	MA51	ST252 Ⅱ	不整形	1.02	0.74	0.16	36.880		縄文土器片、剥片類	
SKP180	MA50	ST252 Ⅱ	楕円形	0.24	0.22	0.16	36.270		剥片類	
SKP181	LM62	V	楕円形	0.24	0.16	0.23	33.130	SKP181 →SKP184	縄文土器片	
SKP182	LO・LP60	V	楕円形	0.42	0.31	0.40	33.160			
SKP184	LM62	V	円形？	0.28	0.19	0.10	33.220	SKP181 →SKP184		
SKP189	LM62	V	円形	0.62	0.54	0.15	33.240		剥片類	
SKP190	LK63	Ⅳ	円形	0.47	0.43	0.25	32.950			
SKP191	LK63	Ⅳ	円形	0.37	0.35	0.19	32.990		縄文土器片	
SKP192	LK・LT63	Ⅳ	円形	0.36	0.35	0.31	32.800			
SKP194	LT50	ST252 Ⅱ	楕円形	0.31	0.24	0.08	35.960		縄文土器片、剥片類	
SKP195	LS・LT50	ST252 Ⅱ	楕円形	0.45	0.36	0.16	35.890		縄文土器片、剥片類	
SKP200	LR53	V	楕円形	0.48	0.37	0.55	36.240		縄文土器片、剥片類	
SKP201	LR53	V	楕円形	0.56	0.43	0.26	36.610		縄文土器片（A4 類）、剥片類	
SKP202	LS53	V	楕円形	0.71	0.63	0.28	36.580		縄文土器片、剥片類	
SKP204	LR・LS53	V	楕円形	0.72	0.42	0.24	36.490		縄文土器片（A1 類）、剥片類	
SKP205	LS54	V	楕円形	0.44	0.31	0.10	36.660		縄文土器片	
SKP206	LS54	V	楕円形	0.56	0.42	0.15	36.740		縄文土器片、剥片類	
SKP208	MA53	ST252 Ⅰ	楕円形	0.54	0.44	0.18	37.320		縄文土器片（D 類）、剥片類	
SKP216	KL59	SI214 床面	円形	0.25	0.20	0.08	31.470			SI214 柱穴
SKP222	LT51	ST252 Ⅱ	円形	0.32	0.26	0.10	36.460			
SKP223	LT51	ST252 Ⅱ	円形	0.16	0.14	0.08	36.650			
SKP226	MA54	ST252 Ⅱ	楕円形	0.28	0.23	0.10	37.080		剥片類	
SKP227	LT55	ST252 Ⅱ	楕円形？	0.47	0.41	0.11	37.070		縄文土器片	
SKP229	LT52	SI390 床面	楕円形	0.45	0.30	0.45	36.590		縄文土器片（A5 類）、剥片類	SI390 柱穴
SKP232	LR54	ST252 Ⅱ	円形	0.37	0.25	0.27	35.460		縄文土器片	
SKP234	LR55	V	楕円形	0.60	0.47	0.72	34.440		縄文土器片（A5 類）	
SKP235	LR54	ST252 Ⅱ	楕円形	0.47	0.46	0.54	35.060		縄文土器片（A6 類）、石棒（C 類）、剥片類	
SKP240	LR56	V	円形	0.34	0.24	0.41	34.270		縄文土器片、剥片類	
SKP243	KL58	SI214	円形	0.26	0.22	0.10	31.440			SI214 柱穴
SKP245	KL59	SI214	円形	0.25	0.23	0.28	31.480			SI214 柱穴
SKP251	LT53	V	円形	0.57	0.51	0.08	36.890			
SKP267	LQ57	V	円形	0.54	0.50	0.65	33.230		縄文土器片、磨製石斧（G2 類）、石皿（A2 類）、剥片類	
SKP268	LQ57	V	円形	0.67	0.58	0.91	33.020		縄文土器片、ミニチュア土器、剥片類	
SKP271	LR58	V	円形	0.34	0.29	0.65	33.240		縄文土器片、剥片類	
SKP272	LS56	V	楕円形	0.47	0.40	0.27	34.870		縄文土器片、剥片類	SB4190

第４表　柱穴様ピット一覧表（３）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)	重複（旧→新）	遺物	備考
SKP274	LE58	V	楕円形	0.73	0.60	0.55	33.410		縄文土器片、剥片類	
SKP275	LQ59	V	円形	0.33	0.32	0.27	33.490			
SKP276	LE57	V	楕円形	0.67	0.41	0.71	33.910	SKP277→SKP276	縄文土器片（D類）、剥片類	
SKP277	LE57	V	楕円形	0.64	0.55	0.19	34.220	SKP277→SKP276	縄文土器片	
SKP278	LE57	V	円形	0.55	0.52	0.27	34.020		縄文土器片（A8類）、スクレイパー（E5類）、磨製石斧（G3類）	
SKP279	LE66	V	円形	0.21	0.20	0.10	33.100			
SKP280	LE66	V	円形	0.18	0.18	0.18	33.010		縄文土器片（A6類）	
SKP281	LF65	ST247	円形	0.26	0.25	0.08	33.140			
SKP282	LF65	ST247	円形	0.27	0.26	0.10	33.130			
SKP284	LE65	V	円形	0.23	0.22	0.20	32.990			
SKP288	LE64	SI286 床面	楕円形	0.24	0.10	0.10	33.120			SI286 柱穴
SKP289	LE64	SI286 床面	楕円形	0.58	0.25	0.22	33.030	SKP289→SI286		SI286 柱穴
SKP291	LS56	V	円形	0.56	0.55	0.34	34.400		縄文土器片、剥片類	
SKP292	LE58	V	円形	0.89	0.71	0.88	33.160		縄文土器片、剥片類	
SKP293	LE57	V	楕円形	0.61	0.49	0.65	33.500		縄文土器片、剥片類	
SKP294	LH64	V	円形	0.52	0.38	0.47	32.910		縄文土器片（A3類）、剥片類	
SKP295	LH64	V	円形	0.26	0.24	0.20	33.120		縄文土器片	
SKP296	LJ64	V	円形	0.42	0.41	0.72	32.680		縄文土器片、剥片類	
SKP298	LJ64	V	円形	0.41	0.38	0.62	32.590		縄文土器片	SB4187
SKP299	LI64	V	円形	0.41	0.36	0.52	32.820	SKP299→SKP609	剥片類	
SKP300	LJ64	V	円形	0.36	0.31	0.69	32.600		剥片類	
SKP301	LE57	V	楕円形	0.32	0.30	0.33	33.860			
SKP302	LE56	V	円形	0.62	0.60	0.66	33.900	SKP366→SKP302	縄文土器片	SB4190
SKP303	LE57	V	楕円形	0.94	0.59	0.62	33.720		縄文土器片、敲石（A類）、磨製石斧（G2類）、剥片類	
SKP304	LE57・58	V	楕円形	0.49	0.20	0.50	33.590		縄文土器片	
SKP305	LS57	V	円形	0.67	0.57	0.68	33.960		縄文土器片	
SKP306	LQ57	V	楕円形	0.57	0.41	0.77	33.080		縄文土器片（D類）、石核、剥片類	
SKP314	LF66	ST247-2	－	－	－	0.27	32.960		縄文土器片、剥片類	
SKP316	LE57・58	V	円形	0.37	0.30	0.79	33.290		縄文土器片、剥片類	
SKP317	LE66	SI638	－	－	－	0.16	32.310			SI638 柱穴
SKP318	LE66	SI638	楕円形	－	－	0.18	32.320			SI638 柱穴
SKP319	LE66	SI638	円形	0.36	0.29	－	－			SI638 柱穴
SKP323	LE64	V	円形	0.26	0.24	0.18	32.940			
SKP327	LF64	V	楕円形	0.25	0.24	0.12	32.900			
SKP328	LF64	V	円形	0.30	0.28	0.14	32.880			
SKP329	LF64	V	円形	0.39	0.36	0.14	32.880		縄文土器片	
SKP330	LF64	V	円形	0.30	0.25	0.22	32.780			
SKP331	LE64	V	円形	0.29	0.27	0.31	32.500			
SKP332	LE56	V	円形	0.47	0.35	0.67	34.180		縄文土器片、スクレイパー（E3類）、剥片類	
SKP333	LE56・57	V	円形？	1.06	0.79	0.62	33.880		縄文土器片（B6類）、剥片類	
SKP334	LQ57	Ⅳ	楕円形	0.60	0.45	0.35	33.740		縄文土器片	
SKP335	LJ63	V	楕円形	0.95	0.49	0.43	32.720		縄文土器片、剥片類	
SKP338	LJ63	V	円形	0.44	0.36	0.36	32.770		縄文土器片	SB4189
SKP339	LJ63	V	円形	0.40	0.37	0.70	32.440		縄文土器片、剥片類	SB4188
SKP340	LE64	V	円形	0.47	0.42	0.24	32.990			
SKP341	LE64	V	円形	0.31	0.30	0.27	32.830			SI286 柱穴
SKP342	LE64	V	円形	0.42	0.39	0.35	32.850			

第５表　柱穴様ピット一覧表（４）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	底面標高 (m)	重複 （目→新）	遺物	備考
SKP345	LF65	V	円形	0.38	0.33	0.37	32.660			
SKP346	LF65	V	楕円形	0.38	0.30	0.34	32.670			
SKP347	LF64	SI325	円形	0.60	0.47	0.44	32.590		縄文土器片	SI325 柱穴
SKP348	LF64	SI325	円形	0.24	0.22	0.18	32.830			SI325 柱穴
SKP349	LF64	SI325	円形	0.29	0.28	0.18	32.770			SI325 柱穴
SKP351	LS56	V	楕円形	0.49	0.41	0.57	34.500		縄文土器片	
SKP353	LR56	V	円形	0.29	0.28	0.53	34.060		縄文土器片、剥片類	SB4190
SKP354	LR57	V	楕円形	1.16	0.73	0.30	33.820		縄文土器片、剥片類	
SKP355	LR58	V	円形	0.46	0.44	0.69	33.260		縄文土器片、ミニチュア土器	
SKP356	LE64	SI325	円形	0.38	0.33	0.35	32.650			SI325 柱穴
SKP357	LE64	SI286	楕円形	0.28	0.25	0.29	32.750			SI286 柱穴
SKP359	LE64	SI286	円形	0.28	0.26	0.34	32.730			SI286 柱穴
SKP366	LR56	V	円形	0.27	0.25	0.36	34.100	SKP366 → SKP302		
SKP367	LE64	SI286	円形	0.23	0.21	0.21	32.940			SI286 柱穴
SKP368	LE64	SI286	円形	0.31	0.25	0.20	32.900			SI286 柱穴
SKP369	LD64	SI286	円形	0.27	0.25	0.28	32.830			SI286 柱穴
SKP370	LJ64	V	円形	0.38	0.36	0.32	32.890		縄文土器片、剥片類	
SKP371	LJ63	V	円形	0.87	0.84	0.70	32.420		縄文土器片、剥片類	
SKP372	LJ64	V	円形	0.25	0.20	0.44	32.780			
SKP373	LJ64	V	円形	0.54	0.39	0.45	32.750		縄文土器片、石錘（A1 類）、石匙（A1 類）	
SKP374	LE･LF63	V	円形	0.24	0.20	0.21	32.790			SI325 柱穴
SKP376	LT52	SI390	円形	0.49	0.42	0.14	36.740		縄文土器片、剥片類	SI390 柱穴
SKP378	MA54	ST252 Ⅰ	円形	0.29	0.28	0.06	36.200		縄文土器片、剥片類	
SKP380	LQ57･56	V	楕円形	0.59	0.38	0.51	33.680		縄文土器片、剥片類	
SKP381	LR57	V	楕円形	0.74	0.74	0.28	33.880		縄文土器片、剥片類	
SKP382	LT54	ST252 Ⅱ	楕円形	0.68	0.48	0.13	36.420		縄文土器片、剥片類	
SKP383	LT54	ST252 Ⅱ	楕円形	0.65	0.53	0.10	36.200		縄文土器片	
SKP385	LS53	ST252 Ⅱ	円形	0.43	0.42	0.16	33.540		縄文土器片、剥片類	
SKP396	LR55	V	円形	0.25	0.23	0.17	35.070		縄文土器片、剥片類	
SKP399	LT52	SI390	楕円形	0.49	0.40	0.24	36.760		縄文土器片、剥片類	SI390 柱穴
SKP400	LR56･55	V	円形	0.44	0.41	0.59	34.230		縄文土器片、剥片類	
SKP401	LS･LR55	V	円形	0.25	0.25	0.27	34.960		縄文土器片	
SKP402	LS55	V	円形	0.34	0.30	0.50	34.970			
SKP403	LR55	V	楕円形	0.68	0.62	0.59	34.680	SKP416 → SKP403	縄文土器片、石錘（B1 類）、石棒（C 類）	
SKP405	LS55	V	円形	0.23	0.27	0.10	35.270	SKP405 → SKP406		
SKP406	LS55	V	円形	0.44	0.35	0.34	35.050	SKP405 → SKP406	縄文土器片	
SKP407	LR55	V	楕円形	0.49	0.42	0.67	34.430		縄文土器片、剥片類	
SKP408	LR55･56	V	楕円形	0.45	0.41	0.48	34.360	SKP618 → SKP408	縄文土器片	
SKP409	LR55	V	楕円形	0.51	0.43	0.48	34.620		縄文土器片、剥片類	
SKP410	LS55	V	楕円形	0.70	0.37	0.42	35.090		縄文土器片、剥片類	
SKP412	LR55･56	V	楕円形	0.29	0.21	0.38	34.880		縄文土器片	
SKP414	LT52	SI390	円形	0.30	0.30	0.42	36.560		縄文土器片（B2 類）、剥片類	SI390 柱穴か
SKP415	LS55	V	楕円形	0.98	0.37	0.60	34.940		縄文土器片、剥片類	
SKP416	LR55	V	円形	0.30	0.29	0.44	34.820	SKP416 → SKP403	縄文土器片、剥片類	
SKP417	LS53	ST252 Ⅱ	円形	0.27	0.25	0.29	36.460	SKP435 → SKP417		
SKP419	LR54	ST252 Ⅱ	円形	0.41	0.36	0.48	35.360		縄文土器片	
SKP420	LS55	V	円形	0.32	0.31	0.32	35.180		縄文土器片	
SKP421	LS53･54	V	円形	0.44	0.42	0.67	35.690			
SKP423	LS53･54	V	楕円形	0.44	0.31	0.48	35.800	SKP428 → SKP423		

第６表　柱穴様ピット一覧表（５）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)	重複（旧→新）	遺物	備考
SKP424	LJ64	V	楕円形	0.54	0.41	0.60	32.600		縄文土器片、剥片類	SB4187
SKP425	LI64	V	円形	0.52	0.50	0.72	32.520	SKP639 → SKP425	縄文土器片、剥片類	SB4188
SKP426	LI63	V	楕円形	0.64	0.52	0.80	32.400	SKP432 → SKP426	縄文土器片、ミニチュア土器、剥片類	SB4188
SKP428	LS53	V	楕円形	0.36	0.09	0.28	36.200	SKP428 → SKP423		
SKP429	LR55	V	楕円形	0.35	0.28	0.43	34.580		縄文土器片、剥片類	
SKP430	LS55	V	―	―	―	―	―		スクレイパー（E5類）、剥片類	詳細な検出地点、形状不明。
SKP432	LI63	V	楕円形	0.43	0.43	0.39	32.840	SKP432 → SKP426	縄文土器片、剥片類	SB4189
SKP433	LJ63	V	円形	0.47	0.45	0.44	32.760		縄文土器片、剥片類	SB4189
SKP434	LJ63･64	V	円形	0.28	0.26	0.47	32.750		縄文土器片	SB4188
SKP435	LS53	ST252 Ⅱ	円形	0.28	0.21	0.55	36.200		縄文土器片、剥片類	
SKP436	LT53	ST252 Ⅱ	楕円形	0.36	0.24	0.30	36.550		縄文土器片	
SKP437	LR55	V	楕円形	0.40	0.38	0.16	35.070		縄文土器片	
SKP438	LT52	ST252 Ⅱ	楕円形？	0.43	0.42	0.65	36.340		縄文土器片、両面調整石器、剥片類	
SKP439	LJ64	V	楕円形	0.40	0.35	0.61	32.640		縄文土器片、剥片類	
SKP440	LI64	V	楕円形	0.68	0.50	0.50	32.940		縄文土器片、剥片類	SB4187
SKP441	LS53	ST252 Ⅱ	円形	0.32	0.15	0.26	36.480	SKP441 → SKP435	縄文土器片	
SKP442	LI63	V	楕円形	0.44	0.36	0.60	32.610		縄文土器片、穿孔礫（A1類）	
SKP445	LR53	ST252 Ⅱ	円形？	0.53	0.20	0.39	36.300	S1572 → SKP445	縄文土器片（A4類）、剥片類	
SKP447	LT53	ST252 Ⅱ	円形	0.22	0.21	0.65	36.170	SKP448 → SKP447 → SK524	縄文土器片（B4類）	
SKP448	LT53	ST252 Ⅱ	不明	0.26	0.14	0.68	36.140	SKP448 → SK446･SKP447		
SKP459	LT51	ST252 Ⅱ	楕円形	0.39	0.33	0.56	36.250		縄文土器片	
SKP461	LS52	SI460	円形	0.32	0.30	0.18	36.130			SI460 柱穴
SKP463	LS52	SI460	円形	0.34	0.31	0.57	35.890	SKP546 → SKP463		SI460 柱穴
SKP464	MA52	V	円形	0.32	0.30	0.14	36.740			
SKP465	LS49	ST252 Ⅱ	楕円形	0.58	0.39	0.51	33.710		縄文土器片	
SKP466	LT52	SI390	円形	0.17	0.16	0.25	36.400		縄文土器片	SI390 柱穴か
SKP467	LT51	SI390 床面	円形	0.41	0.27	0.73	36.260		縄文土器片	SI390 柱穴か
SKP468	LS55	ST252 Ⅱ	円形	0.30	0.29	0.32	35.540		縄文土器片、剥片類	
SKP471	LT52	SI390	楕円形	0.42	0.41	0.22	36.780		縄文土器片（A3類）、剥片類	SI390 柱穴
SKP472	LT55	V	楕円形	0.44	0.33	0.47	35.380		縄文土器片	
SKP473	LR55	V	円形	0.45	0.40	0.65	34.540		縄文土器片、剥片類	
SKP474	LR54	V	楕円形	0.30	0.25	0.17	35.460			
SKP476	LR53	V	円形	0.38	0.35	0.52	35.820		縄文土器片	
SKP477	LR53	V	円形	0.37	0.33	0.65	35.550		縄文土器片、剥片類	
SKP478	LS55	V	円形	0.28	0.24	0.14	35.180		縄文土器片	
SKP479	LT53	ST252 Ⅱ	円形	0.30	0.27	0.11	36.690			
SKP480	LT53	ST252 Ⅱ	円形	0.33	0.31	0.18	36.620			
SKP482	LS55･54	V	円形	0.40	0.34	0.19	35.610		縄文土器片、石鏃（A2類）	
SKP484	LS54	ST252 Ⅱ	円形	0.27	0.24	0.39	36.060			
SKP486	LT53	ST252 Ⅱ	円形	0.30	0.29	0.29	36.520			
SKP491	LJ63	V	楕円形	0.39	0.29	0.59	32.560	SKP497 → 491	縄文土器片、剥片類	
SKP493	LR55	V	円形	0.60	0.58	0.68	34.480	SKP493 → SKP494		
SKP494	LR55	V	円形	0.35	0.33	0.22	34.930	SKP493 → SKP494		
SKP495	LI64	V	円形	0.29	0.28	0.24	34.940		縄文土器片、石鏃（D1類）、剥片類	
SKP497	LJ63	V	円形	0.40	0.20	0.20	32.960	SKP497 → SKP491	縄文土器片、剥片類	
SKP500	LF63	SI325	円形	0.30	0.26	0.23	33.580			SI325 柱穴
SKP501	LF63	SI325	円形	0.20	0.20	0.16	33.640			SI325 柱穴
SKP503	LS54	SI475	円形	0.28	0.27	0.18	35.800			SI475 柱穴
SKP504	LS52	ST252 Ⅱ	円形	0.25	0.23	0.30	36.020			

第７表　柱穴様ピット一覧表（６）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)	重複（目→新）	遺物	備考
SKP505	LR54	V	円形	0.39	0.36	0.32	34.980		縄文土器片（D類）、石皿（B1類）、剥片類	
SKP506	LR53	V	円形	0.27	0.22	0.30	36.010			
SKP509	LS51	V	楕円形	0.50	0.35	0.41	35.910		剥片類	
SKP510	LR55	V	楕円形	0.50	0.47	0.44	34.500		縄文土器片、スクレイパー（E1類）	
SKP511	LS54	V	円形	0.25	0.24	0.50	35.420			
SKP512	LR53	V	円形	0.60	0.55	0.29	35.920		縄文土器片（B5類）	
SKP514	LS53	V	楕円形	0.35	0.26	0.59	35.570			
SKP516	LR54	V	円形	0.30	0.25	0.28	35.680			
SKP517	LR54	V	円形	0.38	0.34	0.30	35.740			
SKP518	LT54	V	円形	0.54	0.22	0.45	35.980	SX470 → SKP518		
SKP519	LS52	V	円形	0.36	0.30	0.26	35.950	SKP519 → SN623		
SKP521	LT51	ST252 Ⅳ下	円形	0.26	0.26	0.15	36.020		縄文土器片	
SKP523	LS52	SI460	円形	0.20	0.20	0.14	36.150		縄文土器片	SI460 柱穴
SKP527	LS53	V	円形	0.31	0.27	0.42	36.750			
SKP530	LT51	ST252 Ⅱ	円形	0.32	0.26	0.37	36.170		縄文土器片、剥片類	
SKP539	LS53	ST252 Ⅱ	楕円形	0.25	0.27	0.22	36.410			
SKP541	LS52	SI460 床面	楕円形	0.57	0.52	0.26	36.030			SI460 柱穴
SKP542	LS52	V	楕円形	0.43	0.25	0.57	35.660		縄文土器片	
SKP543	LS52	V	円形	0.30	0.30	0.64	35.580			
SKP544	LT53	V	楕円形	0.43	0.37	0.52	36.270		剥片類	
SKP545	LR54	ST252 Ⅱ	楕円形	0.32	0.28	0.38	32.680			
SKP546	LS52	SI460	楕円形か	0.16	0.27	0.08	36.220	SKP546 → SKP463		SI460 柱穴　縁辺赤化
SKP547	LT53	V	円形	0.32	0.28	0.38	36.420		剥片類	
SKP548	LT53	V	円形	0.39	0.33	0.55	36.260		縄文土器片（B4類）	
SKP550	LS53	V	円形	0.37	0.36	0.78	35.420			
SKP552	LS53	V	楕円形	0.37	0.30	0.07	36.120			
SKP553	MA54	V	円形	0.51	0.50	0.82	35.370			
SKP555	LS53	V	円形	0.35	0.34	0.11	36.100		縄文土器片、両極石器、剥片類	
SKP556	LS52	V	円形	0.43	0.36	0.54	35.760		縄文土器片、剥片類	
SKP558	LS52	ST252 Ⅱ	円形	0.19	0.25	0.46	36.130	SI460 → SKP558	縄文土器片	
SKP561	LS55	V	円形	0.44	0.31	0.47	34.760		縄文土器片、剥片類	
SKP562	LS55	V	円形	0.32	0.30	0.63	34.710		縄文土器片	
SKP565	LS53	V	円形	0.26	0.26	0.53	35.660			
SKP568	LS54	SI475	楕円形	0.50	0.38	0.12	35.850		縄文土器片	SI475 内
SKP569	LS54	SI475	円形	0.26	0.21	0.12	35.910			SI475 内
SKP574	LS52	SI460	円形	0.35	0.35	0.24	36.040			SI460 柱穴
SKP575	LS54	SI475	楕円形	0.56	0.33	0.46	35.580			SI475 柱穴
SKP577	LS54	SI475	円形	0.25	0.15	0.05	35.960		縄文土器片、両面調整石器	SI475 柱穴
SKP578	LS53	SI567	円形	0.39	0.34	0.16	36.660		縄文土器片	SI567 柱穴
SKP579	LS53	SI567	円形	0.24	0.23	0.25	36.570		縄文土器片、剥片類	SI567 柱穴
SKP582	LS54	ST252 Ⅱ	円形	0.34	0.33	0.15	35.880			
SKP583	LT54	V	円形	0.39	0.37	0.05	36.160		縄文土器片（A2類）、剥片類	
SKP584	LS50	V	円形	0.28	0.27	0.20	35.790		縄文土器片	
SKP588	LT53	V	楕円形	0.47	0.31	0.56	36.190		縄文土器片、スクレイパー（E5類）、石核、剥片類	
SKP593	LS52	SI460	楕円形	0.39	0.35	0.08	36.400			SI460 柱穴
SKP595	LR・LS52	SI460	楕円形	0.53	0.32	0.10	36.210			SI460 柱穴
SKP597	LT・LS52	V	円形	0.29	0.25	0.45	35.800		縄文土器片	
SKP598	LS54	V	楕円形	0.35	0.27	0.09	36.260			

第８表　柱穴様ピット一覧表（７）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)	重複（旧→新）	遺物	備考
SKP599	LT54	V	円形	0.37	0.24	0.53	35.880			
SKP602	LS54	V	円形	0.29	0.30	0.70	35.640			
SKP603	LS54	V	円形	0.23	0.22	0.20	36.140		縄文土器片	
SKP604	LI63	V	円形	0.25	0.24	0.18	33.010		縄文土器片	
SKP605	LI64	V	円形	0.29	0.26	0.21	33.030			
SKP606	LI64	V	楕円形	0.53	0.32	0.48	32.730		石核	
SKP607	LI64	V	円形	0.43	0.39	0.60	32.590		縄文土器片、剥片類	SB4187
SKP609	LI64	V	円形	0.56	0.54	0.52	32.840	SKP299 → SKP609		
SKP611	LF64	SI325 床面	楕円形	0.42	0.37	0.21	32.750			SI325 柱穴
SKP621	LS52	V	円形	0.46	0.30	0.14	35.160	SKP621 → SK554		
SKP622	LS53	V	楕円形	1.16	0.67	0.58	35.600	SKP622 → SK551		
SKP624	LF65	V	楕円形	0.64	0.55	—	—			SI404 柱穴
SKP625	LF65	V	楕円形	0.29	0.21	—	—			SI404 内
SKP626	LF65	V	円形	0.26	0.22	—	—			SI404 内
SKP627	LF65	V	楕円形	0.24	0.15	—	—			SI404 柱穴
SKP628	LF65	V	円形	0.27	0.24	—	—			SI404 柱穴
SKP629	LF65	V	楕円形	0.52	0.37	—	—			SI404 柱穴
SKP630	LF65	V	楕円形	0.34	0.19	—	—			SI404 内
SKP631	LF65	V	楕円形	0.27	0.20	—	—			SI404 内
SKP632	LF65	V	円形	0.27	0.25	—	—			SI404 内
SKP634	KC52	SI125	楕円形	0.51	0.43	0.12	30.160			SI125 柱穴
SKP636	LS52	SI460	円形	0.22	0.15	0.36	35.910			SI460 柱穴
SKP639	LI64	V	円形	0.61	0.33	0.38	32.830	SKP639 → SKP425		SB4189
SKP653	LT53	ST252 Ⅱ	楕円形	0.36	0.27	0.49	36.220		縄文土器片	
SKP655	LS52	V	楕円形	0.40	0.37	0.37	35.860	SKP655 → SB654	剥片類	
SKP656	LT53	ST252 Ⅲ	楕円形	0.41	0.33	0.55	36.240		縄文土器片、剥片類	
SKP658	LT52	ST252 Ⅲ	円形か	0.30	0.16	0.14	36.480	SK657 → SKP658		
SKP660	LT51	ST252 Ⅲ	円形	0.33	0.30	0.16	36.360		縄文土器片、剥片類	
SKP661	LT51	ST252 Ⅲ	円形	0.34	0.29	0.21	36.320		剥片類	
SKP663	LT51	ST252 Ⅲ	円形	0.35	0.30	0.11	36.430		縄文土器片	
SKP670	LT53	ST252 Ⅲ	円形	0.28	0.21	0.44	36.250			
SKP671	LT51	ST252 Ⅲ	楕円形	0.24	0.13	0.33	36.170		縄文土器片、剥片類	
SKP672	LT52	ST252 Ⅱ	円形か	0.60	0.18	0.30	36.560		石鏃（A3c イ類）	
SKP676	LS51	ST252 Ⅲ	円形か	0.27	0.10	0.22	36.260			
SKP678	LT52	ST252 Ⅲ	円形か	0.31	0.27	0.23	36.470		縄文土器片、剥片類	
SKP683	MA53	V	円形か	0.37	0.18	0.38	36.130		縄文土器片、剥片類	
SKP687	LT53	ST252 Ⅲ	円形	0.32	0.31	0.26	36.260		縄文土器片（A2 類）	
SKP690	LT53	ST252 Ⅲ	楕円形	0.45	0.30	0.11	36.390		縄文土器片、剥片類	
SKP691	LT52	ST252 Ⅲ	楕円形	0.30	0.23	0.10	36.500		縄文土器片、剥片類	
SKP699	LT52	V	円形	0.32	0.28	0.72	35.750		縄文土器片、剥片	
SKP701	LS51	V	楕円形	0.33	0.26	0.11	36.010			
SKP703	LS50	ST252 Ⅱ	円形か	0.67	0.40	0.09	36.360		縄文土器片	
SKP705	LS51	ST252 Ⅲ	円形	0.31	0.26	0.10	35.940			
SKP708	LS50	ST252 Ⅱ	円形	0.37	0.33	0.19	36.100		縄文土器片	
SKP709	LS51	V	円形	0.32	0.31	0.10	35.900			
SKP751	MA53・52	V		0.46	0.36	0.30	36.220		縄文土器片、両面調整石器、剥片類	
SKP752	LT52	V	円形	0.30	0.28	0.41	36.120		縄文土器片、剥片類	
SKP755	LT52	ST252 Ⅲ	楕円形	0.40	0.32	0.81	35.490		縄文土器片（A4 類）、剥片類	
SKP759	LT53	V	楕円形	0.33	0.24	0.31	35.800		縄文土器（D 類）、両面調整石器	

第９表　柱穴様ピット一覧表（８）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	底面標高 (m)	重複 （旧→新）	遺物	備考
SKP761	MA53	V	円形	0.25	0.23	0.71	35.770			
SKP771	LT53	S1795 床面	円形	0.30	0.28	0.70	35.530		縄文土器片、剥片類	S1795 柱穴
SKP772	LS53	S1795 床面	円形	0.52	0.39	0.97	35.250		剥片類	S1795 柱穴
SKP774	LT51	V	円形	0.27	0.26	0.34	35.840		縄文土器片、剥片類	
SKP779	LT51	V	円形	0.27	0.24	0.07	36.040			
SKP780	LT51	V	円形	0.37	0.35	0.23	35.870		縄文土器片（A2 類）	
SKP781	LT51	V	円形か	0.28	0.13	0.38	35.660			
SKP785	LT51	V	楕円形	0.30	0.22	0.09	36.090	SK783 → SKP782・785		
SKP790	LS52	S1786	円形	0.51	0.50	0.94	35.330		縄文土器片（A3 類）、剥片類	S1786 柱穴
SKP791	LS52	S1786	円形か	0.32	0.18	0.14	36.050		縄文土器片（A3 類）	S1786 柱穴
SKP792	LS・LR52	V	円形	0.33	0.30	0.79	35.430			
SKP793	LS52	S1786 床面	円形	0.27	0.20	0.86	35.340	SN766 → SKP793	縄文土器片、剥片類	S1786 柱穴
SKP794	LT53	S1786 床面	円形	0.25	0.21	0.32	35.900	SK796 → SKP794	縄文土器片	
SKP798	MA53	V	楕円形	0.59	0.42	0.23	35.990		剥片類	
SKP801	LT52	V	円形か	0.25	0.35	0.31	36.240	SKP801 → SK800		
SKP805	LT53	V	円形	0.31	0.29	0.80	35.640			
SKP808	LT50	V	円形	0.25	0.21	0.34	34.240		縄文土器片	
SKP809	LT52	S1786 床面	楕円形	0.36	0.23	0.68	35.720		縄文土器片（A4 類）	
SKP810	LT52	S1786 床面	円形	0.30	0.25	0.58	35.720			
SKP811	LT52	S1795 床面	不整円形	0.82	0.67	0.84	35.440			S1795 柱穴
SKP814	MA53	V	円形	0.36	0.24	0.84	35.580		縄文土器片、剥片類	
SKP815	LS53	V	円形	0.20	0.18	—	—			
SKP816	LS・LT52	V	円形	0.87	0.54	0.71	35.620		縄文土器片、剥片類	
SKP823	MA52	S1652 床面	円形	0.43	0.35	0.21	36.420			
SKP824	MA52・53	S1652 床面	楕円形	0.74	0.42	0.20	36.460			
SKP2002	LP28	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.80	0.55	0.35	33.960			
SKP2006	LN30	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.29	0.25	0.23	32.680			
SKP2007	LN30	丘陵部Ⅳ	不整形	0.60	0.49	0.27	36.680			
SKP2009	LQ36	丘陵部Ⅳ	円形	0.65	0.61	0.57	35.540			
SKP2016	LQ29・30	丘陵部Ⅴ	円形	0.29	0.27	0.19	35.150			
SKP2019	LP33	丘陵部Ⅳ	楕円形か	0.45	0.26	0.13	33.990			
SKP2020	LM32	丘陵部Ⅴ	円形	0.20	0.17	0.30	31.220			
SKP2025	LN31	丘陵部Ⅴ	円形	0.24	0.21	0.37	32.720			
SKP2026	LN・LO31	丘陵部Ⅴ	不整形	0.28	0.25	0.42	32.670			
SKP2027	LO29	丘陵部Ⅳ	不整楕円形	0.32	0.25	0.15	33.560			
SKP2028	LP33	丘陵部Ⅴ	円形	0.23	0.15	0.25	33.260			
SKP2031	LN31	丘陵部Ⅴ	円形	0.21	0.16	0.18	32.650			
SKP2032	LO31	丘陵部Ⅴ	不整円形	0.30	0.24	0.31	33.220			
SKP2033	LO31	丘陵部Ⅴ	不整形	0.37	0.33	0.17	33.130			
SKP2036	LO31	丘陵部Ⅴ	不整楕円形	0.81	0.42	0.27	33.520			
SKP2037	LO・LP32	丘陵部Ⅴ	楕円形	0.44	0.25	0.32	32.200			
SKP2038	LP32	丘陵部Ⅴ	円形	0.20	0.14	0.16	33.590			
SKP2039	LO32	丘陵部Ⅴ	不整楕円形	0.31	0.18	0.13	33.150			
SKP2041	LQ32	丘陵部Ⅴ	円形	0.25	0.19	0.20	34.200			
SKP2042	LP33	丘陵部Ⅴ	円形	0.27	0.22	0.25	33.870			
SKP2043	LQ36	丘陵部Ⅳ	円形	0.29	0.23	0.17	35.340			
SKP2044	LO34	丘陵部Ⅴ	不整形	0.26	0.17	0.26	33.170			
SKP2045	LP32	丘陵部Ⅴ	不整円形	0.39	0.29	0.22	33.600			
SKP2046	LP30	丘陵部Ⅴ	円形	0.18	0.14	0.10	34.150			

第10表　柱穴様ピット一覧表（9）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)	重複（旧→新）	遺物	備考
SKP2048	LP31	丘陵部V	楕円形	0.25	0.14	0.12	34.210			
SKP2049	LQ32	丘陵部V	円形	0.25	0.19	0.27	34.360			
SKP2050	LQ31	丘陵部V	円形	0.22	0.18	0.09	34.620			
SKP3003	MC49	V	円形	0.27	0.25	0.55	34.220		縄文土器片、剥片類	
SKP3008	MC53	ST252 Ⅰ	不整形	1.13	0.95	0.30	38.000		縄文土器片（D類）、剥片類	
SKP3029	MH46	平畑Ⅳ	円形か	0.41	0.34	0.28	37.920			SA3044
SKP3039	MH45	平畑Ⅳ	円形	0.38	0.33	0.36	36.470			SA3044
SKP3045	MF53	ST252 Ⅱ	円形	0.27	0.27	0.38	38.470		縄文土器片、剥片類	
SKP3060	MC52	ST252 Ⅱ	円形	0.31	0.21	0.40	36.860		縄文土器片、剥片類	
SKP3064	ME53	V	円形	0.27	0.20	0.15	38.510		縄文土器片	
SKP3070	MC53	V	隅丸長方形	0.53	0.42	0.31	37.770			
SKP3081	MF53	V	円形	0.22	0.20	0.31	37.930		縄文土器片、両面調整石器、剥片類	
SKP3095	MF52	ST252 Ⅲ	円形	0.29	0.23	0.02	36.580			
SKP3103	MD53	ST252 Ⅲ	楕円形か	0.19	0.16	0.21	38.070			
SKP3105	MD53	ST252 Ⅲ	不整形	0.32	0.21	0.34	37.880		縄文土器片、剥片類	
SKP3107	ME52	V	円形か	0.26	0.24	0.55	31.910			
SKP3109	ME53	ST252 Ⅲ	円形	0.19	0.17	0.10	38.550		縄文土器片	
SKP3110	ME52	V	円形か	0.28	0.28	0.40	32.390		剥片類	
SKP3115	ME53	V	円形	0.27	0.26	0.11	37.950			
SKP3118	ME52	V	円形	0.23	0.23	0.17	37.270			
SKP3119	MF53	V	円形か	0.25	0.23	0.08	37.860			
SKP3121	MC52	V	長楕円形	0.46	0.25	0.62	36.320		縄文土器片	
SKP3123	ME53	V	円形	0.32	0.32	0.07	37.930			
SKP3124	ME52	V	円形	0.23	0.22	0.14	37.100			
SKP3125	MD53	V	不整円形	0.26	0.23	0.32	37.880		石鏃（F2a イ類）	
SKP3127	ME53	V	円形	0.35	0.27	0.21	38.420			
SKP3132	MF53	V	円形か	0.23	0.20	0.08	37.820			
SKP3137	ME53	Ⅳ	不整楕円形か	0.20	0.19	0.05	38.110		縄文土器片	
SKP3138	ME53	Ⅳ	円形	0.37	0.22	0.39	37.840			
SKP3141	MD53	V	円形	0.31	0.30	0.14	38.120			
SKP3142	MD53	V	円形	0.26	0.24	0.24	38.010			
SKP3143	MC52	Ⅳ	円形	0.32	0.22	0.68	35.570			
SKP3153	MC52	V	楕円形	0.49	0.37	0.60	36.330			
SKP4041	MN36	Ⅳ	円形	0.37	0.32	0.20	39.440			
SKP4044	MM36	Ⅳ	円形	0.42	0.41	0.22	39.410			
SKP4065	ME39	V	楕円形	0.43	0.28	0.15	39.480		縄文土器（D類）	
SKP4068	MF39	SI 4049 床面	不整形か	0.70	0.37	0.63	38.960		縄文土器片	
SKP4069	MF39	SI 4049 床面	楕円形	1.12	0.74	0.39	39.210		縄文土器片、剥片類	
SPK4071	MF39	SI 4049 床面	円形	0.32	0.23	0.33	39.240			
SKP4074	MJ38	丘陵部Ⅳ	円形	0.27	0.22	0.30	40.520			
SKP4075	ME39	SK 4050 床面	円形	0.23	0.22	0.28	39.020			SI 4049 柱穴
SKP4076	ME39	SI 4049 床面	不整形か	0.42	0.38	0.54	39.050			SI 4049 柱穴
SKP4078	ME39	SK 4050 床面	不整形	0.42	0.21	0.12	39.050			SK 4050 内
SKP4079	ME39	SK 4050 床面	円形	0.26	0.19	0.07	39.120		縄文土器片	SK 4050 内
SKP4080	MF39	SI 4049 床面	円形	0.32	0.25	0.27	39.280	SKP4081 → SKP4080		SI 4049 内
SKP4081	MF39	SI 4049 床面	円形	0.31	0.30	0.23	39.330	SKP4081 → SKP4080	縄文土器片	SI 4049 内
SKP4083	MF39	SI 4049 床面	不整形	0.58	0.38	0.20	39.380			SI 4049 内
SKP4085	ME・MF39	SI 4049 床面	不整形	0.79	0.71	0.46	39.030			SI 4049 柱穴
SKP4088	MF39	SI 4049 床面	円形	0.29	0.25	0.37	39.180			SI 4049 内

第 11 表　柱穴様ピット一覧表（10）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	底面標高 (m)	重複 （目→新）	遺物	備考
SKP4089	ME38・39	SI4049 床面	不整形	0.63	0.41	0.64	38.910		縄文土器片	SI4049 柱穴
SKP4092	MO37	丘陵部Ⅳ	円形	0.22	0.20	0.19	41.010			
SKP4093	MO36	丘陵部Ⅳ	円形	0.18	0.16	0.13	41.250			
SKP4094	MF37	丘陵部Ⅳ	円形	0.41	0.31	0.17	39.850		縄文土器片、剥片類	
SKP4097	ME38	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.23	0.27	0.13	39.680			
SKP4098	ME38	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.30	0.25	0.12	39.680			
SKP4107	MF37	丘陵部Ⅳ	円形	0.31	0.26	0.20	41.350			
SKP4108	MQ・MR36	丘陵部Ⅳ	円形	0.21	0.19	0.13	42.080			
SKP4113	NA35	丘陵部Ⅳ	円形	0.60	0.51	0.23	43.200			
SKP4115	MP36	丘陵部Ⅳ	円形	0.26	0.23	0.24	41.400			
SKP4118	OB31・32	丘陵部Ⅳ	楕円形か	0.31	0.20	0.37	54.810			
SKP4119	OC29	丘陵部Ⅳ	円形	0.18	0.16	0.35	56.090			
SKP4120	OC29	丘陵部Ⅳ	円形	0.20	0.18	0.34	56.340			
SKP4121	OD28	丘陵部Ⅳ	円形	0.20	0.19	0.48	56.550			
SKP4122	OD31	丘陵部Ⅳ	円形	0.18	0.18	0.44	55.820			
SKP4123	OC30	丘陵部Ⅳ	円形	0.18	0.15	0.41	55.450			
SKP4124	OD30	丘陵部Ⅳ	円形	0.21	0.17	0.26	56.220			
SKP4125	NE34	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.39	0.34	0.14	45.650			
SKP4126	NF35	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.41	0.32	0.15	45.900			
SKP4128	NK39	丘陵部Ⅳ	不整形	0.70	0.51	0.37	47.530			
SKP4132	OA30	丘陵部Ⅳ	円形	0.24	0.23	0.21	54.820			
SKP4133	OA30	丘陵部Ⅳ	円形	0.17	0.14	0.16	54.840			
SKP4134	NS32	丘陵部Ⅳ	円形	0.32	0.32	0.24	53.100			
SKP4136	NS32	丘陵部Ⅳ	円形	0.34	0.26	0.49	52.660			
SKP4137	NR32	丘陵部Ⅳ	円形	0.43	0.42	0.19	52.530			
SKP4138	NQ33	丘陵部Ⅳ	円形	0.21	0.19	0.12	52.300			
SKP4139	NQ・NR33	丘陵部Ⅳ	円形	0.30	0.26	0.22	52.200			
SKP4140	NQ33	丘陵部Ⅳ	円形	0.43	0.34	0.22	51.960			
SKP4141	NR31・32	丘陵部Ⅳ	円形	0.21	0.20	0.14	52.820			
SKP4142	NR32	丘陵部Ⅳ	円形	0.27	0.23	0.25	52.720			
SKP4146	NR32	丘陵部Ⅳ	円形	0.19	0.18	0.16	52.560			
SKP4148	NR33	丘陵部Ⅳ	円形	0.19	0.19	0.22	52.310			
SKP4151	OA31	丘陵部Ⅳ	円形	0.29	0.24	0.25	54.060			
SKP4153	NT31	丘陵部Ⅳ	円形	0.22	0.22	0.07	53.610			
SKP4155	OA31	丘陵部Ⅳ	円形	0.26	0.21	0.23	54.360			
SKP4158	NR32	丘陵部Ⅳ	円形	0.22	0.20	0.18	52.190			
SKP4159	NT31	丘陵部Ⅳ	円形	0.21	0.18	0.14	54.200			
SKP4161	MA39	SI4011 床面	円形	0.46	0.45	0.63	37.760			SI4011 柱穴
SKP4162	MA39	SI4011 床面	円形	0.73	0.66	0.46	37.920			SI4011 内
SKP4163	MA39	SI4011 床面	円形	0.42	0.34	0.64	37.790			SI4011 柱穴
SKP4164	MA38	SI4011 床面	円形	0.50	0.42	0.56	37.930			SI4011 柱穴
SKP4165	MA・MB39	SI4011 床面	円形	0.56	0.42	0.60	37.830			SI4011 柱穴
SKP4166	MA39	SI4011 床面	円形	0.57	0.43	0.31	38.120			SI4011 内
SKP4173	ND36	丘陵部Ⅳ	円形	0.34	0.30	0.19	44.420			
SKP4174	NC36	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.25	0.20	0.11	44.410			
SKP4175	NC36	丘陵部Ⅳ	円形	0.34	0.26	0.18	44.270			
SKP4176	NC36	丘陵部Ⅳ	円形	0.29	0.23	0.15	44.320			
SKP4177	NC36	丘陵部Ⅳ	円形	0.24	0.22	0.07	44.480			
SKP4178	NC36	丘陵部Ⅳ	楕円形	0.16	0.12	0.08	44.540			

第12表　柱穴様ピット一覧表（11）

遺構名	地区	確認面	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)	重複（旧→新）	遺物	備考
SI795-P1	LT54	SI795床面	楕円形	0.14	0.11	－	－			SI795柱穴
SI795-P2	LT53	SI795床面	楕円形	0.14	0.11	－	－			SI795柱穴
SI795-P3	LT53	SI795床面	円形	0.11	0.11	－	－			SI795柱穴
SI795-P4	LT53	SI795床面	楕円形	0.13	0.10	－	－			SI795柱穴
SI795-P5	LT53	SI795床面	円形	0.13	0.11	－	－			SI795柱穴
SB4147-P1	NO32	丘陵部Ⅳ	円形	0.22	0.22	0.37	51.490			
SB4147-P2	NO32	丘陵部Ⅳ	円形	0.27	0.26	0.19	51.500			
SB4147-P3	NP32	丘陵部Ⅳ	円形	0.24	0.21	0.23	51.700			
SB4147-P4	NP31	丘陵部Ⅳ	円形	0.15	0.13	0.16	52.070			
SKI3053-P1	MD52	SKI3053床面	不整形	0.19	0.16	0.70	35.790			SKI3053内
SKI3096-P1	MD53	SKI3096床面	不整形	0.35	0.21	0.45	37.650			SKI3096内
SKI3096-P2	MD53	SKI3096床面	楕円形	0.28	0.21	0.19	37.930			SKI3096内
SKI3096-P3	MD53	SKI3096床面	不整形	0.49	0.47	0.34	37.640			SKI3096内
SKI3096-P4	MD53	SKI3096床面	不整楕円形	0.26	0.13	0.18	38.060			SKI3096内
SKI3096-P5	MD53	SKI3096床面	楕円形か	0.16	0.22	0.37	37.690			SKI3096内
SKI3096-P6	MD53	SKI3096床面	円形	0.22	0.18	0.18	37.870			SKI3096内
SKI3096-P7	MD53	SKI3096床面	円形か	0.52	0.23	0.77	37.340		縄文土器片	SKI3096内
SKI3096-P8	MD53	SKI3096床面	楕円形か	0.29	0.12	0.17	37.850			SKI3096内
SKI3096-P9	MD53	SKI3096床面	不整楕円形か	0.29	0.27	0.41	37.460			SKI3096内
SKI3097-P1	ME53	SKI3097床面	円形か	0.31	0.23	0.68	37.670		縄文土器片	SKI3097内
SA4116-P1	NT31	丘陵部Ⅳ	円形	0.35	0.31	0.22	54.210			
SA4116-P2	OA31	丘陵部Ⅳ	円形	0.31	0.30	0.34	54.240			
SK4047-P1	MC39	SK4047底面	楕円形	0.12	0.30	－	－			
SK4047-P2	MC39	SK4047底面	楕円形	0.13	0.30	－	－			